小川完敗!“最強”決まらず!! 大波乱の『PRIDE・GP』徹底総括!!
紙のプロレス
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
840 yen
RADICAL
WANIMAGAZINE MOOK
78
2004
衝撃の敗戦から一夜明けた
“キャプテンハッスル”を独占直撃!!
小川直也
髙田延彦 PRIDE統括本部長
橋本真也
そしてこの男も
『PRIDE・GP』
小川直也を語った!
谷川貞治
大興奮の異常事態発生!
『PRIDE・GP』徹底検証
エメリヤーエンコ・ヒョードル
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
セルゲイ・ハリトーノフ
ミルコ・クロコップ
ヴァンダレイ・シウバ
DSE榊原信行代表
浅草キッド
“キャプテン”に休息なし!
ハッスルとは
出直しの
連続なり!!
“NEWモンスター”投入で、
さらに“キャプテン”が窮地に!!
ガ然見逃せなくなった
『ハッスル5』『ハウス』特報!!
驚愕! みちのくにも
髙田モンスター軍の魔の手が!
ザ・グレート・サスケ
『PRIDE・GP』徹底検証
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3405-5188

"ハッスル査定試合ファイナル"終了!!
乾杯です!!
……それでいいっスか……!?
『ハッスル』はこれで終わりじゃありません! これからがスタートです!!
ハッスル

〝圧倒的な現実〟が生んだ〝物語〟

山口日昇

終わってみれば、まさに〝一瞬の夏〟だった。

04・8・15。

小川直也、なにもできずに完敗――。

この〝圧倒的な現実〟を前に、

「小川は弱かった」「小川はやっぱりチキン！」「永田のほうがまだマシ」「試合後の『ハッスルハッスル！』に感動したっていう声も多いけど、どうなんだろうね？」「これまで大口叩いてきて、あれかよ！」「小川も『ハッスル』もこれで終わりだな……」

そういった痛烈な声が渦を巻くと思ったファンや関係者は多かったはずだ。

しかし、ヒョードルに負けた後にマイクを握り「負けたけど、カッコ悪いけど、ハッスルだけはやらせてください！　お願いします!!」と頭を下げ、ハッスルした小川直也には万雷の拍手と歓声が送られた。

かつて、国民の期待を一身に背負った大舞台での敗戦では、〝国賊扱い〟までされた。

〝負けたら何もない世界〟――。それを高いレベルで小川直也はかいくぐってきた。今回も〝負けたら何もない世界〟であること。それは同じだったはずだ。

それでも小川直也は覚悟を決め、リングに向かい、敗れ、かつてのトラウマを振り切るようにハッスルした。

そして、〝負けたからこそ、何かを掴める世界〟があることを知り、ファンの声援を受けた小川直也は、初めてといってもいい〝生の感情〟を、涙という形でファンの前にさらけ出した。

美談にするつもりもない。フォローするつもりもない。

でも、ここで考えなくてはならないことがある。

"ハッスル"とは何か?
"ハッスルする"とは何か?

小川直也は、ここ数ヶ月、『PRIDE』という"ブランド"や"場"が圧倒的に上位概念にくるGPで、唯一"ヒト"としての存在感と、その不安定な魅力を発散しまくった。

『掻いて掻いて恥掻いて　裸になったら見えてきた　本当の自分の姿』

というポエムを小川直也の師匠であるアントニオ猪木は、かつて橋本真也に送った。

その橋本真也に恥を掻かせ、裸にしたのは小川直也だ。

奇妙な因縁である。

高い次元で恥をかくこと。深い部分で裸になること。

実はそれも選ばれた人間にしか経験できないもの、表現できないものだ。

小川直也は、柔道時代、"瞬間"に生きてきた。

小川直也は、プロになって"継続"こそ力であることを知った。

"ハッスル"とは何か?
"ハッスルする"とは何か?

小川直也は、柔道時代、"穴があったら入りたい"気持ちを何度も味わった。

小川直也は、"穴があっても入れない"のがプロの世界だと覚悟を決めた。

そして、『PRIDE・GP』という大舞台でヒョードルに敗れ、ハッスルし、ファンの声援を受け、その気持ちをさらに深めた。

"ハッスル"とは何か?
"ハッスルする"とは何か?

『PRIDE・GP』というバーリ・トゥード世界最高峰の場は、元柔道銀メダリスト、世界選手権も日本選手権も嫌というほど獲得し、高いポテンシャルを持っている人間ですら秒殺される、"圧倒的な現実"が立ち昇る怪物と化していた。その"圧倒的な現実"が"物語"を生んだ。

"圧倒的な現実"を人々は残酷なほどに求めている。

小川直也は、それもかつての経験から、嫌というほど知っている。

その小川直也がこれから確立しようとしている『ハッスル』は、誤解を恐れずにいえば"真っ赤な嘘"だ。

『ハリーポッター』や『ロード・オブ・ザ・リング』も"真っ赤な嘘"である。

しかし、その"物語"の中に、情感を揺さぶられる"リアリティ"が立ち昇るからこそ、人々は"物語"を求める。

人々は、"圧倒的な現実"と同時に、"真っ赤な嘘"を潜在的に求めているのだ。

"真っ赤な嘘"が現実を動かすことを知っている。

小川直也は、そのことも直観で知っている。

"ハッスル"とは何か?
"ハッスルする"とは何か?

小川直也はこの数ヶ月、"圧倒的な現実"と"真っ赤な嘘"に架け橋をかけた。

"リアリティ"と"ファンタジー"を股にかけた。

"ドキュメンタリー"と"ドラマ"に虹をかけた。

小川直也はヒョードルに完敗した。

それでも今回は「完敗です。もういいっスか?」とは言わなかった。

むしろ、切ない気持ちは拭えないものの、ここ数ヶ月堪能させてくれた"ドキュメンタリー"と"ドラマ"に対して「乾杯です! それでいいっスか?」とこちらが言いたくなってくる。

「小川は弱かった」「小川はやっぱりチキン!」「永田のほうがまだマシ」「試合後の『ハッスルハッスル!』に感動したっていう声も多いけど、どうなんだろうね?」「これまで大口叩いてきて、あれかよ!」「小川も『ハッスル』もこれで終わりだな……」

と言う人がいたら、ここ数ヶ月の間、その人は何も見えてない、何も見てこなかった人だろう。

いずれにしても、小川直也はまだまだ"底力"を見せていない。

だからこそ、小川直也をファンは拍手と大歓声で迎えた。

小川直也の"底力"を人々は求めている。

その"底力"がクッキリと立ち昇るのは、"圧倒的な現実"の中なのか、"真っ赤な嘘"の中なのか――。

これが終戦ではない。

04・8・15――。

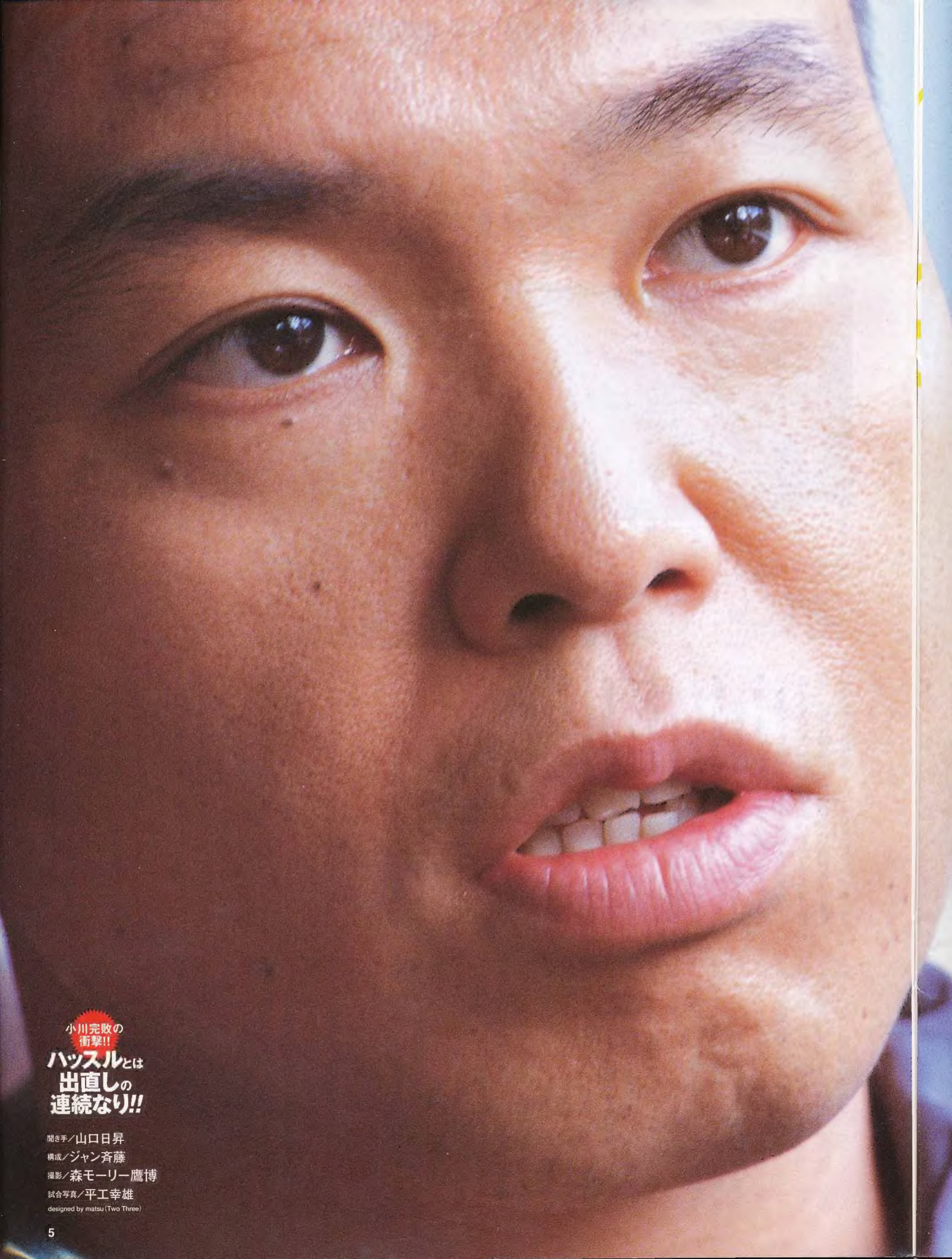
『ハッスル』はこれからが始まりである。

“キャプテン・ハッスル”、
「残酷な夏」にまたしても散る——!!

「昔の俺なら1年ぐらいは人目に付かないように旅に出た。でも、いまはプロとして前に進まないといけないから」

衝撃の敗戦翌日、独占インタビュー!!

小川直也

（新人歌手）

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは出直しの連続なり!!

聞き手／山口日昇
構成／ジャン斉藤
撮影／森モーリー鷹博
試合写真／平工幸雄
designed by matsu (Two Three)

小川直也に"残酷な夏"が三度び、訪れた——!!

8月15日、『PRIDE・GP』決勝ラウンド1回戦。戦前から"史上最大のヒリヒリ感"を醸し出していたヒョードルvs小川直也の一戦は、開始早々、ロシアン・フックの連打を浴びたオーちゃんが、グラウンドに移行しても劣勢は覆せず、最後は腕十字固めでタップアウト!! わずか54秒での敗戦となった。

小川完敗の衝撃——!! 圧倒的なリアリティに呆然とする観客。声すら出ない残酷すぎる結末。まるでこの結果を予知するかのように、入場前の煽り映像では"残酷な夏"というフレーズが幾度となく使われていた。12年前のバルセロナ五輪、そして8年前のアトランタ五輪で日本中の期待を一身に背負いながらも"金"を取れなかった柔道王の姿が映し出され、当時の新聞が書き立てた"精神的弱さ"がクローズアップされていたのだ。そして、"また残酷な夏がやってきた"と——。

はたして、オーちゃんは三度目の"残酷な夏"をどう感じているのか? 衝撃の敗戦から一夜明けた8月16日、その胸中に迫った!

——小川さん、昨日の"ハッスル査定試合ファイナル"お疲れ様でした!! "本業"の『ハッスル』に力を注ぎながらの、4ヶ月で3試合のバーリ・トゥード三昧でした。

小川　異例の早さだったよね。いままで俺が『PRIDE』で行った試合数を4ヶ月で済ませたわけだからさ。

——昨日は寝られましたか?

小川　よく寝れましたよ。今日は珍しく(午前)11時ぐらいまで寝てたんだけど、一回起きて、また寝ての繰り返し。昨日は一日中"船酔い"でしたからね。

——"船酔い"ですか?

小川　最初のフックで記憶が飛んで、ずっと頭がボーっとしてたんですよ。試合のこともまったく覚えてないしね。

——昨日の試合は事実上KO負けに近いんですね。

小川　最初のフックで終わってるからさ。

——アゴとテンプルにいいのをもらってましたね。

小川　うん。あれで終わり。"あ、やっちゃった!"みたいな。何か調子乗っちゃいましたね……。

——"頼むから打ち合うのだけはやめてくれ"とヒヤヒヤしてたから、小川さんが"左ストレートでのKO狙いに行ってるなぁ"と思ったときには"うわっ!"って思ったんですよ。

小川　いや、行かなきゃいけないでしょう! やっぱり勝負は潔く"のるか、そるか!"ですよ。

——柔道家として、腕十字を取られたことには屈辱感はないですか?

小川　十字を取られたこと自体、あんまり覚えてないんだよね。腕じゃなくて足も極められた感触はあるんだけど。

——あ、足!?

小川　身動き一つ取れないからさ。やられながら瞬間的に"なんだか知らねえけど、スゲェ技だなあ"って思ってたんだよ。腕も足も極められるなんてさ。あとで"どういう極めで負けたんだろう?"と思ってVTRを見たら、自分で足をロープに絡めてました。

Naoya Ogawa

——足がロープに極められてた、と。

小川　終わったあとも"何で足まで極められてるんだろ?"って不思議で不思議でさ、確認したんだけどね(笑)。

——しかし、掴まえに行ったり、もっと間合いを取って様子を見ながら闘おうという考えはなかったんですか?

小川　全然なかったね(キッパリ)。プロレスラーは直球勝負! "変化球"は格闘家が使えばいいんですよ。

勝負は"のるか? そるか?"だから後悔はまったくしてないよ

——専門家筋や格闘技ファンは、小川さんの"変化球"を見たかったでしょうけどね。

小川　"変化球"は使いたくない。それは柔道時代も一緒。というかさ、俺は"変化球"を使えなかったんだよ。勝つには一本取るしかなくて、有効じゃダメだったんだから。技ありでもダメ出し。

——技ありでも! それはキツイなぁ。

小川　オール一本は当たり前。そうじゃないと勝ちと認めてもらえないんだから。

——そういう経験が染みついてると考えれば、"直球勝負"に出たのは納得できますけどね……。

小川　バカかもしれないけど、やるしかないじゃないですか! そもそも、これ(『PRIDE・GP』参戦)自体の始まり方がバカな考えから始まったんだけどね。

——何しろGPに出てくるきっかけが"ハッスル査定試合"ですからね。パンチで記憶が飛んだということは、そのあとのテイクダウンは柔道家としての本能が出たんでしょうかね?

小川　テイクダウンというか、倒しに行っても平衡感覚がないんだから。こっちが逆の体勢になっていればという考えもできるけど、もう終わったことだから。やられるときはあんなもんですよ。

——試合タイムの「54秒」が、今日のどの新聞紙上にも大きく踊ってますよ。

小川　そんなもんだよ。仮に10分闘っても負けは負け。秒殺でも負けは負け。秒数の問題じゃないから。

——ただ、小川さんの足を引っ張りたい関係者やファンは、「54秒」という数字にこだわりたいでしょうね(笑)。"藤田や永田のほうが全然マシだ"と思って安心したい人もいるだろうし。

小川　あの競技自体を秒数で争うような論調だと、結局は素人なんだよ。慎重に行けばいくらでも時間は稼げるだろうし。ただ、俺はそれを選ばなかっただけだから。それはどっちの戦術が適切だったとか、そういうことじゃなくてね。

——でも、どうするんですか? この結果を受けて、あの高田総統が「ブザマに負けたチキンを『ハッスル5』に出すことはない!」って言い出したら!

小川　(即座に)それが一番困るよ!

——ガハハハ! 『ハッスル』のためにGPに出たのに、そのお陰で『ハッスル』に出れないなんて冗談じゃない、と。

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは出直しの連続なり!!

『PRIDE・GP』準決勝

○エメリヤーエンコ・ヒョードルvs小川直也×

[1R0分54秒／腕ひしぎ十字固め]

『ハッスル音頭』を冒頭にミックスしたテーマ曲で登場した"キャプテン・ハッスル"。試合は開始早々に左ストレートを空ぶると、逆にヒョードルからロシアン・フックの連打で圧倒される。アゴ、テンプルに続けざまに直撃！　必死にヒョードルの身体にしがみつきグラウンドに移行するが、逆にマウントを奪われてしまう。リバースしようとしたところを腕十字に捉えられ無念のタップ――!!　"キャプテン・ハッスル"、完敗!

小川　高田総統とやらはやけに厳しいからね。どこか遠いところに島流しにされて「ビターンッッッ!!」されちゃったらどうしよう？　そうなりゃ"キャプテン・ハッスル"はおしまいだよ……。

――『PRIDE・GP』をあれだけ盛り上げたのに（笑）。しかし、これほどのシチュエーションでの「負け」という圧倒的な現実に対しては、一夜明けてどういう気持ちですか？

小川　いや、俺は柔道でもけっこう負けてるから。そういう意味では、"また負けたか"って感じだね。まぁ、またもやいい経験を積ませてくれたのかなと解釈してるよ。俺はこういう人生を歩む人間なのかなって思ったね。

――ズバリ言って、落ち込んでないんですか？

小川　"もうしょうがねぇな"って感じですよ。逆に判定なんかでウダウダすると、さらに落ち込むからね。柔道時代も一本負けするのと判定負けするのとでは全然違う。一本負けのほうがスカっとして次に進めるから。判定の場合は次に進めなくて、"あそこでああすればよかった……こうすればよかった"って、考えが後ろ向きになるから。紙一重の結果だと、ホントに悔いが残る。それにこの世界は勝ち負けにこだわると、キリがないのはよくわかってるから。あれは一種の"麻薬"だよ。どっかで自分の気持ちをセーブしないと、柔道時代の二の舞いになっちゃう。モチベーションが上がんなくなって自分で自分が落ち込んでるのが気持ち悪いほどわかるからね。自分でしっかり線引きして、後ろ向きな気持ちを断たないと。

――ヒョードルは柔道出身ですけど、柔道選手としての感触はありましたか？

小川　総合（格闘技）としてのヒョードルだよね、完全に。身体能力も凄い。"これは強ぇな"と思ったよ。

――身体能力がべらぼうに高い小川さんがそう言うんだから、ヒョードルの身体能力はバケモノ並に高いんでしょうね。

小川　高いね。身体も絞ってきたんじゃないかな。前の試合を見たときよりも動きは早かったし、決勝に照準を合わせてきたんだろうね。正直、俺も仕上げてきたんだけど、向こうの仕上げ方のほうが上だったよ。

――それは年齢的なことも関係あるんですか？　『東スポ』の"小川番"で有名な初山記者が、今回の『GP』のパンフレットの原稿に、「オレさぁ、この前、新聞読んでショック受けたんだよ。オレの年齢が(36)って書いてあるんだ。オレ、いつの間に36歳になったんだ？　オレはズッと30前くらいの感じでいたのになぁ――」という小川さんのコメントを引用してたんですよ。

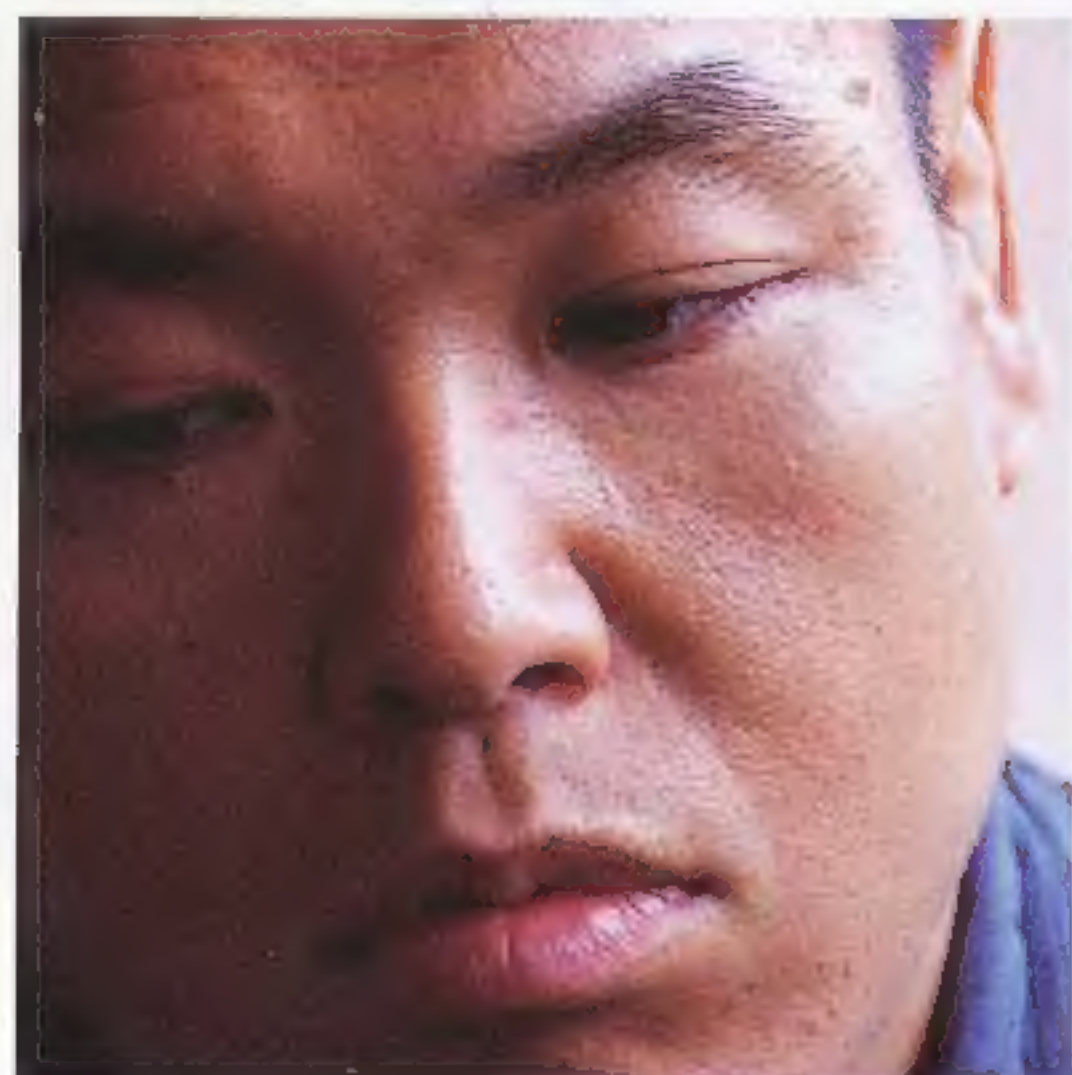
小川　どうなんだろうね。でもさ、こないだ寂しくなっちゃったよ。決勝に備えて学生と合宿して、大学の一年生が一人来たんだけど、歳が俺の半分なんだよ。

――18歳と36歳じゃ完璧なダブルスコアですね（笑）。

小川　明大に練習に行ってもさ、俺と同世代の連中はもういないんだよ。俺より老けた感じのがいるから「先輩かな？」と思って、コーチに「俺より年上の人はいますか？」って聞いたら「いるわけねぇだろ！」って言われてね。

――ガハハハハ！　明大でバリバリに練習してる中では小川さんが最年長。

小川　でも、プロ野球の世界だったら40歳の選手もいっぱいいるから。ランディー・ジョンソンとか工藤投手。清原選手とは同級生ですからね。たしかコールマンも俺

より上だよね？
――ジャイアント・シルバもそうですよ。それでいて「俺はヒョードルとやりたい。俺が本気を出したらヒョードルは死ぬゾ！」と言ってて、やる気満々ですからね（笑）。
小川　（一瞬絶句して）そのモチベーションは敬わないとな～。見習いたくはないけど（笑）。
――ガハハハハ！　で、その初山記者の原稿には「多分、アトランタ五輪でドイエに敗れて柔道引退を決めてから、小川の体内時計は止まっている。それから小川は年をとっていないのだ。いや、とれないのだろう」とも書いてたんですよ。
小川　止まってるわけがないけど、プロになってから気持ちは若返ったよね。考え方が急に若返ったというか、サラリーマンになると、どうしても老け込んじゃうじゃから。
――若い頃と比べて、動きが鈍った感覚はないんですか？
小川　それはあんまりないね。むしろ体重が軽くなったぶんだけ動きはよくなってる。昔できなかったことができる喜びが増えたね。それはそれで身体や健康にもいいしね。でも、このまま節制して健康な生活を続けるのは、人生半分損してるみたいだけどさ。
――ハッスル・キングは「小川の私生活は俺と正反対や！」って断言してました（笑）。
小川　キングはそのうち大変なことにならない？　あんな生活、続けてさ。
――興奮すると普通に鼻血をタラタラ垂らしてますからね！　肩の負傷より内臓系が心配ですよ。
小川　きっと鼻血を出すことで、健康を調節してるんでしょう。
――ガハハハハ！　どんな調節だ（笑）。
小川　いやいや、真面目な話、鼻血を出すことは悪いことじゃないんだよ。悪い血

背負っていたものへの責任感というか、罪悪感は感じてますよ

を外に出すわけだから。なるべく止めないで出したほうがいいんだよ。
【ここで"モーリー"＝UFO公式出入り禁止カメラマンが、突然会話に割って入る】
モーリー　あ、あの……脳に溜まるよりは出しちゃったほうがいいってことですか？
小川　だからアドレナリンというか、その鼻血が出るのは……って、いいんだよ、こんな話は！　別に関係ねえじゃねえか！
モーリー　お、小川さんが言い出したんじゃないですか（汗）。
小川　お前がシャシャリ出てくる筋合いはねえだろ！　余計なこと言ってないで写真撮っとけ、この野郎‼
モーリー　は、はひ！
小川　昨日も勝手に俺の控室に侵入してパチパチパチパチ撮りやがって！　どうせ俺が倒れてる写真もパチパチパチパチ撮りやがったんだろ⁉
モーリー　は、はひ！　撮らせていただきました！
――まぁまぁ。でも、モーリーはずっと小川さんに張り付いてたけど、どうだったの？　ここ4ヶ月間の小川直也は？
モーリー　楽しかったですよ！
――モーリーの感想は聞いてない！（笑）。小川直也について聞いてるの。
モーリー　小川さんはいつも変わらないんですよ。
――実に簡素な感想だなぁ。
モーリー　スイッチのオンとオフってあるじゃないですか。練習してるときと練習が終わったときは別人なんですよ、小川さんは。練習してるときは怖いんですけど、練習が終わると別人に変わるんですよ。
――「小川さんは変わらない」っていうのと話が違うじゃん（笑）。
モーリー　は、はひ？　いや、8月になってもその姿勢が、4月のときから変わらなかったっていう話です。
小川　しかし、モーリーは毎日よく来てたよな。出入り禁止のくせにさ。動画まで撮ってるんだよ！
――動画まで（笑）。マスコミにさえ練習風景は公開してないから、その映像はかなり貴重ですよね。
小川　そのビデオテープ、ヒョードルに売ってたんじゃないのか？　ヒョードルから金もらってるだろ？
モーリー　う、売るわけじゃないですか！
――じつはモーリーはスパイだった（笑）。
小川　ヒョードルにビデオテープ渡して、ルーブルで札束もらったんだろ？
モーリー　ル、ルーブル？　何ですか、ルーブルって。
小川　貨幣だよ、貨幣！　もういいよ、お前はしゃべらなくて！
モーリー　は、はひ！
――ガハハハハ！　以上、モーリー劇場でした（笑）。で、話はGPに戻りますが、決勝戦は見ました？
小川　ルール通りなら、あの裁定でいいんじゃない。ちゃんとルールブックが存在して競技になってるからこそ、ファンも納得したんじゃない？　でも、ここまで総合格闘技っていうものが確立されたのは凄いよね。
――つい10年前までは日本になかったジャンルですからね。
小川　あんなに膨らませちゃってどうするんだ？って思うけど……しっかし、"厄介なもの"が巨大化しちゃったよね。プロレスにとっちゃホント厄介だよ。
――そう言ってる小川さんが「1・4事変」なんかを媒介にして、"厄介なもの"を膨らませた部分もありますよ。
小川　まぁ、厄介なものから逃げるんじゃ

小川完敗の

ハッスルとは出直しの連続なり!!

Naoya Ogawa

格好悪いことはなんて格好良いんだろう!! 君は〝小川直也・超人間劇場〟を見たか――!?

【試合終了後、マイクを握ったキャプテン】

え〜、いままでどうも応援ありがとうございました。

【観客拍手】

負けてマイクはというのは大変情けないですけど、この3回目、4月、6月と本当にありがとうございました。

【観客拍手】

『PRIDE』に感謝したいです。ありがとうございした……。

【言葉が途切れて間が空くが、それを観客の声援が埋め尽くす!】

……勝っても負けても、格好悪いですけど! ハッスルだけはやらせてください! お願いします! (頭を下げる)。

【観客大歓声】

本当に、負けて申し訳ないですけどハッスルだけさせてください! 皆さん、お願いします。ご協力お願いします……(四方に頭を下げる)。

【観客が起立する】

……負けたけど……俺はハッスルするぞーっ!

【観客大歓声】

みんな、ありがとーーっ! スリー、ツー、ワン!! ハッスル、ハッスル!!

なくて立ち向かわなきゃいけない。でも、一番大きな問題は、プロレス自体がうまく立ち回れてない図式があるでしょ？

――立ち回れてないのに、うまく立ち回っているつもりの人や団体が多いですけどね。

小川　世間から見ると〝プロレスって不思議なことやってるなぁ……〟っていうのが現状だと思うけどな。だったらさ、もう思いっきり針を振り切ったほうがいいと思うんだよ。総合は総合、プロレスはプロレスでさ。

――そこを大股で行き来するのはいいんですけどね。

小川　行き来するだけじゃなくて、闘っていかなきゃいけないことも重要だからね。プロレスをプロレスとして確立しなきゃならない。『ハッスル』はそのための運動体だからさ。だから今回、プロレスラーとして出て負けたことに対しては、自分の中で背負っていたものへの責任感というか、罪悪感は感じてますよ。でも、バカにされても、しばらくはガマンですよ。ハッスルポーズだって、最初は誰もやっちゃくれなかったんだから!!

――しかし、負けた後、よくリング上でハッスルポーズをやりましたよね。ボクも実はウルッときちゃったんですけど（笑）。

小川　あれもね、頭痛くてボーっとしながら〝何をやればいいのかな〟って考えたことは覚えてるんだよね。意識が飛んでたから客との呼吸はわかんなかったけど。

――ファンも衝撃的な内容と結果にあっけに取られていた感もありましたけど、ちゃんと小川さんに呼吸を合わせてくれてましたよ。マスコミにしても、もっと叩いてくるかと思ってたんだけど、新聞各紙は基本的に叩いてはいないですね。

小川　不思議だよな～。でも、素直にありがたいよね。うん。

――加えて「小川は『PRIDE』のリングに必ず戻って来るはずだ」って書き方をしてますね。

小川　ホント迷惑な話だよ！　また引っ張り出す気かよ。今回俺が出たのは、話題の大きいこの『GP』に飛び込めば、『ハッスル』の伝導ができるという目的があったからだよ。プロレスラーは何かしらの〝意味合い〟を抱いてやっていくもんだからね。

――アスリートとして、ヒョードルにリベンジしたい気持ちはないんですか？

小川　アマチュア時代の俺だったら、その気持ちは確実にあっただろうね。バルセロナやアトランタにしても悔しさはあったから。昨日の負けにしたって……悔しいよ！　でも、違った形での『ハッスル』伝導のためなら出ていく可能性はあるけど、リベンジとかそういうのは……でもさ、昔の俺だったら、一年間どっかに旅に出てたよ。今日のこのインタビューも欠席ですよ！「何もしゃべることはありません!!」で終わり。

――〝大舞台で負けた〟ということを背中に貼り付けて歩くのは辛いでしょうからね。実はそれも選ばれた人間しか経験できないものなんですけど。

小川　昔も辛かったですよ。負けても挨拶回りをしないといけないし。それを考えただけで寒気がしましたけどね。

――そういう意味では、プロの定義とは〝穴があっても入れない世界〟ですよね。小川さんの尊敬するモハメド・アリや師匠の猪木さんにしても、いろんな局面から一歩踏み出す勇気があったわけですから。

小川　プロである以上は当たり前の話ですよ、それは。〝どうせまたそうなるのかな？〟っていうのがあったとしても、チョイスしなきゃいけないときがあるじゃないですか。

――〝男には一生に一度、ハッスルしないといけないときがある〟!!

小川　GPをチョイスしたのはよかったと思うんですよ。自分の中での読みとしては、ワンマッチ参戦は違うと思ったから。

――たとえば、ノゲイラと闘ってみたかった気持ちはないですか？

小川　正直、誰とやりたいとかはなかった。どうやったら『ハッスル』の宣伝ができるかしか頭になかったから。優勝するのが一番真っ当な目標かもしれないけど、俺はとにかく、ハッスルするために頑張るしかなかったね。

最後のけやき広場『ハッスル再決起集会』、あれが一番、泣けたね……。

――その姿勢の芯の部分がファンに届いたのか、昨日の反応を見てる限りでは、勝ち負けだけではなく、一連の小川直也の〝人間ドラマ〟を見てたファンが多かったんでしょうね。それから小川直也という人間をこれからも奥深く見ていきたいというファンは確実に増えてると思います。

小川　それはありがたいよね。

――だから12年前のバルセロナ五輪や8年前のアトランタ五輪、いわゆるマスコミがいろいろ書き立ててたり、日本中からブーイングを浴びた当時とは、同じ〝大舞台での敗戦〟でも、今回はフォルムがまったく違いましたよね。

小川　まったく違ったよ。俺にしても、プロとして前に進まないといけなくなったしね。プロは「一生に一度」じゃなく何度も何度もハッスルしなきゃいけないんだなぁと思ったよ。ああいう負けにも〝慣れた〟っていう言い方は変だけどさ、プロとして、応援してくれた人には礼は尽くさなきゃいけないと思ったから。

――だからこそ、負けてもリング上で「ハッスル、ハッスル!!」。

小川　そうだね。マイクを渡してくれた人のファインプレーだね。俺にとって、ああいうのは初の試みなんだよ。昔だったら、何にもしないで帰ってる。でも、いまはプロだから、次に向けて前向きな姿勢を見せないと。

――さらに大会終了後、会場外のけやき広場での「ハッスル再決起集会」は、ファンにとって〝超大入り袋〟的なプレゼントになったと思いますよ。

小川　ファンもあんなに集まってくれてね……あれは嬉しかったよ（しみじみと）。

――チキンの目にも涙じゃないけど、あの

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは出直しの連続なり!!

Naoya Ogawa

ときの小川さん、ちょっと涙ぐんでましたよね。「これ以上しゃべると涙が出ちゃいそうなんで……」っていう小川直也らしからぬ発言も飛び出しました。

小川　うん。

――「小川、ありがとう！」と叫んだファンに対して、小川さんは「俺にも感動をありがとう！」とも言ってましたね。ファンから感動をもらいましたか？

小川　はい。

――「うん」「はい」って、なぜこういう、いい話のときは、そんなに言葉少ななんですか（笑）。

小川　まぁ、あのときは正直、何をしゃべっていいかわかんなくて、何をしゃべってるかもわかんなくて。わけのわからないこと言ったんじゃないかって、あとで心配しましたよ。ホントは、けやき広場に行くつもりはなかったんだよね。優勝者不在で閉会式がなくなって、だからけやき広場のイベントもなくなったと思って、こっちは帰り仕度をしてたから。頭も痛いしさ。でも「行かなきゃダメです」って呼びに来る悪魔のような人がいるんだよ、また（笑）。

――ダハハハ。本当は場内に「これから、『ハッスル再決起集会』をやります！」というアナウンスをするはずが、閉会式がなくなったことで場内に流すタイミングがなくなったみたいですね。でも、4月、6月とやってるし、けやき広場では小川さん登場の告知をしてたので、あの凄い人だった。むしろ4月や6月より多かったですよ。

小川　不思議なもんだよね。負けたときのほうが多いなんてね。でも、あのファンのパワーがある限りは、俺はハッスルし続けるしかないと思いましたね。最後のけやき広場が一番、泣けたね……GPに出て一番よかったのは、けやき広場！

――小川直也、『PRIDE・GP』のベストバウトは、けやき広場での「vsファン」！

小川　変な話、最後のけやき広場があったことで、GPに出てよかったかなって……ね。GPに出たことが成功か失敗はわからないけど、けやき広場でGPに出た意味合いを強く感じたよ。あそこに行ってなかったら、〝何のために出たんだろう？〟って、ますます滑り込んじゃってたよ、俺は。

――〝穴があっても入れない世界〟に小川さんが高い次元で突入したということじゃないですか？　ボクは、小川直也が真の意味でプロレスラーになったという気がしますね。

小川　そうかな？

――真の意味でのプロフェッショナル、と言ったほうがいいのかな。そういえば、小川直也嫌いで有名なボクの知り合いに、敢えて今回の感想を聞いてみたんですよ。そしたら「小川の試合を観て初めて泣いた！」って言ってましたよ。最後の「ハッスル」も含めてでしょうけど。

小川　それは偏屈だなぁ……。

――ガハハハハハ！　そう返す小川さんが一番、偏屈だと思うけどなあ（笑）。

小川　（無視して）偏屈の塊なんだな、この世界も。まっすぐ見れない人がいっぱいいるよ。

おそらく小川直也をいままで〝人間〟だと思ってなかった人は多いでしょうね。ある意味で〝超人〟というか〝怪物〟扱い。よくて〝変人〟（笑）。初めて今回、小川直也の〝人間ドラマ〟が垣間見れたという人は多いと思いますよ。

小川　喜んでいいのかどうかわからないけど、なにか楽になった気はするよね。〝ハッスル査定試合〟としてモチベーションを保ち続けて、とりあえずひとつ終了したから。今回は〝『ハッスル』を広めるため〟という大義名分のもとに闘ったわけだし、だからこそ自分の気持ちが盛り上がったわけだから。

――ファンの小川さんを見るモチベーションも徐々に盛り上がっていきましたしね。

小川　4月、6月のGPだと俺のやってることがあんまり浸透してないというか、4月では全然理解できなかったものが、6月で半分ぐらい理解してもらって、今回は全部まで行かないまでも

『PRIDE・GP』"事実上のメインイベント"!! けやき広場『ハッスル再決起集会』で"キャプテン・ハッスル"が感涙！

【全試合終了後。オーちゃんは、さいたまスーパーアリーナ会場外のけやき広場に移動する間にもファンから「ありがとう!」の声援を受けた。4月、6月と同じく、けやき広場にオーちゃんが現れ、『ハッスル再決起集会』が始まった】

（多少ボーッとした感じで小川がマイクを握る）皆さん、どうもありがとうございました!　パンチをもらって……そのあとわけがわかんなくてなって終わってしまいましたが……わかんないまま、何とかハッスルしましたけど……試合は負けましたけど、『ハッスル』はですね、これがスタートだと思ってます。【大歓声】

皆さん、『ハッスル』をお願いします!　ここまで来てくれたことに、ホントに感謝してます。ホントにありがとう!【大歓声】

（ひと呼吸置いて）『PRIDE』はね、ホントにいいものだと思います……でも「ハッスル』もね、それに負けずにいいものです。楽しいイベントだと思いますんで、皆さんぜひ見に来てください。【大歓声】

ホントはね、勝って気分よくやりたかったんですけど、負けは負けで……勝っても負けてもハッスルしたいと思ってます。皆さん、ハッスルするんでお願いします!【大歓声＆「大オガワコール」】

今日は応援ありがとうございました!　皆さんの応援が何より心地よかったです。私の一番の励みになりました。それでは負けちゃったけど、ハッスルしてまた明日から頑張るゾー!（観客「オー!!」）スリー、ツー、ワンッ!!　ハッスル、ハッスル!!　ありがとう!!

【この後、9・20『ハッスル5』のチケットをこの場で購入してくれたファンを対象に握手会に。握手会が終わると"もう1回ハッスルを……"という空気になり、オーちゃんがマイクを再び握る。「大オガワコール」＆「小川、ありがとー」の声】

……俺も感動をありがとう!……俺にも感動をありがとう!……負けましたけど、『ハッスル』はこれからが本当のスタートだと思ってます。ホントにね、これ以上しゃべると涙が出てきそうになっちゃうんで……（下を向き、一瞬声を詰まらせ）……本当にヤバイ。（気を取り直して）俺も明日から頑張るぞー!　だから、みんなも、オメェらも頑張れっ!　いくぞーーっ!!（観客「オー!!」）　スリー、ツー、ワンッ!!　ハッスル、ハッスル!!（涙を見せないように、唇を噛みしめキッとした表情をつくり退場）

会場告知がなかったのにも関わらず、4月、6月のGP大会終了後イベントを超えるファンが詰めかけた、けやき広場。オーちゃんもいつもより力が入る!

8割ぐらいまでは理解してもらえたのかな。終わったときに「また出てくれ！」という声もあったんだけど、「いままでありがとう！」みたいな声も多かったしね。ほら、小学生のときに先生に言われたことがわかんなくて、卒業するぐらいにわかることあるじゃない？「先生ありがとう！」みたいなね。俺が先生ってわけじゃないけどさ。

――でも、逆の部分もあるんじゃないですか？ ファンに教えられた部分というか。

小川 そうだね。〝プロとはこういうもんだよ〟〝ファンはこんなもんだよ〟ってお互いに教えあってたみたいなね。だからお互いいい感じの関係を保ててたと思いますよ。

――卒業に例えるということは、『PRIDE』も卒業ということですか？

小川 卒業というか、俺は卒業生を送る側だね。プロってさ、結局はファンを成長させる役割もあるわけじゃない？ その逆もまた然りだけど。PRIDEファンは〝勝ち負け〟を楽しみにしている部分が多いんだろうけど、ちょっとずつ見方を変えてくれれば幸いかなって。それで『ハッスル』に興味を持ってくれれば最高なんだけどね。

――PRIDEファンも、さっきも言ったみたいに勝ち負けだけではなく、底深いドキュメンタリー、つまり〝人間ドラマ〟が見たいんですよ。『ハッスル』は、長州力の言葉じゃないですけど〝漫画の世界〟と捉えられがちですけどね（笑）。

小川 いやぁ、〝漫画の世界〟でいいんだよ、『ハッスル』は!!

――つまり、人間ドラマ＝ドキュメンタリーだけじゃなくて、漫画も読め、と（笑）。

小川 そうだよ。ドキュメンタリーが好きな人でも、漫画読んでる人いっぱいいるじゃない。むしろ活字の本を読む人より漫画を読む人のほうが圧倒的に多いわけでしょ。そう考えたら〝漫画の世界〟に真剣に浸らなきゃいけないよ。

――〝漫画の世界〟というのは一見、軽そうに見えて、徹底しようとすればじつにハードな世界ですよね。

小川 でも、プロレスだってもともとはドラマありきが始まりだったじゃない。力道山がアメリカに負けた敗戦後のシチュエーションがうまくハマったという言い方はありきたりだけど、それがすべての始まりだから。それもある意味、〝漫画の世界〟みたいなもんじゃないですか。〝漫画の世界〟にだって現実を動かす力はあるんだよ。

そういう意味では決勝に残った他の選手と比べてハンディは感じませんでしたか？ ヒョードルは森に入ったり、ノゲイラはチームで合宿を張ったりしてる。でも小川さんは「ハッスル会社訪問」やら、『ハッスル音頭』のレコーディングやら、競艇場のトークショーをやってるんだから。殺人的なスケジュールを縫ってでも早朝から練習してるのには頭が下がりましたけどね。

小川 練習するのは当然でしょ。それにどのイベントだって『ハッスル』のためなんだから、俺からするとGPと同じ比重なんだよ。向こうは向こうでその世界で生きる道があるから、彼らが練習にだけ没頭するのは当たり前。だからって2ヶ月おきに試合やってるミルコのペースは異常だけどさ（笑）。で、こっちはこっちで『ハッスル』を広めていく役目がある。それぞれ役目が違うんだから。こればっかりは携わってる人間じゃないとわからないと思うよ。ヒョードルたちが俺がやってることを簡単に理解できるわけないしね。

――でも、ファンは理解してくれた。これだけファンの声が小川さんにダイレクトに届いたのはこの半年間が一番だったと思いますよ。

小川 『PRIDE』は過去の試合を含めて、ファンの声援に熱があるね。なにせプロレスになると温かさがあまりないから……余計にそう感じるね。

――ガハハハハ！ プロレスのほうが逆風が吹いてましたよね、ずっと。

小川 嫌になっちゃうよね（笑）。だから『PRIDE』のファンのほうが俺がやってる意味合いを理解してくれるんだろうね。それなのに、いまのプロレスは感情移入できないようなジャンルになっちゃったのかなって。

――まだ日本人が〝勝負論〟を外したものに対して、感情移入するということに慣れてないんですよ。日本人は、勝負論を軸にした人間ドラマを見たい人が多いから。だからこそ『PRIDE』も人気があるんだと思いますね。

小川 だけど、今後、『PRIDE』がイベントとして確立していくのはいいんだけど、日本人がいないと絶対に熱は生まれてこないよ。俺が言うのもなんだけど、俺でダメなんだから、いまの総合だと日本人選手がトップに立つのは厳しい。やっぱり外人はみんなハングリーでしょ。日本にはそういう選手が生まれる環境がないし。

――小川さんが道場を開いて、強い日本人選手を育てる考えはないんですか？

小川 道場は予定に入れてますよ。

――やりますかーーっ！

小川 そろそろこの現状はマズイかなってね。殴るほうはいま（ピストン堀口ジムの）堀口君に教わってるんですけど、それは殴る専門家に任せてね。

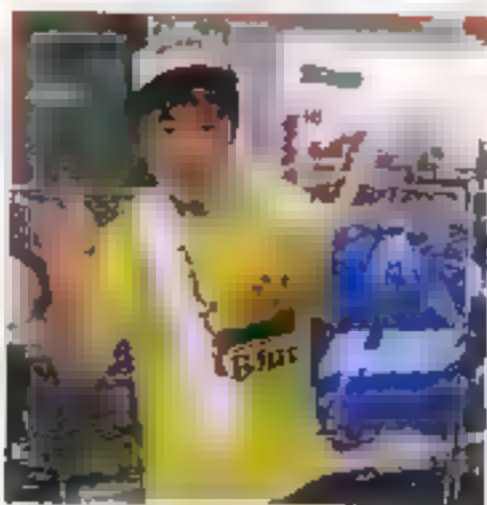
――小川さんは常々「子どもに人を殴る技

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは出直しの連続なり!!

Naoya Ogawa

仰天！ 世界初の『ハッスル・ストア』が愛知県・小野浦にオープンしていた!!

島田裕二レフェリー？ それとも島田裕二参謀長なのか？ モンスター軍グッズを手にしているのできっと後者に違いないが……。どっちでもいいや。

"スター気取り"の笹原が写真撮影を要求（?）。普段では見られないはっちゃけた笑顔でハッスルグッズをアピール。なんだかナウイ。

あらっ、サエキングまで！ ちゃっかり「武士道」をアピール「ガマ大王二世」として高田モンスター軍も入りを希望したが血糖値が高すぎて断念した噂あり。

10・25名古屋『ハッスル6』開催決定！ 地方進出が本格的にスタートした『ハッスル』だが、なんと夏期限定ながらも愛知県・小野浦に『ハッスル・ストア』もオープン!! 『ストア』には『ハッスル』以外のDSE関連グッズも豊富に用意。そのハッスル・パワーは止まることをしらないぜ！

♪ハッスル、ハッスル、ギョロ目がドン♪ 9月16日『ハッスル音頭』発売!!

島田参謀長が『ボエ～♪』とジャイアンばりの歌唱力で初披露された『ハッスル音頭』が9月16日にビクターより全国発売される。もちろんマイクを握るのはヤトカリなんかではなく、作詞を手掛けた"キャプテン・ハッスル"だ。特別先行発売された『PRIDE・GP』では爆発的な売れ行きを記録。髙田総統Verが収録されているので、総統の僕を自認する『紙プロ』読者にはマストアイテムだ！

術は教えたくない」って言ってましたね。
小川　教えたくはないですね。守る技術を覚えるのはいいと思うんだけど、な〜んか、ある意味、殴り合いは夢がないっていう感覚が俺にはあるんですよ。そういうのもやっぱり教えなきゃいけないんだけど……あんまり教えたくないんだよなぁ。
——あんまり教えたくない道場（笑）。逆に徹底的に教え込んでしまうか。
小川　そうそう。だからそういう選手を目指したいなら、徹底的に教え込む。中途半端にやるんだったら教えない。変に使われても困るからね。
——いつオープン予定ですか？
小川　予定では来春かな。
——早いですね、やるとなったら（笑）。
小川　やるときはパッとやるほうなんでね。短期集中型でガッと。
——怖いなぁ。『ハッスル』も短期集中型でガッとやって、サッと引かれると（笑）。
小川　引くことはないよ（笑）。引くというよりは、ここぞというときにガッと攻めて、あとはみんながどれだけ付いていきてくれるかですよ。いまが一番苦しいときだと思うから。そういう時期に付いてきてくれるファンや関係者がホントに『ハッスル』を思ってくれている人たちでしょう。
——でも、仮に小川さんがGPに優勝しても、一時期は追い風が吹いたとしても、『ハッスル』を広めていく苦しさはあんまり変わらなかったと思うんですよ。
小川　それはわかってますよ。やっぱりプロレスの中身というか、『ハッスル』の中身が面白くならないと付いてこないからね。そういう意味でも早くプロレスのほうをやっていかないと終わっちゃいますからね。とりあえずは『ハッスル』に専念しますよ。『PRIDE』とは契約終了だしさ〜。
——またそういう夢のないことを言う（笑）。一部、新聞紙上では大晦日の『男祭り』出場が取り沙汰されてますよ。『週刊F』によると、小川直也という方は、吉田（秀彦）選手との〝柔道王対決〟に大乗り気らしいとか（笑）。
小川　何を根拠に書くんだろうねぇ。『紙プロ』がそのあたりを直していかないとね。『ハッスル』も地方に進出するし、そろそろ『紙プロ』は隔週でしょう！
——『紙プロ』の隔週話はともかく（笑）、小川さんが負けたことで、『ハッスル』がバブルで終わるとか、小川直也のバブルも弾けたとか言う人も出てきますよね。

あのファンの熱を感じたら俺はハッスルし続けるしかない!!

小川　言わしとけばいいんですよ!!　それはしょうがない。かならず反動はあるわけで、その反動をいかにして押さえるかということが面白いわけじゃない。
——小川さんは『ハッスル』をバブルで終わらせるつもりはない、と。
小川　これからも精一杯ハッスルするよ！　ここで立ち止まったら、けやき広場に来てくれたファンに顔が立たないからね。
モーリー　ふはっ！（笑）。
小川　ああん？　モーリー、おまえ、バカにしただろ、いま！
モーリー　は、はひ？　な、なんですか？
小川　〝なんですか？〟じゃねえよ！　鼻で笑っただろ、いま!!
モーリー　は、は、『ハッスル』？
——さ、小川さん。モーリーのことは気にせずにいつものやつで締めますかーーっ！
小川　ホント、モーリーは偉くなったもんだよな〜。じゃあ、行くゾーーッ！
モーリーを除いた一同　オーーーーッ！
小川　スリー、ツー、ワンッ!!
モーリーを除いた一同　ハッスル、ハッスル!!
モーリー　は、鼻で笑うってどういう意味ですか!?　は、はひ！

【04年8月16日／都内某ホテルにて収録】

ハッスルとは出直しの連続なり——!!

インタビューで改めて「ハッスルし続けるしかない!!」と誓った〝キャプテン・ハッスル〟。小川直也にとって今後の道程こそが〝人生最大の査定試合〟といっても過言ではないだろう。

〝カッコ悪い〟のを承知で敗戦後にマイクを握り、申し訳なさそうにハッスルポーズを観客に要求した、その姿。

大会終了後、〝カッコ悪い〟のを承知で会場外のけやき広場に駆けつけてハッスルした、あの姿。

そこには12年前、「もういいっスか？」と言葉少なにブ然と立ち去った柔道王の姿はなかった。〝残酷な夏〟を〝プロ〟として見事に消化して、すべてを晒け出した小川直也がそこにはいた。「ハッスルし続ける!!」モチベーションが溢れ出ている〝キャプテン・ハッスル〟がいたのだ。

涙の数だけ勝ちなさい。笑顔の分まで負けなさい

小川よ、キミの闘う場所にゃ、海より大きなハッスルがある！

ハッスル、ハッスル、ハッスル!!

NKO FEDOR

エメリヤーエンコ・ヒョードル

ヒョードル選手。試合翌日、すぐに病院に行ったそうですが、ノゲイラ戦でパックリ開いてしまった額の傷は大丈夫なんでしょうか？

ヒョードル　GP決勝戦では試合が続けられず本当に残念で、申し訳なく思っているのですが、傷自体は全然問題ありません。適切な治療を施して、一日も早く練習を再開、またリングに戻ってこれることを期待しています。

――ノゲイラとのGP決勝戦は、8月15日が過ぎても、いまだに決着がついていません。ヒョードル選手自身は、いつごろまた闘えるとお考えですか？　10・31『PRIDE・28』でしょうか、それとも大晦日の『男祭り2』でしょうか。はたまた、来年になってしまうのでしょうか。

ヒョードル　ノゲイラとの再試合を可能な限り早く実現させたいと思っています。私は医師ではないので、不用意な発言は慎みたいのですが、自分自身の考えを言わせてもらえれば、傷口さえふさがったら、『PRIDE・28』で問題ないのではないでしょうか。ハッキリ言って、待ちきれません。

――ヒョードル選手のパウンドは世界最強の破壊力を持っていると思います。しかし、あなたのパウンドは頭から突っ込み、体全体を使って打つやり方ですから、そうすると今回のようなバッティング再発の危険性がありますよね？　これに懲りて、ファイトスタイルを軌道修正するようなことはあるのでしょう

EMELIANEN

「闘ってみた感想？オガワさんは優秀な柔道アスリートだと思います」

強い！　思わず誰もが放送席の高田本部長ばりに、こうつぶやいてしまうほどの圧倒的強さだった。すべての格闘技ファン大注目の一戦であった準決勝の小川直也戦は、終わってみれば、王者ヒョードルの危なげない完勝劇。はたして"皇帝"の目に、かつて憧れたという柔道王・小川はどう映ったのか？

撮影／乾貞也

小川完敗の衝撃!!
ハッスルとは出直しの連続なり!!

永田さんや藤田さんと小川さんを比較するのはナンセンスですね

か？

ヒョードル　その質問に答える前に、戦術や戦法というものは毎回ファイトごとに違うものです。ですから当然、次回ノゲイラ選手と闘った場合もやり方は変わります。それは今回だけ軌道修正するというよりも、いつもそうなんです。

——今回のノゲイラとの再戦は、わずか3分間で終わってしまったとは言え、非常に中身の濃い闘いだったと思います。改めてご自身で闘いを振り返ってみていかがでしたか？

ヒョードル　私もノゲイラも共に新しい戦術を持ってきており、前回より遥かにレベルアップした闘いができたと自負しています。そして恐らく次の闘いも、きっとまた新しい展開が見られることでしょう。私とノゲイラの闘いとはそういうものです。

——ヒョードル選手の復帰戦が即ノゲイラとの決着戦と考えていいのでしょうか？　それともお互いワンクッション置いて、別の相手と闘ってから、ベストの状態で3度目の闘いを迎えるという選択肢もあると思いますが。

ヒョードル　いや、即再戦で全然問題ないですし、一刻も早くグランプリ王者が誰なのか、ファンに対して知らせるべきだと思います。それが我々のつとめであり、筋だと思います。額の傷以外はすごぶる体調もいいので、一刻も早く闘いたいぐらいです。

——でも、グランプリの決勝戦というのは、フィジカル、メンタル両面で極限まで高めて挑んできたと思いますが、そんな短期間でまた同じように最高の位置までモチベーションを高めることは可能なんでしょうか？

ヒョードル　どんな試合であれ、自分の可能性を最大限にまで高め、モチベーションを最高の状態に持っていくというのは、ファイターとしての義務です。当然のことにすぎません。これが私の仕事です。

——わかりました。では、準決勝における小川直也戦を振り返ってください。作戦通りに闘えましたか？

ヒョードル　まずお伝えしたいのは、柔道の世界王者にして、オリンピックの銀メダリストと闘えて非常に光栄に思っているということです。ご指摘のとおり、試合開始と同時に強いパンチで急襲するのが私の作戦でした。

——正直なコメントをお願いします。小川戦はヒョードル選手にとって〝楽勝〟だったのでしょうか？

ヒョードル　まぁ、1分以内に終わらせることができたわけですから、それは満足していますよ（微笑）。

——小川選手はヒョードル選手の最初の右フックが効いてしまい、その時点で勝負あったと言っていました。あの右フックはご自分でも手応えがありましたか？

ヒョードル　はい。あの一発で私の試合になったと思います。

——小川選手はベスト4に残ったわけですが、その実力は、他の3名のファイナリストと比べて同等のものがあると思いますか？

ヒョードル　オガワさんは柔道の世界王者にして、オリンピックの銀メダリストですからね。世界レベルのアスリートであることは間違いないのではないでしょうか（微笑）。

——それじゃ質問を変えて。小川選手はヒョードル選手が過去に闘った日本人選手と比べてどうだったのでしょうか？　結果だけで言うと、大晦日に闘った永田選手よりさらに早いタイムで終わってしまったわけですが。

ヒョードル　…………。う～ん、オガワさん、フジタさん、それからナガタさんとそれぞれがまったく違うスタイルとバックボーンを持ってるわけですし、闘った時期も違いますから、それを比較するというのは不可能ですね。私はみなさんそれぞれ尊敬していますし、それを比べるのはナンセンスだと思います。

——では、弟のアレキサンダーとミルコ・クロコップの試合についてお伺いします。ミルコのハイキックで敗れはしたものの、アレキサンダーは非常にいい闘いをしたと思いますが、お兄さんから見ていかがでしたか？

ヒョードル　サーシャ（アレキのニックネーム）はとてもアグレッシブでいい闘いをしたと思います。ただ、まだやろうとした戦略を十分に実行するには経験が不足していますから、それが敗因でしょう。日本のファンが彼の攻撃的で果敢な闘いを評価してくれたのなら非常に嬉しいです。いい線までいったと思います。

——アレキサンダー選手にいま一番足りないのは経験ですか？

ヒョードル　そうですね。試合経験は非常に大切な要因です。特に『PRIDE』のようなハイレベルな戦場では、経験があるかないかで、大きな違いがでてくると思います。サーシャは練習ではすでに私と遜色ない闘いができていますから、あとは本当に経験だけでしょう。『PRIDE』から早く次のオファーが彼にあることをのぞみます（微笑）。

——ミルコは「弟を潰してやった。もうヒョードルは逃げられない」と言っていましたが、彼の挑戦を受けるつもりはありますか？

ヒョードル　（微笑）どんな選手でもみなチャンピオンに挑戦したい気持ちは持っているでしょう。私はマネージメントと主催者、そしてファンが「闘ってほしい」と言ってくる相手と闘うだけです。

——ミルコ選手は「ヒョードルは昨年11月、私から逃げた」なんて言っています。この発言についてどうお考えですか？

ヒョードル　確かに私は昨年11月、手の骨を折ってしまい試合ができませんでした。でも、もしミルコが11月、それから4月の試合に勝っていたら、すでにもう私と闘っていたはずですよ。まぁ、そういう発言をするのが彼のやり方でしょうから言わせておけばいいんじゃないですか。彼がまた負けない限り、その一戦はすぐに実現しますよ。

——それじゃ、ミルコ選手にはPRIDEヘビー級タイトルに挑戦する資格があるとお考えですか？

ヒョードル　いや、それは私が言うべきものではありません。ただ、クチであぁだこうだ言いふらすのではなくて、試合結果で判断されるべきなんじゃないですか？　それによって、誰が一番王座への挑戦資格があるのかが決まるんだと思います。違いますか？

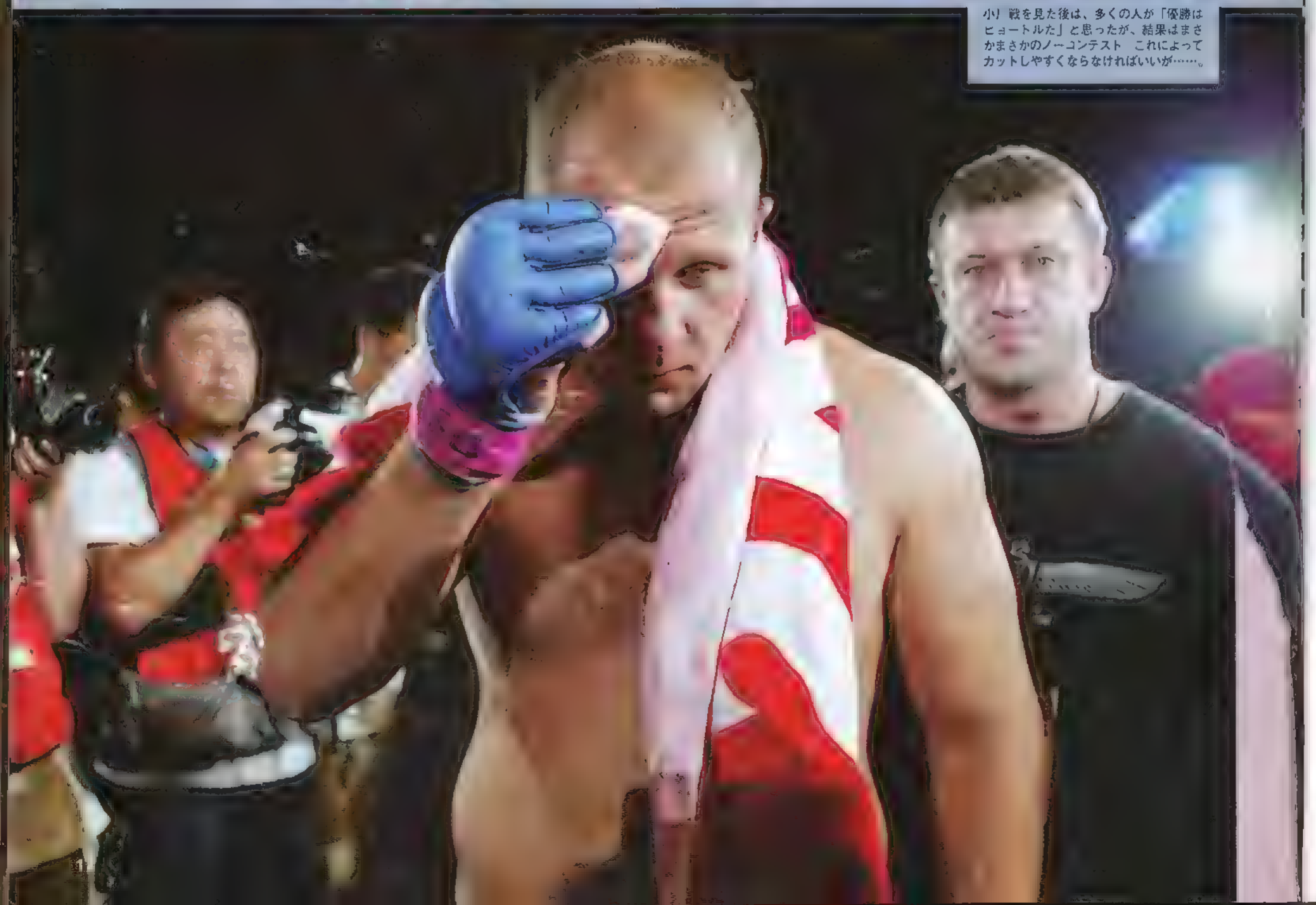
——わかりました。では最後に、会場、またはテレビ等でヒョードル選手の闘いを楽しみにしていたファンへメッセージをお願いします。

ヒョードル　まず最初に、皆さんに決勝戦の結末をお見せすることができなかったことをお詫びしたい。しっかり準備してノゲイラとの間で争われるグランプリ王座に挑戦することを約束いたします。それもできるだけ早く。あと、これまでのサポートに本当に感謝しています。私にとってそれはとても重要なものだからです。またこれからの変わりないサポートもよろしくお願いします。皆さんのご期待に添えるよう精進いたします。ありがとうございました。スパシーバ。

【8月17日／療養先への電話取材にて収録】

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは出直しの連続なり!!

あの小川直也を顔色ひとつ変えず、わずか54秒で下したヒョートル。そのケタ違いの強さを改めて大観衆に見せつける形となった

小川戦を見た後は、多くの人が「優勝はヒョートルだ」と思ったが、結果はまさかまさかのノーコンテスト これによってカットしやすくならなければいいが……。

長期欠場を前に 橋本真也から “永遠のライバル” 小川直也への伝言

悔しいだろうけど、
これで肩の荷が一つ
下りたんじゃないか。
これからは、ホントの自分を
見せつけてやればいいんや！

構成／松澤チョロ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (Two Three)

俺がお前のことをあきらめてないように、お前も土を付けられた人間に対してあきらめないで欲しいって気持ちはあるよ

押忍！　橋本真也です。今回のヒョードル戦は同じ日にウチの後楽園大会もあったんで、ナマでは見られなかったけれども、あとで、じっくり見させてもらったよ。

試合に関して言えば、なんも駆け引きとかなしに、出鼻をくじかれたって感じだったよな　結果だけ見れば短い時間で終わってしまったけど、それが、ああいう勝負だと思うし。やっぱり、いいのを先に食らっちゃったら、どうしようもないなっていうのあるよな、それは総合に限らずプロレスでもそやろ？　まあ別に俺は、お前のことをかばったりするつもりもないし、「紙プロ」ではノゲイラとも対談しちゃったけど（笑）、やっぱり俺は小川派の人間やからな。

もしその気があるんだったら取り返して欲しいなっていう気持ちはあるよ。小川直也は『PRIDE』とかのリングでも十分トップを取れる力がある選手だと思ってるし、それに、俺の永遠のライバルでもあるからな。だから、俺がお前のことをあきらめてないように、お前も土を付けられた人間に対してあきらめないで欲しいっていうのはあるよ。ただ、これは言わなくてもわかってるやろうけど、プロレスと総合、両方やっていくっていうのは大変なことだからな。プロレスはプロレスで別の意味で命懸けだし、総合は二度とやらないって言ったところで恥じることは何もないと思うよ。逆に言ったら、俺が好きな格闘技戦みたいに、こっちのリングに上げてやってもいいと思うしな。それが可能かどうかは別として、俺らの世界ではよくあることだから（笑）。

でも、「柔道王が十字で取られた」とか、くだらないこと言ってるヤツもいるやろ？　そんなもん、一発食らってピヨピヨ出てたら誰でも取られるんだから、なんも気にすることはないよ。俺だって、昔、お前との試合で「いいの入っちゃってわからなくなった」って言ったこともあるし、気持ちはよくわかるからな（笑）。まあ、もう一丁出て行くのか、プロレスに専念してハッスルするのか、あとは自分自身の問題だしな。これまで小川直也っていう偶像をずっと作り上げてきたファンからすれば納得がいかない気持ちもわかるけど、これぱっかりは自分がいいと思ったやり方でやればいいと思うよ。

それと、負けた後、しっかり「ハッスル」してたけど、本音で言えば絶対やりたくなかったと思うんだよ。でも、お前は自分のためじゃなく「ハッスル」のためにやったんだよな？　あれを見て、プロとして小川直也は一皮も二皮も剥けたなって思ったよ。

俺も、ずっと肩を怪我してて、これ以上弱い橋本真也を見せ続けるのが我慢できなくなったんで手術することにした。俺は俺で、これから自分との闘いが始まる。闘いと言っても、全然違う土俵の部分だから、もう自分自身と向かい合うしかないと思ってる。そんな俺からすると、正直言って突っ走ってるお前がうらやましくもあるよ。お前は、これまで“最強だ”“世界一だ”ってずっと言われてきた人間だから、今回の結果で、悔しい気持ちっていうのは当然あるだろうけど、これで一つ肩の荷が下りたってところもあるだろ？　これからホントの小川直也をファンに見せつけてやればいいんや。

とにかく、いまの俺は肩を治して、身体をちゃんと作り直すっていうのが先決だけどな、近い将来、お前のことを倒さないと、ホントの意味での復活ではないと思ってるよ。まあ、その時まで待ってて下さい。……なんかこういうテーマだとおもろいことは言えないけど、最後に、行くぞーッ！　3、2、1、ハッスル、ハッスル!!　もう一つオマケや！　頑張れ、スッポン!!　どや？（笑）。

ファンがジャッジする

PRIDE GP 2004 FINAL ROUND

小川完敗の衝撃!!
ハッスルとは出直しの連続なり!!

かつて、これほどまでにあっけない幕切れがあっただろうか？　人類60億分の1を目撃すべく、さいたまスーパーアリーナに詰めかけた47629人の大観衆、そして記録的な契約件数となったスカパー!PPVの視聴者が目撃したものは一体何だったのか？　iモード、EZweb、vodafone live!で配信中の携帯サイト『紙のプロレスHand』で実施したアンケート「The Judge」に寄せられたファンの声を聞きながら大会を分析していきたい。

［アンケート実施期間］2004年8月16日から22日まで

構成／坂井ノブ

designed by matau［Two Three］

Q1 あなたは8・15『PRIDE・GP』をどこで見ましたか？　満足 or 不満足どちらでしたか？

大会2日前から当日券発売を待つ徹夜組が出たほど、今大会のチケットの入手は困難を極めた。会場とPPVで「満足」と答えた人がほぼ同数なのに対して、「不満足」は会場で見ていた人の方が多いのはチケット入手の困難さゆえか？　今回は大阪、札幌、福岡でクローズドサーキットが行われており、PRIDEに新たなメディア展開が生まれていることも注目したい。全体の中では数％でしかないが、会場やPPVに比べると「満足」度は高い。Q5の回答を見ていると、とにかく観客の不満はメインイベントの決着に集中している。「アクシデントだから仕方ない」という声もある一方で、やり場のない憤りが込められた「金返せ！」という叫びもある。アクシデントによる負傷で迎えるあっけない結末も格闘技の持つ側面の一つであるということを改めて思い知らされた形となった。

1★	会場……満足	24.6%	519票
2★	会場……不満足	18.5%	391票
3★	PPV……満足	24.5%	517票
4★	PPV……不満足	14.6%	308票
5★	クローズドサーキット……満足	1.3%	27票
6★	クローズドサーキット……不満足	0.5%	10票
7★	速報のみ……満足	5.0%	105票
8★	速報のみ……不満足	11.0%	232票
	有効投票数 >>>		2109票

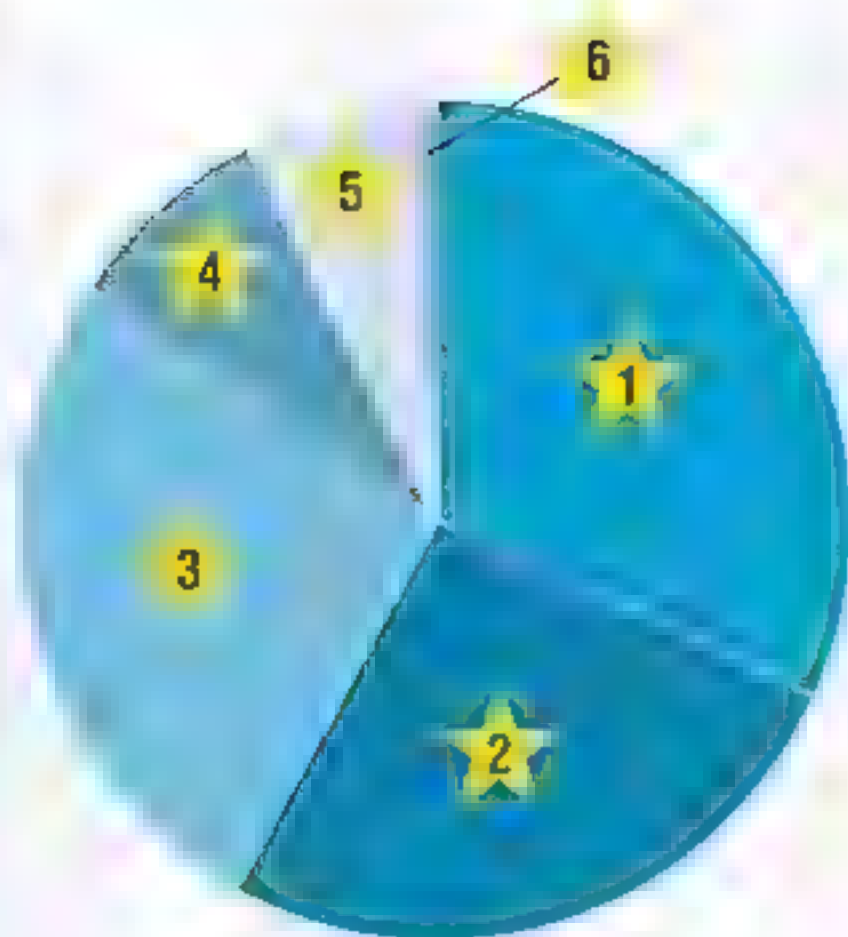
Q2 今大会のMVPは誰だと思いますか？

ヒョードルの実弟・アレキサンダーを衝撃的な左ハイキックでKOしたミルコが堂々のファン認定MVPに輝いた！　4月の開幕戦でランデルマンにまさかのKO負けを喫して以来、PRIDE武士道という名の裏街道をひた走ってきたミルコだったが、遂に表舞台に姿を現した途端に、挨拶代わりの鮮やかなKO勝利！　ヒョードル、ノゲイラに追撃の狼煙を挙げた。このKOがメインの消化不良を少なからず帳消しにしているという声も多い。2位には「負けてもハッスル！」した小川。涙のハッスルには「感動した！」という意見が多数寄せられている。「該当者なし」という声も多いが、これは期待した決勝戦で肩すかしを食らったのが原因だろうか。ヒョードルとノゲイラは全くの同数だ。ここに名前が挙がっていないムリーロ・ブスタマンチとエメリヤーエンコ・アレキサンダーは0票だった。

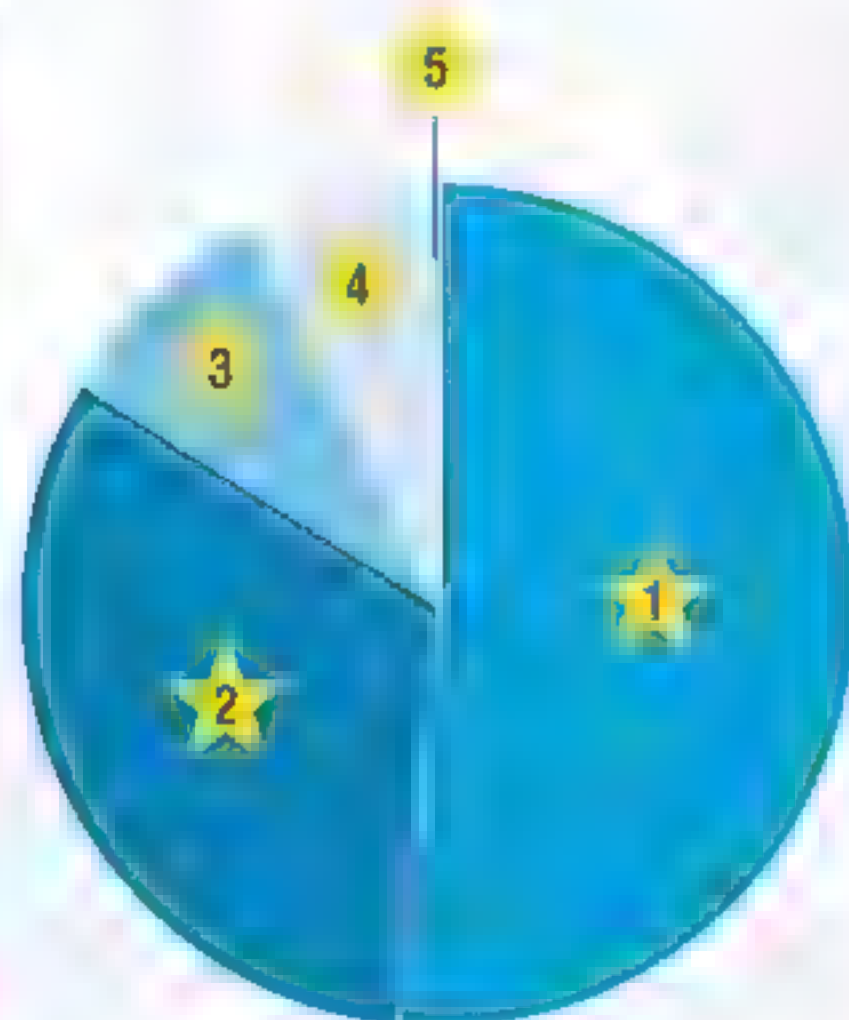
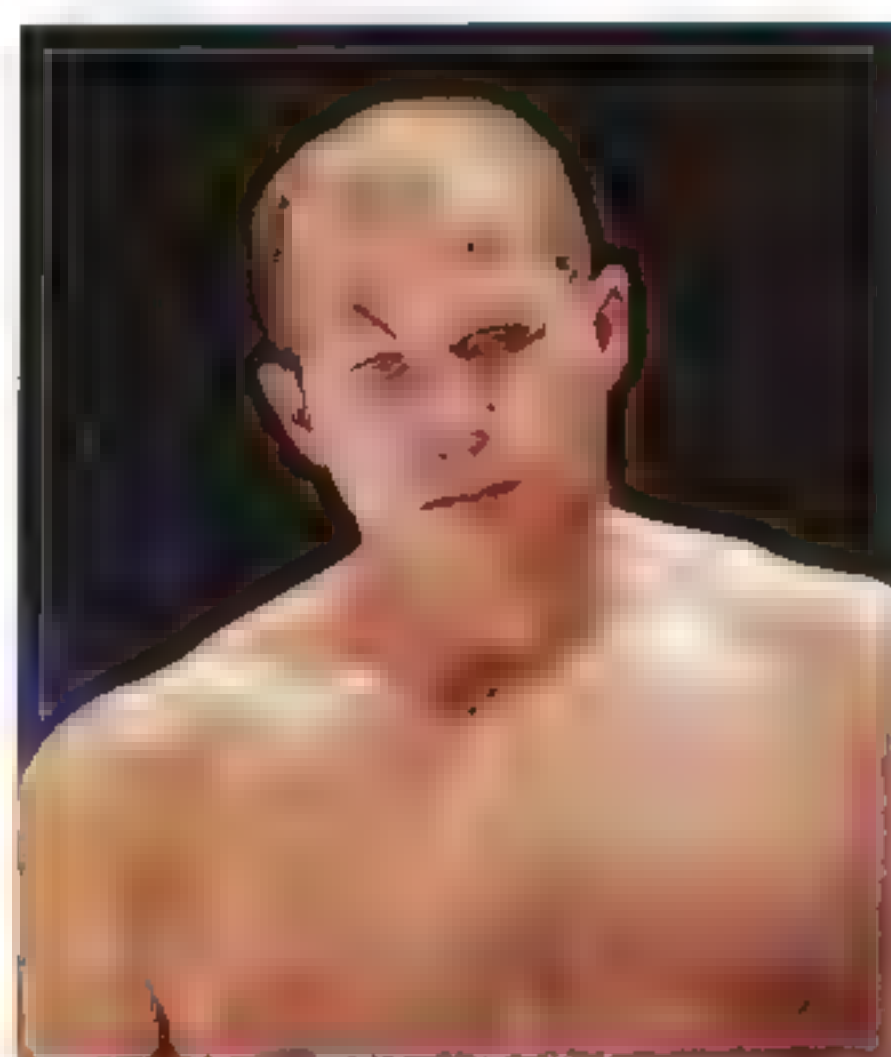
1★	ミルコ・クロコップ	37.1%	783票
2★	小川直也	20.9%	441票
3★	ヴァンダレイ・シウバ	10.8%	229票
4★	エメリヤーエンコ・ヒョードル	6.1%	128票
5★	アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ	6.1%	128票
6★	中村和裕	4.5%	95票
7★	近藤有己	1.4%	29票
8★	セルゲイ・ハリトーノフ	1.1%	23票
9★	ロン・ウォーターマン	0.1%	2票
10★	ケビン・ランデルマン	0.1%	2票
11★	該当者なし	11.8%	249票
	有効投票数 >>>		2109票

※Q1～4は選択式、Q5、Q6は自由回答です

Q3 小川直也vsヒョードルについて、あなたの感想は？

この世紀の一戦を前に、バルセロナ五輪銀メダリストの小川直也が、たったの54秒で腕ひしぎ十字固めによる一本負けを喫するなどと誰が予想し得ただろうか？　アンケートの結果を見ても、ヒョードルの圧倒的な強さにただただビビってたじろぐ声も多い。だが、泣き顔になりながらもハッスルした小川をファンは高く評価している。それと同数でノゲイラ戦を期待する声も根強い。ファンはどこまでも貪欲であり、ぜいたくでもあり、温かい存在だ。小川vsノゲイラというファン垂涎のドリームカードは、果たしてこの先、実現するのだろうか？　Q6の回答にもあるように、大多数のファンが小川のPRIDE継続参戦を願っている。試合後のコメントでは榊原DSE代表も「このままでは終われないでしょう」と期待を寄せているのだが、果たして小川の進む道はどっちだ!?

1★ヒョードルが強すぎる！　あれでは勝てない！	31.9%	673票
2★やっぱり小川vsノゲイラが見たかった	26.2%	552票
3★負けてもハッスルした小川に好感を持った	26.2%	552票
4★小川が弱い、だらしないと思った	8.2%	174票
5★負けてもハッスルした小川が嫌だった	6.5%	138票
6★試合自体に興味がなかった	1%	20票
有効投票数＞＞＞		2109票

Q4 GP決勝の裁定について、あなたはどう思いますか？

ノーコンテストの裁定が下された瞬間は、「暴動が起こるかも……」と思われたPRIDE GP決勝戦だったが、集計結果を見ても分かるように、過半数のファンが目の前で起こっている事態をしっかり受け入れていたことは高く評価されるべきだ。総合格闘技というものが、広く正しく認知されてファンも成熟してきているという証拠である。一部からは野次も飛んだが、多くのファンは不完全決着に対する不満を呑み込んで納得して家路についた。あの熱い期待感をもう一度つくり出すのは至難の業だが、完全決着戦を望むファンの声にDSEはどのように応えていくのか、注目したいところ。ただし、15分間という異例の協議時間に対しては不満の声が噴出している。GPトーナメントのルール整備なども含めて、来年のPRIDEミドル級GPに向けての課題となった。

1★優勝者を決めてほしかったが、事故だから仕方ない	51.6%	1088票
2★あれでいいと思う。不満はない	32.2%	679票
3★リザーバーのウォーターマンとノゲイラが闘うべきだ	8.7%	184票
4★ノゲイラの優勝にすべき	7.1%	150票
5★両方優勝にするべき	0.4%	8票
有効投票数＞＞＞		2109票

Q5 その他、今大会の感想をどうぞ！

「決勝前の15分はいらないだろ！　あとは文句ない」

「（協議で）15分も待たせた後に島田に説明させるのは危険ッッ！　暴動になるかもと思った」

「世界最強が決まらなかったのは残念だけど、楽しみが増えて良かった」

「最後の裁定は仕方ないとして、それにいたるまでの心ない客の野次が鼻につきました。見る側なら何を言ってもよいわけではない。馬鹿な客が増えてますね」

「今後の展開に詰まると言われる豪華なマッチメイクの大会から、また新たな展開を自然に作れるPRIDEには敬服する」

「一言でいえば『バッドラック』な大会。小川惨敗、決勝のアクシデントなど不可抗力の面もあるが、とにかく後味がよくなかった。ミルコの復調だけが救いだった」

「冷夏のPRIDE！　しかし、10月は大爆発を期待しています」

「なんなんだこのもやもや感！　こんなのを全部ひっくるめてPRIDEなんだなぁ。もうこれは真日本プロレスだ」

「なんなんだ！　あれは！　金返せ！　その場で縫ってでもしろ！　生きるか死ぬかの試合じゃないのか？」

「日本人最強は藤田か？」

「オープニングのVTRがムチャクチャ良かったです！　あれだけでも泣きそうになりました！」

「残念。会場のファンにまで、ルールだからと納得させる姿勢に疑問が残る。何らかのフォローが必要では？」

「アクシデントの場合のルールを改正すべき！」

「最高につまらなかった。G1の勝ち」

Q6

小川直也に今後望むこと、メッセージをお願いします。

負けちゃったけどカッコ良かった。そんなキャプテンに惚れました。

もしまた出るならノゲイラか、ヒーリングあたりの中堅とやってほしい。

GPの出場を決めただけでも素晴らしいこと。今後はハッスルもいいけど、PRIDEでは吉田やノゲイラと闘ってほしい。

負けてもハッスルしたのは凄いことだと思う。屈辱以外の何ものでもないから！　もっと出稽古等を重ねて強くなって下さい。

泣けた

必ず復活すると信じています

強くあれ！

マイクを持った時のあの悔しさ、恥ずかしさがあれば大丈夫です。年齢的に厳しいかもしれませんが、総合にもまだまだ挑戦してほしいです。そして強くて恐くて楽しいプロレスをつくってください。

う〜ん……。どうしたら良いかなんて、まったく思いつかない。でも、高田もサクも、田村も、ミルコも、皆、地獄をみて、それでも立ち上がってきた……だから、同情はしません、期待します。

小川の真っ赤な目を俺は忘れない！

プロレスのためというスタンスであれば何があっても応援します。

正直、ガッカリ感が強いが、ここから這い上がる必死の小川直也を見てみたい

あなたに何が足りないの？　私たち日本人には何が足りないのか？　あいつらには無いものが必ずあるはずです！　柔よく剛を制す！　ドンと行け小川！

寝技で負けちゃダメ！

ここ数ヶ月、小川選手のおかげでハッスル（興奮）することができました。有り難う御座いました。これからも、ハッスルさせてよ！

うなだれるのは似合わない。まだまだハッスルしてくれ！

小川がハッスルし続ける限り俺は小川についていきます。

もう一丁！

二度とPRIDEのリングをまたがないでほしい。

二兎を追う者は一兎も得ず。ハッスルかPRIDEか……それから運を掴めるか？　と、ビデオが流れたが運も実力のうちだと思う。

大会終了後のけやき広場の姿をみて小川選手のプロ根性に敬服しました。五輪後の会見の映像が頭にふとよぎり胸をうたれました。オーチャンまた夢をみさせてくれ。ハッスルハッスル！

小川さんのことが好きになりました。今度ハッスルを見に行こうか迷ってます。感動したよ。

最近は勝過ぎる

プロレスに専念してハッスルしてほしい。

まだまだハッスル査定試合を続けてほしい。

PRIDEには出なくていいと思います。

ハッスル度が足りない

カッコ悪かった、そしてカッコ良かった！小川直也、大好きッ！

借りは返してほしい

これで終わらせるつもり!?　まだまだPRIDEでハッスルしてもらわないと！

いままでで一番小川を応援した。涙のハッスルは切なかった。

ハッスル出来たのは最高だった。出来れば小川が勝って泣きながらハッスルしたかった。

はっきり言って私はヒョードルを応援してましたが、これからは小川選手にも頑張ってもらいたい。

秒殺されようが何だろうがやっぱ唯一無比の存在感でした。胸を張っていいと思う

もっとPRIDEのリングで経験を積んでほしい。

今までより負けた今の方が男らしさを感じます

年齢的に、もう出なくて良いんじゃないか？

唯一の日本人としてお疲れさまでした。世界との差は感じましたが超えられぬ差ではない。これからもどんどん挑戦し続けてほしい。次の世代のためにも道を切り開いてほしい。小川、まだまだガンバレ！

勝ち負けは時の運。だが、負けたなら敗者としての「プロレス」を表現できるようになってください。

またPRIDEでハッスルしてくださいm(_ _)m待ってます(^-^)

※たくさんのご意見ありがとうございました。全部載せたかったのですが、スペースの都合上、一部を抜粋して掲載します。ペンネームも同じ理由で割愛させていただきました。ご了承下さい。

小川選手のハッスルポーズには正直、胸が熱くなった

『PRIDE』

統括本部長

まさかの“to be continued”――。
これは「神からのプレゼント」なのか!?

GP総括

PRIDE GP 2004 REVIEW

聞き手／山口日昇
構成／ジャン斉藤
撮影／森モーリー鷹博
試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three

高田延彦統

―グランプリ（以下GP）が終わりました。ズバリ言って、本部長の中ではスッキリしない感じですか？　それとも、一つの区切りはついたという感じですか？

高田　まあ、最後の結末があいう形だからね。誰が見たって、あそこで区切りがついた終わり方じゃないし、実際に完結してない。しかも、近年における最大級のイベントのなか、『PRIDE・GP』で一番になった者が〝人類最強〟だと、みんなが疑いもなく認める状況になりつつあるなかでの出来事だった。その最終の試合がああいう形になったということは、ある意味で、私が思うには、神がくれたプレゼントだと思うんだよね。

―〝神がくれたプレゼント〟!!

高田　これを機に、よりよい方向へ持っていきたいよね。あの結果を受けて、大会が終わったあとの観客の捌け方を見ると、やっぱりファン側も成熟しているよ。ファイターも潔くあそこで引いたしね。あの日に『PRIDE』というイベントが、ファンと共に2ステップ、3ステップ、段階がアップしたと考えていいんじゃないのかな。

―ファンの反応を見ていると、単にイベントが消化不良だとか、そういう感じだけでもないんですよね。ドラマでいえば、あれだけのシチュエーションの壮大な物語が、まだまだ〝to be continued〟であるという〝圧倒的な現実〟に驚いているというか。

高田　現実のかたちとしての出来事は、あの日はあの日で終わったんだよ。だけど、いま言った〝to be continued〟。物語の続きがああいう形で始まるとは、ホントに誰も予測がつかなかった。結末として考えても、誰一人としてこういう結末は考えてなかっただろうね。

あの結末は、ある意味で“神がくれたプレゼント”だと思う

GP総括

高田延彦統括本部長

―もし『PRIDE』にシナリオライターがいたとしたら、その人はもの凄い才能ですよ（笑）。

高田　そういう意味では面白い結末だよ。やっぱり選手、イベンター、ファン。そのみんなの力と思いが、『PRIDE』に更なる追い風を吹かせてる。あの結果が最良だとはもちろん思わないけども、そういう面も感じたね。

―ひと昔前なら大暴動になりかねないエンディングだったけど、DSEにも思ったより抗議の声はなかったみたいですね。むしろ「あそこでよく止めてくれた」という声のほうが目立つそうなんですよ。それは本部長的にはどうしてだと思いますか？

高田　『PRIDE』というイベントに信頼感がついてきたというのは大きいよ。その裏には、ファン側のイベントやリング上の闘いを観るスタンス、姿勢、思いが非常に成熟してきたということがある。だけど当然、まったく曇がない晴れ晴れとした気持ちでみんなが引き上げてるわけではないんだよ。闘ってる二人も、あるいはイベンターやファンも、誰だってあそこで試合を止めたくはない。でも「これはしょうがないな……」と自分で納得させて、皆が同じレベルで次へシフトチェンジできてる。そこまで成熟してきてる証だよ。もっと細かく言ったら、あの結末の後にグジュグジュ言ってる関係者やファンがいたとしても、その周囲に説明する人間が大勢いるということだよね。至るところで「違うんだ。こうなんだよ」と説明できる人間が。

ただ、ルールの第7条の【ノーコンテスト】の項目には「1ラウンド中に偶発性の事故により、一方もしくは双方の選手が試合を続行できなくなった場合、その試合はノーコンテストとなる」と明記されてますね。2ラウンドに突入して事故ってしまったら、そこまでのジャッジで判定を付ける。それも明記してある。でも、その割に協議の時間が長かったという声は多いようですね。

高田　うん。答えは出てるのに、なぜあそこで15分以上？　しかも半ば「続行するんじゃないか？」という期待感を持たせてしまうほど時間がかかってしまったのか。協議の時間を10とすると、最初の2～3の段階で何回もヒョードルの傷口がアップになってる。もうあの時点でファンも「これはやらせられないよ」ってわかったと思うんだ。にも関わらず、段取りの悪さというか、運営本部の動きの鈍さというものには私も焦れったさを感じたよ。ドクターが診て、それで即終了というわけにはいかないにしても、迅速に協議して、ファンに判断とメッセージを明確に伝えれば、あのざわつき感はもっと少なかったと思う。

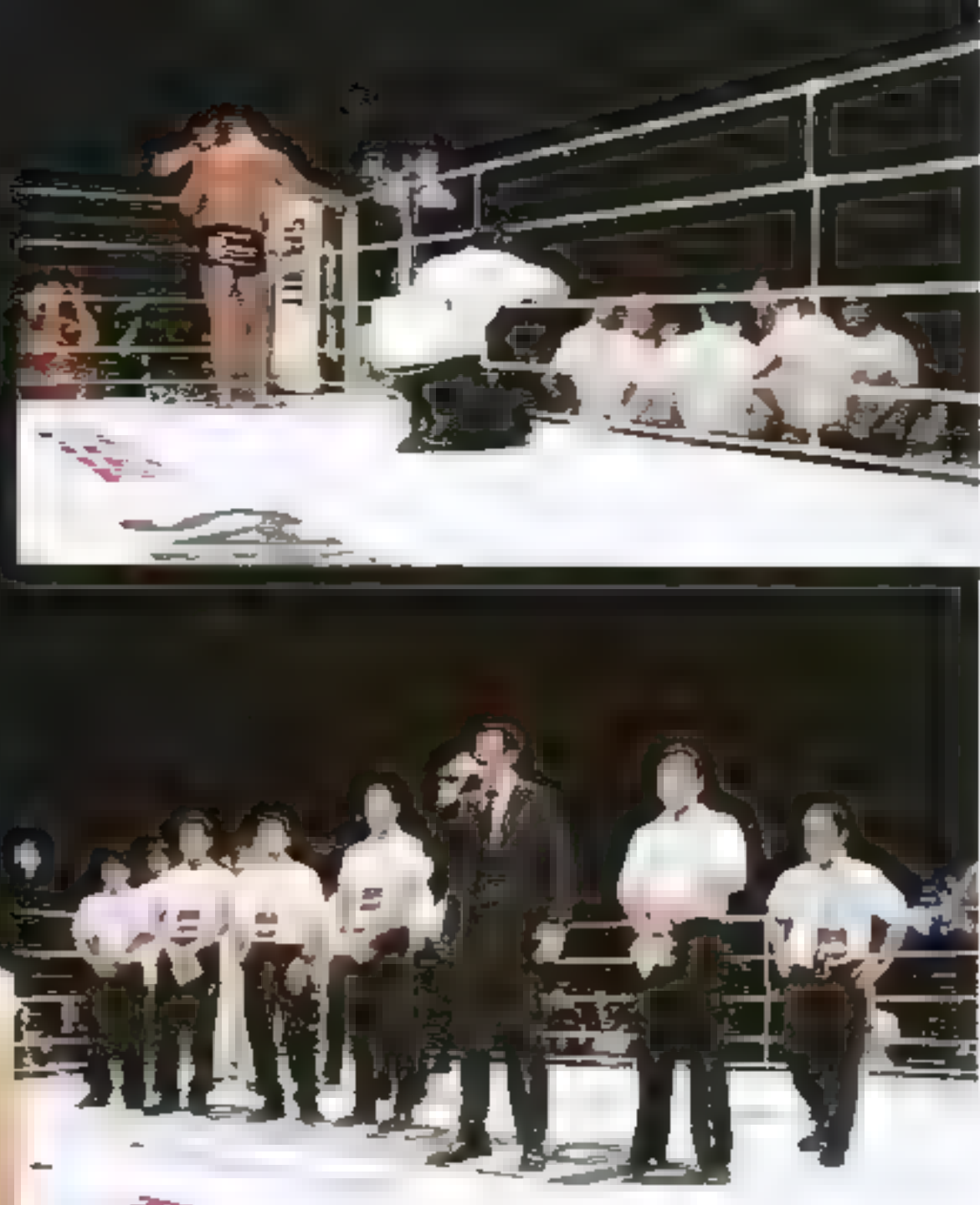
―イベントサイドも選手サイドも、それからファンも、決勝戦であるが故に、〝1ミリでもやれるチャンスがあるなら続けさせたい〟っていう気持ちは強かっただろうから、客席に微妙なざわつき感が広がったんでしょうね。

高田　それはみんなが思ってることだろう。でもあそこでドクターのジャッジは覆せない。

―時代性と言っていいのか、バッティングの瞬間やヒョードルの傷口がビジョンにハッキリと何度も映し出されてる。見えやすいビジョンがなかったら、ノゲイラの下からの蹴りによって切れたんじゃないかってファンは思ってたかもしれない。でも、あそこまで見事に映し出されちゃうと納得できなくても納得しちゃいますよね。ひと昔前なら、〝金返せ！〟コールから大暴

動への黄金コースですよ。

高田　納得せざるをえない。だって4万7千人のみんなにすべてがよく見えるんだから。それと、メイン前のミルコとヴァンダレイの素晴らしい闘いがいい空気感を残してくれたよ。ファンも抜いた刀を鞘に納めやすいというか、自分の心も納めやすいという状況を作ってくれたんだよ。ファンも選手と一緒に闘っているからね。鬱憤が溜まってる状態でメインがあの結果になったら、あれじゃ済まないだろうね。

――期待を一身に背負った小川選手が、ああいう負け方をしたあとの〝祭りのあと〟感といい、メインのあとといい、逆説的な意味じゃなく「これが『PRIDE』だな」って改めて思いましたね。4月、6月の『PRIDE』が、プロレスですら作れない空気感を創り出してたじゃないですか。でも決勝は、そのレベルやスケール感、それから残酷さや微妙な空気感をも含めて、これが本来の『PRIDE』の底深さであり神秘性なんだなぁと思いましたよ。現実の厳しさっていう言葉すら霞んでしまう底知れぬ場力（ばぢから）がありますよ。

高田　現実の厳しさっていうものはどこにでも転がってるんだけど、世界最高峰の人間が自分の全てを投げ出して、やっとあそこに辿り着いた。しかもそこで、何があってもおかしくないルールのなかで、ものの見事に白か黒かハッキリさせられる。残酷に負けるファイターもいる。4万7千人の期待を一身に背負った人間ですらそういう目に遭う。あのレベルで見せられる強烈なリアリティーっていうのが、ファンにとって堪らないんだろう。

――〝圧倒的な現実〟に対してファンも負けないように、そのあとの試合を見ようとする。これはホント、最近の『PRIDE』にしかあり得ない空気感だなって思いますよ。

高田　ファンがみんな前のめりでしょ。もちろん関係者もね。

――それこそ、これまでもサクちゃんが負ける瞬間や、いろんな期待をまとって出てきたファイターが負けることで、ファンも慣れてきてるっていう部分もあるかもしれないですね。

高田　慣れてるっていうか、鍛えられてきたのかもしれない。

――ボクも『PRIDE』には相当鍛えられましたからね。高田延彦という人がいるんですけど、その人がヒクソン・グレイシーと闘ったのがそもそも『PRIDE』の始まりですから、鍛えられまくりですよ！

高田　高田延彦は私ですよ。高田本部長、高田延彦、高田総統の3人ではない（笑）。

――あ、高田延彦と本部長は一緒でしたね（笑）。

高田　そういうこと。
最近、混乱気味なもんで（笑）。

高田　まぁ、いろんな場面に出会って、いろんな現実を目の前に叩きつけられてきて、鍛え上げられて成熟してきた。それがいまの『PRIDE』を支えてるファンだよ。私は常に思ってるんだけど、その鍛え上げられたファンとの競争に負けないように努力するのがトップ選手であり、イベンターだよね。リングの中でいい結果や激しい内容を見せようとする選手の努力、ファンに翻弄されず常に半歩前に行って、よりいいものを見せようとするイベンターの努力。その切磋琢磨がなければいい空気感は生まれない。

――でも、このスケールで、明るく楽しく激しく、なおかつ重いイベントがこれまで30回以上も続いてきて、当然これからも続いて行くっていうのが凄いですよね。言ってみれば、あり得ない世界ですよ（笑）。

高田　今年の大阪大会（『PRIDE.27』）は別として、連続して熱を維持させていく機運が出たのは、去年（3月）のヒョードルvsノゲイラ戦からだよ。

――そうですね。やっぱり『PRIDE』が新体制になってからでしょうね。

高田　あそこから、すべてを含めて、それまでとはあきらかに違った空気感に生まれ変わったよ。
さっき本部長が言ったように、4万7千人の期待、いや日本中の期待を背負ったと言ってもいいファイターが白黒キッチリつけられちゃう世界。なおかつ、決勝で白黒つかないっていうのは……偶然にしても、程がありすぎますよ（笑）。

高田　『PRIDE』にいる〝闘いの神〟がくれたポジティブな問題提起だね。
ところで単刀直入に聞きますけど、本部長的にMVPは誰ですか？

高田　んー……、今回は何をしてMVPにするかという基準がばらけるんだよね。それぞれの選手が、違ったエネルギーを持って出てきたから。当然、小川選手もMVPに入れたいし、ヒョードルもヴァンダレイも入れたい。1人しかダメなの？

――何人でもいいで……でも絞った方が面白いので、やっぱり1人がいいなぁ（笑）。

高田　今大会でいうならば……ヒョードルかヴァンダレイだな。

――ノゲイラは入ってないですか？

高田　私の中ではね。

――それは何でまた？

高田　何人も選んでいいのなら、もちろん入れるよ。ただ、私がいつも考えるのは〝見

小川完敗の衝撃!!
ハッスルとは出直しの連続なり!!

バッティングのアクシデントにより、パックリと割れたヒョードルの額！ビジョンにそれが映し出されると観客からはドヨメキが。試合続行か否かの審議はドクター、レフェリー陣、それぞれのチームのセコンド、榊原代表ら関係者総動員で行われた　本部長はノーコンテスト裁定に関して「選手生命だけじゃなく、ヒョードル選手の生命を最優先に考えた上でのジャッジです」とマイクで訴えた

Nobuhiko Takada

えやすさ”。いかに手前から奥まで見えやすい強さや、『PRIDE』らしさを発揮するかということなんだよね。今回のノゲイラの頑張りっていうのは、ある距離までいくと見えにくくなってくる。端から端までは伝わらない。

――ミリ単位というか、玄人好みの進化ですからね。

高田 そう。たとえば、去年の11月9日の大会からMVPを選ぶなら、間違いなくノゲイラだよ。極論を言えば、今大会のノゲイラは、わかる人にはわかる緻密な強さを見せてくれたんだ。それは素晴らしいんだけど、私の選択基準は遠心力で勝負できたファイターがMVPに値すると思ってると考えてるんだ。だから今大会はヒョードルかヴァンダレイの2人になるね。倒した相手が強い日本人だったことで、さらにわかりやすく伝わったね。

――でも、プロフェッショナルなイベントのなかでは、そのMVPの定義は実にわかりやすいですね。

高田 やっぱり今回、4万7千人以上の人間が乗っかったのは小川選手だから、その小川選手を誰が見てもわかりやすい形で倒したのはヒョードル。そうするとヒョードルがMVPなのかなって思うよ。

――ヒョードルは一歩抜けた強さを見せられますね。

高田 俺も人に言われたよ。「髙田さん、解説で“強いわ”しか言ってないですよ」と。だって、それしか言いようがないんだから（笑）。私たちが「バックを取られたあとの切り返しが速い」とか「パンチがどうの」とかいうレベルを遥かに越えちゃってるからね。いま言ったように、彼は遠心力のある強さだから。目で見て“強い”と納得してしまう。させられてしまう。言葉

小川選手は、言葉を選ばすに言えば、いとも簡単に負けてしまったわけだ。そのあとにハッスルをやるのは勇気がいるよ

GP総括

髙田延彦統括本部長

なんていらないんだよ。

――しかしあの男は、いったいどういう神経をしてるんですかね（笑）。

高田 だから彼の神経……例えば指先から脳へどういう伝達組織になってるのか？ あるいはハートのメカニズム、脳のメカニズム、筋肉の組織のメカニズム。まったくわからないし知りたいよね。

――そのヒョードル打倒のために、“俺はこれ以上強くなれない”と思うぐらいまで練習して自分をつくり上げてきたノゲイラ。決勝戦でもパウンド対策は万全でしたよね。パウンドをもらったのは1～2発ですよ。去年の3月にやったときと闘いのフォルムは似てるかもしれないけど、全然違う。そういう意味では、人間がここまで追い込めば、例え一度完封された相手、なおかつ穴のないヒョードル相手でも、きっちり対抗できるんだということをノゲイラは見せてくれましたね。

高田 うん、見せてくれたね。それはハリトーノフとの15分間でもわかった。あのハリトーノフにほとんど何もさせなかった。やっと最後の2分でいいところを見せたぐらい。ノゲイラがほとんど試合を回したしね。判定決着の中では完勝レベルだったね。「ヒョードルに勝ったら死んでもいい」という自分作りにノゲイラの生き様が込められてるよ。

――ヒョードルとノゲイラは、本部長的には今年中に再戦させたいですか？

高田 できることなら今年の最後か、来年の一発目がベストだと思うよ。来春はミドル級のGPの日程も入ってくるし。やっぱりファイターやチームの思いが熱いうちに、そして今回の件が新鮮なうちに、あまり日が経たない状態でやった方がいいと思う。だけど原因がケガだからね。心身共にベストでやらせることがベストだからね。あと、これだけ大きな試合に向かって自分をつくり上げた2人が、一回スイッチを切って、またそれを遥かに高いレベルにモチベーションを持っていって闘うということが、どれだけ困難な作業なのかと思うね。

――たしかにイベンターも選手も、ここまでのモチベーションとシチュエーションをつくり上げるのは容易ではないでしょうから、個人的には2年後ぐらいに再戦でもいいと思いますけどね、極論すると（笑）。

高田 極論とは書いて字のごとくだね！

――トーナメント以外でも、さっき本部長が言ったヴァンダレイも圧倒的な強さを見せましたね。

高田 強いね～……。

――これも「強いわ」っていう言葉しか出てこない（笑）。

高田 彼も正真正銘、ミスターPRIDEよ。彼が花道に現れると、もちろん試合の中身でも、それまでとはまったく違った観客の反応がある。観てる側に『ああ、『PRIDE』に来たんだ」って思わせてくれる独特の空気感を作り出してくれるよね。

――ヒョードルにしても、ヴァンダレイにしても、その強さに関しては自己申告じゃなく、誰もが認める強さですからね。それが本部長の言う遠心力なんだろうけど。

高田 そう。ヒョードルとヴァンダレイの強さっていうのは、凄くわかりやすい。

――ミルコも、見事な復活劇でした。

高田 見事だった。ミルコの強さも見れたけど、一つ得したのはアレキサンダーの将来性も見えたことだよ。

――アレキサンダーは、これまでと全然違いましたね。

高田 これは面白くなりそうだなっていう片鱗を見せてくれた。一方的な試合に見

いままで過酷な現実が容赦なく叩き付けられてきた『PRIDE』のリング。今回の小川敗戦もショッキングだったが、同時にその素晴らしき人間力は非常にドラマチックなシーンを浮かび上がらせた。

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは出直しの連続なり!!

Nobuhiko Takada

えるけど、一方的でもない。ミルコが苦しい場面もあったし、アレキサンダーのいいところも見えた。そのなかでミルコはミルコらしく勝ってくれたね。

——そう考えると、ファイターが光る光らないということは、もちろん強さもありますけど、ホントに相手にもよりますね。

高田　要するに試合っていうものは〝作品〟だから。とくにこれから化ける可能性を秘めたファイターにとって、その作品がどうなるかっていうのは相手次第だよ。相手が、誰もがわかりやすい相手でなければ強さの測りにならない。〝この人、強いんだけどどれだけ強いの？〟っていうね。

——それにしても、4月、6月、8月とアッという間でしたね。

高田　そうだね。早かったね。

——早かったなぁ。やっぱりオーちゃんの功績は大きいですよ。小川選手に対しては、いまはどんな気持ちですか？

高田　まずは、ホントにお疲れさまでした。ここまでヘビー級GPの遠心力・求心力を創り上げたのは、強いヒョードル、ミルコ、ノゲイラを向こうに回して、日本人で乗っかれる選手が出てきたということが大きい。いまそこに乗っかれる選手ってヘビー級ではいないんだから。3トップを倒せるかもしれないという信頼感のあるファイターは彼しかいなかった。彼は『ハッスル』をプロモーションするために出てきたけど、ファンにとっては出てきてくれただけで理由はどうでもいいんだよ。ミドル級GPのときにヴァンダレイとランペイジを向こうに回して、その展開をみんなが楽しめる空間を創り出せたのは、桜庭、吉田、田村という、そこに乗っかれる要素を持った日本人の存在があったから。そういう意味でトータルでも『PRIDE・GP』のMVPをあげるのならば小川選手だろうね。小川選手が試合を終えて負けたけどもハッスルして、もの凄い追い風の拍手をもらったのもうなずける。全試合終了後にもイベントに出ていったんでしょ？

——そこでも、あのオーちゃんが一瞬言葉に詰まるくらいの声援を受けてましたね。

高田　彼の中にファンに対する感謝の思いが極めて高く熱く盛り上がってきたというか、感じ取れたんだと思うんだ。今回の負け方とか彼の生き様とかを見てると、もしかしたら……これは私の主観だけど、勝負師として、『PRIDE』に対する思いに火がついたのかなっていう気がするんだよ。更にプロフェッショナルな小川直也として考えた場合に、今回の『PRIDE』のファンにもらった熱い声援が、またこのリングに勝ちに帰ってくる、そういう思いに火をつけてくれたのかなとも思う。そうなればいいなっていう希望だけどね。

——本人は、最初の段階で記憶がないらしいから、実質的にはKO負けに近い。その今回の負け方というか、試合に関してはどうですか？

高田　小川選手は、世界のバリバリのトップバーリトゥーダーと初めて当たったわけだよね。肌を合わせて、〝ここまでいってんのか？〟っていうのが初めてわかったと思うんだよ。

——それはビンビンに感じてるでしょうね。

高田　それを感じたあとに、どういう作業に入っていくかは彼の人生だから、彼が決めることだ。でもそれだけでも小川選手にとっても大きなことだっただろうし、それをファンが目の当たりにできたこともファンへの大きなプレゼントだった。これがどういう形でどういう風に転がっていくのかはわからないけども、『PRIDE』にと

っても大きなことだったよ。『PRIDE』がやってきたことは間違いではなかった。この試合で、いろんな意味で、ひとつの答えが、個出たような気がするね。

――これぞ『PRIDE』という言い方もできますね。

高田 さっき言ったような圧倒的な現実、リアリティーを越えたリアリティーというのを現すには、この試合が象徴的なものだったよね、あとは日本人が挑んだ試合だからなのかもしれないけども、ヴァンダレイvs近藤有己戦。あの試合も『PRIDE』が『PRIDE』たる所以みたいなものが強烈に押し出された試合だったよね。

ある意味『PRIDE』というものが上位概念にくる理由を見せてくれた試合ですよね。近藤選手にしてもたとえどんな強豪であっても、『PRIDE』が持つ独特のグレード感、クォリティー、空気感。それをいきなりポンと掴むのは、非常に難しい世界になってきてますよね。

高田 それはあの雰囲気に呑み込まれちゃうっていうこと?

――『PRIDE』は、単なる総合格闘技のイベントでもないし、もちろんプロレスのイベントでもない。そういうなかでも、更にトップグループのいるゾーンの圧倒的な現実感というのは、裏返せばもはやファンタジーの域に達してると思うんですよ。

高田 『PRIDE』に出たことがある人もない人も、どんどん己の中で『PRIDE』がデカくなっているよね。大きく大きく巨大化してる。それが実像でも虚像でもいいんだけど、私はいいことだと思うんだ。舞台に対しての価値観を自分の中で高める。その要素っていうのは、やっぱりヒョードルの強さやヴァンダレイの強さだよね。巷では近藤選手への期待感が高かった。"ひょっとしたら、これはいけるぞ"と。にも関わらず、結果的にはヴァンダレイの圧勝だった。あの一つの"作品"を見て、いままで出たことがある人、これから出たい人、チームの人たちもファンの人たちも、さらに『PRIDE』に対するイメージが大きくなっていくんだろうね。

――"PRIDEファイター"に見えるかどうかは実に高い壁になってますよ。あのトップグループのゾーンに入ると、実力だけではない魔性の力が潜んでる。どんな強豪が出てきても、"PRIDEファイター"に見えるかどうかというと、初戦では見えにくくなってますよ。

高田 PRIDEファイターに見えるには相当時間がかかるよ。いい内容あるいは結果を出さないと。いまやヒョードルは完璧な"PRIDEファイター"だし、ヴァンダレイは「ここは俺の場所だ」って言うぐらいの存在になってる。いまは彼そのものが『PRIDE』だからね。

――自己申告と他者申告が高いレベルで合致してるんですよね。

高田 いずれにしても"PRIDEファイター"に見えるようになるには、相当な労力がいるね。いま考えても"PRIDEファイター"ってそんなにいないよ。

――ホント、ヘビー級の3トップとヴァンダレイとサクちゃんくらいしかパッと出てこないですよ。今大会のオーちゃんや近藤選手でさえ、"PRIDEファイター"には見えなかった。いや、実に"PRIDEファイター"への道のりは険しいですよ。

高田 厳しいね。

――で、オーちゃんの話に戻ると、高田総統が"ハッスル査定試合"として小川選手をGPに引っ張り出した真の目的は、ファンのエネルギーを感じてもらいたいって

Nobuhiko Takada

○中村和裕
(3R判定3-0)
ムリーロ・ブスタマンチ×

PRIDE・GP」オープニングマッチ 武士道・其の四「でノゲイラ弟に敗れた中村カスが、再度ブラジリアン・トップチームの壁に挑んだ。アテネ五輪のコメンテーターとして不在の吉田秀彦に代わって、セコンドには桜庭和志、長南亮の姿。中村は猪木アリ状態で上から果敢に攻撃を仕掛ける。飛び込んでのパンチを幾度なくヒットさせ、重鎮ブスタマンチから判定勝利をもぎ取った。

○ロン・ウォーターマン
(1R7分44秒アームロック)
ケビン・ランデルマン×

PRIDE・GP」リザーブマッチ。開幕戦のリザーバーだったウォーターマンの巨体を、持ち前の怪力を活かしてテイクダウンに成功したランデルマンだったが、バックを奪ったところで体勢を返されて、万力アームロックで捻りあげられ万事休す。しかし、ミルコを下し、ヒョードルを追いつめたグランプリ影のMVPとして、その健闘は大いに称えたい YOU! YOU! YOU! お前はよくやった!

GP総括
髙田延彦統括本部長

いう狙いがあったのかなっていう想像も成り立つんですよ。恐らく小川選手がファンのために闘ったのは、今回が初めてといってもいいと思うんですよね。

高田　そうだね。だから今後のファンの後押しっていうのは非常に大事になってくるよ。これから小川選手がどういうチョイスをするのか、あるときは右へ行ったり、あるときは左へ行ったりという調整をしながら歩んでいく上で、ファンの声は重要になってくると思う。これだけファンのもの凄い熱を受け取って、これからどんな小川直也を見せていってくれるのか。楽しみだね。

――ファンの熱を感じたからこそ、全試合終了後、負けた恥ずかしさや複雑な思いが絡まるなかで、会場外のけやき広場でハッスルをやったんでしょうからね。

高田　彼がリング上で「ハッスルハッスル」をやったときは、正直、胸が熱くなった。なかなかできないよ。

いまのミルコの生き方を見れば、K-1に出ないことは誰もがわかるはずだろう

谷川プロデューサーからの一方的なK-1参戦オファーに対して、その可能性を全面否定するコメントを翌日にリリースしたミルコ。実質24時間も持たずにこの騒動は幕を閉じた。

――それは自分の道程と重ね合わせる部分もあったんですか？

高田　そんなおこがましいことは言わない（笑）。単純にリングを下から見ているものとして、ずっと『PRIDE』を見てきた者として、ましてやあのリングに上がったこともある者としてね。とてつもなくデカいものを背負って出てきて、言葉を選ばずに言えば、いとも簡単に負けてしまったわけだ。そのあとにあれをやるっていうのは勇気がいるよ。いい触覚を持ってるよ。

あれで柔道時代のようにふてくされて帰ってたら、プロとしての期待感はなくなってしまいますよ。

高田　あれをやられちゃったから、またファンも俺らも乗っちゃったね。

――結果は出なかったけども、プロフェッショナルとしても、今回のGPに乗って一皮剥けたんじゃないですかね。

高田　だから、その場とかポジションが人を育てるんだよ。彼はまだまだ成長してるんだよ。『ハッスル』でも『PRIDE』でも成長してるからね。

――ボクは『ハッスル』の方で、髙田総統が小川選手にどんなことを言うのかが、いまから楽しみなんですよ。

髙田　あのお方の言うことはなんとなく予想つくけどね。

――ガハハハハ！　予想がつきますか!!

髙田　厳しいこと言うんじゃない？　冷徹だからね（微笑）。

――ところで本部長、『週刊G』という雑誌があるんですけど、表紙に「G1がGPを食った」っていう仰天コピーが踊ってるんですよ（笑）。『PRIDE』と同日のG1決勝も盛り上がったらしくて。

高田　へぇ。盛り上がったのはよかった。ガシャーン（突然グラスを倒す）……急に話の次元を変えるから、動揺して倒しちゃった（笑）。

――「G1がGPを食った」という根拠は実に希薄なんですけどね。もう一つの専門週刊誌は、G1の優勝者・天山のパレードを表紙にして「ハッピーエンド」というコピーをつけてるんですね。純プロレスサイドはいまだ『PRIDE』を変に意識にしてますね。

高田　……いいんじゃないの？　別に語ることじゃないでしょ？　〝やばいなぁ〟っていうようなピリピリとした危機感を持つような素材題材でもないし。新聞で読んだけど、『PRIDE』を意識して揶揄したかのような（G1の）ポスターを作ったんだって？

「自尊心だけでは勝ち残れない。両国がどこよりも一番熱い」というコピーの広告でしたね。しかも「自尊心」に「プライド」というルビをわざわざ振ってありましたね。新日本やプロレス週刊誌が『PRIDE』を〝標的〟にすること関しては、なにか周回遅れのような気がするんですよね。

時代と噛み合ってないというか。

高田　言ってることとか、やってるアクションの意味がわからない。何を持ってそんなに敵対心を剥き出しにしているのか。時代がとうに通り過ぎてるから。でも、ちょっと前の自分であれば、少しはカチンときてたかもね。「何言ってんだ！」と。私がそう思うということは、私からしてみれば脈アリだよ。でも、いまは何も感じないな。触られた感じもしないんだよ。そのポスターに関しても、コチラに触ろうとしてるんだろうけど、接触感が何にもないんだよ。

――『ハッスル』に噛みついてくるなら、面白くなりそうですけどね。

高田　そうだよ。でも、いいよ。言いたいことを言えば。それでもファンがついていくのであればいいんじゃない。

――それから、K―1が「ミルコに出てほしい」と言ってましたけど、このへんはどうなんですか？

高田　正式にミルコはコメント出したでしょ。「『PRIDE』のベルトが、いまの唯一最大の目標だ」とね。でも、ミルコにK―1参戦のオファーをするということは、いかに自分たちが大変な状況かを宣伝しているようなもんだからね。なぜならいまのミルコの生き方を見てれば、無理だっていうのは誰でもわかるだろう。率直に言うと、「ミルコ、行っちゃうのかなぁ……？」っていうのが全くないんだよね。いまのミルコのモチベーションは何かっていったら、わかるだろう。ひと山いくらの選手の生き方じゃないんだから。いま私たちは強烈にミルコの生き様をみせつけられてるよね。だからこそ、ミルコが仮にもし向こうに行くんであれば、"それはミルコの生き方だし、行くなら行くでいいんじゃないかな"っていう落とし所があるんだよね。だってミルコだから。その程度だね。自分たちのことなんだけども、まったく脅威感っていうものは感じない。触ってきたのに、触れられた感じがないんだよ。

――骨組みをしっかり組み直して、K―1はK―1でかつてのように盛り上がってほしいですけどね。

高田　もちろん。"立ち技最強"としてね。

――でもいま、『PRIDE』が標的にされやすいポジションにいることはたしかですね。

高田　客観的に見て、抜け過ぎちゃってるから、あまり周りが触れようとしても触れられないっていう気がするね。

――逆に『PRIDE』がこれから気をつけなきゃいけないこと、引き締めていかなければならない部分はなんでしょう？

高田　この前のような、ミスとまでは言わないけど隙を見せない。協議でファンを待たせるとか、その日のイベントをブレさせる要因を排除していく。全て前準備があれば、円滑にできることでしょ。何が起きてもファンにブレを見せないと。試合と事務的なものは違うから。事務的なブレを見せることはマイナスだよ。出来が悪いとか不手際とか言われるのが一番よくない。その辺を裏方がもう少ししっかりとブレが出ないように固めていくということだろうね。あとはリングの中に新しい風を導入していくこと。

――新しい風？　本部長が現役復帰することですか？（笑）。

高田　……あるわけがないだろ！　ホントはスーツであのリングに上がるのも嫌なんだよ。

――今大会も出番が多かったですからね。

高田　ホントにね、もっと地味にやらせてよというのが本心ですよ。

――あの客席からの熱風が癖にはなってない？（笑）。

高田　ならないよ。『PRIDE』の会場に入ると、みんなが感じる緊張感と同じだから。

――ああ。ボクもCSの事前番組に出てるとき、本部長がコメントする場面がモニターに映ったんです。選手と同じぐらいのピリピリした緊張感が伝わってきました。

高田　でしょう？

――そう考えると"どえりゃ～"イベントですよ、『PRIDE』は。

高田　次からももっともっといいものを提供できるように、素直に頑張るよ。

【04年8月18日／都内某ホテルにて収録】

Nobuhiko Takada

髙田総統は小川選手に厳しいことを言うんじゃないの？（微笑）

CONTENTS

紙のプロレスRADICAL

2004 NO.78

PRIDE GP

小川完敗の衝撃!!

ハッスルとは“出直しの連続なり”!!

PRIDE GP Special

Radical Special

HUSTLE

Another

※特別進行なのでコラム、PG談（仮）はお休みなのた

それにしても山本さん、今回の『PRIDE・GP』について「ターザンカフェ」を筆頭にモノ凄い量の原稿を書いてましたよね!

ターザン それは、どういうことかというと、まったく当たり前の結果にならなかったでしょ 当たり前の結果にならなかった時、俺のプロレス頭は大爆発するんですよォォ!

——たしかに爆発してましたね（笑）。

ターザン いわゆる予定調和としての優勝セレモニーとかがあったら、ボクはそのことを書くしかないけど、ああいうことがあったら、なぜそうなったかということを書かなきゃいけないんだよね。それが"活字格闘技"の見せ場でもあり、醍醐味みたいなもんだから「ターザンカフェ」を何人が見てるか知らないけど、ボクは、ああいう状況になって迷ってる人たちっていうか、困ってる人たちに、実はこういう見方もあるんじゃないの？ こういう考え方もあるんじゃないの？ ということをレクチャーするというか、ヒントを与えてるんだよね。つまり、ボクなりのボランティア精神の爆発なんですよォォォ!

——ボランティア精神の爆発!（笑）。

ターザン だから、もし「ターザンカフェ」じゃなしに専門誌とかそういう媒体があれば、大々的にというか全面的にあの出来事を解明出来たんだけどね

——ボランティアでやる必要はないですからね（笑） ちなみに、山本さんが、この間のGPを表紙にするとしたら、どんな感じになるんですか？ G1ネタでもいいんですけど。

ターザン G1？ そんなもん、表紙は小川に決まってますよォォ!

——その週の『週プロ』、『ゴング』を見ると、どちらも天山優勝が表紙に……

ターザン （遮って）もうG1云々よりも小川に決まってますよ! 小川がダントツでMVPですよォォォ! 今回のGPトーナメントを1人で盛り上げたのは小川ですよ 要するに小川直也がいたから、GPというか、『PRIDE』というか、ああいう格闘技のトーナメントの付加価値が倍々ゲーム的になったんですよ 小川が参加していなかったら、ここまでGPトーナメントは盛り上がらなかったという意味では、ヒョードルに負けたことなんて、どうでもいい問題だよ。

——どうでもいい問題でしたか（笑）

ターザン そんなことよりも、彼があのさいたまスーパーアリーナで生み出した、ああいうまれに見る会場の熱気というか、いまのプロレス・格闘技にはない興奮を作り上げたのは、これは小川にしか出来ないことですよォォ!

ターザンも連載中の「ゴング」（NO・1035）の表紙かこれ。天山と小川の写真で「プロレス圧勝! G1がGPを食った!!」という実にGKらしいコピーである。しかし、ターザンが言うには「GPもプロレスなんですよォォ」

これが PRIDE・GP 決勝戦&G1決勝戦があった週の「週プロ」（NO・1220）の表紙だ。パレード中の天山の写真に「ハッピーエンド みんなが幸せな気持ちになった天山広吉、G1二連覇!」とのコピーが付けられている

G1がGPを食ったとか言ってるGKの発言は マヌケもいいとこだよォォォ!

——8・15は、ズバリ言って小川直也の1人勝ちだった、と。

ターザン 1人勝ちというか、小川自身、勝った負けたっていうのは、そんなに思ってないのに、本人の意思に反してドンドンすべてが膨張してきたんだよね。モノ凄い膨張力ですよ! ビッグバンしてパッ〜ンと一気にあの場がハレーションを起こしたんだよね それはもう小川直也がいなかったら絶対にあり得ないよ。……でもね、小川自身の生き方っていうのは、これまで、どちらかというと臆病だったんだよね。

——本人も「アイム・チキン」Tシャツを着てますしね（笑）

ターザン だから、あれはパロディーでもギャグでもあり、事実でもあるんだよね 小川選手っていうのは、気が小さいわけじゃないんだけども、ちょっと繊細なところがあって、それが、ず〜っとプロの世界に入ってからも否定的な形で続いて来たんだけど、でも持てる素質は巨大だったわけですよ。

——素質は巨大ですよね。

ターザン 持てる素質というか、能力というか、才能というか、持って生まれたものは凄かったんだけども、結局、なんらかのトラウマが心のどこかにあって、臆病になったんだよね それが、ハッスルという特効薬を飲んだことによって、身体の基盤というか心身の中身が全部変わったというかね それで臆病なところを取っ払ったんだよね

——ハッスルパワーで臆病な心を取っ払ったわけですね

ターザン 取っ払ったことで、今回のGPのようなリスクの高いものにも平気で出て行くというか、それを気にしない自分を作ったという意味で、小川自身は心の大変革を起こしたわけだよ そのことによって、一番得したのは誰かというと、なんと『PRIDE』なんですよォォ!

——集客だけみても、さいたまスーパーアリーナ史上最高でしたからね

ターザン あれは、格闘技の最強を決めるためとか、60億分の最強を決めるから入ったんじゃないんだよ。小川という触媒が入ったことによってパッ〜ンと『PRIDE』が生き返ったというか、もう最初っから最後まで全〜部、小川効果なんだよ! GPに出てきた勇気っていうか、決断というか決心をファンは評価してるわけですよ。

——最初から最後まで小川のための興行だったということですが、そのせいか、小川がヒョードルに負けた後は観客も気が抜けちゃったところはありましたよね

ターザン だから、あの小川の試合が今回のメインだったんですよォォ!

——随分、早いメインでしたね（笑）。

ターザン あそこで観客がシュンってなったということは、全部、小川にスポットというかライトを当てていたというか、観客は小川様々というか、小川をリスペクトして見ていたわけなんだよ。だから、ヒョードルとノゲイラの決勝戦より、小川がいなくなったことによって、スーッと会場の空気が抜けたわけですよ。

——見事に抜けちゃいましたからね。

ターザン 結局、どういうことかというとね、もし小川がいなかったら、今回のGPは格闘技一色の興行になってたんだよ いわゆる、100%、プロレスと対極にある格闘技の勝負論の闘いになってたんだよね その勝負論の闘いになったら、格闘技の濃度は高まるし、ホントに格闘技らしい勝つか負けるか、あるいはハイリスク・ハイリターンというかさ、そういういかにも格闘技らしい、プロレスとは一線を画した大会になってたんだよね それが、小川が参加することによって、今回のGPは100%、プロレスの大会になったんですよ!

―小川参戦によって格闘技興行にプロレスのエッセンスが注入されたと？

ターザン　もうね、注入どころか、完璧にあれはプロレス空間ですよ！　そういう意味では、今回のGPは小川が関わったことによってプロレスファンが全員チケットを買ってきたんですよ。だから、ボクから言わせると、小川は『PRIDE・GP』を丸ごと乗っ取ったんですよ！

――そ、それは気づきませんでした！

ターザン　たしかに乗っ取ったよ！　これは小川も気づいてないんだけど、小川がいることによって、プロレス的な気持ちとか心情とか目線で物事を見るように、格闘技の世界をプロレス空間でグーッと包み込んじゃって、プロレスファンが喜ぶような、プロレスファンが興奮するような、プロレスファンがエキサイトするような流れにしたから、あの大会は爆発したんですよ！　そういう意味では今回のGPというのはプロレスの勝利なんですよォ！　大勝利ですよォォォー

――『ゴング』や『週プロ』ではG1とGPを比べて……。

ターザン　（遮って）違う違う！　G1はあれはハッキリ言ったら、ず〜っと曖昧がついてきたプロレスなんだよね。もう100年も老舗で続いていてね、同じ作りで同じ味で同じ形をしていて、昔から延々と黙々とやってる、そういうお店なわけですよ。ところが、小川はプロレスと対極の格闘技、色になる大会をすべてプロレスでフワ〜ッと包み込んで、『PRIDE』をプロレスにチェンジさせるというか、転化するというか、ろ過してしまうというか、そういう作用を持って、『PRIDE・GP』さいたまスーパーアリーナをプロレス化させたんですよ！　だから、G1と『PRIDE・GP』の闘いっていうのは実はプロレスvsプロレスの闘いだったんですよォォォ！

――プロレスが勝ったとか、格闘技が勝ったとかいう話が出ること自体おかしいわけですね？

ターザン　そう。両方ともプロレスなんだけども、どちらがね、プロレスファンを幅広く、ド迫力で、ダイナミックで、心理的にエキサイトさせて、ヒートアップさせたかというと、もうケタ外れに、さいたまスーパーアリーナの方がプロレス的だったんですよ！　プロレス的なスケール感という意味では、ハッキリ言って、さいたまスーパーアリーナの圧勝ですよォォォ！（&なぜかVサイン）

――さいたまが両国に圧勝！（笑）。

ターザン　だから、プロレスが格闘技に勝った、G1が『PRIDE・GP』を食ったとか言っているGKの発言はマスケもいいところだよォォォ！

怒濤のペースで原稿をアップ中の「ターサンカフェ」http://www.ibjcafe.com/talk/tarzan/index.htm
ちなみに8・15GP翌日、ターザンのMVPはノゲイラでした。それもまたターザン

GK発言はマスケ！（笑）。

ターザン　GKは8・15をプロレスvsプロレスの闘いだと思ってないんですよ。それがボクから言わせたら、寒いというかね（笑）。寒いというか、ハッキリ言ったら情けないよね。みんな、GPはプロレスじゃないという。だって、あんだけの異常な盛り上がりと過剰性というのは、あの4人がいて、要するに準決勝では小川は誰と試合をするのか？　ノゲイラとやるのか？　ハリトーノフとやるのか？　ヒョードルとやるのか？　ということだけで、もう盛り上がったわけでしょ。

――そうですね。

ターザン　もうその時点で、試合をやる以前から爆発的に盛り上がったでしょ？　あの出来事そのものがプロレスなんですよォォォ！　プロレスファンでしか、ああいうことは考えられないもん。

――それはどうかと思いますけど（笑）。

ターザン　格闘技ファンだったら、そんなこと考える必要ないんですよ！　誰がやったっていいんですよ。カードが決まるまで待っときゃいいわけで、それを決まる前から、ああでもないこうでもないって、みんな興奮したんだから。それに対してワイワイガヤガヤ言った人、論じた人、口角泡を飛ばしてしゃべった人！

――それは山本ーさんですよ（笑）。でも、そういったプロレスファンのお陰で会場の熱も凄かったですからね。

ターザン　昔のプロレスっていうのは、開幕戦があって中盤戦があって、終盤戦があって、蔵前国技館とか両国国技館とか日本武道館とか、そういう最終戦があって、あるいはジャイアント馬場とアントニオ猪木がね、ベルトを賭けて誰とやるのか？　今度の敵は誰々だ！　とかやってたわけでしょ。それと同じ形の形態が格闘技のリングの中で、見事に今回再現されたわけですよ。もうハッキリ言って、これはプロレスの復興ですよォォ！

――知らない間にプロレスが復興してましたか!?（笑）。

ターザン　要するに、新しい時代の中で格闘技を含んだ形でのプロレスの復興ですよ！　だから、もうあの盛り上がり方は全部プロレスというもののエッセンスの再現ですよ！　で、それを誰がやったかと言ったら、小川がやったんですよー

またしても小川直也ですか!?

ターザン　2004年のプロレスをルネッサンスさせたというか、復興させた小川直也の巨大な勲章ですよォォォ！

――下半期が終わる前から、今年のプロレス大賞は小川直也で決定と？

ターザン　それはわからないけども、ボクに言わせたら、いままで続いていたプロレス団体のプロレスのリングでプロレスラーの人がプロレスを復活させるんじゃなしに、ああいった新しく場を変えて舞台を変えて、格闘技の四角いリングの中で、プロレス的な空気、世界、見所を盛り込んでいってプロレス化させるという、それこそがプロレスの復興なんですよ！　だから、あれが真の意味のプロレスの復興ですよォォォ！　真の意味のプロレスの復興をDSEがやったわけですよ！

――DSEが復興させたわけですか？

ターザン　そう、さいたまスーパーアリーナで！　真のプロレスの復興を小川がやったという意味では、DSEも一緒に勝利宣言しないといけないよ。それも大勝利宣言！　「プロレスの復興は俺たちがやった！」とDSEには言って欲しいね。あの日は、新たなるプロレスの復興を21世紀の最初に示した大会なんですよォォォ！　それに比べて、G1クライマックスは、いくらやっても、あれ以上でもあれ以下でもないんだよねぇ。

―現状維持が精一杯ですか？

ターザン　というか、あれ以上でもあれ以下でもない形の一つの限界が見えた形の沸点があるわけ。だから、今となって

はG1では時代のK点越えはできないんですよ！

——G1ではK点は越えられない？

ターザン　越えられませんよォ！　そういった意味では『PRIDE』の場合は時代のK点を越えられるんですよ！　あれだけチケットが爆発的に売れてプレミアになった。前の日からファンが並んだ、長い行列ができた、どうしても見たい、歴史の証人になりたいという人がウォーッと集まったということは昔のプロレスそのものだよ！　だから、そういった意味で言うと、俺たちは「プロレスは死んだ」とかなんとか言ってるけども、それはプロレスの空間ではなしに、格闘技の中に生き残っていく道があったということを最初に示した興行だったんだよね。それが一番凄いことですよ！

——なんだかわからなくなってきましたけど、とにかく凄そうですね（笑）。

ターザン　一方のG1はAブロック、Bブロックでなんだかんだあって、最後に決勝トーナメントをやって天山が優勝した。いわゆる、筋書き通りじゃないけども、あらかじめ組まれたレールの上で、つつがなく脱線しながら進んだわけ。ところが、『PRIDE』の方は線路の上をモノ凄いスピードで走ってるわけですよ。だから、あまりにも凄いスピードで走っていったので、ちょっとメインで車輪が脱線したというか、つまづいたわけですよ

　メインは見事につまづいちゃいましたからね（笑）

ターザン　でも、つまづいた地点は、もうG1よりも遥か時代の先にあるんだよね。モノ凄く遠くで脱線したので、そこでG1が追っかけようと思ったら長い時間がかかるわけですよ。とても先を行ってるから、勝負はその時点で決まってるわけ。8月15日を迎えた時点での位置が『PRIDE』の場合はG1より10キロとか20キロ遥か先にいるんだから（笑）。

　同一線上で比べるものじゃないと（笑）。ちなみに『週プロ』の表紙コピーは天山優勝で「ハッピーエンド」ということでしたけど。

ターザン　だから、結局、揚げ足を取ったというか、『PRIDE・GP』の方はノーコンテストになって、優勝者が出なかった。結末が不明瞭になったと。不透明になったというか、優勝者が出なかったというのは非常に落ち度というか。新日本のG1から見れば、そら見たことか!?　みたいな（笑）。

　それこそ、こっちはハッピーエンドだぞ、と（笑）。

ターザン　そういう感じがあるわけですよ、彼らの中に。でも、ボクから言わせると、何がハッピーだということですよ！　天山が優勝したことがハッピーだというのはね、どういうことかというと、一番わかりやすく言ったら、公務員が、朝9時から出勤して、定時の6時に帰って、その間、仕事に全くミスもないし、事故もない、ドラマもない、余計なこともしない、それが1週間続いて、しかも週休2日制という形のことをG1ではハッピーと呼んでるんだよ。真のハッピーじゃないんですよ、アレ！

　サラリーマン的ハッピーがG1なんですか（笑）。

ターザン　そうそう。ハッピーというか、日常がつつがなくて何もドラマが起きないというか、波風が立たないというか、そんな感じで普通に生きてることが人間にとって実は一番いいんだよね。

——山本！さんとは正反対ですね（笑）。

ターザン　そうそう。何もないということ、そういう状態がハッピーであるという見方があるんだよね。それが天山の優勝ですよ！　でも、ホントを言うならば、恋愛とかもそうだけど、日常とは違う時間とか空間とかの出会いとかがあることによって、人というのは情熱的になったり、喜びを感じたりするんだよね。そういうのがホントのハッピーって言うんだよ。で、結局、『PRIDE・GP』には、そういうドラマというか、非日常の世界をファンは求めて行ってるんですよ！

G1とGPの闘いっていうのは、実はプロレスvsプロレスの闘いだったんだよォォォ！

前号の浅草キッドの要求通り、小川が優勝出来なかったため、なぜかプロレス界を代表し日本刀で自ら足を切断するターザン山本！ 58歳。

　GPなんか三大会が連続ドラマのように続いていましたからね。

ターザン　G1クライマックスは誰が優勝するかわかんないけども、天山優勝によって非日常的トーナメントじゃなしに、結果的にどちらかというと、ある部分ではハメが外れなかったというか（笑）。

——ハメは外れてないですよね（笑）。

ターザン　ハメを外して日常を破壊するような、ジャンルそのものを破壊するとか、そういう行き過ぎたことにはならなかった。天山優勝はその象徴だよ、あれはプロレス内プロレスなんですよォォォ！

　昭和の全日本のことを、かつて村松友視さんはプロレス内プロレスと言いましたけど、いまはG1がプロレス内プロレスということですか？

ターザン　そう。G1の闘いはプロレス内プロレスの頂点みたいな形になってるわけ。だから、いまの新日本プロレスは昔でいう全日本プロレスですよ。で、DSEの方は、そういうものとは別のところで今回は非日常性の予感とか、非日常性の誘惑とか、あるいは非日常性の興奮とか、非日常性が持ってるヤバさとか、危険さとか、そういうものを、あらん限り駆使してファンに想像力を与えたんだよね。それを与えたことが極めてハッピーなんですよ。G1の方は結果として、それを与えてくれなかった。

　G1は真のハッピー感を与えてくれなかったと？

ターザン　与えてくれないよォ！　スケール感のあるハッピーさとG1が与えるハッピーとは内容が違うんだよね。質も違うし、量も違うわけですよ。ハッキリ言ったら幸せという名の質量がまるっきり違うんですよォ！

——幸せの質量が違いますか（笑）。

ターザン　質量だけじゃなくて比重も違うよ！　だから、幸せという言葉の理解の仕方を間違ってるというか、幸せを定義してないよ、あの人たちは。さいたまスーパーアリーナのチケットを買った人は、当日を迎えるまでに幸せ度というのは、もう飽和状態。はち切れんばかりに

なってるわけよ　その部分では試合を見る前から、すでに満腹感丸出しなんですよォォォ！

——満腹感丸出し！（笑）。とは言っても、優勝者が決まらなかったことで不満を感じているファンもいるでしょうけ……。

ターザン　（遮って）いや、そんなのいませんよォ！　もし、いたとしたら、そいつはプロレスファンじゃない。俺はプロレスファンとは認めがたいね。結局、試合当日まで完璧に楽しませてくれたわけでしょ。長い時間、そういった形でプロレスファンの心情をうまく誘導していったというか、満足させていたので、ああいう結末になてもポジティブに、肯定的に、あの事態を迎えたんですよ。ここで不満を言っても仕方ないなという形で、みんな自分の心の中に収めたんですよ。

——一昔前だったら、暴動になっていてもおかしくなかったですよね。

ターザン　なぜ大人だったかといったら、ある意味、非常に大人だったというかあの大会が格闘技だとか、あるいは真剣勝負だとか、バーリ・トゥードだったからという理由じゃないんだよ。プロレスファンとして感謝してるからですよ。ああいうセッティングをしてくれたということか、ああいう流れを作ってきたことに対してね。だから、凄くプロレスファンのいいとこが出たよ！　もう全部プロレスファンの勝利ですよォォォ！

——オール全て全部、プロレスファンの勝利だったわけですね（笑）

ターザン　そうそうそう　そういう意味ではね、ホントのMVPはプロレスファンなんですよ！

——小川でもノゲイラでもなく、プロレスファンが真のMVPだったと？

ターザン　そうですよ！　『PRIDE・GP』を応援したというか、『PRIDE・GP』に関わった人というか、『PRIDE・GP』を観客の側から盛り上げたというか、そういう空気、世界がMVPですよ。もう完璧、プロレスですよ！　あれをプロレスの対極にあるものとか、プロレスの敵であるとか、プロレスのライバルであるとか、商売敵であるとか思ってる人たちは俺からしたら寒いよ！　ナンセンスだよ！　それはプロレスファンとして心がちっちゃいよ。俺からしたら、あの雰囲気に対して嫉妬しなきゃダメだよ！　「なんだ、DSEにやられたよ！」って。最後はノーコンテストで失敗したけども、あの失敗はそんなに大きなマイナスじゃないもん。

プロレス内プロレスの最強はG1で優勝した天山じゃなく、小橋建太なんですよォォォ！

——気にすることはないと。

ターザン　全くないよ。ファンだけじゃなしに、ボクの心の中で失いかけていたプロレスに対する幻想とか夢みたいなものを、今回の『PRIDE・GP』が火をつけてくれたもん。

山本！さんも火がついちゃいましたか？（笑）。

ターザン　俺は一プロレスファンとして会場に行ったんだもん。だって、勝負論はある、ロマンはある、思い入れはある、想像力もある、で、先が読めない、もう、あそこにはすべてあったよォ！　プロレスファンが知りたいこと、望んでること、プロレスファンが興奮することを全部提供してくれてるもん。

それは言えますね。

ターザン　だって会場に行ったら、みんなプロレスファンの顔をしてましたよ。

——山本！さんぐらいになると、見たら一発でわかるわけですね（笑）。

ターザン　もうみんな優秀なプロレスファンというか、ファンの心を持ってる立派な人たちばっかりでしたよ。だって、普通さぁ、台湾から見に来る？

——台湾からのお客さんもいましたか？

ターザン　ボクは『PRIDE・GP』が終わった後、イベントやったんだけど、台湾から見に来てるんだよ　だから、あの日は密航というのが久しぶりに復活したんだよね。

——日本だけじゃなく、海外からも密航してきた人がいたわけですね。

ターザン　昔の猪木vsアリ戦とか猪木vsモンスターマン戦とか、そういった試合も全国からファンが集まったでしょ。あういうムードが再現したんですよ。日本全国いろんなところから10万とかのお金使って見に来るのはプロレスファンしかいませんよォォォ！

そうかもしれませんね（笑）

ターザン　そんなこととするのはプロレスファンだけですよ。それが証明じゃない？　何度も言うけどプロレスの大勝利ですよ！　ただね、ボクが言うプロレスの勝利と、GKが言ってるプロレスの勝利とは全然違うんだけどね

——解釈は全然違うでしょうね（笑）。で、『PRIDE・GP』に続き、いよいよ来月はK－1のGPも開幕するわけですが、いかがでしょうか？

ターザン　K－1？

今回から「純度100%のK－1」ということを打ち出しましたけど

ターザン　いや、純度100%って言ったその言葉こそね、それを言うまで、いかに、それとも100%違うことをやってたということの証明ですよ。間違いだらけ100%ですよ！　純度100%の反対は邪道100%だからね。

大仁田厚も真っ青ですね（笑）。

ターザン　K－1は邪道100%の、それもダメなブレンドね。結局さ、K－1はブ・サップレ曙を入れたことで雑種化したんですよ　要するに雑種を取っ払っちゃって、んで、それが雑種はまずいなということで、やっと本来の姿にしようとしてるわけですよ　だから、純度を高めなきゃいけないんだなっていって言った時点で、いままでやってきたことが嘘だったっていうことを公表してるようなもんですよ　あんな言葉を使ってること自体がバカ丸出しですよ！

——バカ丸出し（笑）。

ターザン　だから雑種化したK－1を元に戻さなきゃいけないという形で焦ってるわけ。焦りの一言ですよ！

焦りから、谷川さんの口からミルコにも出てもらいたいっていう言葉が出てきちゃったんですかね。

ターザン　ミルコを持ってくると、またミルコという雑種を入れることになるからね。だって、総合をやってるミルコを立ち技の限定された闘いに戻ってこさせようとしてるわけでしょう？　ミルコを持ってこようとすること自体がボクからしたらサップや曙を持ってきたことと同じ発想だって言うんですよ！

——ミルコは、サップや曙とは、だいぶ違うと思うんですけど。

ターザン　純度100％と言うんだったら、ミルコみたいな選手を引っ張ってきたらいけないんだよ！　だからね、これはハッキリ言えるけど、一番ヤバイのはK－1ですよォォォ！

——それは、またどうしてですか？

ターザン　なぜK・1がヤバイかと言うとね、K・1ファンがいないもん。

——熱狂的なK・1ファンはいないってことですか？

ターザン　あのね、新日本には新日本のファンがいるんですよ。「新日本の」というね。で、DSEのGPの方は、「格闘技の」とか「DSEの」じゃないんだよね。あれは「『PRIDE・GP』の」ファンなんだよね。でもね、K・1のファンって言ったら、それはテレビの前の視聴者のことですよ！　チケットを買って会場に行かないとそれはファンとは言えないんだけど、K－1はチケット買う必要ないでしょ。テレビ見てればいいんだから。だから、ファンがいないんですよ。ファンがいるということはどういうことかというとね、そのジャンルや競技に対して、その世界に対して愛があるんですよ！　だから、新日本には新日本のファンがいるということは、そのファンの人たちは、新日本的なものを愛してるんだよね。新日本がやってるG1クライマックスを愛しているわけですよ。

そういうファンは、NOAHにもいますし、闘龍門にもいますよね。

ターザン　そうそう　そこには全部愛があるんだよね。ところが、『PRIDE』の方は、不特定多数の人とかがホントに馳せ参じて来るんだよね。愛の空気というか、愛のパワーっていうのは、従来のプロレスの比じゃないんだよ！　とにかく、この間のさいたまスーパーアリーナは愛の絶対量が凄かったんですよォォォ！

——さいたまに愛が溢れていたんですね（笑）

ターザン　プロレスファンの愛の絶対量がモノ凄かった、今回のGPは。あれはまさしく愛の勝利ですよ！　だから、キーワードは愛なんですよォォォ！

見事2年連続G1を制した天山だったが、残念ながら藤田の持つIWGPへの挑戦は見送られる模様。打倒小橋へ向け、頑張れ天山！

——キーワードは愛？

ターザン　プロレスファンは、要するにプロレスが好きだということを何回も言うんだよね。そんなことね、普通、野球ファンとかでは言いませんよ！　当たり前のことだから。

——巨人ファンとか阪神ファンとか、どこどこ球団のファンとは言いますよね。

ターザン　でも野球を愛してるとか言わないもん。サッカーとか他のジャンルでもそうですよ。プロレスは根っこのところにプロレスを愛してるという、そういう気持ちがあるわけですよ　好きだと言うよりも、さらに強い感情、深い感情があるわけですよ。だから、キーワードは愛なんですよ。今回は新日本のG1的な愛と、DSEのGP的な愛が並んで存在していたというか、比較されていたわけ。だけど、愛の形も内容も全然違ってたと。そんなもん、最初から比べちゃいけないんだよ。

——同じ愛だけど、容量というか、質量が全然違ったわけですね

ターザン　だから、昔は馬場さんの全日本プロレスは、ちょっとスケールが小さくて、東京ドームでやらないとか、派手なことをしないとか言われてたわけですよ。新日本は異種格闘技戦とか、デカイところでバーッとやってたでしょ。その違いをそのままそっくりやってるわけですよ。以前の新日本はそういった意味で、世間を巻き込んだ形でプロレスファンを育ててきたってことですよ。馬場さんは馬場さんらしい形で、手作りで、じっくり寝かせて全日本のファンを作ってきたわけですよ。で、いまのDSEは、21世紀に新しい形で、プロレスファンに対して、こういう愛し方もあるんだよということを提示したわけですよ！　俺は愛とか感動という言葉を使うのは嫌なんだけども、今回のキーワードはそれですよ。

——とにかく、愛に尽きると。

ターザン　愛があるから、あの結末でもブーイングが起こらなかったわけだけども、そういう意味でGPに強い愛を感じるってことは、逆に言ったらプロレスは乗っ取られてるんだよね。だってさぁ、プロレス内プロレスの純度の高さで言ったら、NOAHの方が新日本より何倍も上ですよォォォ！

——まあ、そうなりますよね。

ターザン　NOAHが一番の旗頭ですよ。だから、プロレス内プロレスの最強はG1で優勝した天山じゃなくて、小橋建太なんですよォォォ！

——G1王者よりもGHC王者の方が上だと？

ターザン　そう。伝統的プロレスを求める従来のプロレスファンの中の最強の人間っていうのは、プロレス内プロレスで一番純度を高めて理想を求めているNOAHのチャンピオン・小橋建太ですよ。G1というのは一応、最強トーナメントになってるんだけども、実はGHC王者の小橋建太がプロレス内チャンピオンですよ。だから、対決するとか対決しないとか別個として、イメージとして言うならば、『PRIDE・GP』のチャンピオンの対極にいるのが小橋建太ですよ。

——ノゲイラもしくはヒョードルの対極にいるのは小橋建太だと。

ターザン　そう。プロレスの代表はG1王者の天山じゃなくて小橋建太なんですよ。そこを新日本がわかってるかどうかだよね。GKがG1がGPを食ったと言うんだったらさぁ、G1のチャンピオンは小橋建太に勝ってないよと俺は言いたいよ。お前ら、プロレス内同士でやっていろみたいな　お前ら、アホかって叫びたいよォォォ！

——アハハハハハ！

ターザン　だけどね、どうあがいたって、いまの天山では、小橋建太には絶対絶対絶対に勝てませんよォォォ！

——や、山本！さん、また血糖値が上がっちゃいますよ！（笑）。

ターザン　（急に小声になり）ヤバイヤバイ。気をつけないとねぇ、チョロちゃん、もうすぐ電車がなくなるから、そろそろ帰った方がいいよ。

——K・1やG1より、山本！さんの体調の方が、よっぽどヤバそうなので、とっとと帰ります！

【8月17日、葛飾区・ターザン山本！邸にて収録】

なぜヒョードルは〝切腹〟するべきであったと言えるのか?・

堀辺正史・骨法創始師範が武士道の観点から『PRIDE』に大提言!

出血でノーコンテストという裁定は"侍のルール"に反するんですよォ!

―先生!　今日はもちろん8・15『PRIDE・GP』についてたっぷり総括していただこうと思って伺いました!

堀辺　え!?今日はG1の話じゃないの?（笑）。

―ガハハハ!　この時期にあえて『G1クライマックス』を語りますか!「天山優勝は是か非か?」とか（笑）。

堀辺　たまたまテレビつけたらなんかやってたんですよね。でも、G1見ても何にも感じなかったんで、やっぱり『PRIDE』の話をしましょうか（笑）。

―ゼヒ、そうしてください（笑）。

堀辺　今回の『PRIDE』の一番のテーマっていうのは、GP決勝戦のノゲイラvsヒョードルがノーコンテストに終わってしまったこれをどう捉えるかだと思うんですよね。で、たしかオープニングで高田本部長が挨拶のときに選手のことを「12人の侍たち」とか言ってましたよね?

―はい。例によってのけ反りながら（笑）。

堀辺　ということは『PRIDE』は"侍たちの闘い"というわけですよね。ならば、この試合を"武士道"の観点から見たらどうなるか、という部分で関連づけて話すと面白いんじゃないかなって思います

―よろしくお願いします!

堀辺　まず武士道というと、一つは「仇討ち」、もう一つは「腹切り」というのが、世界の人に連想させるポイントなんですけれども、今回の試合は"切腹の論理"と関連してるんですよ

―切腹の論理!

堀辺　それはどういうことかと言うと、戦場で侍たちが戦（いくさ）をして手傷を負ったりすることが当然あるわけですよね。そうすると、そのまま闘ってたら、明らかに格下の者や足軽雑兵にも殺されてしまう状況がいくつも出てくるわけです。その時に自分の名誉を重んずる侍は、名もない人間に討たれるという不名誉を被るよりも、自らの手で命を絶って面目を保つ。それが切腹なんですよね　その理屈を考えると、誇りというものが如何に強かったかということと、凄く負け惜しみが強いというか、人に殺られるのが嫌な人種であるということが見えてくるわけですね。

―まさにプライドが高いということですよね。

堀辺　そうです　そして今回の場合は、「1Rに、アクシデントでキズを負った場合はノーコンテスト」とルールブックに書いてあったということなんだけれども、侍たちを集めたDSEが、あの場が"侍の戦場"であるという認識があったならば、いくらルールに書いてあったとしても、あの場をノーコンテストにするということはいけないことなんですよ。ハッキリ言って、あれは侍のルールに反する裁定です!

―"侍たちの戦場"には本来あってはならないルールだと。

堀辺　侍の戦場ではありえない!なぜかというと、あのキズのまま闘わせていれば、同じような実力があるノゲイラは勝っていたと思うんですよ。だとしたらストップするならば、ノゲイラの勝利を宣言してもよかったんじゃないかなと。

―戦闘不能に陥ったのはヒョードルの方ですもんね。

堀辺　だから当然負けにしてもいいと。あるいはヒョードル自らが「これは私の負けです」と言ってリングを去ってもよかったね　そうすればあのリングでひとつのストーリーが誕生したし、そうしたとしてもヒョードルの価値は下がらないと思う　一番最初に言ったように、侍たちは潔く切腹するわけだから、その理屈から言えば自分が負けを認めて去ったとしても問題なかったし、不名誉を免れたんじゃないかなと思うんですよ。

―ヒョードルは"切腹"すべきだったと

堀辺　そうですね。それによって彼の評価は逆に上がったと思いますよ。そして主催者側からしてもノゲイラに勝利を宣言してもよかったかなと　なぜかと言うと、こういったことは今後もありうると思うんですよ。そう考えると、やっぱりその条項は検討する必要があるし、"侍たちの闘い"だっていう認識で『PRIDE』がやってるんであれば、侍の論理というものを重んじなきゃいけないと思います。それに恐らく世界中の人々で、真剣に闘ってる人であれば、武士道の理屈というものを納得してくれますからね

―では、『PRIDE』がまず最初にやらなきゃいけないことは、今回の例を受けてルール改正をすることだと。

堀辺　その条項を消すべきですよね。あともう一つの問題は、アクシデントで試合を止める最終決定を、医者が決めるのか、そうじゃなくて侍という実際に闘う人間に委ねるのか　この問題も問われてるんですよ　例えば医者が止めても「このぐらいのキズは構わない。

その見事に鍛え抜かれた体からも、いかに修行をつんできたかが伺い知れるノゲイラ。結果的に、決勝戦がノーコンテストとなり、悲願の優勝はお預けとなったが、その活躍ぶりは大いに評価されていい。

特殊な戦場である『PRIDE』で勝つためには場数を踏むしかない！

俺はやるんだ」と強く希望する選手も当然出てくるだろうし、それが侍じゃないですか。ならば「それは危険でしょう」という意見ももちろん出てきますけど、"侍"という言葉や"武士道"という言葉を使うのであれば、ある部分で選手の意志に委ねることも一考してもいいんじゃないか。今回の決勝戦を見ながら、こういったことも感じましたね。

――なるほど。

堀辺　それから試合展開そのものから観ると、ノゲイラが随分成長した印象が残りましたね。ヒョードルの、あのもの凄いパンチを、下になっていても当てさせなかったでしょ？　そういう意味では十分にノゲイラがコントロールしていたし、アクシデント後もヒョードルがノゲイラに勝利を譲ったとしても決して間違いじゃなかった。

――そう考えると、ホントにノゲイラは可哀想ですよね。

堀辺　可哀想ですよ〜。今回、『PRIDE』のチャンピオンになりたい」というモチベーションが一番高かったのがノゲイラだと思うんですよ。それは彼の肉体の変貌や、パウンドに対する防御を見ても、どれだけ修行を重ねてきたかということが十分に窺いしれる。そういうところから見ると、心情的に彼の勝ちじゃないと落ち着かないというか（笑）。

――優勝はなしですから、「グランプリ最優秀選手賞」でも、あげたいですよね（笑）。

堀辺　「武士道大賞」をあげちゃってもいいんじゃないかな（笑）。もう公式にはノーコンテストという結果は下ってしまったわけですから。あとは観た側がどう思うかに委ねられると思うんですよね。そう考えると、多くの人はノゲイラが勝ったと判断すると思う。もちろん違った意見の人もいると思うけどもね。だから、こうなったら『紙プロ』も今年一年分の利益の半分をノゲイラに副賞として贈呈すると（笑）。

――いや……気持ち的にはそうしたいですけど、『紙プロ』の利益ぐらいノゲイラの収入からしたら微々たるものだと思うんでやめておきます（笑）。それでは次にプロレス界が衝撃を受けた小川vsヒョードル戦についてお聞きしたいと思います。たった54秒で勝負がついてしまったわけですけど、先生はどのようにご覧になりましたか？

堀辺　「もう少しなんとかならなかったのか」という残念な気持ちと、でも仕方がないなという思いがありますね。やっぱり『PRIDE』というリングは柔道とかボクシングとかレスリングとか、そういう限定された試合場じゃない、いわゆる特殊な戦場なわけですよ。あの戦場では数回しか出てない人と、何度も場数を踏んできた者の差は、かなり大きいものがあるんですね。

――経験が重要なわけですか。

堀辺　はい。なぜかというと、いくら『PRIDE』に出るために訓練を積むといっても、実際の試合と同じような形式の練習というのは危険が伴うわけです。だから、あのルールと同じように普段から練習するということは非常に難しいんですよ。そうするとホントの訓練を積むためには、『PRIDE』で実際に闘った場数を踏むしかないんですよね。

――最大の訓練は試合に出ることだと。

堀辺　試合に出てるということが、もう最高の訓練となるわけです。普段の訓練で補うことはできるけども、『PRIDE』と全く同じ体験はできないですから、その部分が他の競技とは違うところなんですね。

――そう考えると、『PRIDE』で数々の修羅場をくぐり抜けてきたヒョードルとノゲイラに勝つのは、ホントに至難の業ですよね。

堀辺　そういうことです。だから今回の小川選手の結果は非常に残念だったけれども、これから彼がまた『PRIDE』に出続けて、今回のこともいい経験にしてほしいですね。その潜在能力を疑う人間は誰もいないわけだし、ノゲイラだってヒョードルに負けて、チャンピオンベルトを奪われて、そこから這い上がったわけですから、我々もそう小川選手を見ればいいし、本人もそう考えるべきですよ。

――ノゲイラですらヒョードルに負けて、リコ・ロドリゲスとつまらない試合をしたら、みんなに「ノゲイラは終わった」って言われましたからね（笑）。

堀辺　『PRIDE』のリングっていうのは、それぐらい厳しいものなんですよ！　肉体的に厳しいのと同時に、『PRIDE』で勝った負けたっていうことの価値が重いから。凄く人格的にダメージを負わされる戦場なわけですよ。

――ミルコなんかも敗戦を挽回しようと、なり振り構わずって感じですもんね（笑）。

堀辺　ホントの意味で真剣勝負が行われているから、今回の入場者数に反映されたように、多くの人が胸を弾ませて、男のホントの闘いを見たくて来るわけですよ。そして観客も『PRIDE』がそういう闘いの場だとよく理解しているから、今回ノーコンテストという結果になっても納得して帰路についたんだと思いますよ。

――場が尊厳を持っているということですよね。

堀辺　そういう意味では、『PRIDE』の選手と主催者とファンの関係が成熟してきていると言えるし、ますます『PRIDE』には期待が掛かりますよね

――わかりました。また次回もよろしくお願いします！

【8月17日　新宿歌舞伎町・「かに道楽」にて収録】

「ノゲイラvsハリトーノフの試合から今後の「PRIDE」の方向性が見えた」という堀辺師範。「打撃の向上によって、寝技の"意味合い"が変わってくるんです」（堀辺）

Y・Iフィクション劇場

『崩壊・小川 大晦日の転生』

井上義啓

首筋を、なめくじを思わす生暖かい風が這うように流れた。8月15日の大阪。井沢は大阪南港のコンクリートの上にいた。

焼け付くはずの広場が、この日はなぜか、かったるい。まだ彼岸は遠いというのに、間の抜けた秋風がお盆の真っ只中を彼岸の中日と勘違いしたらしかった。

〈大文字の送り火が今日燃えていれば、それと分かっただろうに……〉

井沢はもう一度、生暖かい南港の空を見やった。開場まで1時間半もあるというのに、会場であるZepp Osakaの入口付近には百五十人はいると思われる熱心なファンが列をなしていた。

〈あいつらは"平成のデルフィン"とは違うな〉

では、この若いTシャツ集団はどう呼んだらいいのか。

〈そうか。あの連中は"平成のハッスラー"なんだ。PRIDEがどうの、格闘技がどうのじゃない。小川の勝ちだけをイメージして、勝ったら床を踏みならして騒いでやろうと、このコンクリートだらけの南港にやって来た……〉

「しかし、小川は負ける」

井沢という格闘技バージョンの中に、小川が勝つとの大型スクリーンはない。

〈あの連中は小川の負け戦を嫌でも見せつけられることになる。みんなヒョードルはパンチだけのストライカーだと思っているが、アイツは明治初期の柔術屋だ。ケンカ専門のコマンドサンボ屋だ。藤田を絞め落としたスリーパーは偶然の産物じゃない。首筋をカバーして肩から落ちたケビンのバックドロップの受け。あれは何百回も高所から落とされる練習を積み重ねた"ごほうび"だった。今日の試合にも、必ずヤツの地が出る。パンチじゃない。柔術屋の"殺し"だ。それを、あのハッスラーたちは予見していない〉

小川は100のうち99まで勝てない。しかし、それは口に出してはならない言葉であり、原稿用紙のマス目に書き込んではならない禁句であった。

◇

場内の歓声が悲鳴に変わり、夕凪のようにピタと静まり返った。それは一瞬であったが、井沢には耐えられない長い年月のように思えた。

〈54秒? 何なのだ、これは!〉

底のない虚しさが、体の中を突き抜ける。

『UWFが有り難がっている秒殺は悪である』

脈略のないロゴが"黄色い脳細胞"をかすめて飛び去る。井沢は自分という存在体から遊離した"もう一人の自分"をいぶかしがった。

〈何なんだ、これは〉

◇

8月14日。井沢は涼風が吹き渡る高野山にいた。ポツンと置かれた誰もいないベンチで、来年もハッスルシリーズは存在するのだろうかと、フト考えた。ハッスルポーズ、そしてハッスルキングのトルネードバージョン。

しかし、何度考えても、来年のハッスルポーズは浮かんでこない。

蝉しぐれが騒がしいBGMとなって、井沢を苛立たせた。

〈こんなに考えても……〉

井沢は手にしたポカリスエットを飲み干した。ブスッとした表情が、もう一度、険しく歪んだ。

〈そうか。これほど考えても、来年のハッスルポーズが浮かんでこないということは、この現実が存在しないということだ。馬場が死んだ時の馬場・全日プロレスの終焉の瞑想とそっくりじゃないか〉

馬場が死んだと知らされたその日から、井沢は全日プロの明日(あした)を考え続けた。京都の嵐山で、八畳のボロ畳の部屋で……。

しかし、どう考えあぐねても、全日プロの30周年記念興行の風景しか思い浮かばなかった。

〈これだけ考えても……〉

井沢は、こう結論した。

〈30周年しか出てこないっていうことは、全日プロに30周年からの先はないということだ。馬場の全日プロは30周年大会の、その日に終わる〉

井沢の頬に、高野山頂の涼風とはまるで違うハッスラーの空気がへばり付く。2時間前にコンクリートの広場で感じた妙に生暖かい風。それはベットリと流れ落ちる粘着性の強い酸性の血液。あの時感じた嫌な予感を、井沢は悪魔の顔でも見据えるかのようにねめつけた。

〈地力が違いすぎるんだ!〉

やっぱり、ヒョードルには"殺し"があった。残忍な、それでいて氷のように冷たい殺し屋の目。

〈それにしても、小川は甘すぎる!〉

小川がヒョードルを投げ捨てた時、殺し屋は動物の本能で半身になって受けた。小川は柔道屋の悲しさで、相手の背中がベタッと付くように反射的に投げたのだが、柔術屋は半転して"一本"を回避してみせた。これがコマンドサンボとロシアン柔術に明け暮れた殺し屋の本領であった。

〈しかも、叩きつけられた瞬間に、もう次の決め手をどうつなぐかの体勢をとっている!〉

◇

ヒョードルが信じられない速さで半転、小川の上にのしかかったのがそれであった。ヒョードルは殺し屋であり、小川はハッスラー株式会社の代表に過ぎなかった。

「編集長。シャブシャブでもいかがですか」

「あんたは、いつもシャブシャブなんだね」

井沢は、のぞき込むようにして顔を見やっている吉川に笑った。

終戦記念日の夜が更けていく。それは小川の〝終戦の日〟でもあった。

「小川は今日で終わりましたね」

先頃から、吉川は同じ言葉を何回も繰り返した。

「PRIDEはどうってことないが、小川のPRIDEとハッスルは取り返しのつかない焼け野原になった。国会議事堂だけがポツンと焼け野原の中に残っていた終戦直後の東京に似ている。原爆で何もかも焼きつくされた広島、長崎ほどじゃないが……」

そうは言ったものの、1時間後には、もう、君子豹変していた。

「ラストオーダーですが……」

井沢はウエイターではなく正面の電子時計を見やった。新阪急ホテルのティーラウンジに席を移してから、もう1時間が経っている。

「トーンダウンは必至だ。9月20日の『ハッスル5』ね。小川もブッチャー（橋本真也）もオドオドした目で会場を眺めるだろうとハッスラーは思っているだろうが、9月20日には満員に近いファンが集まるさ。小川を激励する会という意味でね。しかしだ……」

井沢は冷えたコーヒーを口に運んで遠い目をした。

「次の『ハッスル6』と『ハッスルハウス』はドーンと客数が落ちるだろう。川田だの長州だのといった目新しい趣向が底をついたのも大きい。しかし、何より痛手なのが小川の54秒タップアウトだ」

「小川はPRIDEでリベンジしますかね」

「それだ。小川が試合直後にリング上で仕方なくやったハッスルポーズは弱々しいものだったし、退場する花道での号泣とハッスルポーズも目を背けるものだった。しかしだ」

「…………」

「ハッスラーは、そういった小川に声援を送っていたじゃないか。小川のバカ泣きはそこにあった。ファンは、この俺について来てくれると言っていると……」

「試合後、小川は会場前の広場で行われたハッスル握手会に出てきて、サバサバした表情だったと言いますよ」

「それよりだ。控え室で小川が『チキショー！　チキショー！』って、あの小川にしてはひどく悔しがっていたという方が救われる材料だ。死に神の目を見てしまった男ほど怖いものはない。これまでモヤモヤしていた闘いへの姿勢が、これでスコンと吹っ切れたと思うよ。だとすると、今度は、待つんじゃなくて、ゴングと同時に仕掛けて行くだろう。ヒョードルの勝つからくりがそれだ。分かってしまえば、簡単なタネ明かしなんだよ」

◇

18日午後。井沢は3日前にプロ格者の吉川と長話をした新阪急ホテルの「喫茶店アムール」にいた。この日は、『週刊ファイティング』のインタビュー収録。インタビュアーの山城が「早速ですが……」とセカセカと切り出した。

「小川と近藤の敗北は、プロレス界にどんな影響を与えるのでしょうか」

「悲観論しかないな。『負けの哲学』を何一つ充足していないからだ。純プロレスラーならまだしも、セミ格闘家の小川と近藤が――それも残された日本人選手の最後の砦と目されていた小川と近藤がだ。あんなに弁護のしようがない負け方をしたのでは、プロレスはやっぱり口だけで駄目なんだとの思いを決定的なものにしてしまう」

そうは言ったものの、井沢は、立ち直りの早い小川のことだ。気を取り直しているだろうと、運ばれたばかりのコーヒーカップに目をやった。

「小川は負けた翌日に、都内で『負けたけど、ファンのみんなはハッスルしてくれた。プロとして、それが嬉しいし、ありがたい。これからもオレはしがない仕事人として生きていきます』とコメントしています。記者連中は『立ち直りが早すぎる』って大笑いしたと言いますけど……」

山城は、何がおかしいのか、ハハハ……と、1人でバカ笑いをした。

「俺もそう思っていた。あの男はPRIDEを諦めないぞ。必ず強い勝ち方をして見せる。そうでないと、ハッスルを根こそぎ殺してしまうことになるからだ。年末の『男祭り2』ね。ヤッコさん、必ず打って出るよ。それでないと、来年正月（3日）の『ハッスルマニア』が死ぬからだ。高田（総統）がいみじくも言った『小川くんはPRIDEに専念した方がいいんじゃないか』は正解となった。ハッスルを生かすためには、そうするしか方法がないからだ」

「編集長が言われていた『小川もハッスルも所詮は真剣勝負しかない』は正解になりつつありますね」

井沢はボンヤリと、大型スクリーンの小川を思った。あの男はやるとの確信めいた感興が沸き上がる。

「小川は地獄を見た。もう、オドオドした目はしないだろう」

窓ガラスを通して、喧噪の街が雪の夜の大晦日へと繋がって行く。

〈それしかない〉

井沢は、吉と出るか凶と出るかわからない大晦日という名の先付小切手を楽しそうに見やった。

〈了〉

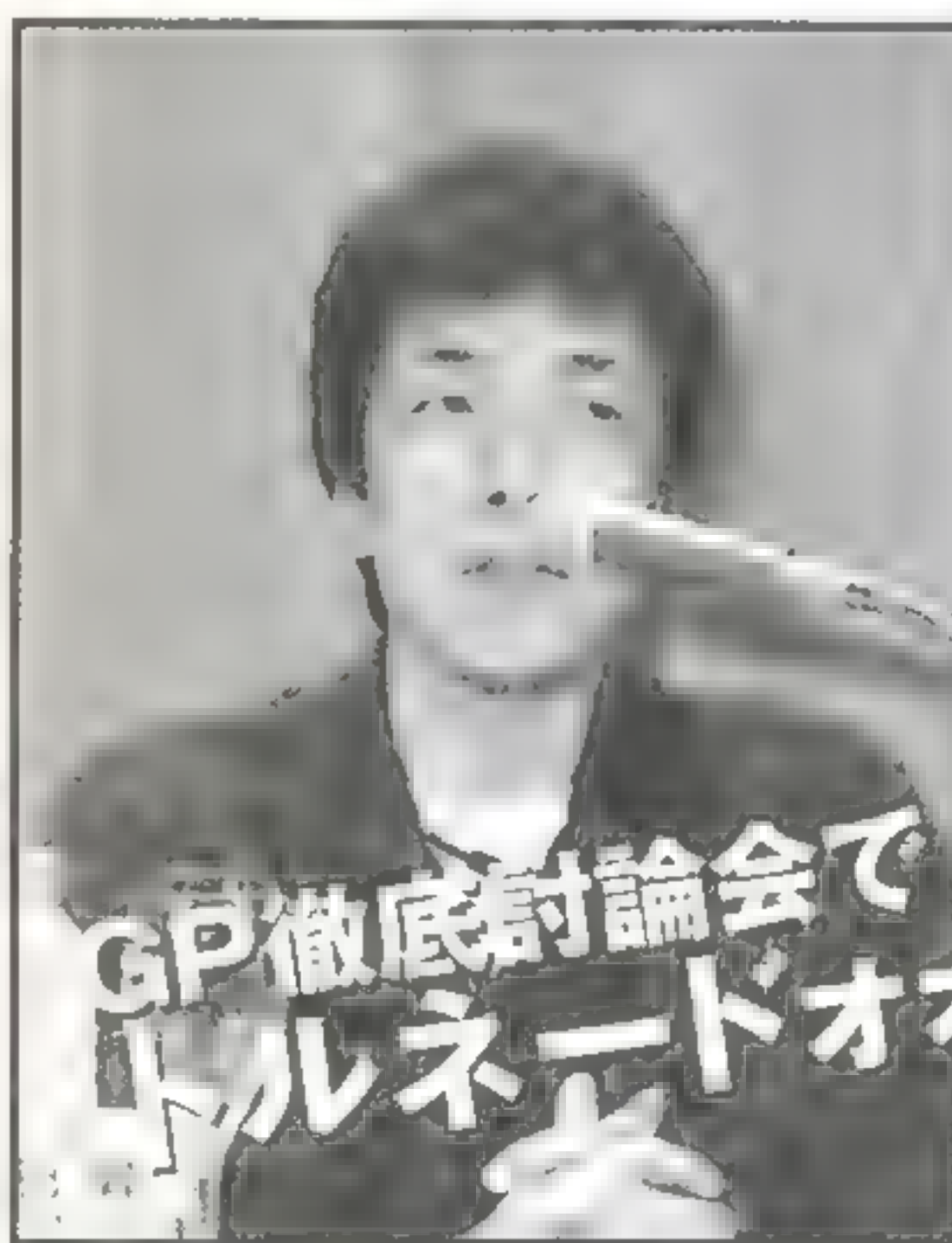
編集部にいない山口日昇は

構成／ジャン斉藤
撮影／山口比佐夫、スモーノブ

8/1 小川直也ハッスルトークショー

遠景からだと漫才をやってる風にしか見えないが、歴としたトークショー　2回に渡り各15分程度行われた　ちなみにオーちゃんがズバリ的中させた舟券は3連単・配当23320円!!　「購入額は内緒。ンムフフフ！」と笑いを噛みしめたオーちゃん。"銭ゲバ"を自認するだけであり、いつも以上にハッスルポーズに力が入っていた！

8/11 『PRIDE』FAN CULBイベント

平日にも関わらず100人近いファンが詰めかけた。パネリストには桜庭和志、榊原代表、島田裕二、二次「格通」編集長、クマクマンホ熊久保、ファンクラブ代表2名、そして山口日昇　グランプリを徹底的に討論した　山口はドサグサに紛れて「サクちゃんvs田村潔司が見たい人ーーッ!?」と絶叫する場面も

「グランプリの優勝者は…　YAWARAちゃんです（ニコニコ）」司会者の質問をいつもようにノラリクラリとかわしたサク。復帰戦は大晦日「男祭り2　」

「もしもし、編集長の山口さんはいらっしゃいますか？」
「あいにくいませんね」
「お戻りは何時ぐらいになるんでしょうか？」
「ズバリ言って、こっちが聞きたいぐらいですよ」
「そうズバリ言われましても……」

山口日昇はどこにいる。本誌鬼畜編集長と連絡を取ることは、ツチノコを捕まえる以上に困難と言われ、NHKの受信料徴収員より編集部に姿を現さない。そんな山口日昇が8月に入ってから、編集部の年間登場回数を超える勢いであらゆるイベントに出回ってる！　そのモーレツハッスル振りを含めて、山口が登場したイベント内容を御紹介しよう。

まずは『PRIDE・GP』ヒョードル戦を控えたオーちゃんが、8月1日福岡競艇場の「ハッスルトークショー」に見参。その司会を山口が務めた。これは「オーシャンカップ」というビッグレースの特別イベントとして催されたが、その合間に舟券を購入したオーちゃん。なんと万舟券を見事に的中させて「オーシャンカップ」が"オーちゃんカップ"に！　さすがスポーツ紙で競馬予想コーナーを持つだけあるが、オーちゃんは「試合前にギャンブルに勝つと、運を使い果たして結果は良くないんだよね～」と洩らしていたという。んあ～！

次に山口の姿を発見したのは、PRIDEファンクラブ会員限定イベント「GP徹底討論会」だった。桜庭和志ら各パネリストと共に明後日に控えた『PRIDE・GP』を熱

こんなところにいた!!

8/17 『PRIDEひかり道』

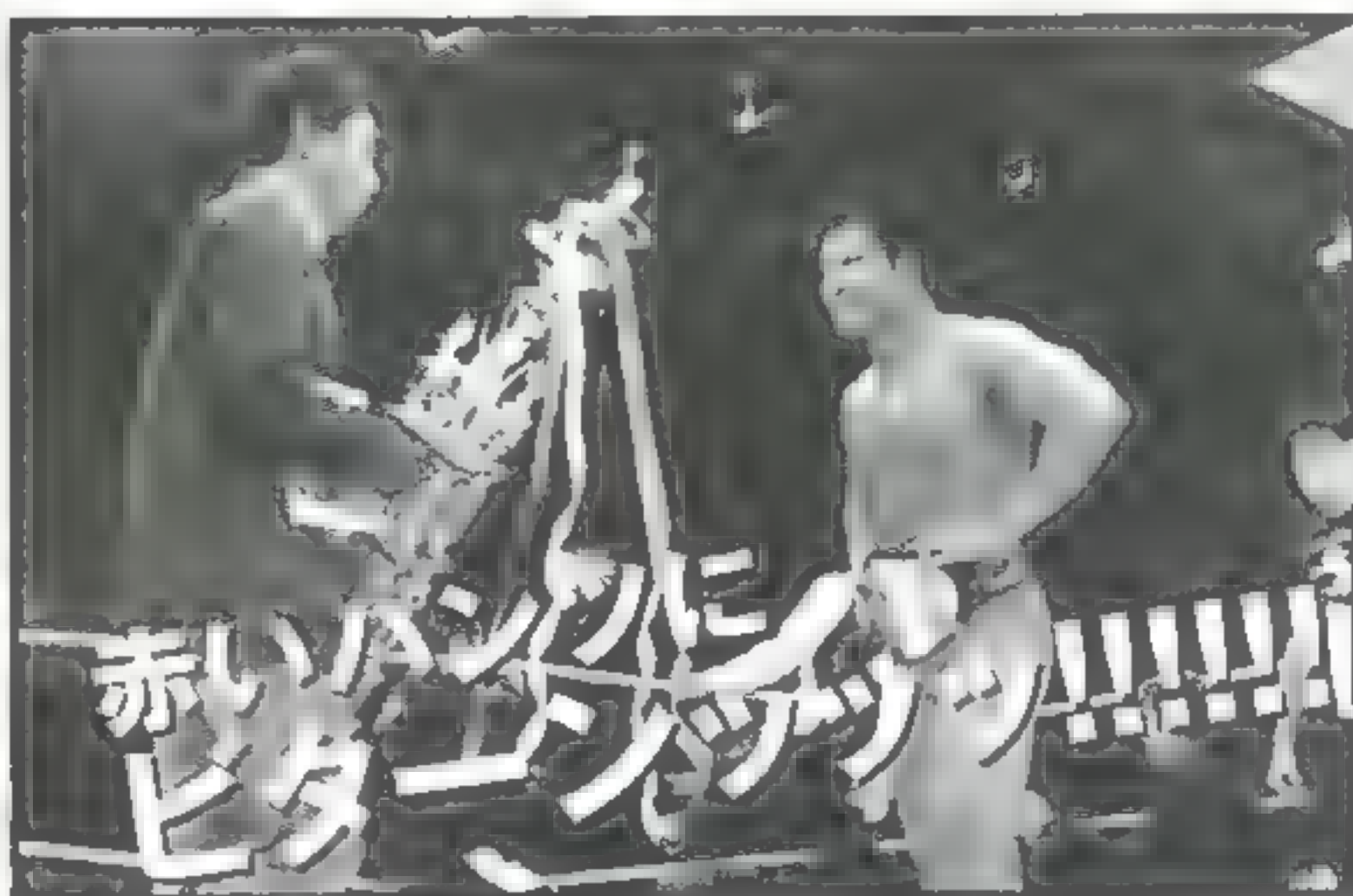
『ひかり道』でドゥ・ザ・ハッスル!!

前半には高田本部長も出席した「PRIDEひかり道」には、ユウキ・ロノク、格通 三次編集長、クマクマンホ熊久保、日刊スポーツ」瀬連記者、島田レフェリー、山口日昇が登場。グランプリの知られざるエピソードがたっぷり語られたが、案の定、山口＆島田が大暴走！

インターネット無料視聴!! 『PRIDEひかり道』とは何か?

この番組は[illegible]本部長[illegible]「PRIDEひかり道」[illegible]双方向番組[illegible]「武士道」の大会前後、大物選[illegible]関係者[illegible]で登場する。生放送なので[illegible]の生の声を聞けるばかりか[illegible]送ることも可能。次回の配信は9月中旬を予定[illegible]会員登録は無料[illegible]ゾクゾクと登場するので[illegible]

【PRIDEひかり道URL】http://casty.jp/pride

8/18 U-STYLE 後楽園ホール大会

U-STYLEの解説を務めることが多い本誌鬼畜編集長（隣は宮戸優光）。各媒体の記者に続いて、田村潔司にトロフィーを渡す副賞として"赤いパンツの頑固者"に「赤いキツネ」1年分か贈呈されるプランもあったかやっぱり幻に消えた

ドゥ・ザ・入場無料!! 『モンスター軍』トークショー＆ボディーデザイナー養成塾オープニングセミナー

【開催日】
8月29日（日）

【会場】
東京商科学院専門学校
（千代田区三崎町2-2-1 TEL.03-3222-3905）

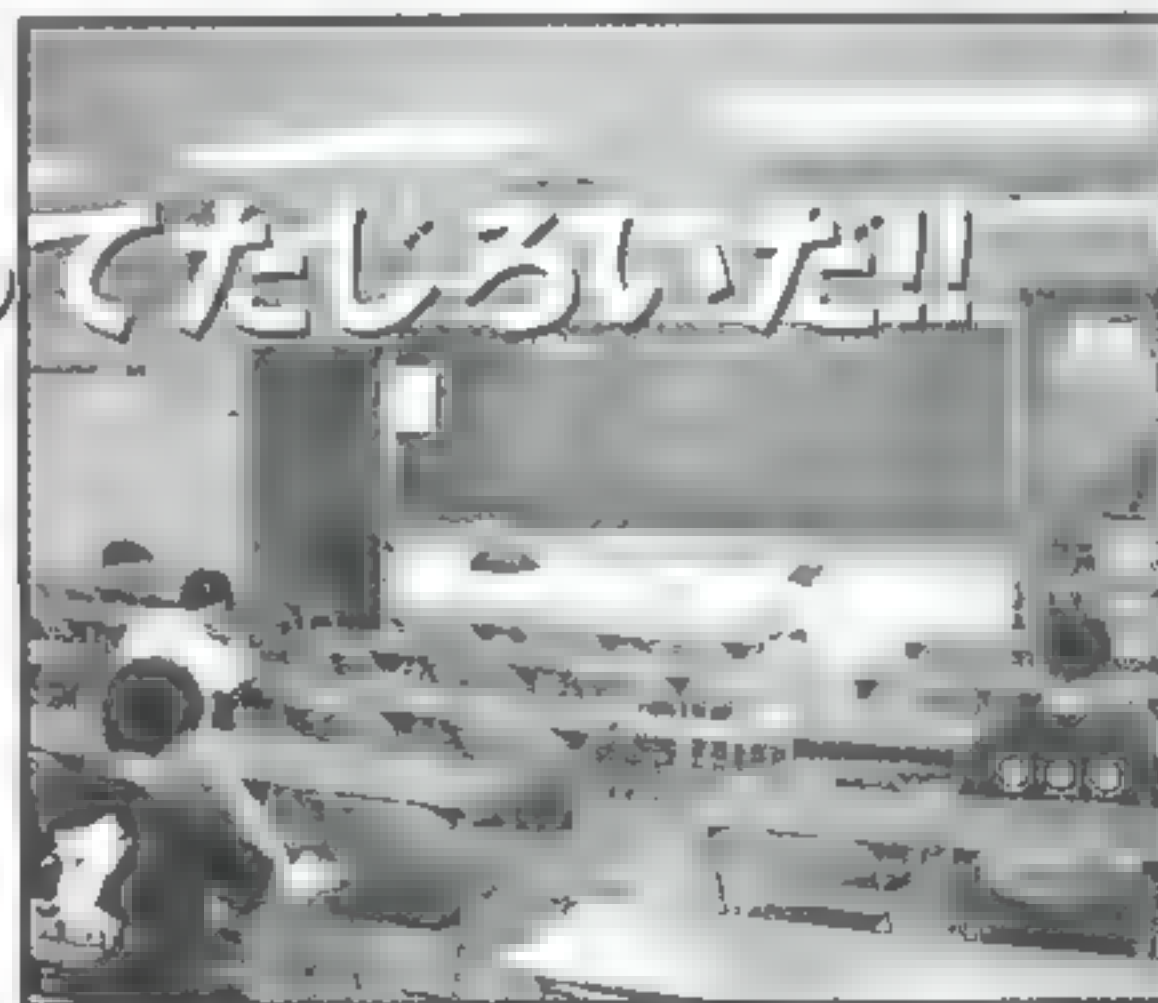
【出席者】
島田裕二モンスター軍参謀長、山口日昇

【トークショー】
13：00～14：00（「ハッスル」の裏話を無責任に語ります。限定30名）

【ボディーデザイナー養成塾】
14：00～15：00（実技トレーニングあり。ボディー＆メンタルケアのスペシャリストを育成する内容です）

【問い合わせ】
BCG03-3560-7911

※全国3000万人の島田裕二[illegible]重要事項のお知らせです。同イベントに島田レフェリーは出席しません。

8/13 『PRIDE・GP』直前トークショー

あまりの事態にカメラマンを務めたスモーノブの手が震える!! その衝撃は「イベント内容は忘れた "ここだけの話"をしてたことは覚えてるけどね」と、スモーノブの記憶を飛ばすほど！

見てみぃ、この客入り!! ここまで入らないと逆に気持ちがいい「LEGEND」、「OH祭り」と並ぶ"伝説"のイベントとなった。次回は8月29日に開催するが…8人の壁を突破できるのか!?

く語ると思いきや、「今日は『PRIDE』のイベントですからね。●●●の悪口をたくさん言います。ガハハハ！」などと無責任な発言を繰り返した（他のパネリストは当然無視）。

このイベントは平日の16時スタートにも関わらず多くのファンが詰めかけたが、同じGP直前イベントながらも、ビビってたじろぐ客入りだったのは山口日昇がゲスト出演した島田裕二トークショーだ。観客はたったの8人！ イベント内容について山口は「あの客入りを思い出すと、涙が出てくるから……」と、"キャプテン"チックな台詞で口を閉ざしたが、同行したスモーノブによると、"ここだけの話"を無責任に語ったようだ。

そして"小川完敗"の衝撃冷めやらぬ8月17日、山口日昇は、視聴無料・インターネット双方向番組『PRIDEひかり道』に登場。小川敗戦の知られざるエピソードを大いに語った。この『ひかり道』には、大物ファイターや大会関係者が多く登場するので大会前後にはぜひアクセスしてほしい。

最後に山口を見かけたのは、8・18U-STYLE後楽園大会。解説を務めるだけには飽きたらず、各専門誌・スポーツ紙の代表に混じってトーナメントを制した田村潔司にトロフィーを。それまで真摯な面持ちで各媒体から表彰を受けていた田村だったが、山口がリングに上がると、なぜか笑いが止まらない。いかに厳かな舞台に山口が似合わないかがよ～く理解できた。一番似合うのは編集部。早く戻ってきてくれ！

プライベート、オフショット

いきなりですけど、どうですか？ 最近のプロレス界は？
ハンソン 全ッ然、わからん！
ダハハハハ！ いつぐらいから離れちゃったんですか？
ハンソン 田舎に引っ越して、観に行けなくなってからやね。テレビも普通の人間が起きてる時間にやってないやろ。
——昔はゴールデンタイム、もしくは夕方に放送されてましたからねえ……。
ハンソン そうそう。それがいつの間にか真夜中になっていて、そしたらもう全然わからない。でも、東京にいる間は都内の興行はだいたい全部行ってたよ。
全部ですか（笑）。ちなみに当時、全日本以外の団体は観てなかったんですか？
ハンソン 新日は一回か二回だけ行ったことがあったけども。
——あまり好きじゃなかったわけですかね。
ハンソン いや、全日と仲がすごく悪かったんでしょ？ 私も仕事や何かで猪木さんと対談したこともあったけど、その内容で馬場さんがメチャクチャに怒っちゃったのよ。
——あ、そんなことがあったんですか！
ハンソン それは後からわかったことで、そのとき私はとっち派でもなくてプロレスもあんまりわからんかったの。で、猪木さんは当然、対談で馬場さんの悪口言うでしょ？ 「ちゃんと闘わない」とか「力がない」とか「技がない」とか（笑）。
しょっちゅう、そんなことばかり言ってましたからね（笑）。
ハンソン そりゃ馬場さんもムカつくわ（笑）。
——ダハハハ！ 馬場さんは、もともと猪木さんのことを格下だと思ってたわけですからね。
ハンソン そやろ。それに私の方も質問しても相手がしゃべりやすいように、馬場さんの悪口は言わないけども「わかる、わかる」みたいな態度をするわけやね（笑）。
気持ち良く話してもらった方が盛り上がりますからね（笑）。
ハンソン そうそう（笑）。そしたら、後で馬場さんがメチャクチャに怒ったみたい。それで私はそういうこと何も知らんと、その後で天龍さんが相撲からプロレスに来る時に対談して、「デビュー戦を観に来て下さい」って言われて、それで初めて会場行って「オオーーッ！」って思ったわけ。それからしょっちゅう観るようになって、天龍さんがキッカケっていうことで全日に行ってたんですよ。
新日に好きな選手は誰かいたんですか？
ハンソン 藤波は好きだったし、最初のタイガーマスクも好きだった。猪木さんは……そんなに。
——いい話を聞かなかったせいですかね（笑）。
ハンソン まあ、わからないけど、いろいろ聞いてたからね（笑）。それでも、全く正義の味方みたいな態度をとるのが、「んん〜？」っていうね。その点、馬場さんは言ってることをそのまま通してた人だったからね。すごいハッキリしてた。「嫌なことは嫌だ」とか「猪木さんの話は絶っ対にしない」とかね。テレビ番組でもハッキリ言うの、「新日の話題には絶対に触れないで欲しい」って。番組側は「そういう話はしませんから」とか言ってるけども、番組が始まってしもたらやっちゃえっていう考えがあるやん（笑）。
——普通あるでしょうね。
ハンソン だけど、それも馬場さんはわかってんねん。「もしも番組の途中で新日本の話が出てきたら帰りますよ」って言うからね。それで帰るって言ったらホントに帰るよ、あの人。それ、いくら録画でも成り立たないじゃん（笑）。だから、馬場さんは「こうだ」って言ったら必ずやる人だっていうのがあったから、信頼されていたよね。
——そこが全日と新日の違いですかね。
ハンソン テレビでは新日も全日も観てたけども……やっぱテレビはダメ！
プロレスは生観戦に限る、と。
ハンソン やっぱりテレビは前座から観せてくれないし、興行のリズムがあるでしょ？ 前座から少しずつ、いろんな持ち味のある人が出てきて、段々強くなっていって、会場のファンもそれに乗っていくわけよ。そんなのテレビじゃ全然わからんし。
「メインだけ観るということは、コースのメインディッシュだけを食べるようなものだ」って著書でも書かれてましたもんね。
ハンソン そう。それで会場に行くようになって、元子さんがいつも招待券の世話とかで入り口にいたんだけど、「本部席の隣にイスを置きますから」って言うてくれて。
——最前列よりも前の、とんでもない特等席ですよね（笑）。
ハンソン 「最高じゃん！」って思って（笑）。ほんで、ず〜っと行ってたら、そのうちに馬場さんも少し気持ちが変わったみたい。いつも来てるし、東京だけじゃなくて、たとえば12月の最強タッグを見に大阪まで行ったりしてたから「とんでもないヤツだな」って（笑）。

猪木さんは、そんなに好きやなかったけど、元子さんはいい人やった。本部席の隣の席、用意してくれたし（笑）

——「コイツは敵じゃないな」と（笑）。
ハンソン そうそう。で、そのうちに馬場さんとお話するようになって、10年近くず〜っと見させてもらったわ。
——いや、もっとだったと思います（笑）。わざわざ地方にも行ってたんですか！
ハンソン そうそう。とにかく、当時の最強タッグは信じられないようなメンバーやったからね。
——さすがですねえ（笑）。ボクなんかが子供の頃に見ていたプロレスは、リングサイドにイーデス・ハンソンさんか斎藤清六さんがいるのが当たり前だったわけですけど。
ハンソン フフフ。最初は試合があると、事務所には「この日はスケジュール空けといてね」って言ってたわけよね。
——完全にプロレス優先だったんですね（笑）。
ハンソン うん。最初は「わかりました」って言うてくれてたんやけど、事務所の人は「きっと誰かと食事したりとか、あとでタメになることをしてる」って思ってたわけやね。でも、プロレス中継を観たらリングサイドに私が映ってるやん。
——「こいつは仕事をサボってプロレスを見てる」、と（笑）。
ハンソン そのうち「空けてね」って言っても「プロレスでしょ！」って言われるようになってね（笑）。「何が悪い！」っていう感じだったんやけど。
いや、全然悪くないです（笑）。
ハンソン それで、みんなにも「私の唯一のレギュラー番組はプロレス中継だ」って冗談言ってたの（笑）。ノーギャラやけど、席はタダ！ いまでもときどき言われる、「昔、見てた」って。私、試合してるわけやないのに（笑）。
——客席にいるだけなのに（笑）。しかし、村松友視さんが『私、プロレスの味方です』で登場す

現在、和歌山在住のハンソンさん 仕事で東京に出てきたところをキャッチし、所属事務所（久米宏や古瀬絵理でお馴染みのオフィス・トゥー・ワン）で話を聞かせてもらいました。ちなみに前のページでハンソンさんが手にしている本は昭和46年出版のハンソンさんの英会話本（吉田豪所有）。表紙と同じポーズで撮影してみました

るよりも前の、まだプロレスファンに対する風当たりが強い頃からファンを公言してきたわけですよね。

ハンソン　当然、バカにされるわけよ。たいたい「プロレス？　あんなもん」って言う人たちは観てない人たちばっかりやから。「あれショーでしょ？」みたいな。そりゃあショーやけどもウソやないよって。ちゃんとトレーニングして技を身に付けないと、あんなことできないよ。しかも相撲と違って長い時間、試合運びしなきゃいけないし、立ち止まって「さあ、次はどの技いこうかな」って、そんなことできないでしょ？　やりながら試合展開を考えて、勝つためと魅せるためと両方を全部考えてなきゃいけないから。これはすごいって思う。

――そうやって周りを説得してたわけですか。

ハンソン　先入観でいろいろ言う人には、説得する必要もない。そうでなくてもファンはいるし、会場行ったらいつもいっぱいやもん。

　でも、猪木さんとかが「プロレスは闘いだ！」って声を大にして言ってた時代に、ショーを前提とした見方をしていたのが当時としてはホント画期的でしたよ。

ハンソン　あ、そうですか？　でも、ショーだけだとは思ってないから。

　ショーの中にも必ずリアルがあると。

ハンソン　そう。両方あるからいいのよ。だって、真面目にアマチュアレスリングをやってる人たちを悪く言うつもりはないけど、あれは退屈やよ。だいたい。

　ルールとかよくわかんないし（笑）。

ハンソン　ねえ。専門的な知識があったら「うわ～、いまの技ってすごい」ってなるかもしれんけど、私には非常に微妙な感じがする。でもプロレスは誰でもわかるやん。

　知識がない人にもプロレスはわかりますからね。

ハンソン　もちろん、わかるって言ってもレベルがあるし、技とか試合運びとか全てがわかるっていう人ばかりじゃないけど、そういうことがわからなくても、いろんなふうに楽しめる。年齢とか男女とか関係あれへん。それだから前座から観なあかんねん。いろんなレスラーがおるし、小さくてもすっごく面白いレスラーもおるしね。

　だからハンソンさんの原稿って、前座に関する記述が多いわけですよね。百田vsミスター林とか、高千穂vsミツ・ヒライとか、サムソン・クツワダとか、そういうことについて延々書いてるから（笑）。

ハンソン　いや、だってね、ミスター林は、おかしかったよ、あの人（笑）。途中からタイツもシューズもピンクにしたでしょ？　徹底的なワルやのに、あのピンクは何やねんと（笑）。ええやん、そういうのね。

　そういう役割分担的なものも含めての面白さですよね。

ハンソン　うん。レスラーもみんなわかってるよね。自分はどんなところにいる人で、何をするべきか。そりゃ、若い時はトップを目指して頑張るけど、段々と「自分はこの辺の役割やなぁ。これだったらファンは付いてくるし、評価してもらえる。ここでならやっていける」っていうのが見えてきて。それに徹してる人って、それこそプロやと思うよ。

　いわば職人的な感じで。

ハンソン　そういうのって、どの世界でもあるでしょ？　それをやっぱり評価すべきやと思うね。全部が全部スターにはなれないけども、ここでは自分の才能を発揮できるっていう居場所ってあるわけよね。それをみんな上手に見付けるっていうのは大変なことだし、自分のスタイルを創り上げて、それを評価してもらえるような形にまで持っていくっていうのはすごいと思うよ。

　プロレスを見てると社会がわかるってハンソンさんは言われてましたよね。

ハンソン　そんなのあんまり考えへんけどね、見に行ってる時は（笑）。

　あ、そうなんですか（笑）。

ハンソン　あとから考えてみたらっていう話やねんで。会場行った時は「どっちがどうやねん！」とか、そればっかですよ。

　それだけ現場で何度も見てると、ある意味スレちゃうようなことはなかったですか？

ハンソン　スレるっていうか、「また、これやるの？」っていう部分はあるよ。特にザ・シークとか、タイガー・ジェット・シンとか「またここで暴れて、あの表情して、あそこら辺の客の傘持っていかれるな」とか、そういうのをスレるっていうんだったら、そうかもしれんけど（笑）。同じように恐ろしいとか怖いとかの路線でも、ブッチャーは違うのね。もっと芸があって技もあったし、雰囲気があったよね。

　ホントに間の取り方が上手いですよね。

プライベート、オフショット

絶

ハンソン　上手いねぇ……（しみじみと）。あの人の不気味さは何回見ても、なかなか。

――ブッチャーが〝間〟で見せる人なら、シンは〝間〟がない人ですからね（笑）。

ハンソン　ガーーッていう感じやろ（笑）。それはそれで喜ぶ人もいたから呼ぶわけだろうけど。

――ハンソンさんの著書には「私の好みから言えば、シンには参加してもらわなくて結構」って書いてありましたね（笑）。

ハンソン　（真顔で）書いてあった、そんなこと？

――書いてましたよ！

ハンソン　だって、シンとか来たら座るとことか全滅やもん。あの人とシークは近くに来たら逃げなあかんねん。

　逃げないと確実に襲ってきますからね。

ハンソン　逃げんでもええ人っているわけ。暴れても、自分のイス持って、ちょっと避けたらそれで十分でね（笑）。でも、あの二人だけはわからへんよ。

――ましてや本部席の隣だと相当怖いですよね（笑）。

ハンソン　そうやで！　みんな本部席来て、机とかゴングに相手を叩きつけたりするやろ？　リングアナめがけていろんなことしたり。ホンマしょっちゅう逃げ回ってたわ（笑）。ただ、一番怖いとこではあるけども、一番よう見えるとこでもあるからね。

　ところで、一番好きな選手っていうのは、やっぱり交流のあった天龍さんだったんですか？

ハンソン　いや、一番好きっていうのは別にない。ジャンボ鶴田も良かったし、高千穂も良かったよね。

――カブキさんは上手いですからねぇ……。

ハンソン　テクニシャンやけど、つまらな～いテクニシャンじゃないの。地味だけど、あのエルボースマッシュをどの辺で見せてくれるかとかね。やっぱりザ・グレート・カブキになって帰ってきた時も、あれもまた魅せるんやね。ビャーーーッてするヤツ（笑）、あれも良かったねぇ。

――毒霧ですね。カブキになっても、試合自体は相変わらず地味でしたけど（笑）。

ハンソン　でも好き。ああいう人、好き！

　もともと天龍さんの断髪式直後に取材した時って、いきなり銀座と赤坂を飲み歩いたって話を聞いたんですけど。

ハンソン　いや、そうじゃなくて、一番最初に会った時って、まだ髷があったのよ。それで対談終わってから編集者も一緒に「ちょっと行きませんか？」って誘われて。その後に断髪式があって、「これからアメリカに行くんだ」っていうことになったんやね。誘われて行ったのは、そん時だけ。飲み歩いたっていうほどでもないよ（笑）。

――プロレスラーの方と、そんなに深い付き合いはしないタイプだったんですか？

ハンソン　そうですね。でも、特別な考えがあって、「避けた方がいい」とか、そういうのじゃなくて（笑）。ただ試合見に行ってるだけ。たまに全日のパーティーがあると招待状が来て何回か行ったけど、試合以外で一緒に遊ぶとかはなかったね。馬場さんは誤解が解けて、お友達になったあとは一回お食事に誘ってくれたけど（笑）。

　一回だけなんですか？　ホントに観客に徹してたんですねえ（笑）。

ハンソン　私、人権擁護団体のアムネスティをやってて、馬場さんに「それは何ですか？　一回その話を聞かせて下さい。それでお手伝いできることがあったら言って下さい」って言われて、そのためにお食事に呼ばれて説明して。もちろんその話ばっかりやないけども、賛助会員になってくれたり、いろんな人も紹介してくれたり、カンパもしてくれたりして。それと会場にカンパ箱も置いてくれて、選手のサインの色紙を売ってそのお金とか寄付してくれたりしたの。馬場さんはしゃべってみたら、いろんなことを考えてる人やね。ホントおもろい人。

――一体、どんな話をしてたんですか？

ハンソン　私、本を読むの好きやからそういう話をしたりとか、あと名前忘れたけど、パキスタン出身の人でメチャ背が高いのいたやろ？

――ああ、バンドー空手の強豪ラジャ・ライオンですね（笑）。

ハンソン　そうそう。あの人を試しに出したことあったよね？

　馬場さんと異種格闘技線をやった後、全日本に入門したって形になったんですよね。

ハンソン　それで、その人をどう思うかって聞かれたんよ。

――ダハハハハ！　ラジャ・ライオンの処遇について相談を受けたんですか（笑）。

ハンソン　「人気出ると思う？」とか聞かれて、「他の人はどう思うかわからんけど、私はそんなにええと思わん」って正直に言ったわ。

――また正直ですねえ（笑）。

ハンソン　うん。だって、おもろないやん。大きいだけよ。そう言ったら、「そうかぁ」って、葉巻をふかしてたけど（笑）。

　ハンソンさんは、そんなアドバイスまでしてたんですか（笑）。

ハンソン　アドバイスっていうか、雑談やと思うけどね。「輪島どう思うか？」とも聞かれたよ。

　どう答えたんですか？

ハンソン　「笑わしてくれる」って言った（笑）。

　どういう意味なんですか、それは（笑）。

ハンソン　いや～、何か……トロいわぁ（笑）。何かね、技と技がつながっていかへんのよ。無理もないよ、相撲だったんだから。天龍さんも最初それは難しかったもんね。

　技は出来るんだけど試合の流れが作れない、と。

ハンソン　そうそう。これはあんまり言うたら可哀想かもわからんけど、輪島ってボヤーッとした感じやろ？

　はいはい。天龍さんがある程度、激しい技を仕掛けるようになってから、ようやく光るようになりましたけどね。

ハンソン　私はあんまり好きじゃなかった。もちろん話題性はあったよ、横綱だし。でも、やっぱりず～っと最初からレスリングやってる人たちと比べたら全然違うもん。

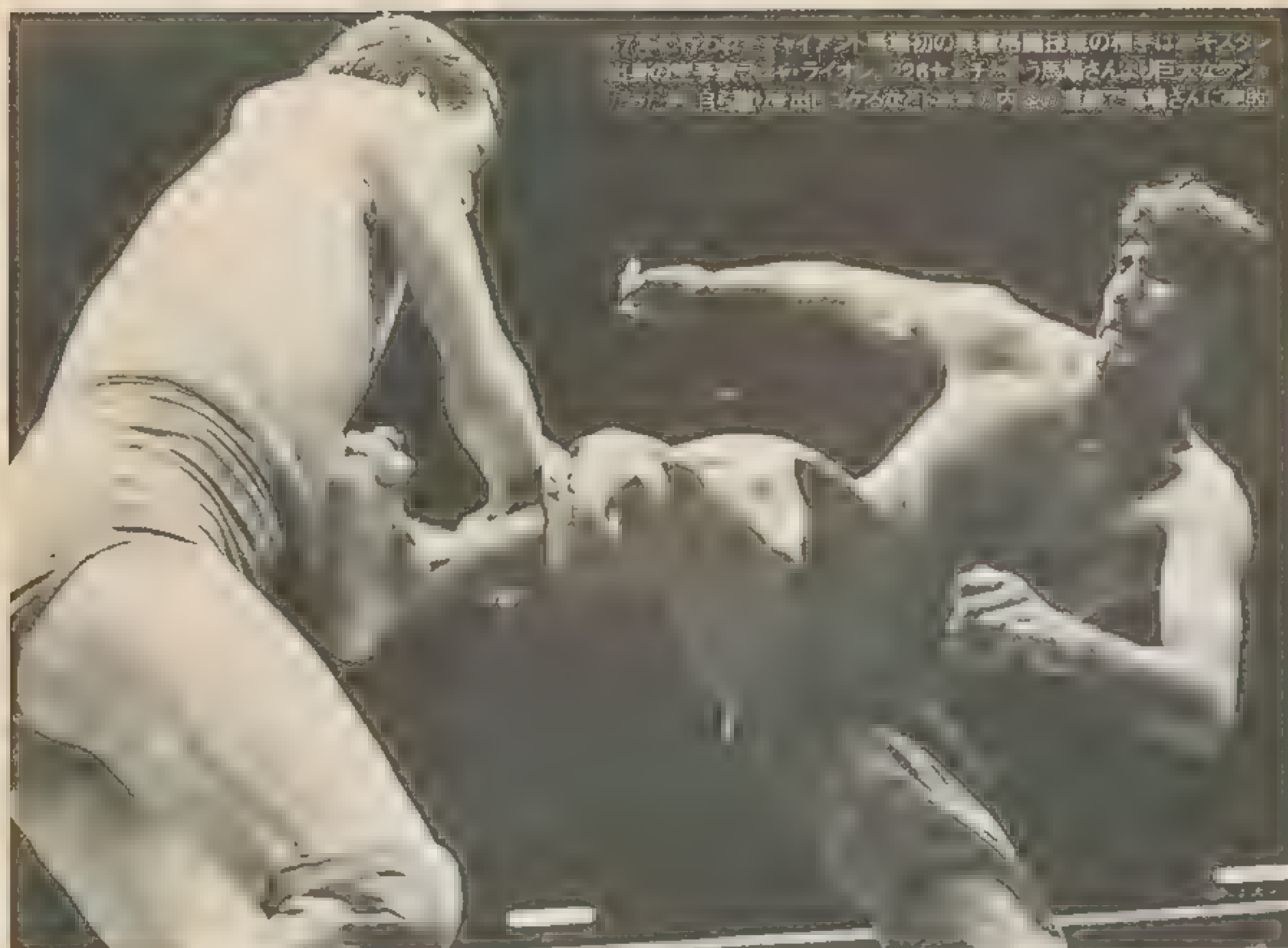
――高千穂とは違うと（笑）。

ハンソン　えらい違いですよ！　ジャンボとも違うしね。

　以前、天龍さんみたいに転向した力士が相撲の世界で悪く言われることに対して「身体が大きいくせして、親方連中は気が小さい」とか書いてましたよね。

ハンソン　いや、だいたい相撲の方はプロレスを認めないから。若い連中は憧れて、プロレスを見に行ったりするけども、親方連中は「あんなの邪道だ」とか「ホンマのスポーツと違う」みたいなことを言うから。相撲協会っていうのは、仕組みからいって全

高千穂も良かったね。テクニシャンやけど、つまらな～いテクニシャンじゃないの

ハンソンさんが好きな選手として名前をあげたのがカブキ（高千穂明久。ちなみに高千穂はミズーリ河に身を投げ行方不明に　流血試合は好きではなかったというか「カブキは額からピュ～って飛ばすからえぇねん」とハンソンさん

部別世界ですよ。

——女性も上がれないですしね。

ハンソン そう。しきたりとか伝統とか、そりゃええよ。たけど、それのみがスポーツ界の値打ちで、〝聖なる相撲〟〝他はそれよりも落ちる〟みたいな感じやけど、それは違うでしょって。それぞれ値打ちがあって、誰にでもできるもんやないですよ。相撲からプロレスに来たら自動的にトップにいけるか、ホントにいい試合観せてもらえるかっていったら違うもんね。

——輪島さんがそうでしたからね。

ハンソン もちろんその反対もあると思うよ。だからどっちがどうって言うんじゃないんだけど、それぞれの値打ちがあると思うわけ。

相撲ファンとも闘ってきたみたいですよね（笑）。

ハンソン 相撲ファンに限らず、「プロレス好きや」って言ったらホントにバカにされるからね。「アンタも物好きねえ」みたいな（笑）。でも、全日、新日、国際の3団体あった時代が面白かったね。ライバル意識があって。

いまとは外人選手のレベルが決定的に違いますからね。

ハンソン すごいのが毎シリーズ来てたもんねぇ……。ファンクスとかビル・ロビンソンとか、あいうのが見られたのが私は幸せたと思う。あとテッド・デビアスとかも。

——ブロディとかはどうですか？

ハンソン ブロディもすごかったな。すごくいい身体やったし、あの大きさであの動きやろ。若死にしちゃったけどね。私、ウサギ飼ってて。

ウサギの名前がブルーザーだったんですよね（笑）。

ハンソン そう！ ウサギにあいう恐ろしい名前付けてたらおもろいやん（笑）。でも、ブロディはきわどかったね。ブロディはシークとかシンみたいなことはしないけど、ホントにどこまでこっち見てくれてんのかっていうのもわからんやん。スタン・ハンセンもまあまあ面白かったね。あの人が新日から全日に来た時、初めて馬場さんと東京体育館でやった試合はホントに最高やったで！

あの試合は最高でしたよ！ 馬場さんが死んじゃうんじゃないかとさえ思いましたからね（笑）。

ハンソン あれはもしかしたら、ず〜っと見てきた試合の中で一番たったかもしれない。馬場さんのこと、ホントに見直したからね。「やればできるじゃない！」って（笑）。

ーダハハハハー なんでいままでやらなかったんだ、と（笑）。

ハンソン だって、他の時は割と三枚目的な時も多かったでしよ。ラッシャー木村との掛け合いやら、「アニキ！」とか何とか言われたりして。そういう雰囲気で出る試合も結構あったから、

馬場さんに聞かれたことがあったの。「ラジャ・ライオンは人気出ると思う?」って

どんだけ闘争心とかがあるのか、あってもそれが相手に効くのかとか、あの試合までわからなかったよね。

あんなにやれるとは思いませんでしたからね（笑）。

ハンソン 「そう！」見に行ってた？

——いえ、生観戦じゃなかったですけどテレビで見ててビックリしましたよ。

ハンソン いやぁ〜、あれは傑作！

猪木さんへのライバル心とかのおかげで、ああいう激しい試合になったんでしょうね。

ハンソン そやね。あの体育館も建て直したからもうないけど、あの雰囲気も最高やったね。

結構、あの時の会場には新日ファンも多くて、みんな「馬場なんかハンセンに絶対やられちまうぜ」みたいな感じで見てたのが、途中から「あれ？」ってなって（笑）。

ハンソン そう！ 馬場さんがやられるのを楽しみに来てる人がいっぱいいたわけよ。

当時は新日の方が人気がありましたからね。

ハンソン なんのなんの！ あいうのって結構いいねえ。武道館たったかて3団体が一緒にやった時もあったよね？ あれも新鮮味があって、やっぱりお客も緊張してたし、あの日も良かった。

馬場＆猪木組が勝った瞬間、猪木さんが馬場さんにいきなり対戦表明したんですよね。

ハンソン おもろいよねえ、そういうのも（笑）。もちろん試合そのものが一番気になるけど、そのあとはどうなるとか、どういう

発言があるのかとか、どんな態度であの二人が出てくんのかとかね。

仲悪い者同士がどうやって組むのか、とか（笑）。

ハンソン そうそうそう。途中でそっち同士がやちへんかなとかね（笑）。

ショーだ何だって言いますけど、人間関係は明らかに真剣勝負ですもんね。

ハンソン そうそう、新鮮味があったね。いくらショーだから何たからって、どっちもものすごくプライドがあるし、そういうのを見るのも面白かったねぇ。

あと、ハンソンさんがプロレスについて書いてる原稿で面白いと思ったのが、「プロレスはは動物学の表現でいうと、雄同士のディスプレイみたいなものだ」という表現なんですよ。

ハンソン まさにそうやねんね。威嚇して、「俺はお前より強いぞ」っていうのを、いろんな形を使って表現してるというか。

特徴を目立たせてアピールし合って、キャラクターをぶつけ合うわけですもんね。

ハンソン そういうこと！

あと、「レスラーに注意するレフェリーの真剣な演技」とか著書に書いてましたけど、ここで敢えて〝演技〟という言葉を使うのがすごいと思ってたんですよ。

ハンソン でも、そうよ。タッグマッチだと、レフェリーが困った顔して「何でこんな悪さするの！」って叱ってると、後ろの方で悪いことしてるわけやろ？ それがわかった上で演技する。だから、誰が良かったってジョー樋口が良かったよねぇ（笑）。

馬場さんとハンセンの最初の試合は ホント最高やったで!　あれは傑作!!

抜群でしたよねぇ（笑）。

ハンソン　あの人はいつも「何で私はこういう人たちと付き合わなきゃいかんのか……」って、そんな感じやねん（笑）。

全身で表現してましたからね（笑）。

ハンソン　それが何とも言えん。そんでね、あの人は動きもキレイやったよ。体つきもスカッとしててね、なかなかよ。

すぐに失神しちゃうし（笑）。

ハンソン　そうそうそう（笑）。

和田京平さんのレフェリングも絶賛してましたよね？

ハンソン　彼も「チッ！」って舌打ちして「お前はもう！」って真剣な顔して言うやろ（笑）。

プロレスの魅力って、そういう部分も含めて、いかに楽しめるかですよね。

ハンソン　そやねぇ。でも、プロレスラーって、みんな、ようあんだけの激しい運動して、結構いい年になるまでやれるもんだねと思うわ。これはホンマにすごいと思う。他のスポーツってあんな年齢までやってないよ。

普通のスポーツ選手なら40歳前に引退するのが当たり前ですけど、プロレスは40歳から脂が乗ってきますからね（笑）。

ハンソン　馬場さんは60歳ぐらいやったやろ？　それはすごすぎるわ！（笑）。

――ですよね（笑）。ただ、そんなことを書いた原稿の中で、挿し絵もご自分で描かれてたじゃないですか。そこに本文に全く関係ない、「やっぱりジュースだけじゃ格も下がるわ」っていうキャプション＆イラストがあったんですよ。

ハンソン　え？　忘れてるなあ。それ、どういう意味やの？

「ジュース」には「流血」っていう隠語もあるんで、「流血試合たけじゃ格も下がる」という意味なのかなってボクは勝手に解釈したんですけど。

ハンソン　……わからん。無責任やなあ、私（笑）。

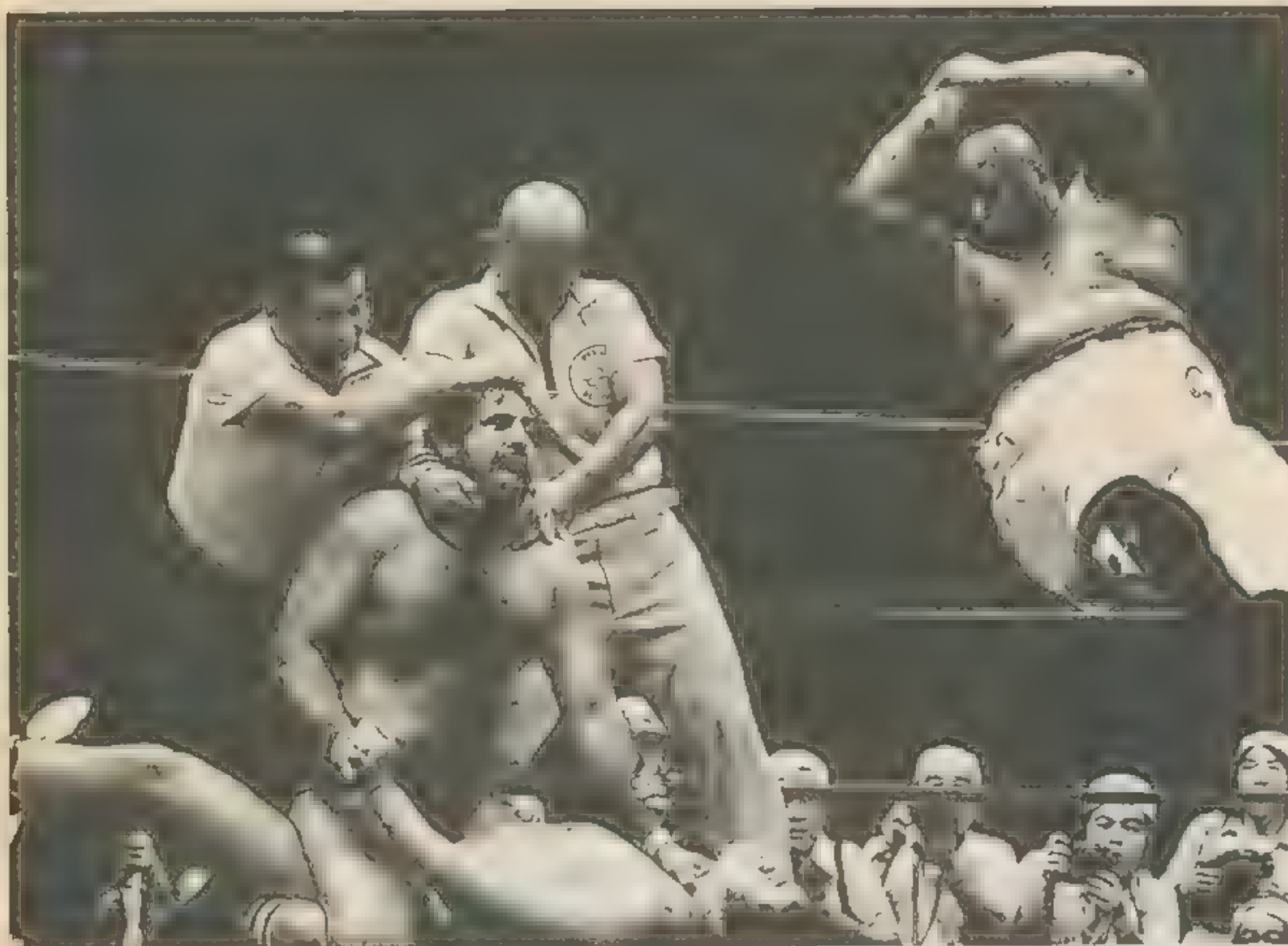
ダハハハハ！　ただ、実際に「流血試合は嫌い」みたいな発言はしてましたよね。

ハンソン　確かに流血試合を、興奮して「是非やって欲しい」とは思わないよね。明らかに自分で切ってるっていうのはあるからね。

リングサイドだと全部見えちゃいますからね。

ハンソン　「アーーーッー」って叫んでる時にシュッシュッシュッてやってるわけやろ（笑）。ブッチャーと話した時は「血が出るのを見たいんでしょ？　それがあるからいいんでしょ？」みたいなことを言うねんね。私は「別になくてもええ。自分で切って出してるのわかるし」って考え方だから、「それが出たからってねえ、別に」って言ったよ。

自分で切ってるのを見て、失望してファンを辞めちゃう人もいますからね。

ハンソン　自然にぶつかって出る時は出るから、それなら「まあ、それぐらいのことしてたら出るわ」って思うけど、そんなに「出なきゃ物足りない」とは思わない。ブッチャーとは一度、飛行機で隣に座ったからいろいろしゃべったことあるのよ。「絶対に内緒だ」って言われたから何を話したのかはここじゃ言えないけど、一緒に踊りに行ったこともあるから（笑）。

―ちなみに、一番最後にプロレスを見に行ったのって、いつぐらいになるんですか？
ハンソン　馬場さんが死んだ時、武道館に行ったよ。そのために和歌山から出て来てね（笑）。
　別れの挨拶だけはしたかったんですね。
ハンソン　うん。それはやっぱり行かないとね。あれは良かったね。馬場さんのために、こんだけのすごい人が集まったんだなって。キラー・カンやらいろんな人が来るわけやね。長いこと顔見てないっていう人にも会えたし。あとドームでやった試合。あれも行った。
　馬場さんの引退興行ですよね。
ハンソン　私は引っ越したのは17年前なんやけど、それからプロレス見に行ったのは和歌山の白浜町の体育館に行ったのと、引っ越した直後に仕事で東京に出て来た時、たまたま時間があって2回ほど後楽園に見に行ったのと、馬場さんの引退試合。この17年間ではそれだけしか行ってない。
―テレビでも見れなくなっちゃったし。
ハンソン　もうわからない。ものすごく団体がいっぱい分かれて、馬場さんが亡くなってから全日も随分変わったし。

ブッチャーとは一緒に踊りに行ったこともあるし、ここじゃ言えない話もいろいろしたわ

イーデス・ハンソン

―すっかり変わり果てちゃいましたね（笑）。
ハンソン　三沢さんや百田さんもみんな出ちゃってねぇ。
　やっぱり、昭和の全日ファンとしては大量離脱は寂しかったんじゃないですか？
ハンソン　寂しいよ、やっぱり。馬場さんはすごいものを創り上げてたもん。馬場さんの顔であれだけすごい人たちをいつでも呼べるっていうつながりがあって、こっちから若いのを送って教えてもらう。ドリー・ファンクJrにお世話になってる人たちっていっぱいいるもんね。そういうものが崩れていくのは、やっぱり寂しいね。国際が崩れていくときもそう思ったよ。小さい団体やったけど、グレート草津やマイティ井上とか、おもろい人もたくさんいたしね。
　結局、三沢さんとかが大量離脱したのも元子さんとうまくいかなかったからってことみたいですけど、実際接してみた元子さんはどうでした？
ハンソン　私にはものすごくしゃべってて楽しい人だし、普通のいい人よ。だけど、レスラーの立場はまた違うし、これもいろいろ噂話はあるよね。そういうのを聞いて「そうかな」っていうのもあるけど、あんまり言いたくない。私には、いろんな意味で、ものすごくよくしてくれたから。元子さんは、とにかく馬場さんを大事に大事にっていう人だからね。
―馬場さんが絶対な人ですもんね。
ハンソン　もう絶対的。とにかく馬場さんを立てて大事にするっていう人。
―三沢さんが馬場さんの色を消そうとするのが、元子さん的には許せなかったのもわかるし。
ハンソン　だから、馬場さんがいなくなったら元子さんもすごくやりにくいと思うし、レスラーの人たちのいろんな考えもあって、まあ難しいと思う。それ以外のことはあまり言えないけど（笑）。
―いろんな選手に聞くと内部のゴタゴタがあったのは間違いんですけどね。
ハンソン　うん。それは私もいっぱい聞いてるし。
　でも、なるべくそういう部分は見たくないわけですか？
ハンソン　もちろん、一個人として興味はあるよ（笑）。これで団体が変わるのかとか、やっていけるのかとか、人がいなくなるのかとか、それはものすごく知りたいけど、知ったからって「私、知ってますよ」って言うのは好きじゃない。で、知ってるからって言わなきゃいけないっていうことはないでしょ？　それですごく世話になったお陰で、いい思いをいっぱいさせてもらったからっていうのもあるし。
―どうせ話すなら、いい思い出を語りたいと。
ハンソン　そう。ああでもない、こうでもないって言ったら馬場さんも喜ばないと思うし。難しいことはいっぱいあったと思う。それは言える。それは誰でも知ってるけど（笑）。
　まあ、そうですね（笑）。
ハンソン　すみません。それしか言えない。
　そういう生の感情が聞ければ問題なしです！　いまはそういう分裂とかもあってプロレス人気が落ちて、いまゴールデンタイムでは格闘技ぐらいしか放送されなくなってるんですけど、そういう状況って元プロレスファンとしてどう思います？
ハンソン　そりゃ寂しいよ。でも、結局こういう話になると、昔は良かったっちゅうことになってしまうんやね（笑）。もう、それはどっちの形が好きかっていう好みの問題やろ。
―K-1とか「PRIDE」は見たことはあります？
ハンソン　チラッとしか見たことない。だけど別にそれが正統派のプロレスと比べたら落ちるとか、そういうのはないよ。それやったら、相撲よりプロレスが落ちるみたいな話と同じやん。違うやろ？　ただ、私の場合、「あの時代は懐かしい」言うなら、プロレス以外はそれほど懐かしいことないからね（笑）。
　ダハハハ！　ただ、あの頃のプロレスが懐かしいだけなんですか？（笑）。
ハンソン　やっぱりプロレスは楽しかったからね。「今日はプロレスだ」って感じでいつもワクワクしてたわけよ。ああいうのを、ず～っと何年も経験してたら、「あぁ、良かったなぁ」って思うよね。それは、ものすごくいい経験として記憶に残ってる。
　最近は、新日の元レフェリーが「プロレスは全部ショーだ。筋書きが決まってる」とか暴露したこともあって、プロレスに逆風が吹いてるんですよ。
ハンソン　プロレスをやってた人たちが、それ言ったらイカンよね

え……。そういう魅せる部分はたしかにある。それは誰も否定しないし、あってもええやないの。でもそれが全てっていうんではないでしょ？

――その中にリアルなものがいかに混ざっているかっていう。

ハンソン そやね。やっぱり、技術とか体力とかインサイドワークとか、そういうのがなかったら見れるような試合にならないでしょ？

ただ強いだけじゃプロレスはできないですからね。

ハンソン そうそうそう。いろんな要素が上手く絡み合ってこそ、すごい試合になるわけよね。どのスポーツだってそうよ。他のスポーツにショーの部分はないかって言ったら、それはウソになるでしょ？

そういう要素は、必す含まれますよね。

ハンソン 野球だって見せてくれるしね。いまワクワクして見るいうたら野球やもん。

あ、野球も好きなんですか？

ハンソン 野球というか、近鉄か好きなの。たから、今年はもう大変や！

――リーグ制問題ですね（笑）。

ハンソン 我が愛するバファローズかねぇ……。

ナベツネ、ふざけるなと（笑）。

ハンソン 署名してもらいたいわ、ホンマに（笑）。

――せっかくだから『紙プロ』読者にも呼び掛けますか？

ハンソン それはお願いしたいわ。まだ間に合うから、皆さんも署名して！

――最後に宛先を入れておきます（笑）。いま、ゴールデンタイムで普通に見られるスポーツって野球ぐらいですもんね。

ハンソン でも、野球は巨人しか見せてくれへんから腹立つやん。私はパ・リーグが見たい！

そこもナベツネふざけんなってことですね（笑）。

ハンソン そうそう。

日本テレビには全日を中継してもらった恩はあるけど（笑）。しかし、「プロレスは真剣勝負じゃないんだ」ってショックを受ける人たちに、ハンソンさんの見方を早めに学んで欲しかったですよね。

ハンソン そんなもんショック受けんでもええやん。真剣勝負じゃない部分もあるけども、だけど、タイトルマッチとか、そういうのだったらねえ、そらあ違うよー

あ、違いますか!?

ハンソン やっぱり、タイトルマッチは真剣よ（キッパリ）そういうくだらないこと言うヤツには、馬場さんとハンセンの試合を見て欲しかった（笑）。

まあ、あの試合を見たら細かいことを言う気はなくなりますからね（笑）。

ハンソン でしょ？ でも、ああいう試合って、いまあり得る？

――難しいでしょうね。多分、どこか冷めて見てる部分があるから「馬場さん、殺されちゃうんじゃないか」っていう感情を持てないと思うんですよ。

ハンソン じゃあ、ええの見たね（笑）。ホントにそう思うよ。

――ハンソンさん的には、あの試合がベストですか？

ハンソン 一番印象に残ってるねえ、やっぱり

ちなみに、プロレスラーの中で誰が一番強いと思ってました？

ハンソン う〜ん、その時々でいろいろあるからね。だけど、全体的に見て、力があって、動けて、技もいっぱいあってっていう意味では、ザ・ファンクスも若い時は強かったけどね。テリーはワーッて燃えるタイプで、ドリーは技術を見せてくれるタイプ。どっちも強かったけど、たたたた肉体的な強さで言うと、ブルーザー・ブロディはすごかったね。

――圧倒的でしたよね

ハンソン スタン・ハンセンも強かったと思うけど、ブロディの方

いーです・はんそん■1939年8月26日、インドのマスーリ出身。1960年に来日してからは、テレビ、ラジオから文筆活動まで幅広く活躍。講演会の講師やシンポジウムにも幅広いテーマで参加している。1986年4月より1999年4月まで、世界的な人権擁護団体「アムネスティ・インターナショナル」の日本支部支部長をつとめた。現在は「社団法人アムネスティ・インターナショナル日本」特別顧問として、その活動を続けている。現在、和歌山県に在住

愛するバファローズがなくならないように、皆さん署名をお願いします

が動きがキレイやったね。私は専門家やないから、印象でこうんやけど（笑）。

――そんだけ数を見てれば問題ないですよ（笑）。鶴田さんはどうでした？

ハンソン ジャンボも強かったね。スタミナもすごかったし、なかなか。

――日本最強と言いたいぐらいでしたよね。

ハンソン そやね。猪木も強いことは強かったけど、ジャンボは良かったね。大きいけど動けたし。結構、彼もしゃべったらあんまりおもろないんやけどね（笑）。

くだらないギャグを連発するんですよね（笑）。

ハンソン そやろ（笑）。だけど、本能的なレスリングのセンスはすごかったよね。

闘争心とかはないんですけとね（笑）。

ハンソン 一応ね、ロープに上がって「オー！」ってやる時は、頑張って言ってるなっていう感じやけどもね（笑） だけど試合運びとかインサイドワークは良かった。

ホントそういう言葉を聞いてると、数見てるなっていう感じがしますね。

ハンソン そう？ その時期だけよ（笑）。

――それだけいい時期を見てれば問題ないですよ。

ハンソン いい時期だったねえ、ホントに。

――でも、馬場さんと鶴田さんがいなくなると気持ち的に絶たれちゃう感じはわかりますよ。

ハンソン 変わり目というか、時代が終わったっていう感じよね。そういうのって寂しいけど、永久にその人がずっとやれるわけじゃないからね。まあ、私は、いい時代にええもん見せてもらったから、いいんだけど（笑）。

ハンソンさん的には、当時の全日本の最前列の雰囲気に優るものはなかったわけですね。

ハンソン そりゃそうよ。全部一番前！ 国技館でもどこでも本部席の隣。もう最高やったねぇ……（しみじみと）。

――今日はホントにありがとうございました！

ハンソン いえいえ、こちらこそ。あ、最後に、もう一回お願いしていい？

――何でしょうか？

ハンソン 愛するバファローズがなくならないように、皆さん、署名をお願いします！

ダハハハハハー

【8月1日／港区六本木「オフィス・トゥー・ワン」事務所にて収録】

ハンソンさんも愛する近鉄バファローズを守ろう！

いまならまだ間に合う!?
近鉄&オリックスの合併反対運動に賛同する人は
下記のアドレスから署名してくれへんか？

※Webサイト→http://prismatica27.hp.infoseek.co.jp/pride.html
※署名ページPC用→http://prismatica27.hp.infoseek.co.jp/syomei.html
※署名ページ携帯用→http://prismatica27.hp.infoseek.co.jp/i/yotei_i.html
※俳優の藤田まこと、ハイヒール・モモコ、太平サブローらが発起人を務める「バファローズの存続に関するHP」→http://gaiti39.gogo.tc/kintetu/

8・18 U・STYLE 後楽園ホール

『初代チャンピオン決定トーナメント』観戦記

世界の片隅で"U"を叫ぶ タ・ム・ラ・キ・ヨ・シを見よ!

ターザン山本!

撮影/平工幸雄

時代の流行に背を向け
ただひたすらに我が道を行く男、
それがタ・ム・ラ・キ・ヨ・シだ！

ギリシャのオリンピックでもなく、『PRIDE』のGP大会でもなく、新日本プロレスのG1クライマックスでもなく、プロ野球のペナントレースでもなく、ただひたすら"U"の1文字に生きる男

またオリンピックの華々しい会場でもなく、さいまたスーパーアリーナでもなければ、両国国技館でもなく、天下の屋根付きドーム球場でもない ただ、ひたすらひっそりと、限りなくひっそりと後楽園ホールで燃える男

お前は一体、何者なのだ 名を名乗れ！

そう赤いパンツの頑固者。誰が付けたのか、そんなニックネームで呼ばれた男

まだ、こだわるか。すでにマット界の死語となった言葉"UWF"。今からちょうど20年前、1984年（昭和59年）4月に誕生したUWF。

俺、あの時38歳。お前まだ15歳。俺とお前の年の差なんと23、ああそれなのに"U"を青春として共に生きてきた俺とお前は同時代人だった。

10年一昔なんてものじゃないぞ。Uってもう20年一昔なのだ。言っとくが俺が元祖Uだからな あの長州力が 山本、Uはお前だ！」と言ったのを憶えているだろう？

忘れやしないよな そして今、本家本元のUはお前だ！ タ・ム・ラ・キ・ヨ・シだお前もついに35歳か。

何がグレイシーだ！ 何がUFCだ、アルティメットだ！ 何がK－1だ！ あらゆる時代の流行に背を向け、そしてすべてのマスコミに踊らされず、汁にも負けず、夢にも次にも負けず我が道をゆく男

そこにUの道がある限り、そこにUの幻想がある限り、そこにUの名前がある限り、タ・ム・ラ・キ・ヨ・シありきなのだ

金メダルにも銀メダルにも銅メダルにもいっさい目を向けず、みんなU・STYLEを見に行こう そこには俺の大好きな、君らの大好きなマイナーパワーがあるから

ボクの人、人、人好きなタ・ム・ラ・キ・ヨ・シがいるから さらば裏切り者たちよ！

かつてUを支持しUに熱狂した者たちよ！

お前たちはどこへ行ったのか？ 変わりなき日常に埋没していったすべての裏切り者たちよ！ お前たちが見捨ててしまったU。そんな時代の裏切り者たちを裁くためにまだまだここに生きながらえている男がいるのだ

たったひとりのひねくれ者によって！ たったひとりへそ曲がりによって！

お前らひねくれる勇気もないのか？ お前らへそ曲がりになる努力もしないのか？

日常に帰れ、帰れ、帰れ！ そこがお前たちの職場だ さぞ安住の地になることだろう Uのことなんかもうとっくの昔に忘れたのだから

あれは青春の麻疹（はしか）かそれとも青春の瘡蓋（かさぶた）か？ てやんでえ、おっとチョット待て、冗談じゃないぜ、Uがなぜ青春の麻疹なんだよ、瘡蓋なんだよ、ふざけんじゃないぞ

タ・ム・ラ・キ・ヨ・シがいる限り、お前たちは逃げられないからな わかっているだろうな あいつはさぁ、この世界にUのファンが誰もいなくなっても、U－STYLEをやり続けていく男さ。

裏切り者たちを見届けるためにな。オー、なんということか。8月18日、水曜日、後楽園ホール。

ここは世界の中心かそれとも世界の片隅か？ オリンピックに比べたらそこはやっぱり世界の片隅さ

世界の中心で愛を叫ぶ？ タ・ム・ラ・キ・ヨ・シは後楽園ホールでUを叫ぶのだそうさ、ここはどう見ても世界の片隅さ、そんなこと言われなくてもわかってる

しかしだ、Uにとってはここは世界の中心さ、だから言うぞ、タ・ム・ラ・キ・ヨ・シは世界の中心でUを叫んだ、どうなんだよ、君は今、どこにいるの？ どこへ行ったの？

お前らのいる所は世界の中心か？ 違う、世間の中心だろう ご苦労さん。世間の中心で愛でもなんでも叫んでいろ！

オリンピック？ そんなものくれてやるよ、もってけ たかが4年に1回の祭りだろ、タ・ム・ラ・キ・ヨ・シはUWF20年戦争だよ、

Uへの思いはいつもエンドレス 君らは世界の片隅でU・STYLE初代チャンピオン、タ・ム・ラ・キ・ヨ・シを見たか？

見たよね？ 世はオリンピックの真っ最中。U、U、U、ユー、ユー、ユー！ お前の人生どっちだ。世界の中心か、世間の中心か？ それとも世界の片隅か？ ハッキリさせろ！ もう1度、Uの聖地に行くんだよ！

1回戦を勝ち抜い4人が優勝を争うこの日、準決勝、垣原vsアレクでハプニング発生！ 開始早々、垣原のミドルキックがアレクのヒジに当たり、足首を痛めた垣原は悶絶。試合続行不可能となり、アレクが決勝進出。期待された田村vs垣原はここで消えた。続いて、同じく準決勝、田村vs伊藤はこの日のベストマッチ。伊藤が、体格差を利用し打撃でガンガン押していき、序盤はポイントをリード。田村もこれを真っ向から受け止め、両者ボコボコの壮絶な一戦は、伊藤のハイキックを裏アキレスで捕獲し、逆エビに移行した田村の逆転勝利。田村が決勝進出を決めたが、伊藤も大いに株を上げた。そして決勝の田村vsアレクは、準決勝で痛めたアレクのヒジを田村が非情にも蹴りまくりTKO。予告通り、初代王者に輝いた。なお、この日は健介＆中嶋君の"健介ファミリー"も登場。健介は"スーパーベイダー"、中嶋は"スーパータイガー"のような動きで大いに沸かせた。

「ZST日本人頂上対決」ついに実現!
“小さなV・ハン”が“KOKの申し子”に挑む!!

所英男

「小谷戦は集大成であり出発点。ZST・GPにも優勝したいし、前田(吉郎)選手とも闘いたい!」

『ZST』が、満を持して放つ切り札カード、小谷直之 vs 所英男の「日本人頂上対決」。旗揚げ以来、エースとして引っ張ってきた小谷、対するは、このところ神懸かり的に劇的な名勝負連発の所。まさに好勝負必至のこの一戦。“挑戦者”的立場の所に意気込みを聞いてみた。

かつてZSTの前身とも言えるリングスの『バトルジェネシス』で実現している小谷 vs 所(01・9・21後楽園)。このときは、寝技、立ち技両面で小谷が圧倒し、判定勝ち。しかし、現在の勢いは、断然、所の方が上回っており、さらなる激戦は必至。これは見るしかない!

——NO・75で掲載したZSTガール尾藤ゆうさんとのカラー7P対談に次ぐ所英男企画として、今回はドドーンとカラー1Pでお送りいたします(笑)。

所 やっぱりボク一人だと、それくらいの扱いなんですね(笑)。

——前回は尾藤さんのグラビアで7Pぶん(笑)。

所 そんな気がしてました(笑)。

——では、スペースもないのでさっさと本題に入ります。いよいよ9・12『ZST6』では、〝ZST日本人頂上対決〟が実現しますけど、小谷直之選手というのは、所選手にとっても特別な相手ですか?

所 はい。3年前にリングスでやったときにボクが負けて、そのあとも小谷君はリングスに出て勝ち続けていたんで目標にしてた部分もありますし、小谷君がいなかったらZSTもなかったと思うんで、やっぱり特別ですね。

確かにリングスでの小谷 vs 所戦がZSTの〝原点〟みたいな部分はありますよね。そしていま、いよいよリベンジをはたし、名実共にエースの座を奪うときが来たと。

所 そろそろかなと(笑)。

——密かにエースの肩書きは狙ってたんですか?

所 そうですね。やっぱりボクはZSTで頑張っていきたいんで、いつかはと思ってたんですけど。ZSTが始まったころはまだ天と地の差があったんで。

——天と地ほどではないでしょう(笑)。

所 実力差は確実にあったと思うんですよ。でも、ここ最近なんかボクも調子がいいんで、勝つなら今しかないかなと。

——それは無敗だった小谷選手が、ちょっといま伸び悩み気味だというところもあるんですか?

所 それは全然思わないですね。(マーカス・)アウレリロ戦とかバッティングでレフェリーストップ負けになっただけで、あのまま続けてたら勝ってたと思いますし。マーカスはこの間『PRIDE武士道』で三島(☆ド根性ノ助)さんと凄いレベルの高い試合をしてましたけど、小谷君もそのレベルにあると思うんで。

——そして、自分もそのレベルにあると(笑)。

所 いや、ボクはそんな……でも、ZSTのリングでは負けたくないです。ただ、欲を言えば、お互い優勝してから闘いたかったというのはありますけどね。

——お互い優勝というと?

所 小谷君は10月(16日)にアメリカでやるライト級のトーナメント(ミクスド・ファイティング・チャンピオンシップ)に出場が決まってるんですよ。なんか凄いメンバーが揃うみたいなんですけど(五味隆典を破った修斗王者ヨアキム・ハンセンや宇野薫に勝ったエルメス・フランカ、UFCの強豪イーブス・エドワーズなどが参戦予定)、小谷君なら勝ってくれると思うし。あと、ボクは今年のZST・GPの優勝を狙ってるんで。

——あ、今年もZST・GPがあるんですか?

所 なんか年末に8人トーナメントで優勝賞金300万円であるみたいなんですよ。しかも、去年は70キロ未満契約だったんですけど、今年は65キロ未満らしいんで、チャンスだなと。

——それは所英男のための大会ですね(笑)。

所 でも、レミギウス(・モリカビチュス)も65キロが一番やりやすいと思うんで、面白いトーナメントになると思います。

——じゃあ、今年は上半期大活躍でしたから、小谷選手にも勝って、ZST・GPも制し、所英男の年にするチャンスですよね。実際、格闘技ファンの間では、所選手を軽量級のMVPに推す声も多いみたいですよ。

所 ホントですか? ありがとうございます。でも、前田(吉朗)選手もいるし。

——パンクラス無敗の前田選手 確か階級は一緒ですよね?

所 モロ一緒ですね。

——やっぱり意識はしてます?

所 ボクはしてますけど、向こうは眼中にないかもしれない(笑)。でも、やれば盛り上がると思うんで、できれば組んでほしいですね。向こうはパンクラス、ボクはZSTでルールが違うんで難しいと思うんですけど、グラップリング・ルールでもいいんで。

——相手は打撃が得意な選手じゃないですか(笑)。

所 まぁ、どんなルールでもってことで(笑)。でも、先のことはまだ全然考えてないです。小谷君に勝たないことには前に進めないんで。

——では今回は集大成であり大きな出発点という感じですか?

所 ホントそういう感じですね。ここで取ると取らないのとではえらい違いなんで。ZST=小谷からZST=所にしたいですね。やっぱりボクはZSTのおかげで強くなれたと思うし、バイクも買って、エアコン、パソコン、プレステ2も買えるようになったんで。

——ファイトマネーと賞金で生活レベルがあがってきましたか(笑)。

所 徐々に(笑)。でも、まだ部屋に風呂がないんですよ。

あ、まだ風呂なし。じゃあ、女の子を部屋に連れ込んじゃったりしたときはどうしてるんですか? 一緒に銭湯行ったりとか?

所 いや、もうそのまま。

そのまま-(笑)。

所 それでもボクはいいんですけど、相手がかわいそうなんで。だから小谷君に勝ったら風呂付きに引っ越したいですね(笑)。

——それはゼヒそうした方がいいと思います(笑)。では、「目指せ風呂付き!」ということで、小谷戦期待してます!

【04年8月13日/代々木『デニーズ』にて収録】

ZST.6
2004年9月12日(日)
Zepp Tokyo
開場16:30/開始17:30
※16:40よりジェネシスバウトを開始予定

■決定済みカード
◎佐東伸哉(PS LAB) vs ミンダウガス・スミルノヴァス(リトアニア)
◎ダリウス・スクリアウディス(リトアニア) vs 磯崎則理(U SILE CAMP赤羽)

■入場料金
VIP(最前列・1ドリンク付)¥15,000/SRS¥8,000/S席¥6,000/A席¥4,000(※当日購入は、一律1,000円増し)

■発売場所 チケットぴあ 03-5237-9999/後楽園ホール 03-5800-9999/書泉ブックマート 03-3294-0011/ZSTオンラインショップ www.zst.jp

■お問合せ ZST事務局:03-5388-0808 info@zst.jp

辻結花の本音ブチまけトーク

辻の やったね、辻ちゃん 金メダルをゲット!!

アテネ五輪に先駆けて行われた8・5スマックガール後楽園大会では、かつてアマレスで五輪を目指していた辻結花が柔術の強豪エリカ・モントーヤから見事一本勝ち！　やったね、辻ちゃんインタビューをどうぞ！

聞き手／松澤チョロ　撮影／平工幸雄

designed by Bun-Chan (Two Three)

柔術界の強豪エリカ・モントーヤに見事一本勝ち!!

YUKA TSUJI

――辻さん、ちなみに、今日は何をしてたんですか？

辻　今日は……走る？

――は？　ボクは走りつもりはないですけど（笑）。

辻　これから走るらしいです（笑）。

――ということは、もう普通に練習は再開しているわけですか？

辻　普通にっていうか、（菊川）夏子と、おっさんが9月に試合があるんで、それに付き合ってます。

――あぁ、9月4日のクロスセクションですね。で、今回、エリカ・モントーヤ戦での勝利で、『格通』や『ゴン格』でもインタビューされたとのことなんですが、どんな話をしたか覚えてます？

辻　え～と…どっちも似たようなこと話したような気がします。聞かれたことに対して答えただけなんで。

――そりゃ当たり前ですよ！（笑）。

辻　あっそっか（笑）。

――「エリカ戦を振り返って感想を聞かせて下さい」って感じですよね？

辻　大体、そんな感じです（笑）。

――ウチの発売は、ちょっと後になるので、今回のインタビューは試合の話プラス、辻ちゃんの素顔に迫ってみようかなと思ってるんですよ。

辻　あぁ～、でも素顔ってほどのもんはないですけどね（笑）。

――誰だって素顔はありますよ！

辻　そういえば、そやな（笑）。

――まず、他のマスコミと同じようにエリカ戦の話をうかがいますけど、ホント素晴らしい試合でしたね！

辻　あ、ありがとうございます！　ってつけたような感じやけど（笑）。

――そんなことないですよ（笑）。どうでしたか、振り返ってみると？

辻　あのねぇ、凄い強かったですよ。手足が長くて、未知の世界やった。

――未知との遭遇でしたか？（笑）。

辻　そうそう、そんな感じ（笑）。とんでもないとこから足が出てきたり、身体も凄い軟らかいし、最初バック取られたじゃないですか？　あの時、回っても回っても足しか見えないっていうか、相手の足の中をグルグル回ってた感じでしたね（笑）。

――こんなの初めて、と？（笑）。

辻　あんなん初めてやった（笑）。

――今回はパウンドありのルールだったんですけど、エリカ戦に限らず、

エリカのパパの方が年は近いのかなって考えました

―一番やりたいルールっていうと、やっぱりパウンドありになるんですか？

辻　面白かったんでね。チャンスがあれば、またパウンドありでしたいッスね。やっぱり、殴るのもそうやけど、殴られるかもしれないっていうスリルも面白かったんですよ。

―殴られるかもしれないっていう恐怖も楽しいってことですか？

辻　いやいや、別に殴られるのが好きなわけじゃないですよ（笑）。

―Mってわけではないと？（笑）。

辻　そういうんじゃなくて（笑）、殴られるかもってスリルが面白いってだけです。……でも、試合前のイメージではもっと殴ってたんやけど。

―もっとボッコボコにするはずだったんですね？

辻　は、はい（笑）。でも、あとから聞いたら、「関節取るのも忘れて殴りに行きすぎや！」って、みんなから言われましたけど（笑）。

―それはあったかもしれませんけど、「パウンドTシャツ」も作っちゃったし殴るしかなかったですもんね。

辻　そうそう（笑）。あんなTシャツ作っておいて、負けたら痛いなって思ってましたね。最後は、みんなが「腕十字！」って言ってたらしいんですけど全然気つかなくて、ギリギリになって取れたんで良かったです。

―エリカとは試合の翌日に取材で会ったみたいですね。

辻　はい。話したら、すっごいいい子でしたよ。なんかね、凄い悔しかったらしいんですよ。

―総合で初黒星を喫したわけですから、相当悔しかったでしょうね。

辻　でも、やる気を起こさせてくれたみたいなことを言ってたんで嬉しかったですね。アメリカに帰ったら早速練習するって言ってました。

―エリカパパとは話をしました？

辻　しました、しました（笑）。

―おたくというか、かなりマニアックな人みたいですけど、辻さんのことも当然知ってましたよね？

辻　あ、知ってました。

―ボクが聞いた話だと「久保田有希が結婚して近藤有希になったんだろ」とか「吉住絹代はどうしてるんだ」とか、マニアックな発言を連発してたみたいですよ（笑）。

辻　それは凄いなぁ（笑）。なんかね、アメリカのどっかの街で『格通』とか『ゴン格』とか買えるらしいんですけど、買う時に、そこの日本人の店員に詳しく内容を聞いてるらしいんですよ。

―それで詳しいんですね。見た目もかなり若い感じでしたよね。

辻　ま、また年の話ですか？

―いや、悪気はないです（笑）。でも、また19歳のエリカと闘ってみて年齢差っていうのは感じました？

辻　それは感じなかったけど、もしかしてお父さんの方が私と年は近いのかなって考えましたね（笑）。

―アハハハハ！

辻　あとで聞いたら、ギリギリ、エリカ選手との方が近いって聞いたんでホッとしましたけど（笑）。

―そういえば、エリカは試合前日に会見をやったんですけど、その時に、キャミソール一枚で現れて、しかもノーブラだったんですよ（笑）。

辻　エ〜〜ッ!?

―だから、お辞儀とかしなくても普通に丸見えだったんですよ（笑）。でも、本人は全然気にしなくて、「エリカさん、見えてますよ！」って誰かが教えてあげたら「アイム・ソーリー」って。いや、謝らなくてもいいですよって話なんですけどね（笑）。

辻　ハッハッハッハッ。やっぱり若さもあるんじゃないですか？

―辻さんも、10代だったら、それぐらいは平気なんですか？（笑）。

辻　いやいや、私は見せられないですけど（笑）。でもエリカ選手は可愛いですよね。私も見とれましたよ。

―見とれてましたか（笑）。一応、確認しておきますけど、女好きってわけじゃないですよね？

辻　いやいやいや、そういう趣味はないんで大丈夫です（笑）。それに、試合が始まったら、そんなの関係なしに顔とか殴ってましたからね。

―15選手とかは「顔面有りだと仕事にも影響するし、女だから顔を殴られたくない」って言ってましたけど、そういう意識はないですか？

辻　結構、私は顔に傷を作ったりしてると、「あぁ、格闘技やってる」って感じで、ちょっと嬉しかったりもするんですよ。勲章っていうか。そんで、仕事っていっても、私はイサミ（格闘技ショップ）じゃないですか？　だから、そんなに影響はないんですよね。逆に傷が出来たら「見て見て」って言いますからね（笑）。

―それは、ちょっと打たれ過ぎてるかもしれませんね（笑）。

辻　ハッハッハッハッ。

―で、時期的にオリンピックシーズン真っ盛りですけど、辻さんもレスリングでオリンピックを目指してた時もあったわけですよね。

辻　はい。一応、目指してました。

―エリカ戦の勝利っていうのは、辻さんにとって金メダルと同じ様な価値があったんじゃないですか？

辻　あぁ〜、そうかもしれないですね。自分でも凄いなって思いました。

―自分で自分をホメてあげたい？

辻　そうそう、ホメてあげたい（笑）

―今度会った時に金メダルを用意しますんで、受け取って下さい！

辻　ありがとうございます！　でも、中身はチョコレートでしょ？（笑）。

―多分そうなると思います（笑）。

辻　ハッハッハッハッ。チョコレートの金メダル楽しみにしてます！

―そういえば、入院中は辻さんも心配してたターザン山本！さんも会場に来てましたよね。

辻　久しぶりにお会いしました。

―試合後、ターザンさんは「俺が見に行ったから辻さんは勝てたんですよォォォ！」って炎上してました

8・5スマックガール／辻結花 vs エリカ・モントーヤ

1 毎回お馴染みとなっているのか入場時の辻マスク この日は、なんとライオン丸 もちろん、辻ちゃんは元ネタをほとんと把握していない 2 一方のエリカは柔術衣をまとい颯爽と入場 3 マスクを取ると、いつもながら怖い顔に豹変する辻ちゃん 4 ゴング早々、エリカにバックを取られピンチの辻ちゃん 5 6 そこから得意の三角絞め、腕十字と休む間もないエリカワールドへ 7 8 スタンドでエリカのハイキックをかわした辻ちゃんはコーナーでパンチを叩き込む 9 10 11 この後もエリカの柔術テクに翻弄されるシーンも見られた辻ちゃんだったが、徐々にパウンドが炸裂したす 12 誰もが判定決着かと思い始めた3R4分過ぎ、辻ちゃんは腕十字でエリカから見事一本奪取！ 見てみ、辻ちゃんの嬉しそうな顔!!

ターザンさんが見に来てくれたんで勝てたんです！

けど、それは事実なんでしょうか？

辻 あぁ、そうですよ（アッサリと）。

――あ、事実でしたか？（笑）。

辻 間違いないです！（キッパリ）。

入院中に辻さんから花をもらってターザンさんは感激してましたけど、それを聞いたら、また必要以上に喜ぶと思いますよ。

辻 それは私も嬉しいですね。

――では、エリカ戦以降、辻さん的に新たな目標って何かあります？

辻 う〜ん、いまはまだ終わったばっかりなんで、次のこととか考えられないんですけど、たとえば柔術とか空手とかの大会に出てみたいなって、ちょっと思ってますね。

柔術か空手をやってみたいと？

辻 それか、相撲ー

――それは前から言ってますよね。

辻 やりたいなぁ。でも大袈裟じゃなくて、負けてもいいって言ったら、みんな怒るかもしれないけど、気軽に楽しみたいって感じで。

――キックルールとかはどうですか？ 打撃の技術も相当上がって自信もつけてると思うんですけど。

辻 キックもやるんだったらアマチュアで、ちょこっととかなら。

ガールズショックに出たいとか、プロの大会は考えてないですか？

辻 いやいや、私は陰でこそっと出る感じでいいんで（笑）。表に出たらウィンディ（智美）選手とかジェット（・イズミ）選手とかが待ってるじゃないですか？

「私と闘え！」とか言われちゃうでしょうからね（笑）。

辻 怖い怖い（笑）。泣かされへんようなところでやっていきたい。

では、現時点では特にやりたい相手はいないわけですね。

辻 まだまだオフモードなんで次の相手とか全然考えられないですけど、ぼんやりと言うなら、海外で旅行がてらに試合が出来れば最高！（笑）。

旅行がてらですか（笑）。

辻 それが出来たら最高やねぇ。

年齢的なことを言うのもあれなんですけど……。

辻 また、それですか!? ホント、電話切りますよ！（笑）。

い、いや違うんですよ。エリカ戦っていう大一番をクリアして、女性として結婚とか考えてもおかしくない年齢じゃないですか？ そういう可能性はあるのかなって思って。

辻 ハッハッハッハッ。

周りの友達とかも結婚してる人が多いんじゃないですか？

辻 多いし、それに私は周りからは、もうとっくに諦められてますね（笑）。

結婚は無理だと（笑）。結婚願望とかもそんなにないんですか？

辻 エ〜ッ!? ……難しいやろうなぁ、と思う。客観的に見て。

現役で試合をしているうちは無理ってことですか？

辻 どうなんやろ？ そういうのに向いてるのかなぁとも思うけどね。

それは主婦業も意外と上手くこなせるような気がすると？

辻 いやぁ、出来ない。無理（笑）。どっちなんですか!?（笑）。料理とかはダメなんでしたっけ？

辻 あぁ〜、ダメダメ、凄いまずい。

お父さんは料理人ってことですけど、習ったりはしないんですか？

辻 そうなんですけど、私の料理はまずい。食べれない。

じゃあダメじゃないですか？（笑）。料理はダメたけど、掃除とか洗濯は自信があるとか？

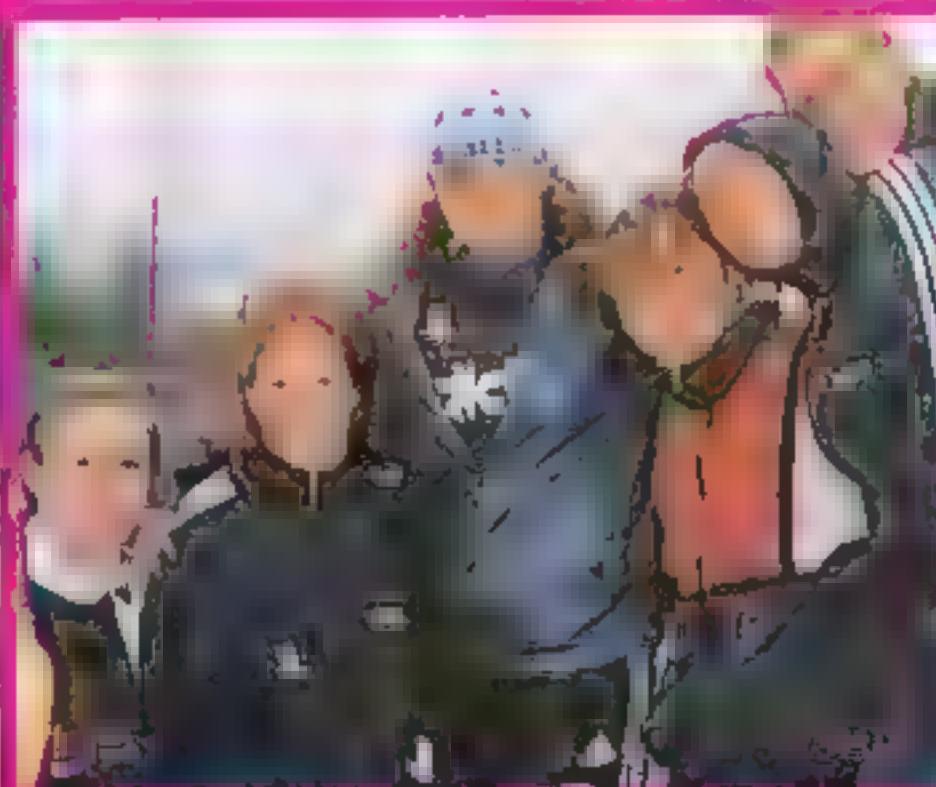
辻 洗濯は好きですよ。洗濯ぐらいかな？ でも、毎日のことになったら出来るかなぁ。ちょっと不安。

――いつになるかは別として専業主婦っていうのは難しそうですね（笑）。

辻 多分、出来ないと思う。まあ、これぱっかりは焦ってもしょうがないんで、適当に頑張ります！（笑）。

いつになるかわからないですけど、次の試合と、あと結婚に向けて、適当に頑張って下さい！（笑）。

【8月11日 電話取材にて収録】

辻ちゃん ㊙蔵写真館

ツッコミどころは満載でしたが

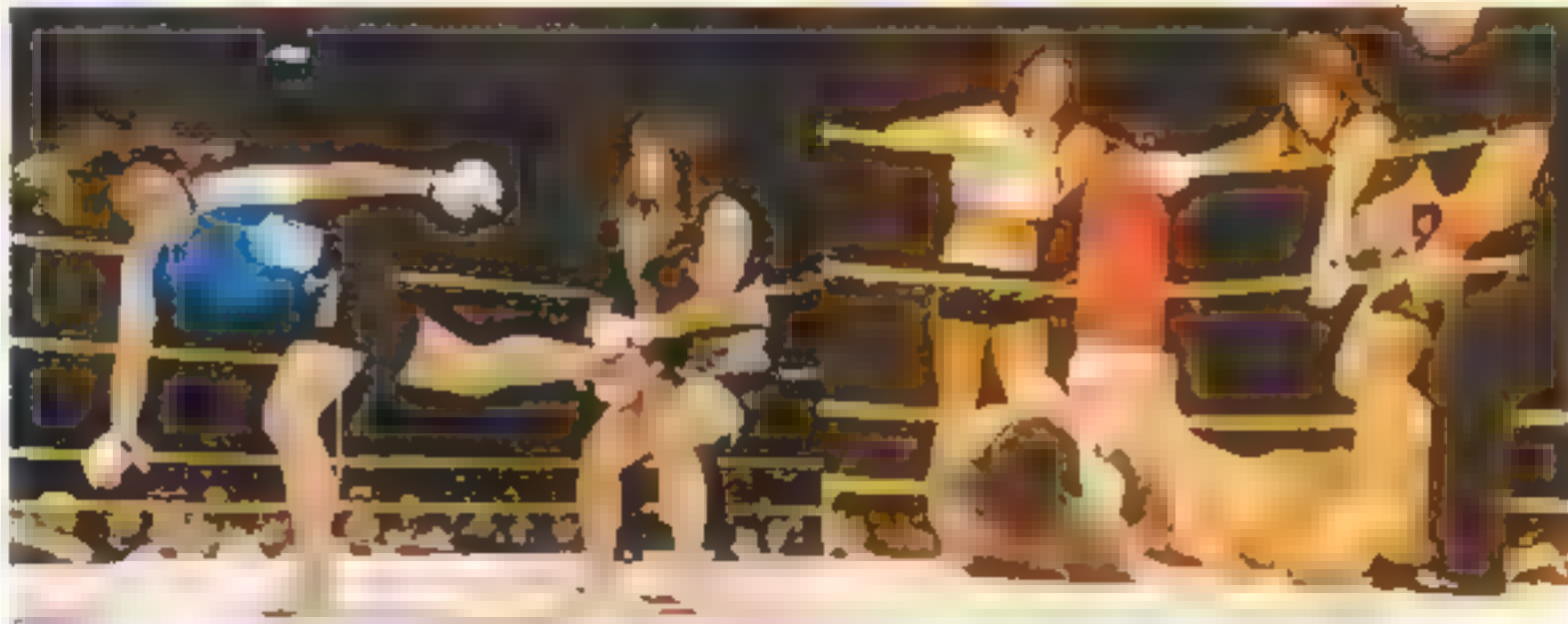
終わり良ければすべて良し!!

8・5スマックガール 後楽園大会ダイジェスト

第2試合はグラビア等でも活躍する羽柴まゆみが唐手家おっかさん・川江礼子とタッグを組み、慧舟會の大室&内藤と対戦。最後は川江が腕十字でタップ!

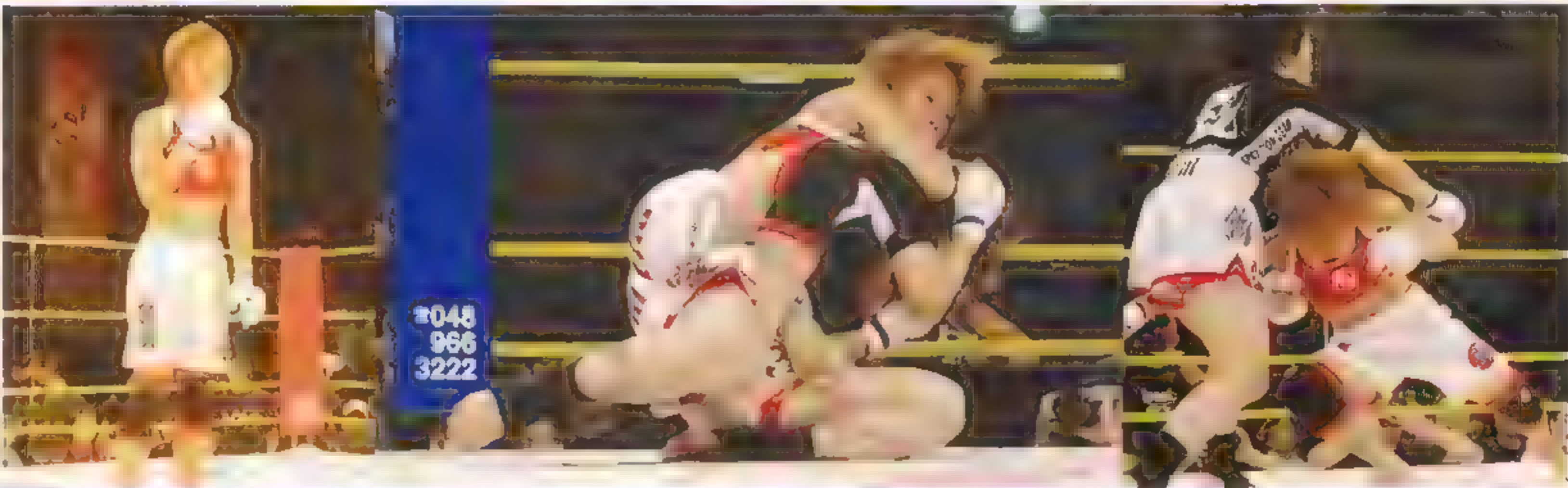
スマック名物(というか他はやらない)の13人参加のグラップリングルールでの時間差バトルロイヤル。まず登場したのが西口プロレスで活躍するアントニオ小猪木。続いては引退セレモニーが近づいているナナチャンチンが登場。小猪木の闘魂ビンタからの「ダーッ!」で試合開始【写真右】。Xとして藪下や近藤有希らも登場したバトルロイヤルは、ジャイアントスイングでブン回し、片っ端から極めまくっていった藪下が1人で大暴れ【写真左】。最後はKAZUKIとのプロレスラー対決を制した藪下が右足を負傷しながらも見事優勝!

2月のラブインパクト旗揚げ戦で昨年のスマックミトル級トーナメント王者の菊川相手に衝撃のKOデビューを飾ったAKINO。対するは6月の大阪大会でAKINOが下した菊川を同様に秒殺KOで退け気合い十分のたま☆ちゃん。試合は女版・高山vsフライ戦を彷彿とさせる壮絶な殴り合いの末、判定2-1でAKINOが勝利。お前ら女だッ!!

第3試合は総合で初の試みとなる6人タッグが実現。タッグマッチ経験豊富な藪下率いるSOD組と、虎島尚子率いる慧舟會トリオが対戦。試合は怪我の治療から強行出場を決めた藪下が大ハッスル。パートナーが何度も極められそうになるものの、藪下が出てくると慧舟會トリオは及び腰。しかし、結果は3-0で慧舟會勢の勝利

第6試合は元祖女子総合格闘家の高橋洋子が覆面レスラー・唯我と激突。ドラスクを繰り出すなど健闘した唯我だったが最後は強烈な打撃のラッシュで高橋の勝利

第4試合は2月から行ってきたネクストシンデレラトーナメント決勝戦。デビュー以来、未だ無敗の舞と川畑千秋のビジュアル系ファイター同士の一戦は、舞が判定で勝利し優勝!

この日のラウンドガールは辻結花率いる闇愚羅に所属する、のぞみちゃん。辻ちゃんが言うには、「のぞみは顔とボディは完璧なのにナナチャンチンより弱い」とのことです

サンボ金メダリスト"フジメグ"こと藤井恵が遂に総合プロデビュー。しかも顔面有りの特別ルール。修斗のアマチャンピオンの松本裕美と対戦したフジメグはゴングと同時に超高速タックルを決めテイクダウン。すかさずバックに回ると電光石火のチョークスリーパーを極め、わずか40秒の鮮烈デビューを飾った。フジメグは、この日、辻に破れたエリカと11月にアメリカで激突!!

"シュート活字キング" タダシ☆タナカが見た 8・5スマックガール

8・5スマックガール後楽園大会から見えた女子格闘技の可能性

女子格の老舗となったスマックガールが、旗揚げ大会以来3年8ヶ月ぶりとなる後楽園ホールでの"聖地凱旋"興行を行い、ほぼ満員の観客を集め成功に終わった。ようやくここまで成長したことを思えば感慨深いものがある。後半の内容はおおむね評判が良かった。ただし、第2試合終了後、藪下めぐみの「故障箇所診断のため休憩5分」のアナウンスが25分以上かかってしまうという不手際など、大会運営の課題の多さは残っている。

スマックガールは「寝技における攻防は顔面への打撃を禁止としながらも、30秒の時間制限あり」を特徴にすることで、選手層の間口を広げ、グダグダの凡戦を防ぎ体重差のあるカードを容認してきた。私はこのルールを支持しているが、時代とともに進化すべきで、カードによっての使い分けは歓迎である。今回メインと、セミに登場した藤井恵vs松本裕美戦はパウンドを解禁した。フジメグの愛称で美貌を誇るサンボ王者のチョーク秒殺は、予定される米国遠征と今後が楽しみな存在である。

エースの辻結花は、総合5戦無敗の柔術家エリカ・モントーヤに3R終了間際に一本勝ちし、トリを締めてくれたから4時間興行はなんとか格好がついた。レスリング出身の"浪速のタックラー"は十字固めでの勝利に戻したが、試合前はガチガチに緊張していた。ホテルにマウスピースを忘れるなど、米国の19歳も日本慣れが油断につながっている。まだまだ吹けば飛ぶような女子格である。確立されていない小宇宙では、これが「世界最強決定戦」なのだ。

K-1の競技性が問われている昨今だ。かろうじてタッグの真剣勝負は成立してきたが、バラエティー色を出そうと組まれた6名タッグだの、時間差で13名登場のロイヤルスマックだのは競技になってない。覆面を被ったアイドル系の15(いちご)など、「チャンスがあるときに出ないと」という心理は理解できるが、足を引きずってまで出場するのはいかがなものか。これはまずいんじゃないかとの会場の雰囲気を察知し、次から次へと極めまくった藪下の活躍のみプロを感じさせている。他と差別化した「スマックの意図はともかく、プロレスとは別物の女子格なら、シングルだけにしないと疑われてしまう。

有刺鉄線ボード持参で入場した覆面の唯我は、インディーレスラー死神の「行け〜!殺せ〜!」と叫ぶだけの場違いなセコンドのかいなく、高橋洋子に貫禄のKO負け。AKINO勝利の判定に疑問を呈する向きは多いが、たま☆ちゃんとの突き合いの迫力は凄まじかった。一部では伝説の高山vsフライを超えたとの評価もある。

どこの道場も女性会員の獲得に積極的だから、選手の供給源はあると判断したのか、プロモーションは乱立する一方だ。女王しなのさとこを擁する「LOVE IMPACT」は2月に旗揚げ、GCMは「CROSS SECTION」を4月から、TBS「黄金筋肉」の番組は終了したが5月のトーナメントはキック、ボクサーとしても活躍する渡邉久江が優勝した。11月には「G-SHOOT JAPAN」が立ち上がる。本大会はJスポーツで放送予定があり、DVDも発売されるようだ。新たに女子格の魅力が広く紹介されることを願ってやまない。

浴私小 〝泣

小川秒殺負け！ "60億分の1"決まらず!!

異常興奮の大波乱
8·15 PRIDE·GP
を語り尽くせ!

ツッコミどころは満載でしたが

主催者に聞く PRIDE・GP 1

ヒョードルVSノゲイラ決着戦の行方、
小川PRIDE再登場の可能性、
そしてジョシュ参戦問題まで

すべて聞かせてもらいます！

(株)ドリームステージ・エンターテインメント代表取締役

榊原信行

浴私小　〃泣

年内に最高の状態で完全決着させるために両陣営とは日夜交渉が続いていますよ

ノゲイラvsヒョードル 決着戦は最早で大晦日

——3大会に渡った『PRIDE・GP』がようやく幕を閉じたわけですけど、いまはホッとされた感じですか？

榊原　いやぁ、ホッとしたかったんですけどねぇ。終わりなき旅がまだ続くのかというか（苦笑）。

——まさかまさかの結末ですもんね（笑）。

榊原　ホントに誰も予想してなかったと思うんですけど、最後の決勝戦が無効試合というすべて予想を覆す大アップセットで。本来なら結果がキチっと出て、次に向かって気持ち良く新たなものを生み出すために動きだしたかったんですけどね。あの日、来ていただいた4万7000人以上のファンの方たちも、気持ちの中で理解はすれども納得せずっていう感じで、おそらく「このモヤモヤした思いを何とかしろよ」っていう気持ちで帰られたと思うんで。それをホントにスカっと、とにかく白黒つける機会をつくるために大会が終わってからヒョードルとノゲイラと日夜交渉が続いていますよ。

——ヒョードルもノゲイラも裁定には納得したんですか？

榊原　ヒョードルは自分がケガを負ったということも含めてあの時点で闘えなくなったわけですから、納得せざるをえない部分があったんですけど。ノゲイラ本人はなかなかね……。

——あ、やっぱりノゲイラはまだ納得してませんか（笑）。

榊原　ノゲイラとしてはまだ闘えたわけじゃないですか。彼からすれば、すんなり「ノーコンテスト」っていう結果を受け入れられないし、事実として認めたくない葛藤があって、その中で、「じゃあ、次の段階」って言っても、それに向けて気持ちを切り替えて落ちてしまったモチベーションをもう一回持ち上げてっていうことになるわけですからね。これは少し時間がかかると思いますよ。

——ノゲイラは今年の頭から半年以上かけて調整して、今回の決勝大会には引退まで掛けていたらしいですからね。

榊原　そうですね。この試合が終わって自分の右手が上がるのであれば、闘うことを辞めてもいいというぐらいの覚悟と準備を持ってこのリングに上がってきたわけですから。その部分でもし負けたら負けたで、また次の一歩を踏み出すことができたんだろうけど、こんなにスッキリできない結果が待っているっていう、ホントに人生っていうのはある種、残酷というか思い通りにいかないものですよね。ファンもそうだし、闘ってる人たちも含めて納得できない結果になってしまったと思いますよ。

——「1Rでアクシデントがあった場合はノーコンテスト」っていうのは、ルールブックにもちゃんと記載されているわけですし、ルールは絶対尊重されるべきだと思うんですよ。でも、このルール自体にちょっと問題があったんじゃないかっていう考えはありませんか？

榊原　全くないですね（キッパリ）。こういった格闘技というのは、ボクシングにしてもそうですけど、偶発的なバッティングでカットしてできなくなるというのが、一番よくあるケースなんですね。だから、UFCでは認められているヒジによる攻撃をなぜ『PRIDE』は認めていないかと言うと、カットで試合ができなくなるというリスクをなるべく減らすためなんですけど、こういう偶発的な事故の場合は1R中であればやはりノーコンテストと。で、2R目以降であればそこまでの結果をジャッジして優劣をつけるという形が現時点ではベストだと思います。ただ、今回はその判断を下すのが遅れて、お客さんにフラストレーションを溜めさせてしまったということが大きな反省点ですね。

——あれだけ審議に時間がかかってしまったのはなぜなんですか？

榊原　やはりまずは故意のバッティングなのかアクシデントなのかという判断ですね。やはり我々もこれだけ多くの人に注目されるイベントで「誤審でした」というわけにいかないので、インターバルを取らせていただいた間、レフェリー、ジャッジを含めたウチの競技運営陣がずっと確認をして、どう考えても100%偶発的な事故であるという結論に達するまでに時間がかかったと。そして、それをヒョードルに伝え、ノゲイラに伝えたんですけど……。

——なかなか納得してもらえなかったわけですか（笑）。

榊原　そうですね（苦笑）。やっぱり今回は単純なワンマッチじゃなくて、ここまで半年かけ

GP決勝戦では、額を負傷したヒョードルに対する審議で実に15分もの間、試合が中断。ルール上ノーコンテスト裁定になるのは仕方ないが、もっと迅速な観客への説明が求められ、アクシデントへの対処に課題が残った

ツッコミどころは満載でしたが

終わり良ければ

て、地位も名誉も賞金もかかっているまさに決勝戦で起きてしまったことなんで、ノゲイラたちも「わかりました。じゃあルールにのっとって」っていう、その場ですぐには納得できないことだったとは思うんですよ。やはりいくらルールで決まっているとはいえ、ノゲイラは優勝に手が届くところまで来ていたわけですからね。ここは彼らに誠意を持って説明するということが今後の我々とファイターとの信頼関係に影響を及ぼすと思ったんで、僕らも最大の努力をして、もう一回キチっとした説明と英文で書かれたルールブックを見せて、なぜそういうアクシデントと判断したのかということを繰り返し説明したんです。それであれだけの時間がかかってしまったと。

——そういった説明をあの場でやらなければならなかったというのは、やはり事前のルール確認が徹底できていなかったのではないかと思ってしまうんですけど。それはありませんか？

榊原 ルールについては、毎回ルールミーティングを開いて、そのルールに同意していただいた印として各チームの代表者にサインをいただいてるんで、納得して理解してくれてると思うんですよ。ただ、ケースバイケースで「このケースが何に当たるか？」という解釈の違いというのはどうしても出てくるんですよね。そこはホントにお互いに立場の違いによっていくらでも言い様があるというか、見解が分かれる。これはある種、致し方ない部分もあると思いますね。

ノゲイラは9月にヒジを手術するので、なんとか間に合って12月でしょうね

uki Sakakibara

——では、今回はノーコンテストという事例ができたわけですけど、決着戦が行われて、「もしもう一度同じことが起きたらどうなるのか？」という心配はありませんか？ 特にヒョードルのファイトスタイルを考えると、あり得ない話じゃないと思うんですけど。

榊原 その点についてはあまり心配はしてませんね。例えば4点ポイントのヒザ蹴りを解禁した時もそうなんですけど、選手たちはルールが変わったり、なにか不測の事態が起きたとき、次からはそうならないような努力をしてきますから。そう考えると、次回同じことが起きる確率というのは極めて低いと思うんですよ。ましてや、あれだけの技術と能力がある二人ですからね。二度と同じような形の展開になることはないと思います。

——では、ヒョードルの傷の状況にもよると思いますが、"決着戦"っていうのはいつぐらいをお考えですか？

榊原 いまはまずノゲイラにもその気持ちの確認をしてるところだし、ヒョードルに関してはケガの回復具合によって決まると思うんですよ。でも、試合に対する準備期間などを考えると、10月に行うのはかなり難しいかなと。

——では、大晦日が有力ということですか？

榊原 僕らとしてはなんとかそこで実現させたいですよね。ただ、ヒョードルに関しては単純にケガの回復と、あとはトレーニングをして年末には間に合うと思うんですけど、あとはノゲイラ次第ですね。

——それはモチベーションを含めた交渉ということですか？

榊原 いや、ノゲイラに関しては元々、8月15日が終わった後に体全体のこれまで蓄積されたダメージを全部一旦トリートメントするために治そうと思ってたんですよね。いま彼は6ヶ月ぐらい前から左ヒジが伸びない状態で、前回のヒョードル戦で痛めた左目の具合もあまり良くないらしいんですよ。そして左ヒジはこういう状況だけど予定通り9月に手術するって言ってましたんで、10月はまず無理。なんとか間に合って12月ですね。

——ヒョードルではなく、ノゲイラの回復次第というところがあるわけですね。

榊原 我々としては、ノゲイラvsヒョードルが間延びしちゃった形で年を持ち越したくないなとは思ってるんですけど、かと言って二人ともがまた準備が整わない中で中途半端に再戦させるのも嫌だし、最高の状態の二人で完全決着させたいわけですから、そこらへんを選手サイドとキチっと調整してなるべく年内にやりたいですね。

小川直也は格好悪いけど ムチャクチャ格好良かった!!

——わかりました。では、話はガラっと変わって、ある種このGPをここまで盛り上げた立て役者である小川選手が、ああいう結果になってしまったわけですけど、代表ご自身の感想としてはいかがでしたか？

榊原 結果としては、みんなが

浴私小　〝泣

期待した結果ではなかったと思うんですよ。だけどそういったことは別として、ムチャクチャ小川直也は格好良かった!!

　格好良かった！

榊原　普通だったら、あれだけ完膚無きまでに腕ひしぎを取られて、ホント、穴があったら入りたいというか走って逃げたいと思うんだよね。でも、そこをぐっと踏みとどまって、ファンの前で自分の負けを認めて、格好悪いけどハッスルした小川直也の気持ち。そして、彼をそうさせたのはやっぱりファンの声援だと思うんだよね。4月、6月含めて小川選手の背中をファンが押したし、心から小川直也を応援してくれたファンがいたからこそ、小川選手も格好悪いけどファンに自分の情けない格好悪い姿を全部さらけだすことができた。

——それは言えるでしょうね。

榊原　でも、そのさらけ出した姿が格好悪いんですけど、格好いいんですよ。その生き様がファンの共感を呼ぶんですよね。誰だって、格好よく人生なんて生きていけないんだから。格好悪いことの連続なんだもん。だからあの瞬間、みんなが小川選手に親近感を覚えただろうし、格好悪い自分を受け入れてみんなの前でハッスルした小川選手にムチャクチャ共感した。そういう意味ではファンもいいエネルギーをオーちゃんからもらったし、オーちゃんもプロとして格闘家としてホントにこのリングに上がる喜びとかいいものをいっぱいもらったと思いますよ。

　ホントに今回のGPで小川選手もプロとしての喜びを知ったような気がしますね。

榊原　そうだよね。必ずしも無理して背伸びして、突っ張って生きてなくても、命懸けでやってる自分自身の生き様をさらけだせば、ファンも共感して認めてくれるってことを肌身をもって感じたと思うんですよ。かすかに涙腺を緩ませてる部分もあったし、大会が終わった後のけやき広場のイベントなんて、スタッフとして見てても泣けてくるというかさ、素晴らしく美しいじゃないですか。それはいい意味でファンとファイターの中で刺激し合っていい熱が生まれたんだと思うし、小川直也という一人のプロ格闘家として一皮も二皮も剥けたんじゃないかな。だからヒョードルに負けたとは言え、今後の小川直也の活躍にボクはムチャクチャ期待してるし、きっと『PRIDE』のリングで感じて、学んだことっていうのがいい形で見えてくると思いますけどね。

——もちろん代表としては『ハッスル』そして『PRIDE・GP』の両輪で今後も活躍してほしい思いがあるわけですよね？

榊原　まあ、そうですよね。今回は『ハッスル』の布教活動のためという大義名分があったわけだけど、また高田総統から査定試合が組まれるだろうしね(笑)。

——ダハハハ！　そんな気はしますね(笑)。

榊原　大晦日の『男祭り』あたりに組んでくるんじゃないかな？　そしたら、それは査定試合だからやらなきゃダメでしょう。実は小川直也は髙田延彦以上に〝泣き虫〟だったって今回判明したからね(笑)。

　それは間違いなく総統から言われそうですね。「キミはチキンな上に泣き虫だ！」とか(笑)。

榊原　そう考えたらまだまだオ

髙田総統が大晦日の『男祭り2』あたりでまた査定試合を組むんじゃないかと(笑)

ツッコミどころは満載でしたが

終わり良ければ

ーちゃんも終われないっていう気がしますよね。

ジョシュの参戦は あくまで新日さんを通して

——ホントに物語は続くじゃないですけど、大河ドラマは続いてますね。そしてそのドラマの主役のひとり、ミルコも復活しました。

榊原 ミルコはまさに彼の一番ベストな闘い方、ヒース（・ヒーリング）やイゴール（・ボブチャンチン）と闘ってたころの一番いいスタイルが戻ってきましたね。

——しかも、あのときよりさらにレベルアップした感じもしましたからね。そして早速、K-1からミルコへ出場オファーもあったようですが（笑）。

榊原 出てましたね（苦笑）。でも、オファーは行ってないんじゃないかな。

——「オファーを出したい」という段階で、すぐさま「参戦否定」の声明がミルコから出ましたからね（笑）。

榊原 ミルコという選手は、ボクもこれまで見てきましたけど、常に自分自身に直近の目標というかある程度、半年先の目標を自分の中に置いて、それを決めたらまっしぐらで脇目もふらず突き進む人なんですよ。だから、そういった彼の性格を考えると、当面は『PRIDE』のチャンピオンベルトを取るっていう彼の目標を達成するまではそれに向けてしか考えないんじゃないかな。その後はわかんないですけどね。

——もちろんDSEとしては、ミルコを10・31『PRIDE・28』の主役のひとりとして考えているわけですか？

榊原 そうですね。本人は今回痛めた内足靭帯とか体のケアをしたあと、10月に向けてトレーニングを始めるって言ってましたから、まあ、誰とやらせるかですね。

——早くもミルコvsジョシュ・バーネットという噂もちらほら出てますね。

榊原 まあ、ジョシュに関しては新日本さんと正式交渉させていただいてるんで、早ければ10月に出てきてもらいたいなと思ってるんですけどね。

——一部報道では、その件に関して「新日本から猛抗議があった」という話も出てましたけど、その件についてはどうなんでしょうか？

榊原 「ジョシュとDSEが直接交渉したんじゃないか」というふうに上井さんから確認はされましたよ。それが「猛抗議」なんじゃないですか（笑）。でも、そういったことは一切してませんから。きちんと新日本さんを通じてジョシュは出してもらいたいと思ってますし、やっぱり僕らも去年の『イノキボンバイエ』で自分たちと契約しているヒョードルとセーム・シュルトを横取りされて、その時にどれだけ嫌な思いをしたのかっていうのは僕らが身を持って感じてますから。あのときは猪木会長も含めてやられてることだから、そこで僕らが「いやいや、ウチの契約が」と突っぱねてもしょうがないんで、業界のために2人の選手を出しましたけど、そのときの嫌な気持ちっていうのを逆に返す気はないんで。新日本さんから正式な形で貸していただけるように、話をしていきたいと思ってますよ。

——実際に話は進んでいるんですか？

榊原 僕はずっと『PRIDE・GP』前からGP出場を含めてお願いしてきてるんですよ。でも、叶わずいるわけですね。でも、繰り返しますがジョシュと直接話す気はまったくないですね。ただ、ジョシュは7月19日の『武士道』の時に小路（晃）君のセコンドで来たんですよ。その時に「『PRIDE』に出たい」って自分で言ってましたからね。それで僕らは「あ、そうですか。よろしくお願いします。僕らもアナタには出て欲しいよ」ってその時に確認はしてるわけですよ。それをもって「事前交渉だ」という人もいるのかもしれないけど、僕らから声をかけたわけじゃないし、そんな泥仕合にもしたくないんでね。僕らも「新日本さんからという形でないとジョシュ

ミルコはPRIDE王者になるという目的を達成するまでは他は考えられないでしょう

アレキに見事完勝し、完全復活を印象づけたミルコ。10月はノゲイラ、ヒョードルの欠場が濃厚なだけに、一気に主役の座を奪うつもりだ

浴私小 〝泣

『イノキボンバイエ』で感じた嫌な気持ちを新日本さんに返す気はありませんから

を参戦させるつもりは毛頭ございません」と声を高らかに言いたいですね。

高らかに無罪を主張（笑）。

榊原 新日本は日本の格闘技界、プロレス界のオピニオンリーダーなんだから。やっぱりリーダーとして、全方位外交としてファンの求めるものを日本のプロレス界発展のためにゼヒやってもらいたいし、「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」という姿勢で僕らの挑戦を受けてほしいんで、ゼヒ新日本の看板しょって堂々と出てきて欲しいですね。

でも、新日本はK-1、『ROMANEX』との関係があるから、『PRIDE』との交流は難しいのではという声もありますけど。

榊原 そうなんですかね？ でも、あんまり小さな世界にこだわって欲しくないですね。猪木会長が言うように、ちいちゃなことにゴチャゴチャこだわっててもしょうがないじゃないですか。僕らも「こっちに出るからにはK-1には出るな」とか、そんなことを言う気は毛頭ないし、そういったことにこだわらず出てきてもらいたいですね。

わかりました。ではGPも終わり、次は10・14大阪城ホールの『PRIDE武士道』になるわけですけど、これはもうカード等、動き始めているわけですか？

「PRIDE」参戦が熱望[illegible]れる最後の大物格闘家とも言えるジョシュ。その実力は“3強”にも劣らないとの声もあるが、[illegible]してどうなるか？

榊原 そうですね。大阪って今回のクローズドサーキットも早々と完売して、『PRIDE』に対して「ゼヒやってほしい」という意見が強い、非常に熱がある土地なんですよ。だから、今回は平日なんですけど、日本選抜vs世界選抜みたいなテーマでワールドワイドな形で提供できるようにしたいなと思ってるんですけどね。

これまでのような、vsグレイシー、vsブラジルではなく、広く世界の強豪と対戦することがテーマだと。

榊原 そうですね。桜井マッハ君とか五味君、それから美濃輪君などライト級、ウェルター級だけでなく、それより上のミドル級の選手も含めて、大阪のファンに喜んでもらえるものを並べたいと思ってます。

マーク・ハントやステファン・レコを投入するプランもあると聞きましたが。

榊原 レコはひょっとしたら『武士道』で世界選抜の中に入るかもしれませんね。ハントについては、ボクはさいたまで考えてるんですけど、凄く期待してますよ。メチャクチャ練習してるみたいだし、吉田選手との試合も初めての総合であれだけできるわけですからね。普通、吉田選手にあのタイミングで寝かされたら最初の腕ひしぎで取られてるでしょう。だけどそこを凌いで対応できるだけのグラウンドもトレーニングしてきてるだろうし、あの悔しさでずっとやってきてますから、かなりやれると思うんですよね。だから、ハントは総合格闘家に転身していく過程を見ていって欲しいという気持ちがありますね。

『PRIDE・GP』がこれだけ盛り上がって期待も相当高まってるんで、次は『武士道』とは言え、主催者としてプレッシャーも凄いんじゃないですか？

榊原 そうですね。ホントにしんどいです（苦笑）。だから、ボクの中ではあらゆる体力が持つのがあと2年ぐらいだと思ってますから。それまでは突っ走って、次の社長はウチの臼杵ちゃん（〝DSEのアヤパン〟こと、臼杵彩子広報）に任せようかと（笑）。

臼杵PR えぇ～～～っ!?

ダハハハハ！ 臼杵さんは『ハッスル』でも実は影のボスなんじゃないかって噂もありますからね（笑）。

榊原 某格闘技会社も女性が社長だったりするんで、女性社長もありかなって。ウチの次期社長はやりますよ～～！（笑）。

——じゃあ、臼杵社長が誕生するまでの2年間、全力で突っ走り続けてください！（笑）。今日はありがとうございました。

【04年8月18日／青山・DSE事務所にて収録】

ツッコミどころは満載でしたが

浴私小 〝泣

さて、4月から異常な盛り上がりを見せていた『PRIDE・GP』ですが、最後の最後で大変な結果になってしまいました！

玉袋筋太郎 もう夏は終わっちまったね。

水道橋博士 凄い、喪失感。なんか、ひと夏、吹っ飛んだな。

——近年まれに見るとんでもないエンディングでしたよね。

博士 実は、『PRIDE』が始まる前に、試合前に流すVTRを制作してるフジテレビのスタッフと話したのね、毎回、ちょっとセオリーにない位、独特の味があるじゃない。

——ほかの格闘技の会場VTRに比べても独創的ですよね。

博士 いろんな映画的記憶を引用してると思うけど……って話になって、「実は、ボク、『エヴァンゲリオン』に一番影響を受けてPRIDEのVTRを作ってるんです」って言ってたのね。しかし、今更「エヴァ」なんて、久々聞いたな～って思いつつ、言われてみりゃ、確かにそうなんだよね。音楽の重ね方とか、幼児が母乳を吸ってるイメージ、フラッシュバックさせたりさ～。

玉袋 いや～あれは月亭可朝に影響を受けたんじゃないんですか？

博士 『PRIDE』と『嘆きのボイン』は何の関係もないよ！

——ダハハハハ！

博士 でもさ、ホント映像の編集の手法も『エヴァ』っぽいんだ。で、そんなこと、オープニングで思っていたら、なんと、エンディングまで『エヴァ』になるとは夢にも思わなかったよ！

——「どういう決着が着くんだ!?」ってさんざん期待させておきながら、最後の最後で何にも結末がないという（笑）。

博士 「え～っ!? 今まで見てきたのは何だったの!?」って思ったもんね。こんだけ、大風呂敷広げてきたのに、収拾つかなくて、これ、破綻してんじゃないって。なんなの「人類補完計画」って（笑）。誰も考えないゴッド・アングル、というかバッド・アングルだったもん。それゆえ、語り継がれることになったけどね。

玉袋 まあ、こんなことは、ありうると思わなきゃあ、やってられない。夏のイベントは雨で中止とか多いからさ。縁日だって急に雨で中止になったりとかあるじゃん！

博士 そうそう。それで、帰り道は、この宙ぶらりんな気持ちを納得させようと思ってさぁ。去年の神宮花火大会だって、あゆ（浜崎あゆみ）を用意してたのに、当日も、延期になった日も雨で飛んでるからね。「その関係者のショックに比べたら大したことないんじゃないか？」とか自分に言い聞かせたりしてみるんだよ（笑）。

玉袋 オリンピックだって、モスクワ・オリンピックだって選手団を派遣するのが中止になったことあるし……とかな、比べてみ～って。

博士 だったら、ミュンヘン・オリンピックなんて、イスラエル選手団の宿舎にパレスチナゲリラが侵入し、選手が殺されたり、人質になったりして、オリンピックが中断させられたことだってあるんだから……よ～とか。

玉袋 「だったら、9・11の同時多発テロよりは大したことないんじゃねえか？」とか。

博士 だったら、突然、人類史上初めて、「長崎や広島に原爆を落とされることよりは、大したことないんじゃないか？」とか……もう、そこまで大げさに考えたもんなぁ。

——とにかく今回の『PRIDE』より、ひどい結末を無理矢理持ち出して、なんとか自分を納得させると（笑）。

玉袋 だけど、時代が昭和だったら絶対に暴れてるでしょ。今回はお客さんのお行儀が良くて、よかったと思うよ。

博士 『PRIDE』が回数を重ねて、観客の総合格闘技に対する理解が深かったから暴れないわけだよね。高田が敗れ、桜庭が敗れ、みんな泣きながら帰って、「総合格闘技は、ハッピーエンディング以外だって味わうんだ」って修得してたと思うよ。

玉袋 「行きはよいよい、帰りは怖い」って気持ちは出来上がったよなぁ。初めて総合格闘技を見て、あんな結末だったら……。「何だぁ!? 金返せ、この野郎！」って話だもんね。

——それこそ徹夜で並んで大金出して、必死になってチケットを手に入れてる人も大勢いたわけですからね。

玉袋 そうだよ！ 第2回のIWGPの暴動なんか大変だったじゃない？ あの時は最後に猪木さんが出てきて「ありがとうございました」とか言って、さらに怒りの火に油を注いじゃったんだけど（笑）。『PRIDE』はそれがなかったのが凄いよね。

博士 そうだね。一見さんの外野席レベルまで、みんな、もうプロレスとは違うもんだってことが、分かってきたと。

玉袋 『PRIDE』だってオープンカーまで用意してたわけでしょ？ それをG1で優勝した天山の方に

オーちゃんを見て改めて気づいたよ。
レスラーも芸人もすべてを晒してハッスルするしかないんだって

聞き手／堀江ガンツ
本文構成／スモーノブ
撮影／松澤チョロ
designed by matsu (Two Three

ツッコミどころは満載でしたが

終わり良ければ

耐え難きを耐え 忍び難きを忍び 小川はハッスルしたんだよね

あの日のオーちゃんこそリアル版「かいてかいて恥かいて」だよ!

回したってんだから凄いよなぁ（笑）

博士　ハハハ、回してねぇよ（笑）でも、いかんせん『PRIDE・GP』の方は、IWGPじゃなくて、IW"ED"だったからな〜。

玉袋　完全に勃起不全。

博士　射精中絶っていうか。表彰式をやるつもりで『PRIDE』もいろいろ用意してたんだよね。実際、優勝者に渡す、金メダルも用意してたし。

玉袋　優勝賞金2000万円のプレートとかね。リハーサルもしっかりやってたんだ。メインの後にずっと、端っこに置かれてる賞金のボードを見たときは哀しかったぜぇ。あの賞金のボードが、なんか、ドッキリが失敗して出番を失った野呂圭介の「大成功」のプラカードみたいでさ。

博士　でも、格闘技の場合は主催者や選手が何をしようとも、人智を超えたもの、抗いがたいものがあるんだよ。そういう意味では、プロレスの場合は誰が何をやろうと、人智で、どうにでもなるわけじゃん。逆に言えば、どういうふうにでも観客を逆上させたり、興奮させない方法ってあったんだけど、それでも、大番狂わせを超える、選択肢を選んだ猪木って「どんなひどい人なんだろう?」と思うよね。たって、ああいう結末にはしなくていいんだもんね。

――なぜそこで長州を乱入させる必要があるのかとか（笑）。

玉袋　昔はそうやって客を掌に乗っけて自由に操れたんだよ。それが、いまや掌に乗せることが出来なくなった。今回の『PRIDE』の最後も、もし表舞台に出てた頃の石井（元）館長だったら試合を続行させてただろうっていう意見もあるよね。

博士　いや、石井館長だったら「リザーバーはヒョードルに負けた小川だ!」って言ってると思うよ。だって、一昨年の『K―1ワールドGP』でホーストが優勝したのだって、サップに負けたあと敗者復活だったわけだから。そうやって掌に乗せて、実際、小川が出てきたら、会場が文句なく爆発しただろうね。

玉袋　まさに真夏の『Dynamite!』だな。

博士　そういう意味じゃあ、治安を完ぺきに取り締まれば警察は仕事がなくなって、防火を徹底すれば消防士は失業するのと同じでさぁ、ルールや選手生命に厳格になればなるほど、格闘技興行の肝であるハプニングや、サプライズってのはどんどんなくなっていくってことはあるよ。競技が人気を集め、進化すればするほど、するほど、起こりえる事態だもん。

――今までの小川直也だったら、負けたらすぐに帰ってたと思うんですけど、負けた後も会場に残ったわけですからね。

博士　負けた後に、リング上で「ハッスル! ハッスル!」ってやったのも賛否両論だろうけど、やったことによる余韻は凄かったね。やらなかったらやらなかったで、余韻もなく、復帰戦を期待されてたと思うけど、やったことでオーちゃんは完全に晒されたでしょ。12年前のオリンピックで負けた時は「完敗です」の一言で終わって、顰蹙を買ったけど、今回、あそこまで観客を意識した長いパフォーマンスをやった。敗戦の感慨以上に、「なんであそこでパフォーマンスをやったんだろう?」「どうして俺たちも一緒にやってしまったんだろう?」って考えさせられたよね。

玉袋　あそこはジワッときたなぁ（しみじみ）。あれこそ、リアル版「かいてかいて恥かいて、裸になったら見えてきた本当の自分」だよなー

――あのハッスルによって我々も敗戦を共有したわけですよね。

玉袋　終戦記念日だったけど、あれこそ俺たちの玉音放送だよー

博士　終戦記念日に、オーちゃんも耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍んで、ハッスルしたんだよな。

――あの敗戦後のハッスルポーズは、小川直也の「人間宣言」みたいな感じはホントありましたよね。

博士　なるほど。小川は8月15日に怪物から人間になったんだよ。

玉袋　でも、よく涙をこらえたよね。俺だったらあそこで泣いちゃってるよ。大人だなぁ。言葉を詰まらせてるんだけど、ぐっとこらえて「負けたけどハッスルさせてください!!」って開き直って……。良かったなぁ（しみじみ）。

―しかも、全試合終了後には恒例のけやき広場でのハッスル集会やってましたからね。

玉袋　大会終了後、あの時、俺達は「どうしてもオーちゃんのインタビューを取りたい!」って控え室の前で待ってたんだよ。

博士　ホントはあのハッスル集会も行われないはずだったのに、「ファンが集まってます!」って聞かされて、「じゃあ、行かなきゃだろう」ってことになって。あのハッスル集会に行く前に、インタビューが取れたんだけど、「年末はどうしますか?」って聞いたら、「当然、ハッスルします!」って、一応、気丈に言ってたよ。

――おお、楽しみですねぇ。じつは、昨日『紙プロ』で小川さんにインタビューしたんですけど、「昔の俺だったら1年ぐらいは人目につかないように旅に出てる」って言ってました

浴私小

泣

がギンギンに勃起するほどの期待にされながら、最後の最後に「ヒョードル負傷によるノーコンテスト」というとんでもない結末が待っていた『PRIDE GP』。ある意味、インパクトは絶大だった。

けどね（笑）。

玉袋　あんなデカイ身体だったら人目についちゃうよ！　でも、それも面白いんだよ！　人目につかないようにオーちゃんが逃亡者になって日本全国を逃亡する！　江口洋介なんかの逃亡者よりも、よっぽど面白いよ！

博士　でも、その気持ち分かるなぁ……。じつは『ＰＲＩＤＥ』の次の日に『平成教育委員会』の収録があったのね。俺は、あの番組、初出演だったんだけど、もう、最初っから気が重かったの。あれはクイズ番組でも、完全にガチンコだから。で、一応、「博士」だからクイズが出来るキャラ期待されてるじゃない、俺。スタッフも笑いをとること気にせず正解してくださいって感じでね。そしたら、図らずも、俺、優勝しちゃったのね。

――凄い、快挙じゃないですか。

博士　でも、それは、どう考えても番組的には、正しい結末じゃないのよ。なんか、ジャイアント・シルバとか、戦闘竜が、どういうわけだかＧＰで優勝しちゃったみたいな（笑）。

玉袋　およびじゃないよな～。あんた員数合わせなんだから！って突っ込まれるよ（笑）。

博士　空気読めよ！って。ま、俺の計算違いでもあるわけ。それで、もうメチャクチャにスポットライト浴びて、晒されてたのね。クイズは出来ていても、取り乱してるし、殿（ビートたけし）とは、上手く絡めないし、なんか、予想外の展開で、がんじがらめになって、ろくにアドリブすら言えないの。ゴールデンとか意識しちゃってんだろうな。「これが放送されるんだな」と思うと本番中から自己嫌悪に陥っちゃって、その時はずっと、スタジオで、オーちゃんのことを考えてたよね。「ああ、この商売は自分を晒しきるしかないんだ」って。ダメなこともすべて人前に晒して、あとはハッスルするしかないんだって。

玉袋　勝っても負けてもハッスルと。でもいいじゃん、勝ってんだから。

博士　違うんだよ。つまりさぁ、クイズでも誰が優勝するかが決まってる〝プロレス〟だったら、出てる方も気が楽なのよ。俺もこれだけ緊張することなく、引き立て役として、自分の役割を見事にこなせるわけだから。

玉袋　うんうん、「お笑いウルトラクイズ」はプロレスだったもんなぁ、そりゃあ、よくわかる。そっちの方が楽だよなぁ！

博士　こっちの加減も分かるしさ。ボケ方だって分かるし。優勝とかじゃなく、自分に、分相応な位置で慌てることなんかないのよ。分別つくわけじゃない。だから、ガチンコってこんなに辛いのかって思ったもん。確かに何にも考えてないタレントはいっぱいいるよ。でも、自意識が強いヤツ、役割感のある奴には、ガチンコってたまらないよ。俺と比較するのは変だけど、オーちゃんがガチンコを嫌うのは「ガチンコじゃなくたって、客を満足させる、違う表現方法は出来るよ」って思いがあるんじゃないかなぁ。毎日そんなことやってたら、「もう、そこからは卒業したい」って、そりゃあ、思うよ。そんなこと考えたら心は小川の優勝を願いつつも、その裏じゃあ残酷な一瞬も予感している『ＰＲＩＤＥ』のシビアな客の願望に乗っかっている「小川は偉いなぁ」と思ったよ。

玉袋　ホント、えれぇよ！

ツッコミどころは満載でしたが

博士　晒されるのはつらい。しかも計算外に、人は晒されると精神的におかしくなるね。小川はそこをさんざん体験してて、わかっていながら、乗っかったことが凄かったし、オーちゃんは、今回、負けた後、リングで、しばらく虚空を見つめてたけど、あの時に橋本のことを考えてたかもなぁ。ゴールデンタイムで放送されてるのに、「負けたら引退」って試合で、奥さんとか子供まで引っ張り出してきて全国に放送されて、小川にあんなにボコボコにされてるわけだから。

――一家総出で晒されてるわけですからね（笑）。

玉袋　あれは「お笑いウルトラクイズ」でいうところの「人間性クイズ」だったんですよ！　井手らっきょが女口説いて、素っ裸で踊っている所に両親や家族が現れるドッキリなんですよ（笑）。あの時の橋本の晒しっぷりでオーちゃんも気が付いたんだろうな。「これがプロだ！」って。そう考えると小川を育てたのは橋本かもしれないね。

博士　で、リングにある真実は、「癒し系」じゃなくて「晒し系」だよなって、改めて悟ったな。

――晒し系！（笑）。

博士　だから、オーちゃんが12年前のオリンピックっていう晒し系の巨大なストレスの中で「もういいや」って思ったのも分かるよ。

――いまのオリンピックと昔のオリンピックも、ちょっと違いますよね？　いまだったら、もし負けても叩かれたりしないですよね。

玉袋　しねぇよな！　それが、あの時の、小川なんかA級戦犯扱いだったもん。「めんどくせえなぁ」って気持ちもあったと思うんだけど、それを『ハッスル音頭』でかわして出ていくんだから（笑）。

博士　俺もオーちゃんが決勝に上がれば、国歌斉唱もあったから、その時にどんな顔をするかも見たかったなぁ。12年前のA級戦犯が、終戦記念日に、君が代流して、日本を背負って闘うって、「ああ、また、あの繰り返しだ」って思うだろうなって。

――ああいうふうに負ける姿も、自分の中ではある程度、予想できたと思うんですよ。

博士　ブラジリアン・トップチーム陣営は「総合の経験値が低すぎるから、小川が一番弱い」って事前に言ってたけど、確かにそういう面あるだろうなと思う。でも、だからこそ、小川が、「自分らしく一番のびのび動けるのは、ハッスルだ」となると、「ぎこちなくとも、無様であっても真剣な小川が見たいんだー」っていうファンのメッセージの伝え方をこれから考えなきゃいけないよね。

――でも、小川は『ハッスル』というテーマがないとPRIDEの舞台に出てこないですからね（笑）。

博士　だからこそ、「勝っても負けてもハッスル」っていうのは、いいメッセージだと思うよね。これが千葉すずの「負けたけど楽しみました」みたいな自己満足的な発言だと石原都知事じゃなくてもブチ切れるとこだけど。「ハッスル」は、自分も観客も鼓舞してるし、今後の道も閉ざしてないと思う。逆の意味に捉えてる人はいっぱいいるけどね。

玉袋　負けて引っ込んじゃった格闘家っていっぱいいるもんなぁ。恐いから名前は出さないけど（笑）。

――まあ、負けはしなかったんですけど、ノゲイラは引退を考えてたらしいんですよ。

玉袋　え〜っ!?　どうしてまた？

――人生の中で一番強い自分をあの場に持ってこれたと思ってたみたいなんで……。

博士　ノゲイラ、悔しがってたもん。記者会見も拒否したんでしょ。

――これ以上できないってくらい極限まで追い込んで仕上げてきたから、「これで最後だ！」っていう意気込みだったらしいんです。

博士　そうか。それなら船木（誠勝）みたいに日本刀を持って入ってきて欲しかったね。

玉袋　着流しでな（笑）。もっと、わかりやすくメッセージしてよ。

博士　でも、ガチンコをやる人は、みんな、そういう気になるんだろうね。これが最後だって。分かるなぁ。

玉袋　でも、観客の立場としては、今回、あんな理由で、いきり立ってるのに発射できないという、この切なさは……ホント、生殺し状態たよ！　『PRIDE．1』からもう何年経った？　必死に回数を重ねて口説いてきて、GPが始まっていきり立って、「よし、挿入だ！」って時に、相手が突然、月の物が始まっちゃって「あれっ!?」って感じだもんな。血が出ちゃってさぁ。

博士　見ている俺たちも、それでも「出来るよ！」って言ってんのにな。本人も「やっていいよ」って言ってるのに、「ウチはそこまでグロじゃないです。」って主催者が言うみたいなもんだよね。

玉袋　こっちはすっかり温泉入って酒呑んで出来上がって下駄突っかけて「いざ温泉ストリップだ！」って繰り出してみたら、「踊り子のハプ

浴私小

〝泣

リングにある現実は「癒し系」じゃなくて「晒し系」だよ！

ニングにより中止です」って帰されたみたいな、完全にすかされた白黒ショー状態ですよ！

博士 でも「物語は終わらない」っていうことを象徴的に見せてくれたよね。「to be continued」っていう考え方は昔からマット界にある概念だけど、今回ぐらい「つづく」の文字が「ここで出るかぁ⁉」って思ったことないな～。

玉袋 この「ハラホロヒレハラ」ぶりは凄いもん！（笑）。

博士 でも、それを含めて「PRIDE」は面白いと思うんだよ。だから、猪木さんとかプロレスの人はもっと凄いアングルを考えないといけないよね。

ーー今回は言わば〝史上最大の両者リングアウト〟でしたからね。

玉袋 ホントだよ。でもさぁ、確かに最後は優勝者が決まらなかったけど、十分に楽しませてもらったもん、そりゃ怒らねえよな。温泉入って酒飲んでって、それだけで充分じゃない。それで「いざストリップへ」って気持ちがあったんだからさ、そこで凄い白黒ショー見てたら、お腹イッパイでバチが当たるよ！ 腹八分目でいいんじゃねえの？って気もするよ。

ーー『紙プロHand』でもアンケートを始めたんですけど、あまりにも好意的な意見が多いんでビックリしてるんですよ。

博士 不完全なものを見せられる興奮ってあるよね。完成されたものを見せられると、「ああ、良かった」で終わっちゃうからね。不完全で、いびつなものを見せられると「これで終わらないだろう」ってなるからね。

玉袋 あそこで優勝者が決まっちゃうと、完成されちゃうんだよな。

博士 逆に言えば、こんなに語り草になる興行はないもんね。「あの日の結末はねえよ！」って（笑）。

玉袋 客に「もう一丁」って思わせたからね。そりゃ、主催者も「もう一丁」って気持ちになりますよ！

ーーもう一度、最高の状態で試合を組まれるまで待つしかないんですかね。

玉袋 ホント、ヒョードルvsノゲイラもちゃんと盛り上げていかないと、年末には『プレデターvsエイリアン』っていう超大作が控えてるからな！ それを超えるのはヒョードルvsノゲイラだよ。

ーー再戦がいつになるかは、傷の治り次第なんでしょうけどね。

玉袋 あとはオーちゃんの出方だな。やっぱり大晦日は吉田（秀彦）戦かなぁ。

博士 ノゲイラ戦も期待したいけどね。不思議とヒョードルとの再戦が見たいとは思わないんだよ。だって小川が弱いんじゃない、あれは強過ぎる！

ーーヒョードルは別の惑星から来たみたいな強さですよね（笑）。

玉袋 それこそエイリアンだよな！ そしたらプレデターの出番ですよ！ 鎖を持ってブロディのパクリじゃない方のプレデターの。話は変わるけど、猪木さんはこの大会を見たら何て言うかねぇ？

ーーまあ、ジェラシーはあるんでしょうけど（笑）。

博士 でも、今回は「よりによって一番弱いヤツが出ていった」わけじゃないからね。実績から言えば「よりによって一番強いヤツが出ていった」んだから。

玉袋 オーちゃんの「負けてもハッスル！」は、猪木さんの「笑いながら歩こうぜ」に通じるものがあるもんなぁ。いよいよオーちゃんが正式な後継者になってきたと思ったよ。

博士 でも猪木の手引きで、大晦日の平壌でハッスルならぬ「ジョンイル」とかしてなきゃいいけど（笑）

ーーあれだけガチンコ嫌いとか言われてましたけど、昨日の話を聞いたら「いろいろあったけど、ホントにひとつ言えることは、出てよかった」って言ってましたからね。

博士 へぇ～、それは嬉しいなぁ。（しみじみと）

ーーやっぱり、けやき広場でファンの歓声を聞いたからみたいですけど。

玉袋 バルセロナにけやき広場があったら、小川の人生も変わってたかも（笑）。

博士 オリンピックの時はそんな感じじゃなかったのにね。まあ、アマチュアの大会じゃ試合後に「ハッスル！ハッスル！」も出来ないけどさ。

ーー小川さんも「オリンピックの時は負けた時の挨拶回りがいかに嫌だったか」って言ってましたけど、いまはファンに挨拶したら大歓声ですからね。

玉袋 しかも木戸銭を払って見に来てるファンだからね。そりゃありがたいよ。でも、それに甘えすぎると清水健太郎になっちゃうんだけどね。「まだファンが応援してくれるんで……」って。

ーーダハハハ！ そういえばターザンは、『PRIDE』の翌日、原稿書いてたら興奮しすぎちゃって、血糖値が上がって死にかけてたみたいですよ（笑）。

玉袋 思えばターザンも、「浅草お兄さん会」でオーちゃんにマウントパンチで殴られてるんだよな。

博士 しかも、あの時は、ターザン、客前で、全裸だったからね。

ーーありましたねぇ（笑）。

博士 あれこそ、元祖晒し系だよな。

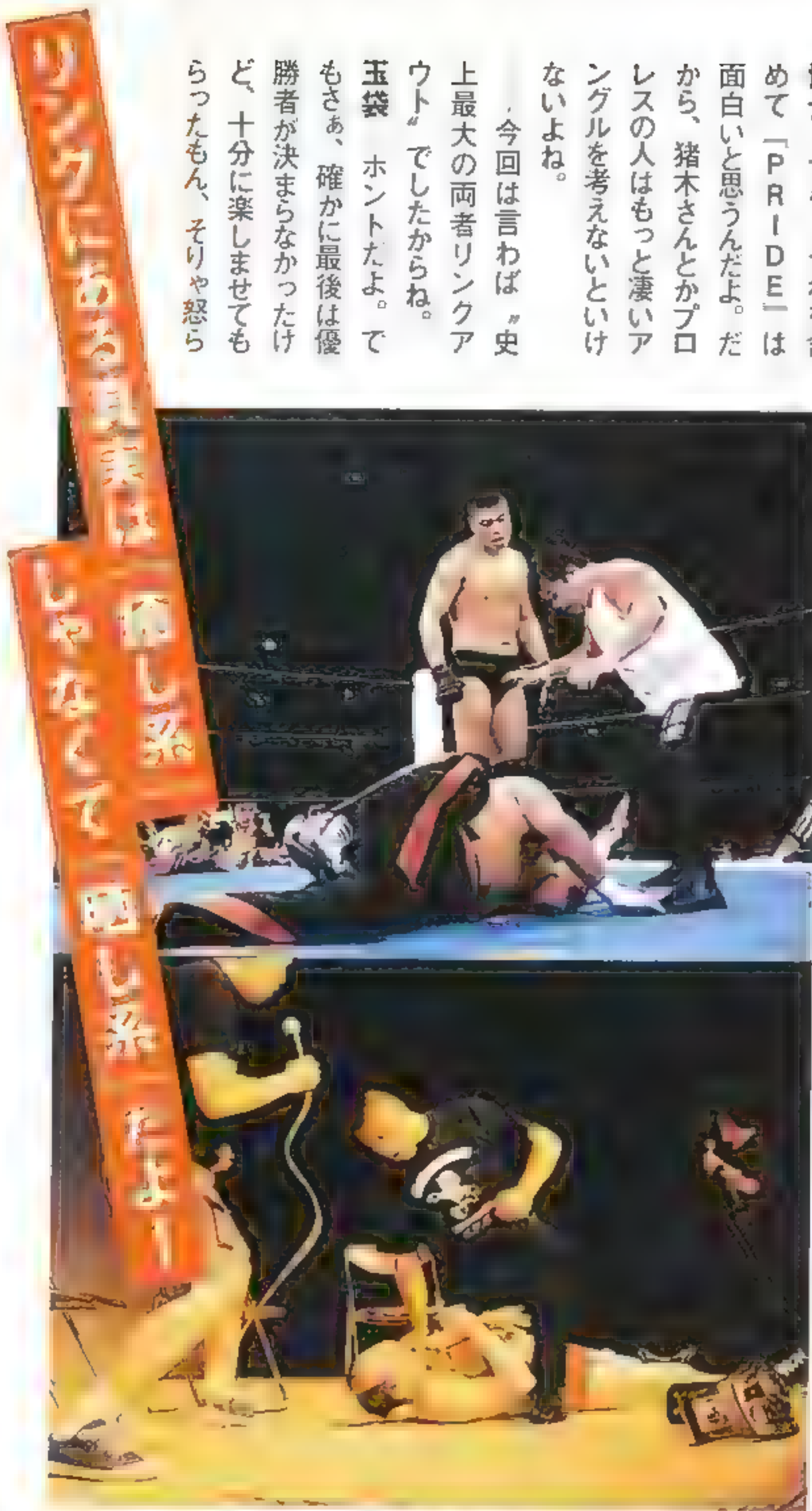
玉袋 これ以上ないぐらいに晒してたよ。もう、これからの時代は晒したモン勝ちッ！

博士 とにかく、物語は続いてるわけだから、それを楽しみにするしかないよね。なんか、今回、観客を含めて傷ついた感じがたまんないじゃない。「感動」より、「感傷」の夏って感じで。今こそ、桑田さんの『PRIDEの唄』をしみじみ聞きたいね～。俺たちゃ、夏をあきらめて、小川をあきらめないってことで。

玉袋 今度は桑田佳祐がオーちゃんに「夏をあきらめて」を歌うって話だよ！ ♪悔しげな～軍鶏侍と～駆け込～む～パシフィックホテ～ル♪

博士 いやあ、忘れがたい夏をありがとうってことで。

ーーでは、オーちゃんのさらなるハッスルを期待してお開きにしましょう。ありがとうございました！

【04年8月17日／信濃町・ガーデニング・カフェ』にて収録】

（写真・上）かつて一連の小川vs橋本戦で、無様なまでに格好悪い自分をさらけ出した破壊王 オーちゃんもこの破壊王との闘いを通して「プロとは何か」を感じ取っていたに違いない （写真・下）一方、こちらは晒さなくていい自分まで過剰に晒すターザン山本！ この舞台てのからみか、今回のハッスルポースの原点だとは決して思いたくないしありえない

繰り出してみたら、「踊り子のハプ

ツッコミどころは満載でしたが

終わり良ければ

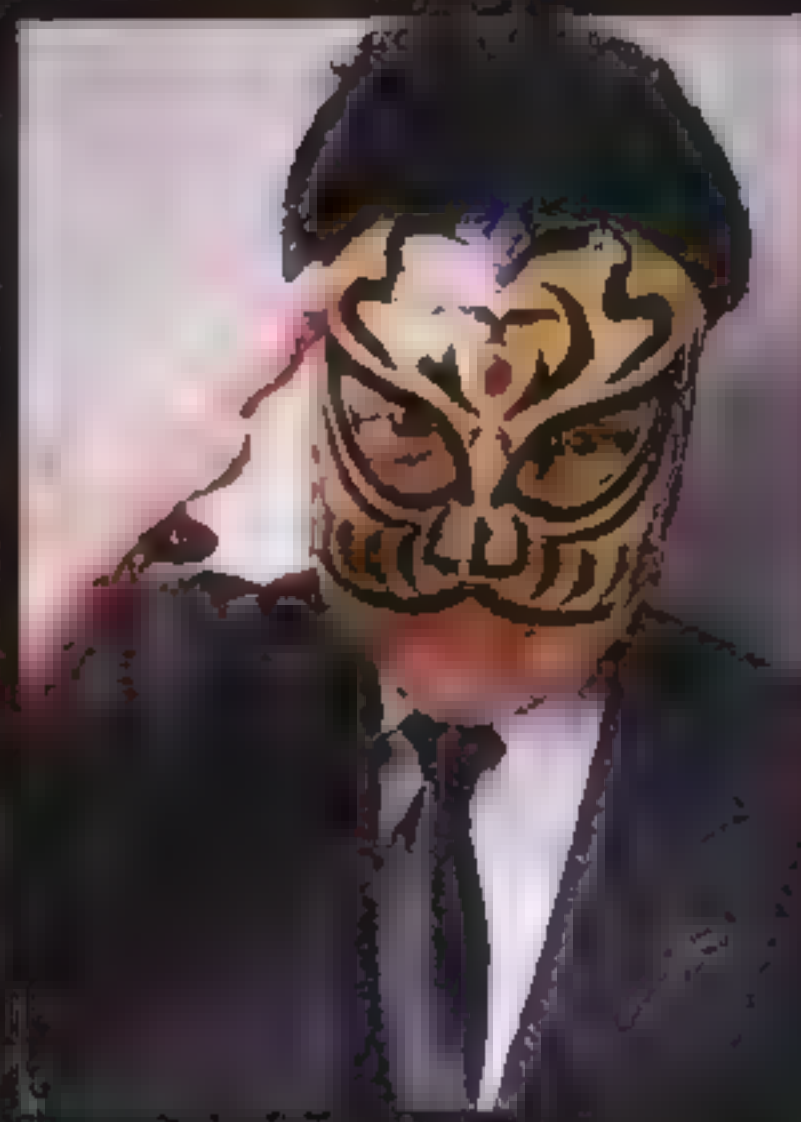
小川直也が54秒で敗戦!!

あなたはこのショックをどう受けとめますか？

遂に小川直也がPRIDEヘビー級チャンピオン、エメリヤーエンコ・ヒョードルと激突する!
かつてないほどに期待感が高まっていたさいたまスーパーアリーナ。
だが、54秒後には悲鳴と絶叫がこだました。いまだに賛否両論のこの一戦を
本誌でおなじみの格闘家、プロレスラー、ライターの方々に小川の敗戦を語り尽くす!!

構成／坂井ノブ　designed by matsu（Two Three）

大日本帝国・掣圏道会龍皇帝

佐山聡

「負けるのなんて気にする必要ないでーす」

小川vsヒョードル戦？ それ一昨日も聞かれたなぁ。「ゴン格」だったかなぁ。

その時も言ったんだけど、この試合でオーちゃんは強くなってるなって思ったんだよね。パンチなんかすっごくうまくなってるよ。関節技で負けたことでいろいろ言われてるみたいだけど、全然そんなことなくてぇ、あれはその前のロシアンフックでペースを乱されただけ。ロシアンフックって、ボクシングのパンチよりももっと外側から入ってくるから慣れないと避けられないんだよ。だから、今回はロシアンフックが入ったことと、マウントを取られたことで慌てちゃって一本取られちゃったんだと思うよ。あとはそうだなぁ、組み付き方もよくなかったかなぁ。

え、ほとんど負けてる？ そんなことないよぉ（笑）。ロシアンフックとレスリングの部分で負けただけだよ。だってパンチは良くなってたんだからさ。そこは認めてあげないと。それに関節技だけの試合だったら、オーちゃんはヒョードルに勝てるからね。

あとね、負けるのなんて気にする必要ないで～す。大事なのは精神だから。試合のあとにハッスルポーズをしたんだって？ ボクはそれは見てないけど、負けてすぐにああいうことができるんなら全然大丈夫だよね。まあ、でも、ノゲイラとの試合の方が良かったとは思うね。そっちの方が噛み合ったんじゃないかなぁ。

最後に、ひとつだけいい？ 新しい虎のマスクが完成しました！ 額の部分に日本刀が入ってる武士道タイガーですよぉ。

ということでワタクシはこれから日本刀とともにリングに上がり、武士道を伝えていく者となったのである！ 押忍！（談）

★

世界を股にかけるプロレスリング・インターナショナル・ジャーナリスト

ジミー鈴木

「小川直也やプロレスラーが弱いとするのは大間違い」

この仕事を20年以上も続けている私であるが、正直な話、今回のヒョードルと小川直也の試合、大会の数日前から極度な興奮状態に陥ってしまった。なぜかといえば、この試合が今後の業界の運命を握ってると考えたからである。

期待してはいけないのに、期待したのはプロレスの大逆転。

「もし小川直也がヒョードルに勝ったら、プロレスも総合格闘技もいまの10倍、いや100倍盛り上がる」

「小川が勝ったらDSEは一気に天下を取るぐらいの人気となるだろうし、ここは何が何でもそうさせなきゃ駄目だ」

などなど考えていたら、テンションがど

浴私小 〝泣

…んどんハイになっていって前日はなかなか寝られないほどに興奮している自分がいた。
　そして結果が出た。
　小川直也の完敗……。
　パンチが当たってしまったのは不運だったし、それでも組み付いていった小川の闘争本能は凄いものがあると思う。が、冷静に考えてみれば当たり前の結果。
　「PRIDE」ルールの闘いにおいてヒョードルは無敵……世界一強い男である。
　一昔前なら、柔道やアマレスで世界レベルにいればUFCあたりで勝てた。スパーンやコールマンらはアマレスの〝五輪候補の補欠〟レベルだったが、その技術で頂点に立った。
　しかし、時の流れは総合格闘技というジャンルをもの凄いスピードで進化させてしまった。私が思うに、一昔前なら小川直也にもチャンスはあったと思う。しかし現在の「PRIDE」は別世界なのである。
　車に例えれば、プロレスラーである小川直也は公道を走るように作られた市販車。対するヒョードルは純粋なレースカー。
　小川がヒョードルに「PRIDE」ルールで闘いを挑んだのは、市販車がレースカーに鈴鹿サーキットで挑戦したようなものである。
　小川直也は車に例えればメチャクチャ速いフェラーリのようなもの。フェラーリは極上のスポーツカーで、なんちゃってスポーツカーではない。
　しかし、そんなフェラーリでも、助手席やブレーキに至るまでスピードを出すため以外の装備をすべて排除し、特別のタイヤを履き、思いっきりチューンしたレースカーにサーキットにおいては勝てっこない。
　しかしどちらが車として総合的に完成された車かといえばフェラーリのほうだろう。レースカーに比べれば乗り心地も格段にいい。
　東京から大阪まで公道で競争したら勝てる……というかブレーキのないレースカーはすぐにクラッシュしてしまい勝負にならない。
　総合格闘技の好きな人もいればプロレスの好きな人もいる。今後の小川直也はより一層ピカピカのリファイン……プロレスラーとしての自分に磨きをかけハッスルすればいいではないか。
　これをして小川直也やプロレスラー全体が弱いとするのは大間違いである。演歌歌手がシャンソンのコンテストに出て優勝しなくても「奴は歌が下手」と言えないのと一緒だ。
　そして小川直也は今後も日本プロレス界の台風の目であり続けるだろう。3、2、1、ハッスル、ハッスル!!

★

タダシ☆タナカ

シュート活字の第一人者

このままダラダラと総合参戦していたら肝心の『ハッスル』での評価を失う

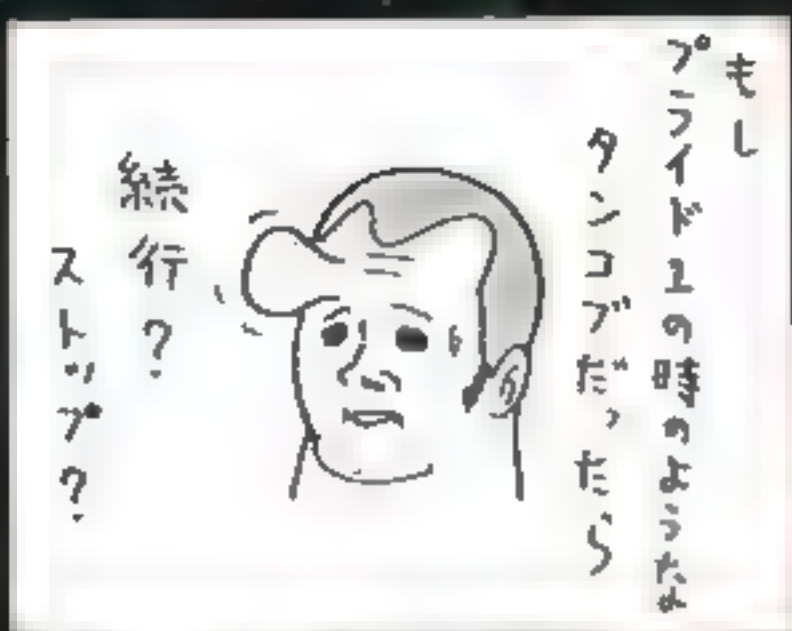
　小川直也の海外での評価は低い。インターネットは投票しやすいこともあるのか、アチコチの予想で日本人王者が誕生する確率は数%だった。5ヶ月間トーナメントをここまで盛り上げたのは、〝ハッスル・キャプテン〟こと小川直也であるにも関わらず、「作りの試合でプロテクトされてきた」と決め付けられている。開幕戦の北米評にせよ、①他のカードは賭けの対象になっているのに、この試合だけ除外されていた。②小川のパンチがレコに当たって倒した瞬間のインスタント・リプレイがなかった。③番組の最後で本日の大会を振り返る場面に、この試合だけダイジェストされなかったと、じつはどれもこじつけでしかない。
　この種の「海外ではどう報道されたのか」を紹介する場合、忘れがちなのは、それらのメディアに元情報を流した日本人がいるという事実である。「皇室のニュースが海外から漏れた」から、政治の世界で選挙の結果がどう分析されているかまで、日本のことを追いかけている記者たちに、ネットで書いているような自称評論家が講釈を垂れている元凶を触れずして、なぜここまで一方的に悪く書かれているかを検証しても無意味だろう。
　プロレス村身内の裏切りもある。東京スポーツなどはわざわざ阪神の井川慶投手にコメントさせて、「ホントにガチンコの試合かできるの?」――〝「PRIDE」のリングでプロレスをやられたら困ります。価値が下がっちゃう!〟と声を荒げた」と、思わせぶりな記事にしていた。
　吉田秀彦も、デビューとなったホイス・グレイシー戦のレフェリー・ストップに関する英語版実況が日本で放送されたものと余りにも違うために、似たような疑惑があった。しかしヴァンダレイ・シウバ戦が年間最高試合とまで評されるに及んで、汚名を返上した経緯がある。小川は参戦表明に〝アマチュアのような試合をすればいいんだろ!〟と、わざわざヒントも出していた。ただし〝氷の拳〟ヒョードルにKOされるならともかく、こともあろうか腕ひしぎ十字固めに暴走柔道王がタップした事実は重い。
　K-1からの転向初戦になるステファン・レコや、相撲上がりの戦闘竜に勝っただけのジャイアント・シルバを倒して決勝大会に上がれただけで、世界のトップとの総合ルールでの実力差が今回の秒殺で露呈してしまった。
　茅ケ崎のピストン堀口道場まで取材した者は、誰もが小川に魅せられてしまう。まず自分からグラウンドにいかない限り倒れそうもない大地にしっかり根付いた小川の足が印象的だ。柔道出身らしく立ちのバランスが抜群にいい。その上で打撃を集中特訓していた。だから「小川はヤオだ」と書き飛ばす輩には納得がいかない。しかしこのままダラダラと総合に参加していたら、肝心の「ハッスル」での価値を失う。大声援に感激した小川だが、「負けてもハッスルがある」と、あっさりプロレス専念を打ち出したとしても責められない。「このままでは終われないはず」は希望的観測であって、若さのヒース・ヒーリングが、再度挑戦してくるのとは周囲の状況が違いすぎる。私はあえて決断のときが来たと提言しておきたい。

★

ツッコミどころは満載でしたが

終わり良ければ

本誌「リングの汁RADICAL」絶賛連載中

花くまゆうさく

私は家でくつろぎPPV観戦だったんで、メインがああなっても納得できた。ノゲイラが気合い入ってたので残念だけど、でも、小川vsヒョードル、ノゲイラvsハリトーノフ、この2試合でこの日はもう充分満足。だって、「小川が強い人とVTで闘う」、やっとこの日が実現だもんね。スポセン伝説聞いた時から、この日は夢。長かったなあ。途中完全にあきらめてたもんね、こんな日は来ないと。

それがこんなにあっさりと実現。カード決まった時、わけわからなかった。やけっぱちでOKしたのか？ 自信ありでOKなのか？ どっちなのかと。「ゴング」でいろんな人が予想してたけど小川勝利が多くて、更にアタマは混乱。まったくわからず当日へ。

まずは、ノゲvsハリで大ドキドキ。ノゲの負けも少し覚悟して試合を待ってたけど、入場してリングに上がったハリの顔見ると、表情があるじゃないの！ いつも無表情のハリが！ これで、ああハリも普通の人間なんだ、緊張してるんだと思えて少し安心、ノゲイラいけるぞと期待大。でも試合始まり、ハリのボディパンチ見るとやっぱスゲエ！恐怖だ。ノゲイラがんばってくれ～と思いつつも、ハリのボディパンチには感心＆恐怖。バルバーといい、総合でボディちゃんと打てる人は魅せるねえ。魅せる試合したい人は、狙い目じゃないかな。容易にプロレス技やるより、鍛錬して研ぎすまされたボディパンチぶっぱなしたほうが、芯から客はうなるし、心つかめるよ。

ノゲイラ勝って一安心した後は、すぐにもはやこの日のメインとも言える小川vsヒョードル。これがもう尋常じゃない興奮の一分間。こんな興奮した一分間見せてくれて、ありがとうDSEって感じ。小川がマジで腕十字取られてるという現実が見れるのは、格闘技だけ!! これじゃ、いまプロレスが何したって、かなうわけないよ（でも「ゴング」によれば今回はG1の勝ちなんだって！ ビックリ）。

そんで現実を受け止めたうえで、ああゆうふうに振る舞う小川の姿には、なんかマジに感動しました。だからといって、ハッスルの試合を見る気にはならないですけど。コントのほうは見ます。見ますよ。だって、いまテレビに出てる人でいちばん面白い人は、高田総統（not 統括本部長）とヒロシですから。おしまい。

★

本誌「ザ・検証」絶賛連載中

せき詩郎

「正直に言おう、私はまだPRIDEを見ていない」

起きるとマラソンが終っていた。オリンピックのも杉田かおるのも終っていた。

そういえば燃えるゴミの日だ。慌てて溜め込んだゴミをまとめ、面倒だからパンツのまま外に出た。

外は涼しくなっていた。昨日までの暑さが嘘のような気温だ。トランクスの下から涼しいというよりは肌寒い風が入ってくる。夏ももう終わりのようだ。

あんなに暑くてもう嫌だったはずの夏なのに、終わりとなると寂しくなるものだ。あまりの寂しさに私はゴミを出した後、もう一度寝ることにした。夏の夢をみよう—

そう思っていたのだが、見たのは逃げる夢と歯が抜ける夢だった。

正直に言おう。私はまだPRIDEを見ていない。

何度も見ようとした。電源を入れてビデオをセットするだけ。簡単な作業だ。しかし、この「簡単」というのが曲者であった。あまりにも簡単なものだから、いつでもできるという気持ちになってしまったのだ。別に今日見なくても明日でいいだろう、そう繰り返しているうちに時は流れて行った。

そうやっていつしかビデオをみることを忘れていくのだろう。

何年か、あるいは何十年後かわからないが、ある日掃除をしていると一本のビデオをみつける。AVのサンプルテープのツメに無造作にガムテープが貼られている。なにかを慌てて録画した形跡のあるビデオ。だがそれがなにを録画したものなのか思い出せない。

掃除の手を休め、そのテープをビデオデッキに入れる。ブラウン管に映し出されるPRIDEの映像。ああ、これはあの時の—と私は気づくだろう。

試合が進むにつれて私の時間はさかのぼっていく。録画した頃の記憶が鮮明に思い出される。私は目を閉じ、若かりし頃を懐かしむのだ。

というくらいの壮大な計画さえ考えていたのだが、その計画はすぐに中止となる。原稿の締め切りがきたのだ。もはや見ないで書くという選択肢しか残っていなかった。

幸い、小川戦の結果は知っていた。電車の中で隣の人が読んでいた新聞を横目でチラチラ盗み読み、情報は入手済みだったのだ。

たまに寝ないで、そのまま朝一で喫茶店に行き朝刊を読んでいると、甲子園出場をかけて各地で行われている熱戦の結果を目にすることがある。私は真っ先に北北海道大会を見る。応援すべき母校は出場していないものの、名前はよく知っている近隣の高校が出場していたりする。

その高校が勝っていたならば「へぇ～、勝ったんだ」と思う。逆に負けていれば「まあ、勝てるわけないよな」と思う。それ以上の感情は一切ない。

小川戦の結果を見た時もそれと同じであった。

「えっ!? 天山なの!? また天山なの！ なぜ？ どうして！」と慌ててトーナメント表をもう一度見て確認する。

そんなことも小川の場合、なかった。

★

革命戦士

長州力

「よくぞやったな、と評価している」

小川は頑張った、と思うよ。どういう結果であれね。彼の戦いには勝ち負けは関係ない。俺はよくぞやったな、と評価している。事実、ハッスルがこれだけわき上がっているのは、彼のおかげなんだからな。

（7月21日付『東京スポーツ』より抜粋）

〝泣き虫〟とは君のことだ!!

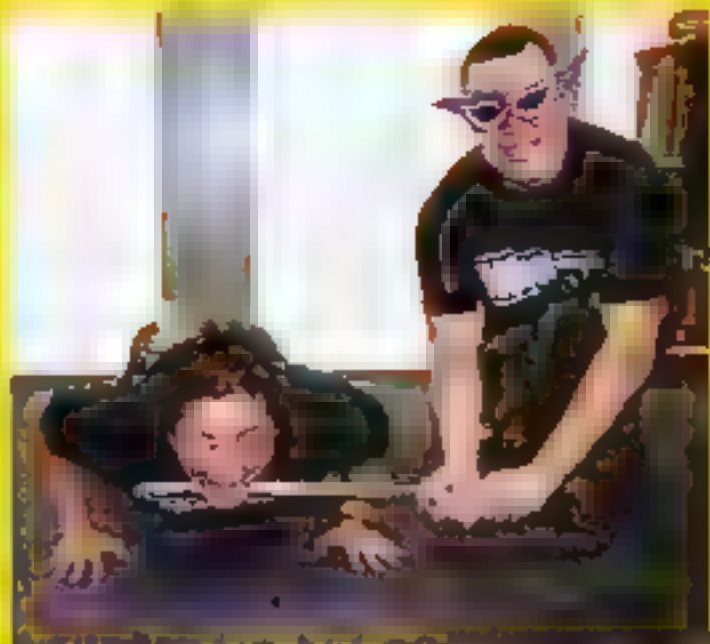
小川君、〝氷の拳〟の次は私の〝言葉の鉄槌〟を浴びたまえ!!!!

NEWモンスターが続々登場!!
“キャプテン・ハッスル”にさらなる試練!

9.2 ハッスル・ハウス vol.2
～東京モンスターパーク～

構成／ジャン斉藤
写真／DSE

島田裕二譲りのプロレスセンス？ 参謀・島田裕三、打倒・坂田に向けて極秘特訓!？

「島田サ～ン、イイ加減にシナサ～イ!!」チョップで胸板を鍛えている？ いや、モンスター軍慰安旅行の余興に磨きを掛けているんだろう きっと

極秘裏に写真を入手したが、これがモンスター軍流のトレーニング？ アン・ジョー司令長官がヤドカリをひたすら虐めている風にしかみえないが…

特訓（?）の合間に笹原GMへの賄賂も欠かさないが、前回の「ウナギ弁当」に続いてエビアン一箱分は拒否された GMは「モン娘。なら頂きます」と言ったとか言わなかったとか

笹原GM、中村カントク、アン・ジョー司令長官らが揃ったハッスル劇場で「坂田のナルチビ（ナルシスト・チビの略）なんか俺でも倒せる!」とポロリ失言。プロレスデビューすることになってしまったヤドカリ。親戚の島田レフェリーは海外で“ニンジャ2号”として活躍していたが、参謀の場合は?

“ハッスル査定試合ファイナル”で完敗！ どうする“キャプテン・ハッスル”!？

“ハッスル査定試合”をクリアすることで『ハッスル』出場権をもぎ取ってきた“キャプテン”小川。ヒョードル戦で敗北を喫したことにより、出場が危ぶまれることはおろか、髙田総統から容赦ない“言葉の鉄槌”を浴びせられることは容易に想像が付く。“キャプテン”は、いよいよ“審判の日”をどう臨むんだ!?

9.2 後楽園ホール ハッスル・ハウス vol.2 ～東京モンスターパーク～

HUSTLE POINT

日本列島モンスターパーク計画？ 総統の“魔の手”がみちプロに忍び寄る!

詳しくは、別枠の“白使の墓参り”情報、P84のサスケインタビューを参照していただきたいが、『髙田モンスター軍』の“魔の手”がみちのくプロレスに迫っている!! サスケ議員は『ハッスル』関与をAV出演疑惑同様に否定しているが、9・2『ハウス』&9・20『ハッスル5』、そして9・26『ケッパレ1』での動向は見逃せなくなってきている。

ハッスル・キングの欠場でピンチのハッスル軍！ 長州、川田がその穴をハッスルする！

ハッスル・キングが右肩の手術のために欠場となったが、“俺だけのハッスル”宣言、“ハッスルK”襲名を果たすなど、口では嫌がりながらもじつはハッスルする気満々の川田や、ハッスルポーズ待望論が渦巻く長州が代わってハッスルする。最後を締めるのはどっちだ!?

“髙田総統、再び”聖地降臨”！ ”ハッスル査定試合ファイナル”の点数は？

”キャプテン”大ピンチ！ ヒョードルの”氷の拳”に続いて、髙田総統の”言葉の鉄槌”が浴びせられる!?

いよいよ目前に迫った「ハッスル・ハウスVol.2～東京モンスター・パーク～」は、前回に引き続いてチケットは完売必至！ その膨れあがる”ハッスル・パワー”は、9・20「ハッスル5」横浜アリーナ大会に向けて大掛かりな連続ドラマを期待させてくれるが、「ハウス」最大の焦点は、ヒョードルに完敗を喫した”キャプテン”の処遇。つまり、髙田総統の”査定”になることは間違いないだろう。あの情け容赦ない”言葉の鉄槌”で大ブレイク。CMデビューが熱望されるあの髙田総統が、”キャプテン”にどんな厳しい”査定”を下すのか？ 総統の”古くからの知り合い”である髙田本部長も「総統は辛辣なことを言うんじゃないの？」と言うように、”キャプテン”に再び試練到来なのだ。

そのうえ総統率いるモンスター軍からは、NEWモンスターが続々登場！ なんと”参謀長”ヤドカリ島田も勢い余った失言がきっかけとなって、プロレスデビューが決定！ みちのくプロレスにも”魔の手”を忍ばせ、”日本プロレス界・壊滅”の勢いが止まることを知らない「髙田モンスター軍」なのである。

一方のハッスル軍はというと、”ハッスル・キング”が右肩の手術により無念の欠場！ しかし、”ハッスルK”川田利明、そして長州力が「ハウス」初見参。”マンガの世界”を再びまたいで、”キング”の分まで大いにハッスルしてくれるだろう。とくに「ハッスル4」でヒリヒリする舌戦を繰り広げた、総統との”第2ラウンド”も非常に楽しみだ。

ちなみに、今回のサブタイトルはモンスター軍が命名。「ハッスル軍大進撃 愛はチキンを救う」を提案した中村カントクが、ヤドカリのvs坂田戦と引き換えに笑顔で快諾している。モンスター軍寄りながらもハッスル・ポイント満載だけに、前回を遥かに超えた、とにかくチョー気持ち良いハッスル・ワールドになることは受け合いなのである。ハッスル、ハッスル!!

こんなレスラーいるわけねえだろ!!（怒）

『髙田モンスター軍』出場予定怪物

★”幻の雪山モンスター”ヒマラヤン・ビッグフット
★マーク”ザ・ハンマー”コールマン
★ザ・ピラニアン モンスターZ
★モンスターC
★サイコ・ザ・デス
★ダン”ザ・バッファロー”ボビッシュ
★”地獄の道化野郎”ザ・デビル・ピエロ
★”陸狩酋長”HIZAKARI
★”蠅の帝王”マスクド・ベルゼバブ

前回に続いて完売必至!! どうにかして手に入れろ!

ハッスル・ハウスvol.2
～東京モンスターパーク～

【日時】9月2日（木） 開演:19:00
【会場】後楽園ホール
【チケット】スタンドS席¥5000、スタンドA席¥3000、立見¥3000
【ハッスル軍出場予定選手】ハッスルK＝川田利明、ナルシスト＝坂田亘、横井宏考、崔リョウジ、藤井軍鶏侍、石狩太一、ゼブラーマン、ハッスル仮面、佐々木義人、長州力
【決定カード】ヤドカリ島田 vs ナルシスト＝坂田亘

“キャプテン”の直訴により子供料金を設定!

9.20 ハッスル5

【日　時】9月20日（月・祝）
開場／15:00　開演／16:00（予定）
【会　場】横浜アリーナ
【チケット】ハッスルVIP席￥20,000
［特典：専用入場ゲート・ハッスルグッズ付］
RRS席￥10,000／スタンドS席￥7,000／スタンドA席￥4,000
※小学生以下は、全券種半額 ドリームステージのみで受け付け致します。
【お問い合わせ】ドリームステージエンターテインメント
TEL:03-5464-1531
PRIDEオフィシャルサイト:http://www.pridefc.com

今回はマカロニ・ウエスタン風!! ハッスル5 ポスター!

「ハッスル」といえばポスター、ポスターといえば「ハッスル」！ 目ン玉が飛び出るデフォルメで、マット界の古びたモラルを根こそぎブチ壊すことでおなじみの「ハッスル」ポスターは、今回も素晴らしい出来栄えとなった。1人だけ加工なしで拳銃無頼な長州も痺れるが、やはり落雷に右肩を打たれるハッスル・キングの姿がとくに秀逸。「ハッスル5」の会場でぜひ購入するんだ!

鳥肌立った!! 白使の墓にモンスター軍フラッグ!

みちプロ関係者から、モンスター軍に荒らされた”白使の墓”写真を入手!! まさかの緊急事態にうなだれるサスケ議員の姿、そして、たしかに”魔の手”の爪痕がそこには刻まれていたのだ（以上、水曜スペシャル探検隊ナレーション風でお送りしました）

「東北のどこかで土を掘っていた怪しいモンスターを見かけた方は、すぐ私に情報提供をお願いします!」。9・22みちのく仙台大会の開始前、サスケがリングに上がり「悲しいお知らせがあります。白使の墓が荒らされて、こんなものが置かれていました」と、モンスター軍フラッグを掲げる。驚くファンにサスケは「“キャプテン・ハッスル”に相談しに行きます!」と告げると大歓声! また、サスケは試合後に情報提供を呼び掛けた。東北在住の紙プロ読者はぜひ協力してあげてほしい。

モンスター軍の“魔の手”が『みちプロ』に!?
されどスーダラ男は『ハッスル』参戦を断固否定!

「私ほど『ハッスル』が似合わないレスラーはいませんよ!!」

ザ・グレート・サスケ

[プロレスラー/岩手県議会議員/お笑い芸人]

聞き手 ジャン斉藤　designed by matsu Two Three

とあるお盆の日に、〝白使の墓参り〟に出向いたサスケが衝撃的光景に遭遇していたとはつゆ知らす、『ザ・検証スペシャル 入江とは何か？』取材のためにサスケのもとへ訪れた本誌編集部 〝魔の手〟に揺れる、その重苦しい心境を独占キャッチした！

——サスケさん！ 今日はど〜してもお聞きたいことがあるので、東京から飛んできました！

サスケ それはそれはご苦労様です。でもね、『紙プロ』さんにはホントに申し訳ないですが、『ハッスル』の件に関してはノーコメントにしてください！

——は？ 誰も『ハッスル』のことなんて聞いてないですよ。

サスケ （やけに曇りがちな表情で）いや、だから『ハッスル』の件に関しては広報を通してください。私から言えるのはそれだけです！

いや、あの……前々号のサスケさんのインタビューでは剛竜馬さんの事件のことを伺ったので、今回は入江秀忠選手の事件について聞こうと思って来たんですけど。

サスケ （やけに晴れ晴れとした表情で）あれ、『紙プロ』さんは〝あのとき〟（P83参照）呼んでませんでしたっけ？

——〝あのとき〟？ 何かあったんですか？

サスケ いやいや、気にしないでください ガハハハ！

ふ〜ん。ところで、お隣の方はもしかしたら、パリ・コレでモデル・デビューされた息子さんですか？

サスケ そうです。いまは夏休みなんで私の付き人として巡業にも付かせて、人間教育の一環としていろいろ指導してるわけですよ

人間教育！ さすが議員になると言うことが違いますね（笑）。そんなサスケさんが、入江さんの事件を聞きかれたときはどう思われたんですか？

サスケ それは〝バカ！〟の一言ですよ。モチのロンで！

〝モチのロン〟（笑）。最近『紙プロ』読者になった人には、まったく意味不明なフレーズを使ってでも断言しますか！

サスケ モチのロンですよぉぉ！ 私は議員として福祉だけではなく、DV（家庭内暴力）問題も専門に扱ってるんです。だから異性に対する暴力は絶対に許せない！ 見逃せないわけですよぉぉ!!

ところがサスケさん。あの事件はどうやら複雑な事情があるらしいんですよ。

サスケ ほう。というと？

入江さんの言い分によると、交際を求めたこともない 喧嘩の仲裁に入ったことが誤解を生んでしまったとか

サスケ だとしたら……んむむむ……入江さんは偉い！ 偉いね、いまは見て見ぬ振りをする輩が多いですから。そんな正義感のある人間は偉いですよ しかし、入江さんの事件が事実無根だったら、あの事件を報道したマスコミはそれなりの対処をしないとマズイですよね。一部では〝このバカ！〟みたいな書き方をされてたわけですから。報道ひとつでイメージはまったく一変するマスコミの皆さんは気をつけないといけないですよ！

まったく耳が痛いです（笑）。

サスケ ところでジャンさん！ イメージといえば、最近のプロレス界もだいぶイメージが変わりましたね〜。

は、はぁ。

サスケ ねえ？ イメージが大幅に変わったレスラーが増えたんじゃないですか？

なんか不自然なネタ振りですね。

サスケ いやいや！ 至って自然な流れの会話だと思いますよ、私は。

……川田さんや破壊王のことを言ってるんですか？

サスケ むむむ。『ハッスル』の件はノーコメントだと言ってるのに……そうきましたか！（ポンと膝を打って）

——サスケさんが振ってきたんじゃないですか！

サスケ （無視して）川田さんは私のアンテナに引っ掛かりましたねぇ。

やっぱり、あのトラックスーツに惹かれたわけですか？

サスケ というか、私は川田さんの本質はどこにあるんだろうと思ったわけですよ。つまり、いままでの〝川田利明像〟は周りが作り上げたイメージだったのか？ その真実も知りたい。〝カタブツ〟だとか〝冗談も通じない〟と言われ続けた川田さんは、あの変身によって深みが増したと思うんですね。

ホントそうですよね。しかし強引な『ハッスル』へのネタ振りを考えると、サスケさんもハッスルしたいとか？

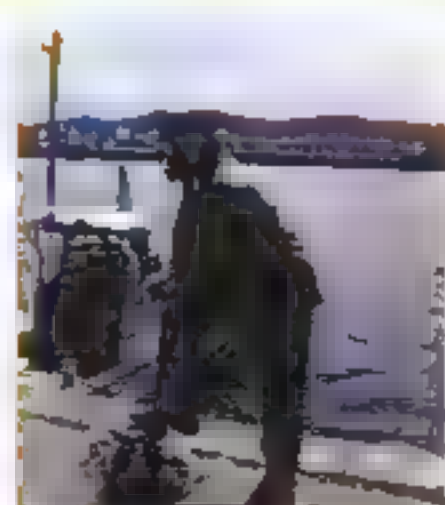
サスケ （やけに大袈裟に驚いて）ま、まさか！ だって私は『ハッスル』とは接点がありませんから、ハッスルする必然性がないじゃないですか？ 不思議なこと言いますねぇ〜。

まぁ、〝日本のプロレス界を根こそぎ

私がハッスルしたら『みちプロ』ファンが大いに悲しみますよ……

モンスター軍の仕業？ サスケの〝祈祷〟実らず雨天中止！

7月27日「みちプロ」岩手大会。会場上空たけにドス黒い雲が漂い大雨を振らせた。サスケの身体を張った〝祈祷〟も無力。サスケはこれを総統の仕業と断定。中止による会場費用などの賠償請求も辞さない構えだ。

ステテコ姿を恥じらいもなくさらけ出すサスケ。「こんな私がハッスルできるわけないでしょ？ ガハハハ！」と、説得力抜群の台詞でハッスル参戦を否定！ たしかにこんなくたびれた男がハッスルなんかできるわけがない。

♪海はよぉ〜!! 漁港で佇みながら、忍び寄る〝魔の手〟に思いを巡らすサスケ議員。海は似合うが〝ハッスル〟には1ミリたりとも似合わない。ちなみにいずれも「みちプロ」レフェリー、テッド・タナベの携帯から激写された画像だ。

The Great SASUKE Doesn't HUSTLE

ブチ壊す！〟と宣言している髙田総統も、みちのくプロレスには興味なさそうですもんね。

サスケ　おー　鋭いとこ突いてきましたねえ（目を輝かせて）。

な、何か鋭いこと言いましたか、ボク？（笑）。

サスケ　もうこうなったら『紙プロ』さんにも告白しましょう！

な、な、なんですか！

サスケ　じつはですね、いまはお盆の時期じゃないですか？　東北は帰省ラッシュで人渋滞　みちプロの事務所が面してる通りにはお墓やお寺があるから、お墓参りで人渋滞なんですよ　じゃあ、私も白使の墓参りに行ってみようと　報道陣と一緒だったんですが、『紙プロ』さんを呼ぶのを忘れてしまったようですね。ガハハハ！

冷たいなあ。しかし、〟白使の墓参り〟って、また唐突ですねえ。

サスケ　白使といえばね、まあ、かつてWWF（現WWE）のトップスターとして活躍して、グレート・ムタに敗れて封印されたわけですが、ところがですよ！　渋滞の中をやっと白使の墓に辿り着いたら、なんとその墓が掘られて荒らされた跡があったんですよ！

は、墓が掘られていた

サスケ　棺桶が剥き出し！　フタが開けっ放し!!　中身は空っぽ!!　そして聞いて驚かないでくださいよ！　なんと、髙田モンスター軍の旗が置かれていたわけですよ、これが！

ゲ！　髙田モンスター軍の旗!!

サスケ　いやぁ～、これはジャンさんが言われた〟日本のプロレス界を根こそぎブチ壊す！〟ということを掲げたモンスター軍

ブッチャー武者&小鉄神父を従え「ひょうきん懺悔室」パロディにもチャレンジしたこともある。サスケが神に誓っても、ハッスルしないことが伺いしれる

じつはサスケは暗殺されたこともある　デンジャラスな過去を持つだけに「ハッスル」とはとても噛み合いそうにもない。「ハッスル」に暗い影を落とすだけ。参戦反対なのだ

サスケは「ハッスルポーズをやるときのスタンドマイク、あれ何？　意味がわからないよ！」とも噛みついた　リンクに小道具を持ち込むことなど言語道断なのだ

勝新太郎に扮したこともあるサスケ。万が一ハッスルしても「パンツの中にハッスルが入っていた！」などと、無茶な弁明で切り抜けるセンスも持ち合わせているのだろう

の魔の手が『みちプロ』にも迫ってる！　それ以外のものでも何者でもない！　でしょ？　こうなると、『ハッスル』は他人事とは言ってられないわけですよ。まさか白使が……!?

髙田総統の「ビターン／ノッ!!!!!」を受けたと!?

サスケ　……い、いや！　んむむむ……（首を振りながら）考えたくもない!!

ちなみに〟新崎人生〟と〟白使〟は別人ということでよろしいのでしょうか？

サスケ　まったくの別人でしょう!!（キッパリ）

――〟新崎人生〟と〟白使〟は別人!!

サスケ　人生社長もこの件について心配してました　白使とは仲はいいらしいですからね　〟古くからの友人〟なんだそうですよ

髙田総統と髙田本部長も〟古くからの知り合い〟みたいですよ

サスケ（即座に）あれは同一人物でしょ、どう見ても!!

あ、こっちは同一人物（笑）

サスケ　髙田総統と髙田さんが別人？　大人をナメるのもいい加減にしてくださいよ!!　あれはド・ウ・イ・ツ・ジ・ン・ブ・ツ！　別人だなんて有り得ない!!　それはともかく、モンスター軍の〟魔の手〟が、みちプロをどうにかしようとしてますね。だから、モンスター軍といえば『ハッスル』、『ハッスル』といえば小川さん。この件について小川さんのところに相談に行かなきゃいけない！

〟キャプテン・ハッスル〟に相談！　サスケさんは小川さんと接点があるんですか？

サスケ　一度だけ挨拶したことがありますね　まだ小川さんが猪木さんや佐山さんと一緒だった頃で、たしか真樹日佐夫先生のパーティーだったかな？

それはすごいシチュエーションだ（笑）

サスケ　小川さんが覚えてらっしゃるかどうかはわかりませんが、相談するべき人間はハッスル軍の〟キャプテン〟しかいないわけです！　早々に不思議な、不吉な問題は片づけないといけない。みちプロも9月26日には安比高原でのビッグマッチ『ケッパレ1』を控えてますからね。

――『ケッパレ1』！　そのネーミングは『ハッスル』と微妙にリンクしてる気配を感じますが……

サスケ（顔をグングイと近づけて）400%、偶然です!!

（たじろぎながら）き、きっと偶然ですよね。はい

サスケ　『ケッパレ』は人生社長のアイデアで、フッと思いついたらしいですよ。〟ケッパレ〟とは津軽弁で〟頑張れ〟という意なんですけどね

意味合いも被ってるし、やはり『ハッスル』とリンクしてる気がしますが？

サスケ　いやいやいやいやいやいや！　そんな根も葉もない!!　冗談はよしてくださいよ、ホントに。『ハッスル』は見てる分には面白いですよ　ただね、私は長州さんの〟なにマンガの世界に浸ってるんだ、コラァ!!〟の言葉に500%、賛同しますから！

サスケさんも〟マンガの世界〟を否定しますか！

サスケ　髙田さんは何をやってるんだ！という思いが私にもあるんです　どうかしちゃったんだろうかと。私の嫁だって、昔は髙田さんの追っかけをやってたわけですよ。それがいまでは「髙田さん、いったい

地味なプロレス人生を送ってきた私がハッスルポーズをするわけがない！絶対にありえません!!

どうしたの……？」と。まったく呆れてるわけですよね

ハッスル・ポーズにも呆れてるわけですか？

サスケ ハッスル・ポーズ自体は素晴らしいですよ。小川さんは瞬く間に日本中に浸透させるポーズをつくってしまった。その偉業には脱帽ですし、私は最大限の評価をしてるんですよ。ただし、〝じゃあサスケもやれば？〟というのは、私のプライドが許さないんですよ！（キッパリ）。

――ま、まさか！　日活ロマンポルノ路線シネマ『シベリア超特急　欲望列車（仮）』のスーパーアドバイザーのプライドが許さないなんて！

サスケ もうプライドが許さない！　私はプロの芸人でもありますから。レスラーとしてもね、人の真似は良くないとは言い続けてきたわけですよ。

――真似といえば、サスケさんの技は頻繁に他のレスラーに真似されてきた歴史がありますよね。

サスケ その通り！　世界中で私の技が真似されてきたわけですが、世界中のレスラーが使ってくれるのは大変光栄ですよ。WWEの某選手は「サスケの技を盗みました！」と言ってくれている。であれば、「じゃあ、どんどん使ってくれ！」と私は言いたい。ところがね、私の技を盗んでおきながら、さも〝自分で考えました〟とすっとぼけてる輩がいる。これは許せないね！　しかも勝手に違う名前を命名しちゃってる。●●●●の●●●●が！

ワハハハ！　それで驚いたのが、サスケさんがその防御策として、〝偽の技〟を披露してカク乱させたことなんですよ。あれには驚きました！

サスケ 情報操作とでもいいますかね、ある意味　ニセモノを掴まそうとするのは、UFO業界でもよくあることなんですよね（キッパリ）。

あ、UFO業界譲りの対策でしたか！

サスケ じつはそうなんですよ。これはアメリカ空軍が情報コントロールをするためによく使う手段なんです。たとえば、記憶に新しいところでは、1997年頃かな。墜落した円盤から宇宙人の遺体が発見されて、それを解剖するビデオが出回りましたよね。

――ああ、ありましたね。

サスケ これは限りなく本物じゃないかということで、日本でもフジテレビが地上波で放映して大反響を呼びましたが、そのあとに　東スポ〟が嘘だったことを報道したんですね

その嘘ビデオを流したのは、アメリカ空軍の仕業だと？

サスケ （周りを気にしながら声を潜めて）いや、あの一件は、ある情報機関が意図的に流出したんです。私はその機関の名前を知ってるんですが、誰にも言うことはできない。なぜならそれを言ってしまうとね、私のレスラー生命……いや、政治生命にも関わってしまうので。うん。

そ、そこまでの極秘ソースを岩手県議会議員が掴んでましたか！

サスケ （さらに声を潜めて耳打ちしながら）だから、ちょっと誌面ではお伝えすることはできないんですよ。その機関は、あきらかに偽の情報を流して、一度はUFOの存在を本当だと信じ込ませる。いずれ情報の真偽が判明すれば、大衆は「なんだ宇宙人、UFOなんて嘘じゃん！」となる。そういう作戦なんですよ！

その手法をサスケさんがマット界に持ち込んだわけですよね。

サスケ 生み出す結果は異なりますけどね。まずは偽の技を披露して他人が真似したら、ほれ見たことか、引っ掛かったと。完成型を出して、それじゃないんだよとあざ笑うわけですね。

――身体を張って試したわけですか（笑）。

サスケ もしかしたら、これと同じように、モンスター軍の旗が白使の墓に置いてあったのは、私を『ハッスル』におびき出す罠かもしれない。しかし、その手には乗るかと！

――なんだかよくわかりませんけど、『ハッスル』なんかにはおびき出されないぞ、と。

サスケ それを私は声を大にして言いたいね。まぁでも、まずは白使の件はハッスル軍の〝キャプテン〟に相談しに行くのがいいんじゃないかと思ってるわけですけどね。

――〝キャプテン〟のことだから、相談に乗る代わりにサスケさんにハッスルポーズを要求しても不思議じゃないですよ。

サスケ ふぅ～～（深い溜息を付いて）。私は曲がりなりにも、15年のプロレス人生で築き上げてきたものがあるわけです。ハッスル・ポーズをすることによって、それを崩すわけにはいきませんよ。ええ。

――AVの世界は相容れても、ハッスル・ワールドはNG、と。

サスケ いやいや、私はAVには出てないですから！『ハッスル』にも出ません！私は地方議員もやらせてもらってますからね。議員たる者がハッスル・ポーズなどとはいかがなものかと。

サスケは全女・松永会長とクルーザー対談を実現させたこともある。真剣な眼差しで経営談義に勤しむその姿は、まったく『ハッスル』とは縁遠いわけだ。

白昼堂々路上で全裸にされたことも！　これは「議員たるものハッスルポーズなんかできない」という発言に厚みが増すシーンなんだ。

ゆうとぴあ師匠から「ゴムぱっちん!!」を伝授されたこともあるがそれは伝統芸だからこそ受け入れた。誕生して半年も経たないハッスルポーズなぞこちらから願い下げだよ。

サスケの喜怒哀楽が渾然一体となって噴出したアルフィン離脱会見。感情表現ではサスケの右に出るレスラーがいないだからこそ『ハッスル』登場が期待されるが、可能性はゼロなんだ！

HUSTLE

The Great SASUKE Doesn't HUSTLE

でも、"キャプテン"と共に、自民党の阿部幹事長は一緒にハッスルしてましたよ

サスケ う〜ん 政治的な話は持ち込みたくはないけど、どちらかというと、私は民主党の岡田代表とやってもらいたかったですね。

サスケさんは民主系でしたね

サスケ 無所属ではありながら、民主系ですから。政治的な事情でもハッスルできないわけですよ

しかし、サスケさんが『ハッスル』に参戦する要素はだいぶ揃ってるような気が……

サスケ わかります、わかります たしかにね、白使の墓にモンスター軍の旗が置いてあった、安比高原大会のタイトルが『ケッパレ1』だ そして"『紙プロ』の『ハッスル』か、『ハッスル』の『紙プロ』か"と言われている雑誌から、私が取材を受けている

それは『週刊ゴング』じゃないんですか?

サスケ いやいや、『ハッスル』といえば『紙プロ』というのは私は調査済みですよ！ しかもいま喋ってることの88％は『ハッスル』のことだと 読者の皆さんは、こうなったら"サスケはあんなに否定してるけど『ハッスル』に出るんだろう"どうせ喜んでハッスル・ポーズをやるんだろう"と疑っているに違いない 想像が大いに膨らんでいることでしょう しかし！ 誠に申し訳ないですが、私が『ハッスル』に出るわけがない!!

全身に写経が彫られた不気味な"怪人"白使。かつてWWF（現WWE）のトップとして活躍。グレート・ムタと"超異次元空間バトル"を展開したこともあるが、まさかのモンスター軍入り!?

でも、サスケさんは『ハッスル』によく映えると思うんですけどねぇ 昔からハッスルしまくりだったじゃないですか

サスケ いやいや、それは大きな誤解ですよ。私のプロレス人生を振り返ってみてくださいよ。地味ィ〜なプロレス人生ですよ うんうん

竹脇の如きプロレス人生がある、と（笑）

サスケ そう。ひっそりとね（笑） それこそ昔の木戸修さんのような職人として、コツコツやってきたわけです 私の得意な空中殺法もいぶし銀の領域 そんな私をつかまえて、『ハッスル』が似合うなんてだなんて滅相もない！ 完全に有り得ないですよ（首を振りながら）

サスケさんと武藤（敬司）さんはぜひ『ハッスル』に出てきてほしいですけどね

サスケ 武藤さんとは大の仲良くなって、「『W−1』に出てくれ！」と言われましたよ 私は武藤さんに聞きたい「W−1」はどうなったんだ?と 私はそっちの方が心配だ!!

そういえば、『W−1』のエースのボブ・サップが『みちプロ』に出たこともありましたね

サスケ だからむしろ私は「W−1」派ですよ！ ガハハハ！ 『ハッスル』何するものぞと「W−1」で闘う絵は思いつくんですけど、『ハッスル』はまったく思い浮かばないですね 私はですね、

UFOは存在する。そして白使の墓も暴かれたことも事実なんですよぉ!

常にイメージトレーニングを大切にしてきたんです 私の哲学は"思考は現実化する"なんですよ サスケ・スペシャルも5年間、思考して現実化した みちプロを立ち上げたのも議員になったのもそう。まさに思考が現実化してきたわけですよ。

――グレート・サスケの影にナポレオン・ヒルあり、と。

サスケ ところがホントにごめんなさい『ハッスル』だけは思考してこなかった ただけに現実化できない 私はハッスルできないんですよ 読者の皆さんもね、変な期待はしないでください！

じゃあ、きたる9月3日の『ハッスル・ハウスVol.2』にサスケさんが登場するなんてことは……

サスケ （遮って）『ハッスル・ハウス』は9月2日ですよ！

あ、失礼しました しかし、よく御存知ですね（笑）。

サスケ 『ハッスル・ハウス』は19時開始だったな……これまた偶然にも、その日のスケジュールは丸空きなんですが、私がハッスルすることで大いに悲しむ『みちプロ』ファンだっていますから。何をやってるんだ、サスケ！（怒）――と。A級戦犯ですよ、そうなりゃ。ただ、もし！ 高田モンスター軍が東北に攻め込んできたら、俺はハッスルして、逆にやつらを根こそぎ壊滅しますよぉぉぉ!!

ハッスルするんじゃないですか！

サスケ いやいや、いまの「ハッスルして」というのは気持ちを表しただけだから 私が『ハッスル』に出るとは言ってない!! それとは別に、不吉なことが実際に起こる前に"キャプテン"に会いに行きますよぉぉぉ!!

【04年8月21日／東北・某所にて収録】

みちのくプロレスに何かが起きる!?

『ケッパレ1』

【日時】9月26日（日） 14：00〜
【会場】岩手県・安比高原スキー場ザイラーゲレンデ特設リング
【チケット】特別リングサイド（イス席） ￥8000
ファーストクラスゾーン 一般￥6000、小中高￥3000
エコノミークラスゾーン 一般￥3000、小中高￥2000
※当日各1000円増し
【お問い合わせ】（株）みちのくプロレス 019-626-1333

弾丸戦士

FMWの生え抜きレスラーが語るハードコア人生!!

田中将斗

"弾丸"の異名に偽りなしのファイトで観客の ド肝を抜く男、田中将斗。現在は右肩を負傷し欠場中だが、ZERO-ONEにはなくてはならないプロレスラー。大きな存在感を示しているのだ。本誌初登場の今回は、FMW入団前のラガーマン時代から現在に至るまでのエピソードを語ってもらった。

聞き手/坂井ノブ　構成/シャン斉藤　designed by Shirai (Two Three)

――今回は田中さんのプロデビュー前から現在に至るまで、いろいろとお話を伺いたいと思ってます！

田中　『紙プロ』がボクにインタビューなんて珍しいですね（笑）。一体どういう風の吹き回しですか？

――いや、以前から読者の要望は多かったので機会を伺っていたんですよ。

田中　ホントですか〜？　新生ＦＭＷのときもボクの試合はあんまり載ってなかったから、『紙プロ』から嫌われてるのかなって思ってたんですけど。

――新生ＦＭＷは冬木（弘道）さんや、内部に深く関わっていた杉作（Ｊ太郎）さんから話を聞いたりしてエンターテインメント化の動きを追ってはいたんですけど、なかなか選手にスポットを当てるまでにはいかなくて。……すいません！

田中　まぁ月刊たから扱うネタは限られてきちゃいますもんね。ボクも『紙プロ』を読んでるんですよ。普通の専門誌には載ってない記事が多いから、これは面白いなって。

――肝心な記事を載せてなくて、よくお叱りを受けてます（笑）。それで田中さんのインタビュー記事を専門誌で探したんですが、デビュー当時のころからを振り返ってるインタビューはそんなになかったんですよね。

田中　あんまりないですね。『火祭り』だったらその『火祭り』のことをしゃべったりすることはありましたけど、昔のことを振り返るインタビューはなかったですね。

――今日はそういうアプローチで田中さんのプロレス人生に迫りたいと思ってますので、よろしくお願いします！

田中　はい。

――まずはプロレス入りする前のお話なんですが、子供の頃からプロレスをご覧になられてたんですか？

田中　そうですね。きっかけはタイガーマスク（佐山聡）なんですよ。普通の人にはできない動きをしてて、まずは〝強さ〟よりも〝格好良さ〟に惹かれましたね。初めてプロレスの会場に行ったときに接したプロレスラーは、アドリアン・アドニスだったんですけど。

――それは渋いですね（笑）。

田中　それとディック・マードック（笑）。露天のたこ焼き屋に彼らが寄ってきたので握手してもらったら、そんなに力は入れてないんでしょうけど凄く痛くって。そっからですよ、プロレスにハマったのは。

　タイガーマスクの格好良さ、そして〝新マンハッタン・コンビ〟の強さに痺れたわけですか。

田中　それで中学のときからプロレスラー志望だったんですけど、ボクはかなりの肥満児だったんですよ。いまより体重あるぐらいの。

――いまより！　軽く100キロオーバーされてたわけですか（笑）。

田中　学校一のデブでしたね（笑）。中学のときはちょっと柔道をやってたんですけど、その柔道部はホント弱くて部員もあんまりいなくて。だって、ボクが唯一の黒帯の人間とやっても負けないぐらいでしたから。

――黒帯に負けないんだから、田中さんが強かったんじゃないですか？

田中　いや、その黒帯は軽量級の小さい人なんです（笑）。

――つまり、圧倒的な体格差があったわけですね（笑）。

田中　それで〝こんな柔道部でやってもダメかなあ〟という馬鹿な考えで辞めちゃって。それで喰っちゃ寝、喰っちゃ寝してたらますます肥えてしまって（笑）。中学を卒業したら〝プロレスラーになりたい〟とは親には言ってたんですけど、親からは「何もしてない人間がそうそうできる世界じゃない。高校でスポーツするなりして上下関係の厳しい環境に身を置いてからプロレスラーを目指してもいいんじゃないか」と。

プロレスラーになろうと思って社会人ラクビーを辞めました

　親からすれば、高校にいけば諦めると思ったんでしょうね。高校ではラクビーで活躍されてたそうですが。

田中　進んだ高校はレスリングや剣道やラクビーが強かったんですね。で、その高校でも一番のデブだったから（笑）、合格発表のときにさっそくラクビー部から勧誘を受けて、そのときは迷っていたから入部しませんでしたけど、入学式にはボクの教室まで勧誘に来たんですよ。

　何が何でも入部させよう、と。

田中　ラクビーはスクラムを組むからデブは必要なんですよ。「とりあえず見学に来い！」って言うんで見に行ったら、いきなりパスの練習させられて。そのまま入部ですね（笑）。

――そんなに乗り気ではなかったとはいえ、ラガーマンにとっては憧れの花園グラウンドでプレイされたことがあったそうですね。

田中　いや、それはちょっと違うんですよ。高校ラクビーは一年に三回、大きな大会があって、冬の全国大会を花園でやるんですけど。ボクの場合は、近畿大会の会場が持ち回りでたまたま花園だっただけなんです（笑）。

――意味合いが違ったわけですね。

田中　ボクが2年生のときの先輩がすごく強いチームで、ボクはうまいことレギュラーになれたんです。冬の大会以外は圧倒的な強さで優勝してたから、冬の全国大会もいけるだろうと誰もが思っていたんですよ。でも県の決勝大会で負けちゃって。

――でも、田中さんはかなり強いチームでレギュラーだったわけですよね。

田中　はい。ラクビーをやってるうちに思い入れを持つようになりましたね。プロレスも大好きだったんですけど、現実的なことを考えたらラクビーで就職しようかなと。あと大学推薦の話もあったんですよ。ボクは母子家庭でお母さんに苦労をかけていたし、まるまる学費免除で大学に進めるならいいんですけど、そういうわけにもいかなそうだったので、会社に入ってラクビーをやることにしたんですけどね。

――社会人ラクビーでも活躍されたわけですか？

田中　そうですね。社会人リーグはＡリーグ、Ｂリーグ、Ｃリーグ、リーグ外と四つに分かれていて、ボクが入った会社のラクビー部はできたばっかでリーグ外だったんですよ。そのなかで一番強かったんですけどね。それでＣリーグの最下位チームと入れ替え戦があったんですけど、これが僅差で負けちゃったんです。

――高校のときに続いて、大事な一戦を落としちゃったわけですか

田中　力が抜けちゃいましたね〜。Ｃリーグ入りの目標がだいぶ先になったことで〝会社やめよう。やっぱりプロレスラーをやりたい〟と思っちゃって。負けた翌朝に会社に「辞めさせてください！」って電話しましたよ。

――翌日に！　素早い決断ですね（笑）。

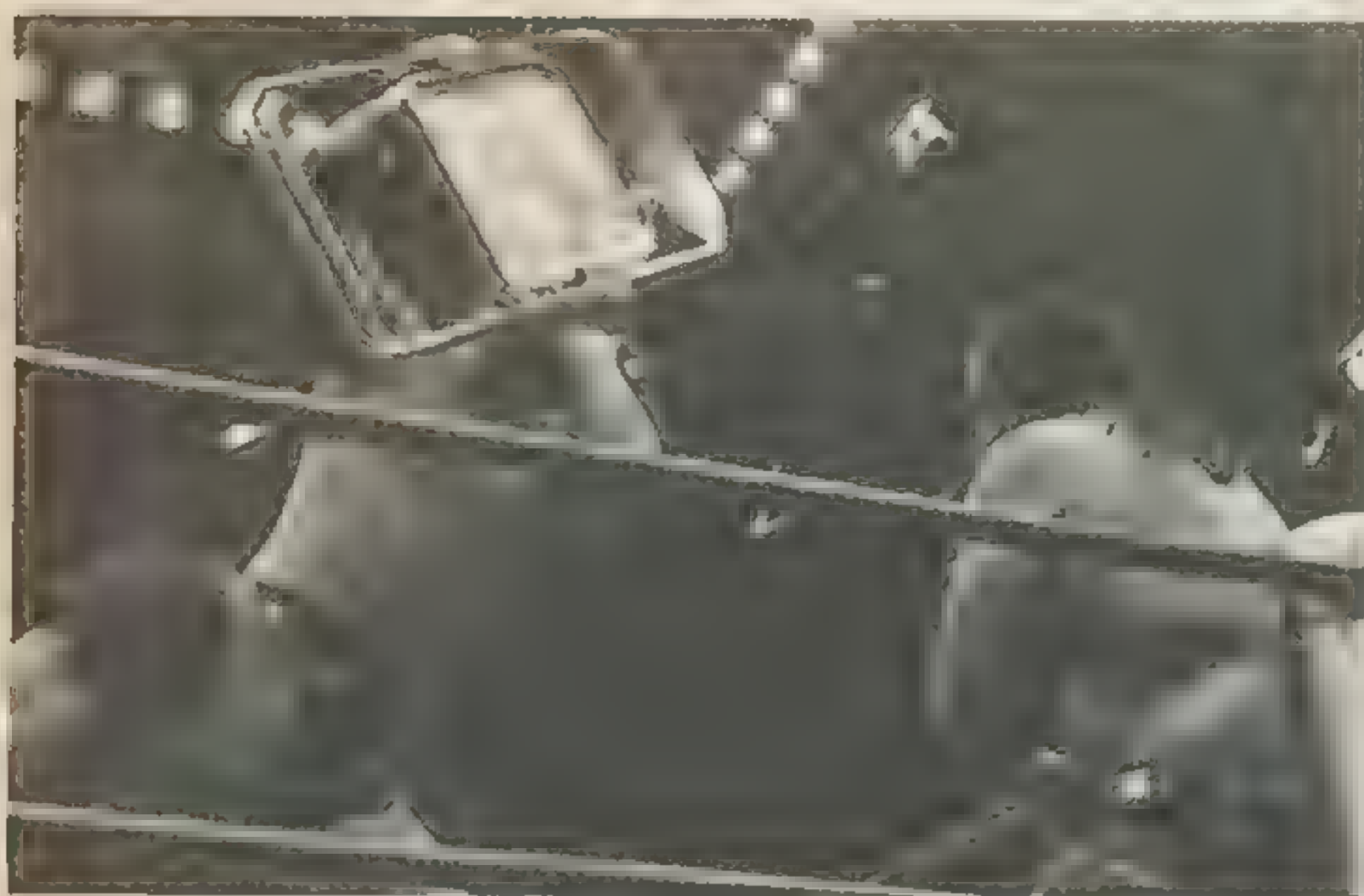
田中　そうですね。きっかけはタイガー
マスク（佐山聡）なんですよ。普通の人

けですね（笑）。
田中　それで〝こんな柔道部でやってい

よ、高校ラグビーは一年に三回、大きな
大会があって、冬の全国大会を花園でや

って電話しましたよ。
――翌日に――素早い決断ですね（笑）。

MASATO TANAKA

ハードコアのイメージが強い田中だが、本文中で本人が述べてるように何でもこざれのスタイルでリングを暴れ回る。分厚い〝プロレスラーボディ〟から繰り出される技はすべてインパクト十分なのだ

田中　はい。事情を聞きに工場長やボクを指導しくれた人間が自宅に来たから、「プロレスラーになります！」って言ったんです。アホかと思われましたけどね（笑）。

――まあ、突然のことでもありますからね（笑）。

田中　現実的な話じゃないですしね。「何を言ってるの？」ってかんじでしたよ。そして「いまのままなら〝解雇〟というかたちにしかできない。それだと今後にマイナスになる」と。〝円満退社〟にしたいなら「ちゃんと会社にきて話し合おう」ということで、会社に行ってお偉いさんと一日中話し合ったりしましたね。会社で働きながらトレーニングをして入門テストを受けて、それでダメだったらそのまま仕事を続けたら？という提案も出してくれたんですよ。

――田中さんはどういう選択をされたんですか？

田中　会社が出してくれた案だと〝逃げ道〟があるような気がしたんで。ボクは強くない人間だから、それを選びたくなかったんです　そんな押し問答か1ヶ月ぐらい続いて結局、辞めたんですけどね。

――90年当時だと新日本、全日本、UWF、FMWぐらいしか団体はありませんでしたが、田中さんの志望団体はどこだったんですか？

田中　最初からFMWでしたね。

――当時のFMWというと、またまたインディのイメージが濃かったわけですが、志望した理由はどうしてですか？

田中　ボクも最初はFMWをバカにしてたというか、新日本、全日本しか見ない人間だったんでけど。高校のときに興味本位で見に行ったら、お客さんはホントと数えるぐらいしかいないのに、一生懸命やってる大仁田厚の姿に胸を打たれたんですよ。

――会社を辞めてすぐ入門されたんですか？

田中　いや、会社を辞めてから1年半ぐらいは地元で身体を鍛えていましたね。夜の12時から朝の7時まで魚市場で働いて、昼間は近くのボディビルジムに通う日々で。いまはボクの地元の和歌山にも総合格闘技のジムがいくつかあるそうですけど、当時は空手道場とかボクシングジムぐらいしかなくて。プロレスって想像が付かない世界だから、とりあえず力を付けることしか思いつかなかったんで、ボディビルジムを選んだんです。

やっぱり一番はお客の反応なんで　それを心掛けて闘ってますね

――基礎体力をつけたり、強靭な身体をつくることに専念してたわけですよね。

田中　たまに「週プロ」や「ゴング」に新日本の入団テスト内容が載ってたりするから、それを参考にスクワットや腕立てもやったり。でも、FMWの練習生募集の記事がなかなか載らないんですよ。

――だから会社を辞めてテストを受けるまで1年半もかかったわけですか。

田中　それでやっと〝練習生募集〟の告知が載ったから、すぐ上半紙写真と全身写真を送って。バカだから大仁田厚と肩を組んだ写真も送ったんですよ（笑）。

――ワハハ！　ナメられてると思われても不思議じゃないですよ、それ（笑）。

田中　いま考えると、すごいことをしたなあとは思いますけど（笑）。で、ターザン後藤さんの面接を受けて、「入門試験はないけど、練習に付いてこれなかったらすぐに切るからな！」ということで。それで入門ですよ。

――練習は付いていけたんですか？

田中　腕立てやスクワットは最低1000回は絶対にできないとダメと思ってトレーニングをしてたんで、まあまあ付いていけましたね。一番驚いたのは、FMWって男子も女子も一緒に練習するんですけど、女子でも男子と同じ練習を普通にこなしていたことですね。

――プロレスラーの下地はしっかりつくられていたわけですね。FMW出身のレスラーというと、誰からも〝巧さ〟を感じるんですけど、それは後藤さんの指導によるものなんですか？　ミスターヒトさんも「FMWの選手はとにかく巧い！」と大絶賛してたんですよ。

田中　いま思えば後藤さんは教えるのが上手かったですね。感情表現は大仁田さ

んから習って、テクニックは後藤さん。技術的なことは後藤さんの影響が大きいですから、感謝しても足りないですよ。

——後藤さんの教えるレスリングは昔ながらの全日本スタイルだったんですか？

田中　そうですね。FMWを辞めてフリーで全日本に上がったときも違和感なく試合ができましたし、投げ方や受け身の取り方にしても似てましたから。

——ところで、新弟子生活で嫌なことってありませんでした？

田中　メシを喰ったあとの時間が嫌でしたねえ。酒を飲んで酔っぱらったミスター雁之助から「芸やれ！」「面白いことやれ！」とか毎日のように言われて

——ありがちな〝いじめ〟ではありますよね（笑）。

田中　寮にはミスター雁之助と、江崎（英治、現・ハヤブサ）さん、中川（浩二、現・GOEMON）さん、辞めた新弟子、新山（勝利）さんがいたんですよ。芸をやらせるのはミスター雁之助で、ハヤブサも命令するんですけど、自分から積極的にやりたがるんですよ（笑）。

——命令しながら自分でバカをやる（笑）。

田中　それがすごく面白いんですよ！最後までハヤブサを越えることできませんでしたから（笑）

——なにかの雑誌にハヤブサさんの肛門爆破芸か載っていたこともありましたけど（笑）。

田中　あんなのは序の口ですね！

——あれで序の口ですか！（笑）。

田中　ハッキリ言って雑誌に載せられないようなことを喜んでやりますから（笑）。この人は顔はカッコイイし、歌も上手し、こんな芸もできて、それはモテるわって。

——そんな場数を踏むことによって、田中さんも芸達者になったわけですか？

田中　いや、一度キレたことがきっかけで、途中から強制されることがなくなったんですよ。

——キレるほど嫌だった（笑）。

田中　ホント嫌でしたよ！　あれは伊豆にFMWの夏合宿で行ったときのことでしたね。昼間は海で遊んだりして楽しいんですよ。でも、夜になると酒を飲まされて「芸をやれ！」っていつものパターンで。ボクは酒に弱くていまだに飲めないんですけど、そのときトイレでゲーゲー吐いていたら、雁之助がトイレを洗うブラシで頭を押さえつけてきたんですよ。

——ワハハハ！　それは汚いですね（笑）。

田中　もう頭にキちゃって「殺すぞ！デビューしたら覚えてろ!!」って暴言吐いたんです（笑）。

——あ、デビュー前なのに、先輩にそんな暴言を（笑）

田中　はい（笑）。その件があってからボクに芸を強制することはなくなりましたね。その直後にデビューして、大仁田さんの付き人になった影響もあったのかもしれませんけど

——大仁田さんは個性が強い人だから、付き人も大変だったんじゃないですか？

田中　いや、周りからもそう言われてたんですけど、全然大変じゃなかったんですよ。ひとつだけ嫌だったのは、大仁田さんは次の会場に移動するあいだにキャンプをしたがるんですよ。

——キャ、キャンプですか!?

「ハッスル」ナンバーシリーズには全戦登場中。「ハッスル2」からはハッスルハードコア路線の重要人物として、金村キンタロー、黒田哲広ら共に観客のド肝を抜くファイトを披露している。もはや「ハッスル」名物た

自分のスタイルを崩さずに、相手に合わせられる巧さが大切です

田中　はい。大仁田さんは移動バスじゃなくて、自分の車で移動するんですけど、それはボクが運転するんですよね。で、田舎で凄くキレイな海を見つけたりすると、浜辺でキャンプを始めるんです。車には飯ごうやキャンプ用品、釣りができるように竿も積んでありましたから。

——さすが大仁田さんは日本一周徒歩旅をしようとしただけであって、かなりのアウトドア派ですね（笑）。

田中　大仁田さんから「今日はカレーを作るからな！」って言われたらボクがその食材を買ってきて、6時半から試合があるのに2時ぐらいにカレーを作ってますからね（笑）。

——試合前にカレーづくり！　でも、それはそれで楽しそうですよ（笑）。

田中　いま思えば楽しいことなんですよ（笑）。でも、会場入りがおのずと遅れるから、〝デビューしたばっかの人間がこんなんで大丈夫かな〟って不安になっちゃって。

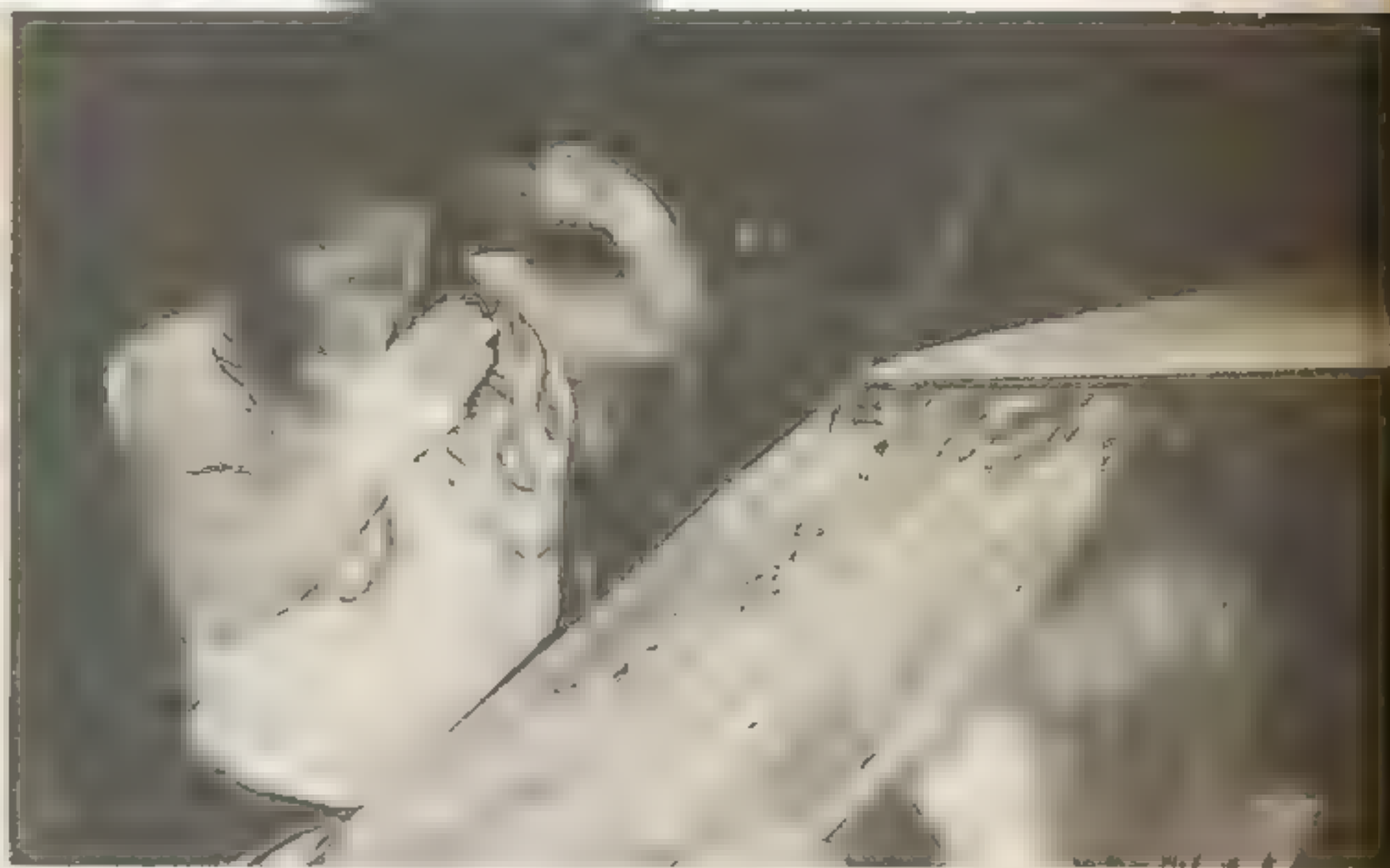
——カレーを作るためにプロレス入りしたわけじゃないですしね（笑）。

田中　遅れたことでボクの試合がカットされたり、車の中で着替えて会場に付いてそのまま試合をしたこともありましたから。

——大仁田さんはいつもメインイベントだから遅れても問題はなさそうですけど、新人の田中さんからすると困ったもんですよね。

田中　それでキャンプ中にたまに嫌な顔をすると大仁田さんが察知するんです。「おい田中、おまえキャンプが嫌なのか!?」って聞くから「嫌です！」って即答しましたよ！

——ワハハハ！　いや、もっともな返答ですよ（笑）。

田中　「なんでだ？」「練習できないからです」「そうか。わかった」というやり取りがあったあとでも、またキャンプはありましたけど（笑）。

"早過ぎた団体" 新生FMWはエンターテイメント・プロレスを標榜し、様々な試みにチャレンジしていた。資金繰りに行き詰まり崩壊したが、日本プロレス界において貴重な一歩を記したと言える

FMWのエンターテイメントのプロレスはちょっと早過ぎたかなと

――昔、週プロ」で「FMWは聖家族」ってコピーがありましたけど、「FMWは聖キャンプ族」だったことがわかりました（笑）。その付き人生活はどれくらい続いたんですか？

田中　1年半ぐらいですかね。終わりの頃には大仁田さんの付き人ということでメインでも使ってもらいましたし、あれはいい経験になりました。大仁田さんはギリギリに会場入りするから、付き人として接してなかったら「あいつ誰だ？」ってことで名前すら覚えてもらえませんでしたよ。きっかけは付き人ということでしたけど、大仁田さんは自分が辞めたFMWのことを考えて、先頭に立つレスラーのひとりとして扱ってくれたんだと思いますね

――田中さんはECWにも遠征されてましたか、その経験もプロレスの幅を広げるきっかけになったんですか？

田中　それはもちろんですね。ただ、ECWのデビュー戦はダク・ファーナスとやったんですけど、ボクは10年以上プロレスやってるなかで、いままで一番しょっぱい試合でしたね（苦笑）。ポールE（ECW代表、現在はWWEでポール・ヘイマンとして活躍中）がわざわざ呼んでくれたのにホント恥ずかしかったですよ。もう二度と呼ばれることはないと思っていたら、それから半年間の遠征が決まって。それでポールEがこう言うんですよ。「こないだはこちらのマッチメイクがダメだった。今回はおまえの持ち味を出せる相手を用意した」と。

――それほど田中さんは見込まれていたわけですね。

田中　いやいや（笑）。で、ポールEが用意してくれたのは、ボールズ・マホーニーなんですよ。

――マホーニーといえばかなりのハードヒッターだし、田中さんとは噛み合いそうですよね。

田中　マホーニーはガンガンきますからね～。お互いにイスでガンガン殴り合って。ECWの客はイスを持ったらガツンガツンやり合わないと、ブーイングをバンバン飛ばしますから。

"イスを持つならトコトンやれ！"と！

田中　グラジエターの試合も評判良かったですね。彼とのシングルはPPVで何回もやってるんですけど、お客は飽きずに喜んでくれましたから。そのぶん身体はボロボロになりましたけど（笑）。

――グラジもハードヒッターですからね。ところで向こうのお客ってプロレスに対する熱狂の仕方が桁違いじゃないですか？　こないだ『レッスルマニア』を観に行ったときに"この騒ぎ方は凄い！"って驚いたんですけど、

田中　まったく違いますよね。プロレスにこういう熱狂の仕方があるのかってぐらい（笑）。ECWでは凄い試合をすると観客が「ECW！」コールが起こるんですよ。マホーニーとの試合でボクも送られたときはホント嬉しかったですよ（ニッコリ）。

――自分の団体でもないのに（笑）。

田中　で、知らない選手には「WHO ARE YOU？」コール。ボクの場合はポールEがプロモを流してくれて、向こうではFMWの海賊版も出回っていたからそれなりに知られていましたけど。何年後に金村キンタローが遠征したときは

キレるほど嫌だった（笑）。

あ、デビュー前なのに、先輩にそん

キャ、キャンプですか!?

ありましたけど（笑）。

ゴルドー戦は不思議な空間でした　スイングDDTを決めましたし(笑)

「WHO ARE YOU?」の洗礼を受けて、本人は大激怒してましたね（笑）。

――なるほど（笑）。そんなECWで一番、経験になったことって何ですか？

田中　やっぱりデカイ選手とやれたことですかね。ダッドリーズとかグラジもそうですけど、ボクよりもデカイ選手ばっかとやったんで。あとECWを経験してなかったら、アメプロの凄さはいまだに感じれなかったでしょうね。ボクはアメプロが嫌いだったから、まず見ようとも思わなかったし。いまWWEって凄いじゃないですか？　それは見れば一目瞭然だけど、食わず嫌いなところがあったんですよ。

――WWEというと、いまTAJIRIさんやケンゾーさんが活躍されてますが、武藤さん以降の新世代のレスラーでアメリカに長期間定着して大活躍されたのは田中さんぐらいですよ。

田中　ECWのヘビー級チャンピオンになったこともありますからね。ポールEもボクのことを可愛がってくれて、ビザが切れるから日本に一旦帰るときも「すぐ戻ってこい！」って言ってくれて。でも日本に帰ったら「切符が売れてないから試合してください」ということで、別に試合をするのは構わないんですけど急すぎて何の煽りもない。寂しい凱旋帰国でしたよ（笑）。

――成り行き上の凱旋試合（笑）。話は戻りますが、大仁田さんが引退される直前に後藤さんがFMWを離れる騒動が起きて、"絶対エース"だった大仁田さんも華々しく引退されて、残された田中さんに不安はありませんでしたか？

田中　大仁田厚が引退したら、FMWはもたないと思われてましたからね。周りから聞こえてくる声は「時間の問題だろう」と。でも、ボクらは"そうなるものか！"と思って頑張りましたから。後藤さんや雁之介が辞めちゃったことは、それはそれで痛手でしたけど、逆にあの2人がいなくなったことで各自が責任をもたないといけなくなったから、結果的に新生FMWは上手くいったんだと思いますね。デスマッチとかいろんなものにチャレンジしたし、長州力からはインディー批判を受けましたけど、それが逆にエネルギーにもなって。だからこそ毎回後楽園ホールが満員になったと思います。

――デスマッチばかりがクローズアップされてましたけど、新生FMWって試合内容で勝負してましたよね。

田中　ボクらはデスマッチしかできないわけじゃなくて、ストロング・スタイルの試合もできるんですよ。どんな選手とやっても自分のスタイルを崩さずに、そして相手に合わせられる巧さがある。お客さんが喜んでくれる試合ができる巧さを持っているんです。

――田中さんから見て、一番巧かった選手は誰になりますか？

田中　それは外道さんが一番だったと思いますよ。

――ああ、外道さんは巧いですよね。

田中　外道さんは相手を光らせながら試合をコントロールできましたから。試合を見てても全然飽きませんでしたし。

　外道さんは冬木さんと一緒に新生に来られましたが、そこに大仁田さんが復活して内部はかなり混沌としていたと思うんですが、実際に内部にいた田中さんからすると、現状はどうだったんですか？

"伝説のイベント"真撃は、ZERO-ONE勢が主軸となり、リング内外で大きな話題を生み出した。情け容赦ない凶拳を見舞うゴルドーのブレイク、ヤマヨシの小川襲撃事件、そしてアントンvs破壊王の決定的な確執を深めるマーク・ケアー参戦問題もこの舞台で勃発。

田中　ん～。経営的なことはわからないわけですよ。大仁田厚が客をどれくらい引っ張ってくるのか、ギャラをどれくらい持っていくとかは。

――つまり、大仁田さんが出ることで経営的にプラスがあったのか、どうか？　ということですよね。

田中　大仁田厚が復活して後楽園の客が引いたのはわかりましたから。

――大歓迎する雰囲気ではなかったですよね。そこが大仁田さんの計算違いだったというか。

田中　ミスター・ポーゴの引退試合で大仁田さんは復活して、たしかに駒沢（競技場）がいっぱいになりましたよ。会場に入りきれなくて帰ったお客さんもいましたし。あのフィバーぶりに大仁田さんは引き戻されたんでしょう。

――"まだまだ俺はスターなんじゃあ～！"と。

田中　やっぱり地方でも大仁田厚の名前は浸透していたし、その力はわかるんですけど、でも後楽園の反応を見る限りでは、その影響力は薄れていたとは思うんですよ。

――従来のプロレスファンからは見限れていた部分はあったわけですよね。

田中　だから葛藤はありましたねぇ。ボクは大仁田厚がつくったFMWが大好きで入団したけど、新生FMWで一生懸命頑張って、それなりに築いてきたものもありましたから。

――選手やフロントが歓迎しない雰囲気を察知したのか、大仁田さんは新生FMWに本気で悪態を付いてましたよね。

田中　それはね、ぶっちゃけ大仁田さんのジェラシーでもあると思うんですよね。大仁田さんは新生がもたないと思っていたから、大仁田さん抜きで上手くいってることにジェラシーがあったんじゃないですか。少なからず。

――"俺がいないとFMWはダメなんじゃあ～！"ぐらいは思っていたでしょうね。冬木さんの加入は、田中さんからするとどうだったんですか？

田中　外道さんのプロレスが勉強になったから、試合内容的には問題はなかったですけど、エンターテイメントのプロレスはちょっと早過ぎたかなと（笑）。

――いま振り返ってみると、FMWは早過ぎたことをやってますよね。横アリのビッグマッチではゴミ収集車を使ったりもしてたし（笑）。

田中　あれはボクが運転したんですよね（笑）。上手いことやってれば凄い団体だったんですよ。邪道・外道、金村キンタロー、雁之介にマンモス（佐々木）もいたし。

――ホントもったいないですよね～。

田中　先取りというところでは、凄いことやったと思うんですよ。ボクもエンターテイメント的なことは賛成で、ただ試合するだけじゃなくて各選手が試合をプ

ロデュースしていくのは大歓迎なんですけど、ちょっとくだらないことをやりすぎだったと思いますね。

負けた方かドックフードを喰ったりとか。

田中 ボクはつまらないと思ったからその輪に加わってないんです。映像とかにも出てませんでしたし。

たしかに田中さんはエンタメ路線から距離を置いた風に見えましたね。

田中 やってることが面白いと思えばボクもカメラに向かってしゃべりましたけど、この流れはつまらないなって。でもね、会社が上手くいけば、それはそれで良かったんですよ　それならボクもFMWに残っていたかもしれないですし。

――個人的な感情を抜きにしても。

田中 でも、お客は確実に離れていましたからね。最終的に辞める一年前から〝もうやめようか〟とは思ってはいて、荒井（昌一・当時FMW社長）さんにも「これでいいんですか？　方向性を変えた方がいいんじゃないですか？」って。荒井さんは良い人だから、そのときはわかってくれるんです。でも一年経っても方向性は変わらない。荒井さんも「この方向性で間違ってない」と言うんで、これはしょうがないなと。

――荒井さんからすると、突っ張るしかなかったところもあったんでしょうね。

田中 邪道・外道のほうがボクより辞めたがってましたから。彼らに背を押されるかたちで辞めたんですけど、本当は潰れるまでいたかったんですよ。格好つけるわけじゃないですけどね。好きで入ったFMWですから……。でも自分がやりたいプロレスがそこにはなくなったんですよね。

――複雑な感情があったわけですね。それで結局、FMWは倒産という事態に陥ったわけですが、それからFMWに関わった関係者&レスラーが次々と……。

田中 （遮って）それはボクも周りから言われるんですよ。「FMWに関わった人たちが不幸になってる。次は田中じゃないか？」と。

――やっぱり田中さんも気になったりするんですか？

田中 ボクは霊的なことは信じるんで……さすがに面を向かって言われると〝怖いな〟って思いますね。……いま振り返ると、後楽園を幽霊屋敷みたいにしたりしてたじゃないですか？

会場に白黒の垂れ幕を張り巡らせてましたね。あと、本物のお墓の前で幽霊の格好してトレーニングしたり。

田中 ボクはそういうのが嫌だったんですよ。嫌というより怖い。遊園地の中でお化け屋敷をやってるのとは訳が違いますから。お墓の前で拝んだりするのはアリですけど、墓の前で幽霊の格好するのはね、なんだかバカにしてるようでね……。それが原因で〝何か起こってる〟とは思わないですよ。個人的に嫌だっただけです。

まあ、気になったら何でも因果関係は結びつけられますもんね。

田中 そういうことですね。みんな仲間なんで、良い人生を送ってほしいですよ。

で、話はFMW離脱後の活動のことですが、フリーになられて一番の糧になったことは何ですか？

田中 それはいままで当たったことがない選手とできたことですね。川田選手や馳さん、そして橋本真也。四天王や三銃士で肌を交えてないのは蝶野さんぐらいで。あと大谷晋二郎とやったことで、また拡がりができましたね

――大谷さんとは『炎武連夢』を結成して活躍されましたね。ホントいいタッグでしたよ。

田中 いまは別れちゃいましたけど、大谷晋二郎と組んでなかったらNOAHに

日本有数の"実力"を誇ったタッグチーム『炎武連夢』は、『東スポ』プロレス大賞・タッグ部門で大賞を受賞したこともある　いまや"タッグ屋"の存在が薄れつつあるマット界において、その解散はファン、関係者から大いに惜しまれた。

解散しましたけど『炎武連夢』には良い思い出しかないんですよ

出ることもなかったですし、解散したときに言ったように〃炎武連夢〃には良い思い出しかないですよ。大谷晋二郎のことは、いまだにリスペクトはしてます。大谷とやってなかったら、ZERO-ONEに入団してない。ZERO-ONEに入ってからいろいろ経験しましたけど、それは大谷がきっかけでしたから。

――あと『真撃』ではゴルドーとも痺れる試合をやってましたよね！

田中 ゴルドーの試合は評判良かったんですよね。もうかなり不思議な空間でしたけど（笑）。

――ゴルドーはその前に高岩さんとやった試合も凄かったんですよね。ゴルドーの強烈なローキックに高岩さんが声にならない悲鳴を挙げて！

田中 あれも凄かったですよね～。ボクも試合前には怖さがあったんですよ。打撃の出稽古なんかしたことないし、ああいうスタイルをやる機会もなかったから

――それにゴルドーは何をしでかすわからない怖さもありますし（笑）。

田中 次の日、蹴られた脚が腫れてを歩けなかったですからね～

―観てる方もヒヤヒヤしました（笑）。

田中 でもその痛さよりも会場が沸いてくれたことが嬉しかったです。スイングDDTかできましたからね（笑）

「ルトーの凄みも堪能できましたけど、あの攻撃をしっかり受けて、自分を魅せれる田中さんはさすがですよ！　いままでは『ハッスル』にも出られてますけど、田中さん的に『ハッスル』はいかがでしょうか？

田中 楽しいですよ。『ハッスル3』でやったウエポン・スタイル（一定の時間が経過するとステージに武器が登場）にしても、やってるほうは難しいんですけど、発想としては凄く面白いですし。武器をどういう使い方をするのか、次はどんな武器が登場するのか？　みたいな。

――それで出てくる武器が自転車やジャイアント・シルバだったりするわけですからね（笑）。

田中 考えちゃいますよ、ホントに（笑）。ああいう形式は資金面的なことを考えると『ハッスル』でしかできないことだと思うんですよ。小さい体育館では豪華なステージは設置できないですしね。そんな環境で試合ができるのは、選手冥利に尽きますよね。

――その『ハッスル』は高田総統がプロレス史上、例をみない〃怪人〃として大ブレイクしてるわけですが。

田中 ビックリしますよね。あの〃最強〃と呼ばれていた髙田延彦があの格好であそこまでやるんですから　それは人気は出ますよ（笑）。

――演者としては完璧ですよね！　でも、どうやら髙田延彦とは別人らしいですよ。

田中 （無視して）最初は批判を受けてましたけど、新しいことに対しては、やっぱりみんな構えますからね。でもこないだは後楽園ホール（6・28『ハッスル・ハウス』）を満員にして、ブレイクの階段を昇ってる雰囲気がありますよね。旗揚げ戦にお客が入るのは当たり前で、

【たなか・まさと】本名・田中正人　1971年7月17日和歌山県出身。181センチ、108キロ。このインタビュー後、右手の怪我を抱えながら「ハッスル4」に登場。ハードコア・ロイヤルランブルで圧巻の勝利「火祭り」シリーズにも優勝候補の一角として参戦したが、試合中の右肩負傷でまさかのリタイア。早期の復帰が期待されている

板が刺さって、頭の皮がテローンと剥がれたときがキツかったですね

だんだん減っていくもんですけど、『ハッスル』はまったく逆じゃないですか？　徐々にファンが増えてきて。

前例にはないパターンではありますよね。

田中 それに関われるのはいい経験になりますよ。

――いずれは髙田総統と絡んでみたい気持ちもありますか？

田中 ボクはハードコアでやってますけど、『髙田モンスター軍』の中にそれができる奴がいれば流れ的にはスムーズに関われると思いますね。『ハッスル』はストーリー性を重視するから、その辺で無理なくできれば。

――『ハッスル4』でもハードヒットな田中さんは期待したいですか、いまは右手を大ケガされちゃってるそうで。

田中 手の甲を骨折しちゃって。重い物が持てない状態ですね。医者に「今度ズレたら手術しないといけない」とは言われたんですよ。

――かなりヤバイじゃないですか！

田中 完全にギプスで固定しないといけないんですよ。でも、そうすると試合に出れないんで。

当然治りも遅くなっちゃうわけですよね

田中 FMW時代からケガを抱えてもやってましたから。ケガしても〃やればできる〃世界。手が折れてても走れますしね。

――たしかに走れます（笑）。でも、試合に影響はないんですか？

田中 ボクの基準は〃お客の前で魅せる試合ができるんなら、ケガをしていてもやる〃なんです。いまはケガをしててもできるから。それに右手を使えないことで、左手で箸を使うのが上手くなってるし。左手か使うと脳が活性化されると聞いてたんで、これはいい機会だなあと（笑）。

ポジティブですね（笑）。ちなみにいままで一番ヤバかったケガってなんですか？

田中 頭に板が刺さって、頭の皮がテローンと剥がれたときがキツかったですね。

うわ～！　想像するだけで背筋が凍りますよ！

田中 試合中にレフェリーから「骨が見えてるんじゃないですか？　止めます？」って言われたんですけど、お客からすると、ただ血が流れてるだけにしか見えないから、ここで止めたら納得してくれないと思って続行しましたけどね。

――〃プロ〃ですね！

田中 でも、試合をしながら〃骨が見えてるかもしれないって……一体どうなってんだろ？〃と気になっちゃって（笑）。

―ワハハハ！　気になりますよね、それは（笑）。

田中 結局、Uのかたちで何十針も縫いましたよ。剃らないと縫えないから、何年振りかの坊主にして。それも動けなくなるわけじゃないから、まったく大丈夫でしたけどね。

―しかし頑丈ですよね。

田中 みんな言いますよね。ボクが死ぬときはポクッと逝くんじゃないかと言われてますよ。ダメージ蓄積が原因で（笑）。

―お話を聞いていると、田中さんは〃まずお客さんにどう見えるか？〃ってことをかなり意識されてますよね

田中 それはすぐ考えますね。

――『ハッスル3』でも〃白いギター〃が武器として登場したら弾いたりして、あれはかなり良い絵でした

田中 ギターを持って何をするかっていったら、弾くしかないじゃないですか！　ボクは恥すかしがり屋なんで、ちょっとしか弾いてないですけど（笑）。まぁ、やっぱり一番はお客さんの反応なんで、それを心掛けて闘い続けます！

――今後も激しい試合を期待してます。今日はありがとうございました！

【04年7月21日／ZERO・ONE道場にて収録】

超々不定期連載

ジミー鈴木の“やっぱりプロレスがイッチバ～ン”

ゲスト 胡桃沢ひろこ（イエローハウス）

超々不定期連載「ジミー鈴木の“やっぱりプロレスがイッチバ～ン”対談」今回のゲストにはジミーさん同様アメリカ在住の“無我”西村修を招く予定で、本人の了承も取っていたのですが、直前になって新日本の方から『紙プロ』はダメ」とのお達しがありNGに。「西やんがダメなら胡桃沢ひろこちゃんとかどう？　凄いプロレス好きだぜ」とジミーから意外な提案が。なんだかよくわからないけど“美女と巨漢”対談はじまりはじまり！

聞き手／松澤チョロ　撮影／福島勝儀
designed by nogu（Two three）

経過するとステージに武器が登場）にしても、やってるほうは難しいんですけど、
階段を昇ってる雰囲気がありますよね、旗揚げ戦にお客が入るのは当たり前で、
（笑）。
ポジティブですね（笑）、ちなみにいま

今日はありがとうございました！
【04年7月21日／ZERO-ONE道場にて収録】

——今日は、西村選手の取材が飛んでしまったので、代わりというと失礼なんですが、ジミーさんの飲み友達の胡桃沢ひろこさんに急遽登場してもらいました。よろしくお願いします！

胡桃沢　こちらこそ、わざわざ母の店まで足を運んでいただいちゃって（笑）。

いえいえ、ボクは赤羽に住んでいるのでちょうど良かったです。徒歩3分ですし。ジミーさんも赤羽ですもんね。

ジミー　そうそう。西やんとの取材の後に飲もうって話してたんだよな。

胡桃沢　2日前もキラー・カンさんのお店で飲んだばっかりなんですけどね（笑）。

ジミー　でもさぁ、西やんはOKって言ってくれたんだけど、やっぱ新日本的に「紙プロ」は無理だったみたいだな（笑）。

ちょっと難しそうですね。まあ結果的に、元アイドルでプロレスファンの胡桃沢さんに会えてボク的には凄く良かったです！（笑）。

胡桃沢　ありがとうございます。早速なんですけど、ジミーさんに質問していいですか？

ジミー　何？　何でも聞いて。

胡桃沢　日本では女子プロの団体って何団体かあるけど、アメリカにもあるんですか？　ディーバとかWWEの中にはあるけど、アメージング・コングとか、ああいう人ってアメリカに戻った場合、どこで試合とかしてるのかなって。

ジミー　インディーズだよ。アメリカってさ、昔っから女子は男のプロレスの中に一試合だけ組み込まれるっていうパターンがほとんどなの。ある意味、FMW的な使い方だよな。

胡桃沢　あ〜、そうなんだ。

ジミー　でもね、LPWAっていう女子だけの団体があったね。その前にGLOWっていうのもあったし。

胡桃沢　あるんだ、やっぱり。アタシ、そういうのを求めてアメリカに行こうと思ってたの。

——女子プロを求めてアメリカ旅ですか？

胡桃沢　そうそう　あと、向こうのインディー団体を見に行きたいと思ってて。

ジミー　LPWAっていうのは、みんな綺麗系なわけ。で、そん中から俺が引っ張って日本に呼んだのがマグニフィセント・ミミとかなんだよ。

——FMWに来てたセクシー系のレスラーですね。

胡桃沢　やっぱり、綺麗系じゃないと向こうでは通用しないの？

ジミー　商売なんないよ。昔はレスリンクが上手ければ使ってもらえたけど、段々、女子プロというものが変化してったよね。結局、アメリカでの女子プロの一番進んだ形が、いまのディーバになるんだよ。

胡桃沢　アタシね、これはあんまりいい話じゃないかもしれないけど（笑）、ディーバとかってシリコン入れたりとか改造人間みたくなってるじゃないですか？

改造人間（笑）。でもシリコンは当たり前って言いますからね。

胡桃沢　そうそう。で、ああいう人たちがね、殴り合いとか蹴り合いとかしてて、破裂しないかとか、いつも心配で見ちゃうんですよ。あんなに打ち付けて大丈夫なのかなぁとか。

ジミー　そんなもんブチ壊すようじゃレスラーとして失格なんだよ。極論すれば、相手をケガさせるのはプロレスラーとしては失格なわけ。

胡桃沢　まあ、たしかにそうだけど、でも事故って絶対あるじゃないですか？

……いきなり、シリコンの話するのもどうかと思うけど（笑）。

シリコンっていえば、いまWWEで活躍されているKENZOさんの奥さんの浩子さんが言ってたんですけど……。

胡桃沢　（遮って）あぁ、最低ー

アハハハハ！　最低ですか？（笑）。

胡桃沢　だって、名前が〝ひろこ〟っていうんでしょ？　アタシの名前使わないでって感じ！

——たしかに同じ名前ですからね（笑）。

胡桃沢　ジミーさんに、この間も言ったの。「あれはイケてるんですか？　どうなんですか？」って（笑）。

ジミー　いや、本人達は努力してるとは思うよ。だけど、ひとつ、KENZOについて言えるのは、「日本のプロレスって、もっと基礎がしっかりしてるっていうのがウリだったんじゃないか？」って、みんな思ってるんだよね。

胡桃沢　そうだよ！　新日本プロレス出身だからね。

ジミー　ところが、プロレスっていうのは、まずバシッとロックアップするでしょ。そしたら、相手が前に左、右、左で来たら、自分は右、左、右でダンスを踊るようにして、相手と歩調が合うようにしてやるもんなんだよ。それを合わせることがKENZOはできないんだよ。

胡桃沢　「学校で言ったら幼稚園児だ。まだ小学生にもなってない」って、この前言ってましたよね（笑）。

ジミー　そうそうそう（笑）。

胡桃沢　もしね、アタシがディーバになれたら、そりゃ嬉しいけど、よく考えたら、胸ないし水着コンテストに出れないから、やっぱりダメだと思ったんですよね（笑）。

たしかに、武藤敬司って思いっきりブッ飛んでるもんな

じみー・すずき■本名・鈴木清隆　1959年12月30日、東京都杉並区出身　趣味＝仕事、旅行、クルマ，特技＝スクープ（ライバル誌出し抜き　、徹夜、英会話、スペイン語会話、カラオケ　,3ヶ国語）。至福の時間＝世界各地でマッサージを受けること　嫌いなもの＝ケチ、貧乏生活、狭い環境。怖いもの＝家内（以上HPより）　現在はテキサス州ダラスに在住　大好評のジミー日記は、こちらのアトレスから！ →　http://blog.livedoor.jp/jimmysuzuki/

アハハハハ！

胡桃沢　でも真剣に悩んだの。クソ〜、浩子に越されたって。もう悔しくて悔しくて（笑）。

越されちゃいましたね（笑）。でも浩子さん曰く、向こうではディーバに限らず、シリコン入れたりっていうのは割と一般人でも普通にやるみたいですね。

胡桃沢　そうなんですよね。だって、ボーイフレンドから彼女にシリコンをプレゼントっていうのもあるって聞きましたよ（笑）。

——か、彼女にシリコンプレゼントですか!?

胡桃沢　武藤さんが言ってました（笑）。

——アハハハハ！　日本でもAV女優とか芸能界では多いって聞きますけどね。

胡桃沢　アタシね、もうだいぶ前なんですけど、ホントに美容整形外科の院長先生の所に相談しに行きましたよ。

——それは自分の意志でですか？

胡桃沢　自分の意志で。「オッパイに入れるシリコンって、どういうのがあるんですか？」って（笑）。「入れると本当に自然なのか？」とか。コンプレックスだったんで、話だけでも聞いてみようと思って行ったことがあったんですよ。現に入ってる人のオッパイ揉ませてもらったりもしましたからね（笑）。

ジミー　硬ぇじゃん、アレ！

胡桃沢　硬くなかったのぉ！　ホントに軟らかいの。いまは乳腺の下側から入れるみたいなんですけど、昔は上からボンだから、寝てもお椀型だったんですよ。

寝ても崩れないって、よく言いますよね（笑）。

ジミー　最新技術なんだ。

胡桃沢　そう。百万ぐらいだったっけかなぁ？　もう忘れちゃったんだけど（笑）。でも、アメリカではオープンにできるっていうのを聞いたから、アタシ、将来向こうに住もうかなとか考えてて（笑）。

アハハハハ！　そんな胡桃沢さんは、昔から好きなタイプは武藤さんだったんですよね。

胡桃沢　そうなんですよ。アイドル時代にイベントでいろんなとこに営業に行くんですけど、そこで、必ず「好きなタイプは？」って聞かれるんですよ。

——まあ、聞かれますよね。

胡桃沢　アタシはずっと武藤敬司が小学生の頃から好きだったんですよ。初めて見た時から「なんてこの人はオーラが

ジミー　LPWAっていうのは、みんな綺麗系なわけ。で、そん中から俺が引っ

あるんだろ〜って思って。で、みんな武藤さんっていうと、みんな可愛らしいっていうか、優しい感じって言うじゃないですか? アタシは最初見た時、あのギョロッとした目を見て、なんか殺意的なものを感じてハマったんですよ

殺意的な目にハマりましたか（笑）

胡桃沢　そうなんです。で、話は戻りますけど、イベントとかで好きなタイプとして「武藤敬司さん」って言うと、男の子は「お〜!」とかなるんですけど、でも女の子のファンはポカ〜ンとしちゃって、その当時は

「誰だよ、それ?」みたいなリアクションだったんですね?

胡桃沢　そうそう。それで事務所の人に「一応アイドルなんだから、みんなが知ってる人を1人選んでおいて」って言われて、あとはジャッキー・チェンしか思い当たらなくて、それからジャッキー・チェンって言うようになったんです。

ジャッキー・チェンなら事務所のオッケーが出たわけですね（笑）。

胡桃沢　そうなんですよ　ジミーさんの女性のタイプってどういう人なの?

ジミー　いや、俺は決まってないんだよ。全然統一性がないの。

年齢的にはどうなんですか? あまりジミーさんの好みを聞いてもニーズはないとは思いますけど、一応、聞いときます（笑）

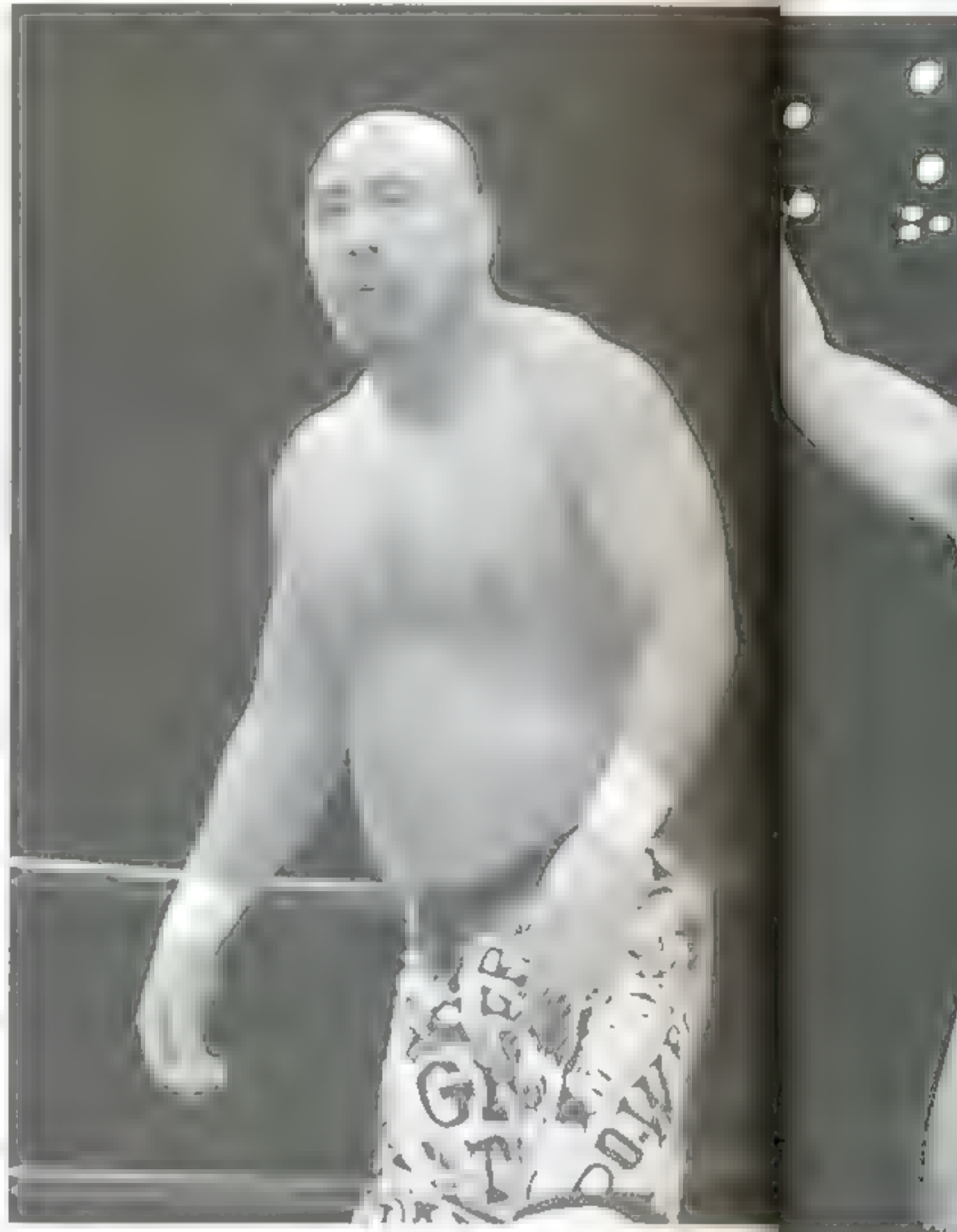
ジミー　ひっでぇこと言うなぁ。あのね、ひろこちゃんかあと10くらい年上だったら口説きたいんたよ

胡桃沢　それね、毎回会う度に言うので、ウチの母親は10歳若ければ口説くとか言って（笑）。

失礼なこと言いますね（笑）。ジミーさんの好みを聞いてもしょうがないんで、武藤さん以外に胡桃沢さんの好きなタイプのレスラーを教えてください!

胡桃沢　だから、武藤さんの次にいい人をずっと探して待ってるんですよ、アタシは。でも、なかなかいなくて。

じゃあ、長いことタイプのレスラーは現れていないと?

胡桃沢　もう、長いこといないんですよー

ジミー　カズ（・ハヤシ）とかはダメなの?

胡桃沢　カズさんはね、運動神経といい、パフォーマンスといい、難しい動きもこなしてくれるし、よく見ると背は小さいけど、いい身体してるじゃないですか? プロレスラーとして最高なんたけど……なんだろうなぁ? 武藤さんみたいに、なんかブッ飛んだ明るさっていうのはないじゃないですか?

ジミー　たしかに、武藤敬司って思いっきりブッ飛んでるもんな

胡桃沢　うん。ああいう人って、なかなか出てこないんですよ　でも、三銃士がまだバラバラになる前に、まだその時は新日本に所属っていう形ではなかったんだけど、田中稔さんは「うわっ、凄い!」って思いましたね

ジミー　スッゲー、いいヤツだよ、アイツ。

胡桃沢　たけと、凄い期待してたのに、ヒートになって「チェッ!」みたいな（笑）。

——ヒートはイマイチだったんですね（笑）。

胡桃沢　動きもいいから否定は出来ないんですけどね。で、最初に田中稔さんを見た時、夢中になって、武藤さんに興奮して「田中稔さんって凄い!」って言ったことがあるんですよ。そしたら「お前、俺のことが好きなんじゃねえのか!」って真剣に怒られちゃって（笑）。

ジミー　武藤敬司ってヤキモチ焼くんだよね　俺も武藤敬司に「TAJIRIはいいよ!」って、まだWWEに入る前に言ったんだよ。「小さいけど、そっちか昔やってたような動きをことごとくこなして、いいものを受け継いでるよ」って。そしたら武藤ちゃんから「この間、ECW見たよ　そっちが好きなTAJIRI出てたよ」ってスッゲー意識してんの（笑）

胡桃沢　日本の若手選手でも、これたっていう人はなかなかいないんですよね　全日本の河野君だって外人と互角に闘えるぐらいの体格持ってるし、荒谷さんだって、ボンキュッボンになったクセにね、ちょっとねぇ……。

たしかに荒谷さんはボンキュッボンのいい身体になりましたよね（笑）。

胡桃沢　アタシ、飲みに行ったことあるんですよ、荒谷さんとかと。そしたら「今日で酒は最後にするんです」って言ってて「えっ、なんで?」って聞いたら「肉体改造するんで」とか言って。で、たしかに肉体改造したから凄いなって思ったけど……試合の内容はあまり変わってないんですよね。

変わったのは身体たけたったと（笑）

胡桃沢　そうなんですよ（笑）。

——全日本系の選手とは、よく飲みに行ったりとかするんですか?

胡桃沢　いや、お仕事を通じてご一緒させていただくことがあるっていうだけで、プライベートで会うっていったらり

くるみさわ・ひろこ■1974年1月4日、新潟県出身　本名の恒崎裕子として乙女塾在籍後、加藤紀子　井上晴美、中谷美紀、持田真樹らを輩出した「桜っ子クラブさくら組」に加入　プロデビューを機に胡桃沢ひろ子に改名　さくら組卒業後　本名の恒崎裕子に戻し、L　ISを結成　、IS解散後は恒崎ひろことして活動。現在は胡桃沢ひろことして活躍中　WWEモバイルサイト内のデイリーコラム水曜を担当　詳しくは　http://wwe-mobile.com　まで

武藤さんみたいにブッ飛んだ明るさがあるレスラーを待ってるんだけど……

ですか?」って（笑）。「入れると本当に自然なのか?」とか。コンプレックスだ

胡桃沢　アタシはずっと武藤敬司が小学生の頃から好きだったんですよ。初めて見た時から「なんでこの人はオーラが

ングアナウンサーの木原のオヤジぐらいで（笑）。

あっ、木原のオヤジとディズニーランドに行ったとか聞いたことありますよ。

胡桃沢　えっ、何で知ってるんですか? 誰かに言ったっけかなぁ

—やっぱり極秘デートをしてたんですね（笑）。

胡桃沢　全然そんなんじゃないですよー　最初は2人っきりじゃなかったんですけど、なんかタマされたっていうか（笑）

—そうだったんですか（笑）。

胡桃沢　去年、「プロレスの砦」の収録で全日本の選手と一緒にサンアントニオに行ったんですけど、アタシ、そこで大喧嘩したんですよ。

木原のオヤジとですか?

ジミー　俺も、その時いたんたけど、木原のオヤジがえげつないんだよ。酔っ払って「ひろこ、アイ・ラブ・ユー!」とか言って、すっとカラんでるんたよ（笑）

胡桃沢　ホント、気持ち悪くって　あとから冷静な時に聞いたら「あれはワザとみんなを盛り上げるためにやっただけなんだ」とか言って、すんごいキツイ言い訳してましたよね（笑）。

ジミー　「そんなこと言うと嫌われるよ」って言ったんだけどな。

胡桃沢　もうホント、あまりにもしつこ過ぎたから蹴りとかビシッと入れたりしてたんですよ（笑）。

—そこで胡桃沢さんをかばってくれたジミーさんと仲良くなったんですよね

胡桃沢　そう。それでアタシからジミーさんに近づいていったんですよ。やっぱWWEファンだったから、ジミー鈴木っていったら、知り合いじゃなくても存在は知ってるから「あっ、ジミー鈴木だー」って思って（笑）。

それも凄い話ですよね（笑）。

胡桃沢　「はじめまして、胡桃沢です」って自分から話しかけに行っちゃいましたね（笑）

ジミー　今日知ったけど、アイドルたったなんて知らねえもん。あと10年も経ったら、いい女になるだろうなぁって目で見てたけどさ（笑）。

さすが、ジミーさんですね（笑）

胡桃沢　そういえばアタシ、武藤さんに酔った勢いでヒドイこと言っちゃったことあるんですよ。

どんなヒドイことを言っちゃったんですか?

胡桃沢　この間、ZERO—ONEの両国大会で武藤さんと大森選手か闘ったんですよ。その試合って凄い眠気が出

てきちゃう試合で（笑）。

——眠気が出てきちゃいましたか（笑）。

胡桃沢　あれは大森さんが悪いと思うんだけど、最後は武藤さんが一応、勝って、気持ちよく帰ってたらしいんですよ。その後に、たまたま電話でお話しする機会があって「今日見てましたよ。お疲れ様でした！」とか言ったあと「今日は、しょっぱい試合でしたねぇ」とか言っちゃったんですよ（笑）。

——またストレートに言っちゃいましたね（笑）。

胡桃沢　そしたら、武藤さんは「エッ!?だって今日はＺＥＲＯ－ＯＮＥだもん」とか関係ないこと言い出して（笑）。「それに俺が悪かったわけじゃねえだろ！大森だろ、悪いの！　俺はちゃんとやってただろ!?」とか言うんで、アタシも「は、はい」とか言って（笑）。

ジミー　武藤ちゃんは、すんげー気にするんだよ、そういうの。

胡桃沢　で、電話を切った後に「ひろこちゃんに、つまんねえって言われたよ！」って言いながら帰ったらしくて、もう、アタシどうしようとか思って（笑）。酔った勢いでレスラーに言っちゃいけないなって思って反省しましたね。

ジミー　それも、武藤敬司らしくいていいんだけどな（笑）。

胡桃沢　武藤さんといえば、もう一つ面白い話があって、『プロレスの砦』（サムライＴＶ！）で共演してた時、毎月会うから電話番号とかは教える必要はないって思ってたんですよ。それに、アタシは一応ファンだから、そこまで仲良くなりすぎるのもイヤだって思ってたし。

——仕事は仕事と割り切っていたわけですね。

胡桃沢　そうなんですよ。そしたら、たまたま、番組の監督から電話が来たんですよ。夜の10時ぐらいだったんですけど、「武藤さんが大事なお話かあるみたいなので、至急連絡を下さいって言ってたよ」って。で、アタシ、ちょうどその時、生ガキにあたって、辛くってホントに真っ青になってた時だったんですよね。

——それは最悪ですよね（笑）。

胡桃沢　どうしようって思うぐらい辛くて、呼吸困難みたいな状態だったんですよね。もうブルーになってて、やっと落ちついてきたなって思ってたところに、武藤さんから「大事な話」って聞いて、その時って、マイク・ロトンドさんのインタビューした後だったし、もしかして、そういうのが耳に入って何か怒らせたんじゃないかなって不安になって（笑）。

ロトンドは武藤さんが社長になってから呼ばれなくなっちゃいましたからね。

胡桃沢　そうなんですよね。だから、その件で怒られるのかな？　説教でも食らうのかなって思って、またお腹痛くなったんですよ（笑）。

——アハハハハ！

胡桃沢　もう凄い緊張して、「15分後ぐらいに電話しますって伝えて下さい」って電話を切って、「はぁ～」って深呼吸して無理矢理落ちつかせてたんですよ。それで、「よし！」って思って電話したら、いきなり「はい、ハニー！」とか言ってるんですよ（笑）。

アハハハハハー

胡桃沢　びっくりこきましたよ（笑）。「ハニー？」って思って、「胡桃沢ですけど」って言ったら「あ、ひろこちゃん。オ～、イエェ～！」たって（笑）。それで、「いまさぁ、未来のスターたちと飲んでんだよ」とか言って、「エッ、どういうことですか？」って聞いたら、「ウチに5人ぐらい新弟子が入って来たんだけどよぉ、『お前らにとって大切なモノは何だ？』って聞いたら、みんな『女です！』って言うんだよ」って。

——アハハハハ！　それは非常に大切ですからね（笑）。

胡桃沢　それ聞いて、なんたなんだってアタシも何となく、おかしいぞって思いはじめて。そしたら武藤さんはアタシがイエローキャブ系列の事務所って知ってたみたいで、「ひろこちゃんさぁ、最悪、イエローキャブでいいからよぉ、4人女の子集めてくんない？」って言うんですよ！（笑）。

——アハハハハ！　最悪、イエローキャブですか!?　凄いなぁ、武藤さん（笑）

胡桃沢　おかしいでしょ（笑）。ある意味、アタシ安心しましたけど。

——その4人には胡桃沢さんも入ってるわけですか？

胡桃沢　「お前も来なきゃいけないんだぞ」って言ってたから、アタシも参加できると思うじゃないですか？

——それは思いますよね。違ったんですか？

胡桃沢　そしたら「俺はカミさんいるから、俺とひろこちゃんは、『ねるとん』形式でモニターを見る係なんだよ」って（笑）。

——司会のとんねるず役でしたか（笑）。ちなみに、その合コンは実現したんですか？

胡桃沢　実現も何も絶対ジョークだと思ったから話も進めてないですけどね。まあ、考えようによっては、新弟子思いの素晴らしい社長ですよね（笑）。

胡桃沢　そうですよね。ホントに嬉しかったんでしょうね。だって、武藤さんが全日本に来てから、下の人って言ってても武藤さんとは何にも接点がなかった人ばっかりじゃないですか？

——そうですね。

胡桃沢　それが新弟子がたくさん入ってきて、凄い可愛いんでしょうね。いまはＫ－１だ、『ＰＲＩＤＥ』とかに若い人が行っちゃう中、それにプロレスも窓口が多い中、全日に来てくれたっていうことが凄い嬉しいみたいで、ホント気持ちよく酔っていらっしゃって（笑）。最後は「オッケー！」って口癖で電話を切ったんですけど、何がオッケーなんだと思っちゃいましたけどね（笑）。

ジミー　ホント、武藤敬司の話したらあきないよな。

胡桃沢　武藤さんはホント面白いですよね。

——胡桃沢さんは、ＩＷＡや、昔は夢ファクとかも見に行ってたみたいですけど、インディー団体も結構チェックしてるんですか？

胡桃沢　ＺＥＲＯ－ＯＮＥとかは知り合いからチケットが入るんでよく行ってるんですけど、インディーはそんなに行ってないです。あとコラムを書かせてもらってるんで、ＷＷＥはしっかりチェックしてますね。それとアタシは１・４が誕生日なんですよ。

——毎年、新日本がドーム大会をやってる日ですね。

胡桃沢　そうなんですよ。だから、１・４の新日本のドームはアタシと弟のためにやってくれてるって思ってますね（笑）。弟も１・４が誕生日なんですよ。

——それも凄いですね。毎年、新日本には姉弟揃って盛大な誕生日プレゼントをしてもらっていると（笑）。

胡桃沢　そうそう（笑）。でも、三銃士がバラけてからアタシはもうドーム行かなくなって、今年は三十路記念に『ハッスル１』に行ったんですよ。

——三十路記念でハッスルしてましたか（笑）。

胡桃沢　イマイチでしたけどね（笑）。（ちょうど、店のテレビにＮＯＡＨのドーム大会の小橋vs秋山戦が流れる）あっ、アタシ、プロレスラーの中で一番強いのは小橋建太だって酔った時によく言ってるみたいです（笑）。

——小橋建太最強説ですか!?　いま冷めてる状態でも、そう思います？

胡桃沢　いまも、ちょっと酔ってるんですけど（笑）、でもやっぱり小橋さんは強いなぁと思いますよ。

——強いっていうのは、『ＰＲＩＤＥ』だＫ－１の選手とかも含めた中で小橋さんが一番強いと？

胡桃沢　そう。『ＰＲＩＤＥ』とかに出ても絶対勝てると思いますね。打撃なんかも、すんなりかわして、自分の技を出して、持ち味をすべて出し切って勝っちゃうと思いますよ。

ちなみにフィニッシュは何ですかね？

ジミー　ラリアットでなぎ倒してムーンサルト？

——まあムーンサルトは『ＰＲＩＤＥ』では反則ですけどね（笑）。

胡桃沢　でも、強いと思う。ちょっと前に小橋さんと蝶野さんが試合したじゃないですか？

——ドームでやった試合ですね。

胡桃沢　あの試合を見て、もの凄く泣いたんですよ。蝶野さんが何回も投げられて首から落ちちゃって。ただでさえ蝶野さんは首が弱いのにって思ったら泣けてきちゃって。気がついたら涙がボロボロ出ちゃってましたね（笑）。

——プロレスを見ながら良く泣いたりするんですか？

胡桃沢　いや、あの時、初めて泣きました。「可哀想～。もうやめてぇ～」とか思って（笑）。あとは泣きそうになったのは、一回、この人がぁ（と言って店に飾られている新日本のカレンダーの中西を指さす）。

——野人ですね（笑）。

胡桃沢　そう。この人が武藤をアルゼンチンで担ぎ上げた時に、「触らないでぇ～！」って泣きそうになりましたね（笑）。

「プロレスラーとして強いのはストーンコールドだよ。あとはロック！　間違いない!!」

か？

ホント、大ッ嫌いたったんですよー

アハハハハー　でも過去形なんです

マースラムで俺は歌うたったこともあるんだよ。93年だったかな？

ックを使ってラテン諸国で超有名人になったヤツいるけどね。

それは最悪ですよね（笑）
胡桃沢　どうしようって思うぐらい辛くて、呼吸困難みたいな状態だったんです

ホント、太ッ嫌いだったんですよー
アハハハハ！　でも過去形なんですか？

胡桃沢　いまは、なんか昔ほど表だってスポット当たってないじゃないですか？
それほど気にならなくなったと（笑）。

胡桃沢　まぁ本人も悪いと思いますけどね　たけど、注目され始めた時、「ゴリラが出てきた！」ぐらいの勢いがあったじゃないですか？

――ありましたね。

胡桃沢　その時って、いろんな選手を担いでたじゃないですか？　「武藤さんだけは担がないで！」って（笑）。

ジミー　熱いファンだねぇ（笑）。で、『ハッスル』はどうだったの？

胡桃沢　『ハッスル』はねぇ……。この間、『ハッスル・ハウス』も行ったんですよ。凄い盛り上がってましたけど、なんかファン層が違いますよね？　プロレスファンじゃないっていうか。
　NOAHとかのファンには、物足りないところがあるかもしれませんね。

胡桃沢　若手のお笑いとかって、つまらなくてもみんな笑ってくれるところがあるじゃないですか？　ちょっと、そういうノリを感じたんですよ。何をやってもワーキャーワーキャーっていう凄い盛り上がりだったんで。

ジミー　まだ完成されてないけど、俺は『ハッスル』の方向性は全然ありだと思うよ。

胡桃沢　あれはあれでありなんだろうなぁとは思いましたけど、でもアタシはやっぱり〝プロレス〟が好きなんですよ。
　試合内容を重視してしまうわけですね。

胡桃沢　そう。そっちが大事ですね。
　でも、高田総統って、やっぱり凄いじゃないですか？

胡桃沢　そうですよね。アタシ、am／pmのCMに一緒に出たことがあるんですよ。
　あ、そうなんですか？　総統じゃなくて高田さんとですよね。

胡桃沢　そうです。あと片山右京さんと。その時、高田さんに「アタシ、大好きなんですよ、プロレスが」って言ったら、「エッ、じゃあ一番前で見てくれたら、ツバでも何でも吐いてあげるよ」とか笑顔で言われて（笑）。
　また凄いこと言いますね（笑）。

胡桃沢　意味がわからない、この人とか思っちゃったけど（笑）。でも、高田さんが武藤さんとやった時はキ●ガイみたいになりながら見に行きましたからね。
　―アハハハハ！　当然、武藤さんを応援したんですよね？

胡桃沢　もちろんです！　でも、あの時の高田さんはカッコ良かったし強かった！　ホント、いい試合でしたよね。

ジミー　あの試合は興奮したよな。じゃあ、小川直也はどう思うの？

胡桃沢　小川さんは、プロレスは決して上手い人ではないのかもしれないけど、プロレスラーとして見て、強いのは小橋建太か小川直也なのかって思った時かあったんですよ。

ジミー　ん〜？　プロレスラーとして強いのはストーンコールドだよ。あとはロックー

胡桃沢　エ〜ッ、ロック〜!?　ロックって、そんなに強い？

ジミー　だって絶対負けないよ、ロックは。日本に来たって負けねえもん！

胡桃沢　あぁ、そういうことか。そういう意味ではロックって小川さんと共通するんじゃないですか？　プロレスは、そんなに上手いわけじゃないけど……。

ジミー　いや、ロックはね、度胸があんだよ。13か14歳ぐらいの時に、バリバリのプロレスラー相手に「お前、ナメたらアカンぞ！　食らわすぞ、コノヤロー！」とか言ってビビらせたらしいから。普通出来ないよ、そんなこと。

胡桃沢　あぁ、ロックの自伝読みましたけど、そんなこと書いてましたね。

ジミー　あ、そういえば、俺、タイガー・ジェット・シンの映画に出るんだよ。
　エッ、シンの映画ですか？

ジミー　シンの自伝映画。関係者から電話がかかってきて「シン本人が直接推薦してましたんで出てもらえませんか？」って言われたんだよ。

胡桃沢　何役で？

ジミー　そのまんま。俺はジャーナリストのジミー鈴木役だよ（笑）。これまで、いろいろやってきたけど、映画は出たことなかったからなぁ。

胡桃沢　ジミーさんって有名になりたいとかって言ってるんですよ、普通の顔して（笑）。

ジミー　そりゃビッグネームになりたいよ、そんなもん。人生一度しかないんだから。
　映画は初めてってことですけど、プロレスはやったことありますからね。

胡桃沢　エッ、ホントに!?　ジミーさん、試合もしてるんだ。

ジミー　試合もしたし、流血もしたし、いろいろやってんだよ（笑）。あとね、サマースラムで俺は歌うたったこともあるんだよ、93年だったかな？

胡桃沢　へぇ〜、凄いじゃん！　でもサマースラムだったら探せばビデオあるかもしれない。

ジミー　メインイベントがレックス・ルガーvsヨコヅナだったんだけど、試合前、国歌斉唱をしたんだよ。
　あぁ、ヨコヅナってことはジミーさんが君が代を歌ったんですか？

ジミー　そう、1万7千人の大観衆の前でな！（得意げに）。アメリカの国歌を歌ったのがアレン・ネーベルっていって、アメリカでは凄い歌手。

胡桃沢　でも、一緒にカラオケ行きましたけど、ジミーさんは歌はホント上手いよねー

ジミー　「歌は」って言うけどさぁ、俺は写真も文章もそこそこ上手いと思ってるんだけどな（笑）。
　そこそこなんですか（笑）。

ジミー　そこそこ上手いだろ（笑）。でも俺ね、小学校6年ぐらいの時に、歌手になりたいって真剣に考えてたの。
　どうですか、2人でデュエットっていうのは？

胡桃沢　なれるよ、いまからでも。

ジミー　『美女と野獣』じゃなくて『美女と巨漢』って？　俺の友達でそのギミックを使ってラテン諸国で超有名人になったヤツいるけどね。

胡桃沢　手売りでもしよっか？　まずは赤羽のスナックでも回りながら（笑）。
　ボクも買わせていただきます（笑）。

胡桃沢　IWAの浅野社長だって「♪ヨッカチンチン」ってCDとか出してますからね（笑）。

ジミー　そんな歌出してんの（笑）。でも、どうよ、彼女、面白いでしょ？　今回の企画当たりだったんじゃない？
　―いや、大当たりですよ。今日は地元の赤羽でプロレス好きの元アイドルに会えて最高でした！　今日はホントありがとうございました！

ジミー　俺の感性は間違いないだろ？　その辺は武藤敬司と一緒で感性で動くからな。西やんの取材がダメになった時、代わりはこれっきゃないだろうってパパーッて思ったからね。
　胡桃沢さん、ジミーさんは明日アメリカに帰っちゃうみたいなんで、今度はボクと遊んで下さい!!

胡桃沢　あ、全然いいですよ。
　ヒャッホーー

ジミー　ひってぇなぁ。人の10年後の彼女取るなよな。俺が紹介したのに（笑）。

【7月18日／赤羽「酒処はっちゃん」にて収録】

プロレスラーとして強いなって思うのは小橋建太と小川直也かな

なくなって、今年は三十路記念にハ
スル1」に行ったんですよ。

チンで担ぎ上げた時に、「触らないでぇ〜！」って泣きそうになりましたね（笑）。

SPECIAL

"涙のカリスマ"が日本の中心（都庁）で真実をさけぶ!!

ボクの言い分を聞いて下さ〜い!!

入江暴行事件

真夏のクソ暑い8月3日、マット界に衝撃が走った

格闘技団体キンクタムエルガイツの代表にしてエース・入江秀忠（35）が、交際を断られた女性A子さん（21）と、その友人の大学生B君（20）の顔なとを殴り、7月31日に傷害容疑て逮捕されたのだ。ご存知の方も多いと思うが各メディアの報道をまとめると、大まかな事件の内容は次のようになる

7月半は、自らか東京都多摩市永山で経営するバーへ飲みに行った入江は、バイトとして働いていたA子さんを気に入り、何度か遊ひに誘った　A子さんはその度に断ったものの、バイト先のオーナーということもあり邪険にもできす、7月22日の夜、入江とA子さんは同市内の居酒屋で23日の朝4時まて飲食した

店を出たあと　一人て帰る」というA子さんに対し、泥酔状態の入江は「一緒に帰ろう」としつこく迫ったため、A子さんは大学生の友人B君を呼び、自転車に乗り二人で入江の前から立ち去ろうとした

逆上した入江は乗用車で追いかけ、同市乞田の歩道で二人を発見　自転車を蹴倒しB君の顔を殴り、止めに入ったA子さんの右目近くを平手で殴った　B君は全治3日で済んだものの、A子さんは1週間の顔面打撲と頸椎捻挫を負った

被害届を受けた多摩中央署は入江を傷害容疑て指名手配し、31日に出頭した入江を逮捕　調へに対し入江は「言いたいことはある」としながらも、犯行は認めた

8月11日夜、不起訴となり釈放された入江から一本の電話が入った。「どうしても聞いてもらいたい話がある」。指定された日時は奇しくも8月13日の金曜日　場所はなせか都庁展望台　果たして入江の身に何があったのか？ "聞いてもらいたい話"とは"事件の真相"なのか、はたまた"負け犬の遠吠え"なのか？ 日本のド真ん中（都庁）で"涙のカリスマ"が事件の全貌を語る!!

—今回の事件には驚かされましたけど、どの媒体にも入江さんが「事実は事実たけと、言い分はある」と言っていると載ってましたよね。

入江　そうなんですよ。ちょっと話を聞いてもらいたくて、都庁の展望台まで呼び出しちゃいました（笑）。

なんて都庁の展望台なんてすか？

入江　都庁って言ったら、日本の中心じゃないですか？　その中心の展望台から今回の事件の真実を叫びたかったんですよ（笑）。

そういうことでしたか（笑）。というわけで、入江さんの言い分を聞かせて下さい！

入江　ボクがまず言いたいのは、女性を故意で殴ったんじゃないってことなんです。それは警察も女性も認めてくれました。だから釈放されたんですよ。

あ、そうだったんですか。でも、故意じゃないにせよ、怪我をさせてしまったのは事実なんですよね。

入江　はい。二人に怪我をさせてしまったのは事実ですので、それに関しては本当に申し訳なく思ってます　反省してます。

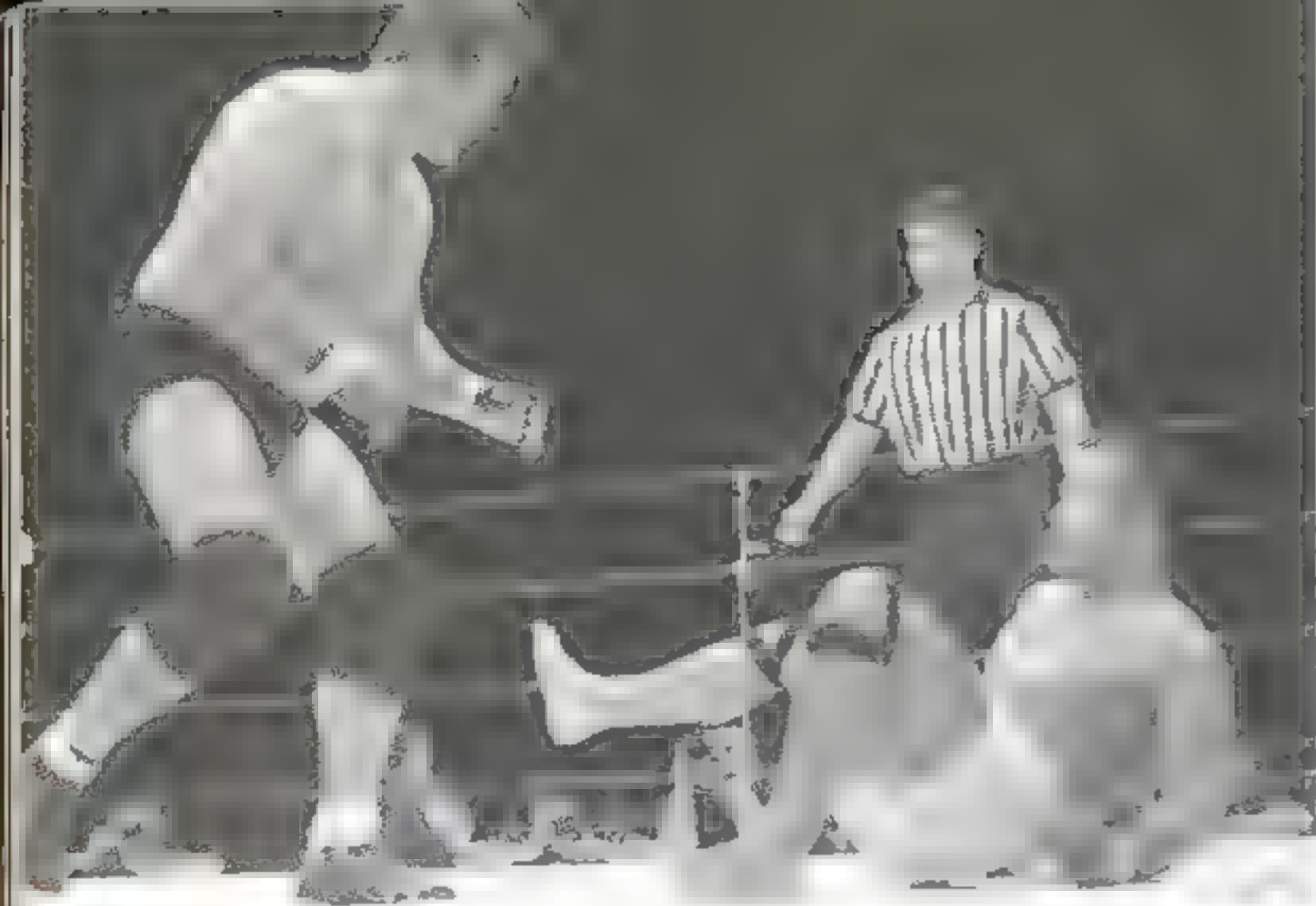
一連の報道によると、入江さんが交際を申し込んだところ、フラれてしまい、その腹いせに女性と、女性が呼んだ男性に暴力を振るったということなんですが、それはズバリ事実なんでしょうか？

入江　いや、それは全くのデタラメなんですよ！　最初に報道された内容というのが、一番初めに女性が警察に話した内容なんですよ。

それは事実ではないと？

入江　そうです。ボクはその女性に対して全く好意はなかったし、むしろ彼女の方から声を掛けてきたんですよ。

あ、逆だったんですか？

入江　そうですよ　それに最初の調書

の真相!!

入江秀忠 独占インタビュー

では、女性も男性も、ボクが後ろからいきなり殴り掛かって、おまけにイスを持ち上げて振り回して、しかもラリアットを喰らわしたって警察に言ってたんですよね（笑）。

——イスにラリアットってプロレスじゃないんですから（笑）。それも事実じゃないんですか?

入江　事実じゃないですよ。そもそもボク、ラリアットとかやったことないし（笑）。

そうですよね（笑）。その騒動があったのって路上なんですよね。

入江　そうなんです。だからイスなんてあり得ない。それにね、ボクはよくバーにガールフレンドを連れて行くんですけど、その女性に好意を持ってたら、そんなことしないですよね。

——まあ普通はそうですよね。もしかして、現在は大事にされている女性とかいらっしゃったりするんでしょうか?

入江　（照れくさそうに）いますね。だから今回報道された女性に好意を持つことはあり得ないですよ。

——これも一連の報道で知ったんですけど、入江さんはダーツバーを経営してらしたんですか? ボクは初耳だったんですけど。

入江　いや、それは場所を貸してるだけなんです。ボクはZ-ZONEってジムをやってるんですけど、それだけじゃ広いんで、大会がない時に貸してるんですよ。だからボクはオーナーでもないし、そこで彼女が働いてることぐらいは知ってましたけど、そんなに面識があるわけでもないんです。それが何で「好意を持っていた」とか「一目惚れ」とかに発展したのかわからないですよ。

——でも二人きりで居酒屋に行ったのは報道の通りなんですね?

入江　それは事実ですけど、もし狙ってる女だったら、ボクは安居酒屋には連れて行かないですよ（笑）。

——アハハハハ! そこも証明しておきたいんですね（笑）。

入江　そうですね（笑）。今日は敢えてこのTシャツ（P104中央の写真参照）を着てきたんですけど、バーでこれを着て飲んでたら「可愛いTシャツですね」って彼女の方から話し掛けてきたんですよ。

松井Tシャツが可愛かったと（笑）。

入江　このTシャツのどこが可愛いのかわかんないんだけど（笑）、向こうから声掛けてきたから話してて、それで後日、居酒屋に行ったんですよ。そのうち彼女の身の上話になって、ここでは言えないような複雑な過去の話を聞いたんですよ。で、「私って騙されやすくてバカなんですよぉ」って言うから、ボクは彼女のことが凄い可哀想に思っちゃって。

——それは恋の予感ってわけではないんですか?（笑）。

入江　いやいや、それはないです。それで、朝の5時頃に別れた時に、外に例の男性が来てたんですよ。ボクが「お前、誰だ?」って聞いたんですけど、ずっとヘラヘラしてて。彼女も「彼氏じゃない」って言ってたんで、なんだろうなって思って、ちょっと引いてたんですよ。で、彼女がその男に連れて行かれて、ボクは車の中で仮眠をとってたんですけど、20分ぐらいしたら、やっぱり心配になって彼女に電話したんですよ。そしたら出なかったたから、ますます心配になって、会って事情を聞こうと思ったんですよ。

——それで追いかけたと。

入江　追いかけたって報道されてますけど、ボクは捜したんですよ。そしたらたまたま発見したので、その男性に「お前、何者なんだ?」って聞いたら、またヘラヘラしてて、そこで、男性と揉み合いになっちゃったんですよ。

現場には、男性と女性と入江さんの3人しかいなかったんですか?

入江　いや、朝方だったんですけど、周りに4~5人集まってきて止められたんですよ。で、その時、手を振り払ったら彼女に当たっちゃったんですよ。

故意に殴ったわけじゃなくて、たまたま手が当たって怪我をさせてしまったってことですか?

入江　そうです。報道ではグーパンチで殴ったとか出てましたけど、ホントは右の掌の親指の付け根が当たっただけなんです。

——グーパンチじゃなくて、掌底気味だったわけですね?

入江　掌底ってほどでもないですけどね（笑）。ただ、怪我をさせたのは事実です。男性の怪我は全治三日とはなってますけど、揉み合って小突いたぐらいですね。

女性の方は偶発的なケガだったとしても、男性に対してはムカついたので揉み合ったわけですよね?

入江　そういう部分もあったのかもしれないですけど、ボクがその女性との関係を質問しても、全く説明しなかったんですよ。もちろん、力いっぱい殴ることはあり得ないですけど、でも相手が怪我して治療費が発生したら払おうと思ったんです。で、次の日、いきなりボクから連絡すると向こうも構えてしまうと思って、女性と知り合いだったコイツ（※RYOTA／キングダムエルガイツの若手のホープ）に電話させたんですよ。

RYOTA　そうなんです。ボクは女性に「怪我は大丈夫ですか?」って聞いたら、「大丈夫ですけど、一応病院には行きました。だけど、こういう怪我って保険がきかないじゃないですか?」って言われたんですよ。

入江　保険がきかないって訳のわからないことというから、なんかおかしいなって思ったんですけど、怪我は事実なので謝ろうと思ったんですよ。それで「会ってくれるなら、もう一度会って二人に謝るし、ボクに会うのが嫌ならRYOTAに治療費を持って行かせます」という話にまとまって、日時を指定されるのを待ってたんです。それからしばらくしたら警察から連絡が入ったんですよ。

——報道によると、指名手配されて、試合のあった7月31日に出頭したとありますけど、それは事実なんですか?

入江　それも違うんですよ。ボクは指名手配なんかされてないし、大体、その日にウチの大会はないですからね。

他団体にも特に出場する予定はないですもんね。

入江　ボクはスパーン戦で怪我しちゃ

入江が「この試合があった日からおかしくなった」とボヤく6月のスパーン戦。格闘技人生の集大成は、膠着したまま入江の判定負けという結果に終わった。再戦を望んでいるスパーンに対し、入江は時間無制限のエルガイツルールでの完全決着を要求。「復帰の見通しはたってないけど、やるなら死ぬまでやってやりますよ！」（入江・談）

好きな女を安居酒屋になんか連れて行かないですよ!!

ったんで、試合は無理ですよ（笑）。で、警察から電話がきて、「話を聞きたい。逮捕でも何でもないから」って言われたんで、「わかりました。話をしに行きます」と。それで警察に行ったら「お前が女性を拳で殴ったんだろ。恋愛のもつれからやったんだろ？」って一方的に決めつけられて逮捕されたんですよ。

――有無を言わさず捕まえられたと？

入江　はい。ボクが何度も弁解しても何も聞いてくれないんですよ。それで弁護士さんに相談したんです。結局、10日間拘束されてましたからね。

――10日間も臭いメシを食ってきたんですか？（笑）。

入江　いや、そんなに食事は悪くなかったんですけどね（笑）。でも、ボクが警察の言い分を完全に認めれば2日間で出ることができたんですよ。「俺たちの言う通りにしないと、お前の人生ボロボロにしてやるぞ」みたいなことを言われても、ボクは「故意に女性を殴った覚えはない。俺を潰す気なら潰してみろ。その代わり俺は最高裁まで行ってやる」って言ったら、警察も少し信用したみたいで、女性の調書をもう一回取り直してくれたんですよ。

それでどうなったんですか？

入江　そしたら彼女が全て正しいことを話してくれたんで、警官も態度を変えて「女は魔物なんだから、これから気をつけろ。もういろんなことに首を突っ込むな。自分のことだけ考えろ」って言われて、出て来れたんです。

間違った報道をしたマスコミは訂正する義務がありますよ!!

――警官にも同情されたと（笑）。

入江　されました（笑）。今回の件を大まかに話すとこんな感じですね。ボクも全く非がなかったと言ったら嘘になるけど、今回の報道でプロレス・格闘技界に迷惑をかけたと思ってるし、正直、このままじゃボクの未来は真っ暗なんで、会見を開いて釈明しようと思ってるんですよ。

ただ、今回の逮捕騒動は、かなり大きく報道されましたし、会見を開いて真実を告白しても、それがどれぐらいの大きさで報道されるか正直わからないですからね。

入江　でも、間違った報道をした以上、マスコミも訂正する義務もあると思うんですよ。ある新聞なんか、ボクと彼女は1年間交際の事実があったとか書いてましたからね（笑）。

どっからそういう情報を仕入れてくるんですかね（笑）。

入江　一連の報道は女性の最初の調書の通りなんで、それをマスコミに洩らせるのは、その女性か警察しかないんですよね。でも、こちらの事情を全く聞かずに逮捕するっていうことはあり得ないらしいんで、そういう意味で警察も完全には信用できませんね。

――留置所から出てきてから周りの人の反応はどうでした？

入江　マッハ（桜井"マッハ"速人）とか、他にもたくさんの人が心配してくれてましたね。事情を話したら、みんな「そんなことだろうと思った」って言ってくれて、人間関係は事件前と誰一人変わってないですよ。

――それは不幸中の幸いというか。

入江　でも、留置所にもいろんな人が来てくれて感動しましたよ。IWA JAPANの三宅綾選手も来てくれて、パンツとかTシャツとかいろいろ差し入れしてくれたんですよ。ホントに有り難かったですね。

えっ!?　三宅さんとは前から面識があったんですか？

入江　以前、秋本道場に出稽古に行った時に2回ぐらい話したことがあったんですけど、すぐに飛んで来てくれて、凄く感動しました

――三宅さんは剛竜馬さんの弟子なんで留置所にはよく行ってたらしいし、何が必要かとか詳しかったんでしょうね（笑）、

入江　なるほど（笑）。そういうふうに応援してくれる人たちのためにも早く事実を証明しないといけませんね。

――でもいまのところ、マスコミやファンも「入江は、もう表舞台に出れないんじゃないか」って思ってるだろうし、他団体もオファーしづらいのは事実でしょうね。

入江　でも、会見すれば♪わかってもらえると思うし、少しずつ媒体に出ることによって、女性に故意に暴力を振るうような男じゃないってことを証明していきたいと思ってます。

――それでは最後に確認しますけど、今回の件は故意でなかったとはいえ、怪我をさせてしまったのは事実とのことですが、それ以外のことに関して、うしろめたいことは何もないと？

入江　はい（キッパリ）。女性にケガをさせてしまったことは事実ですので、それに関しては心の底から申し訳なく思っています。今日ボクが言ったことは調書にあることなんで、もし嘘の発言をしたらボクが名誉毀損で訴えられますからね（笑）。

-そうなるでしょうね（笑）。

入江　でも、今日話した内容の調書にするために10日も拘留されたわけですし、もし罪を認めて早い段階で出てきたとしても、"格闘家が一般の女性に故意に暴力を振るった"っていうレッテルがボクにとっては死刑判決みたいなものでしたから。それが事実でないということを身体を張って証明していきます！

【8月13日・都庁展望台にて収録】

以前、紙プロ誌上でホモ疑惑を完全否定した入江だが、都庁展望台で叫んだ今回の事件の真実は、果たして世間に届くのか……!?　写真左は、韓国でのスパーン戦にも帯同した愛弟子・RYOTA

【飛び込み入江情報】8月23日、多くのマスコミが詰めかける中、入江が記者会見を行い、今回の事件の経緯を説明した。また、インタビューでは明かされなかったが、警察に不当逮捕などの非人道的な扱いを受けた疑いがあるとして、入江本人や団体に対する名誉毀損の疑いて調査を進めていく方針であることを発表した。会見の詳細は紙プロHandで!!

矢野卓見
チーム・イリホリの片割れが緊急コメント！

女の子を殴っちゃったんだって？　いや〜、大変なことやっちゃったねえ（ニヤニヤ）。

故意じゃないにしろ、結局は酒飲んで暴れた訳だからね、酔っ払うと人間の本性が出るって言うから、それがホントの姿なんじゃない？　だから俺は酒を飲まないんだよ、本性が出るから（笑）。

入江さんは何年もスパーリングで決められたことがないって言ってたけど、十段（今成）曰く、入江さんとスパーやる時は足関なしのルールでやってたらしいよ（笑）。俺もスパーやったことあるけど、猪木－アリ状態で、入江さんが下から「さあ来い」みたいな感じで誘うから、行こうとしたら、なぜか下からバンバン蹴ってくるんだよ（笑）　以前、俺がエルカイツを観に行ったとき、打撃しかできない選手に対して、入江さんがケツをリングに付きながら近づいて行ってたんだよね。いくら打撃が苦手だからって、ルール作った本人がそれを悪用しちゃあダメだよ（笑）。何かあの人には、中学生が"俺ルール"で小学生のガキども相手にゲームやってるとか、そういうのを感じたるんだよね。

スパーン戦にしても、いくら相手がタップしたと思っても、それを確定するのはレフェリーなんだから、自分で判断しちゃダメだよ。それで『紙プロ』で「次は誰であろうと折る」って宣言したら、次の相手は女性だからね（笑）

中国でのサッカーアジア大会で、日本に対するブーイングが凄かったけど、あれって世界中に自分らのバカさ加減を知らしめてるだけなんだよね　世界中に見られてる意識っていうのがないんだろうけど、今回の件もそれと同じだよ。プロレスラーっていう肩書きがどれだけニュースソースとしてデカイかっていうのを自覚してれば、いくら正義感からやったこととはいえ、普通やらないでしょ。責任感が欠如してるんじゃないの？

【今月の検証　椎名基樹】

入江さんとヒクソン

入江さんが、ついにブレイクした。

あの日、目が覚めて、なにげに朝刊（もちろんスポーツ新聞のみを定期購読）を広げると、今回の事件が実にデカデカと報道されていて度肝を抜かれた。これまで入江さんは〝涙のカリスマ〟などといわれ、エキセントリックなキャラクターで一部ファンに支持されていたようだが、今回のこの事件による入江さんの世間への認知度は、そんなものとは比べものにならぬくらい、大きい。なにせ本当、デカデカ載ってたもんね。本人も留置所から出たあとで記事を見て、その大きさに驚いたと苦笑い薄笑いで言っていた。

ここで、冒頭の一文に説明をくわえさせていただきたい。まず〝入江さん〟と書いたのは、筆者がもうむかしむかしに総合の道場に少しだけ通っていた時に、入江さんと知り合い、以後彼がプロレスラーになっても、筆者の中では〝プロレスラー入江秀忠〟より、道場仲間の〝入江さん〟という認識が先にきてしまうからだ。次に、〝ついにブレイク〟と書いたのは、思えば入江さんは「誰かに認められたい」「自分の存在を知ってもらいたい」と強く願っていた人のように思うからである。

それを語る上で、道場で初めて話した時のことを忘れられない。練習のあと、入江さんがすごく強く、さらに全日本アマ修斗の優勝経験があるのにもかかわらず、プロ修斗に上がる意志がなさそうなので、その訳を訊いたことがあった。

その頃、プロ修斗は盛り上がっていて、ヘビー級はエンセン井上がチャンプだったから、格闘家にとっては「望むところ」の舞台に、筆者には思えた。それに対する入江さんの答えは「自分はヒクソンと闘いから」だった。さすがに驚いて二の句が継げなかった。そーいったって、あーた！

だから、後に入江さんがプロレスラーになって、マスコミに「今は言えないですが、闘いたい相手がいます」と発言しているのを知って、「あっ、ヒクソンのことだ。まだ、この人は言っているんだな」と思ったものだった。

2000年9月、「僕のお願いを聞いてくださ〜い　僕はッ、ヒクソンと闘いた〜〜い!!」と号泣し、ヒクソン・グレイシー戦をブチ上げた入江。実現へ向けての全国署名活動は三千名もの数を集めたものの、その想いは届かず、今年5月、無念のヒクソン戦断念を宣言した

とにかく、最初に話した時の印象で「あ〜、すごく変わった人なんだな」と、インプットされた。実際、道場でもすごく浮いた存在だったのは確かだ。あと、もう一つ印象に残っていることがある入江さんが浮いていることに見かねてか、道場長か入江vs５人くらいの、テイクダウンのスパーリングをしたことがあった。入江さんは一人だけヘビー級だったし、大相撲や大学相撲の経験者であり、他の者ではテイクダウンできる存在でなかった。だから、相撲の練習みたいに入江さんを囲んで、一人が挑み倒されると、すぐにもう一人がかかっていき、エンドレスで挑んでいくのだ。まあ、レクリエーション的な練習であったが、最後は何巡目かで軽量のプロシューターの人が小内掛けで倒し、みんなで「や〜い、や〜い、わ〜い、わ〜い」とはしゃいだ。その時、入江さんは、照れ笑いしながら、実に嬉しそうな顔をしていた記憶がある。

さて、今回の事件で何年ぶりかで入江さんに会ったわけである。だが、待ち合わせの新宿で、いくら待っても入江さんが来ない。チョロが言うには、入江さんの要望で『東京の中心で真実を叫ぶ』って企画で、都庁で撮影がしたいということだった。それを聞いて筆者は「うわ〜面倒臭い人だな」と思うのと同時に、偶然そのちょっと前にこれまた何年かぶりに観たドキュメント映画『ゆきゆきて神軍』の奥崎謙三のことを思い出した。奥崎も監督の原一男に、度々「こういうシチュエーションでこういうシーンを撮って欲しい」と注文をつけてきたそうだ。そして、この事の重大さをいまいち理解してないような、なんか全部冗談みたいな振る舞い。奥崎は退院したばかりの、ヨボヨボのじーさんを足蹴にするが、報道によれば入江さんは、自分をフッた女を殴ったという。

入江さんについて誰もが思うことは、「お前は一体何がしたいんじゃー」ということではないだろうか。筆者もそう思う。しかし、入江さんの行動・経歴が、一面では必然的で整合性があるようにも感じる。そんな入江さんが一貫して言い続けたのが「ヒクソンと闘いたい」である。

しかし、入江さんが闘いたかったのはヒクソンであってヒクソンではない。ヒクソンはただのキーワードだ。入江さんにとってのヒクソンは、学校を辞める時に「お前なんて一生中卒だ」と入江さんに言ったという高校教師かもしれないし、家出してきたという実家の両親かもしれない。だから今回の事件も、その女性が一瞬、ヒクソンに見えてしまったのではないかと思うのだ。

つまり、入江さんはヒクソンを倒し、新聞にデカデカと報道され、ついにブレイクした。しかし、よくよく足元を見てみれば、倒れていたのは、ヒクソンではなく、女性だったのである。

★"宿敵"スパーンキャップ【編集部提供】
★キングダムエルガイツ北沢大会パンフ【新宿ファイター提供】
■応募方法はP143参照——!!

お詫び

[illegible]コラム担当・[illegible]前号の「ザ・検証〜長州とサイパン〜」の原稿の前半部分を700W以上も掲載し忘れるという、前代未聞の不手際をやらかしてしまいました。椎名さん、そして読者のみなさま、本当に申し訳ありませんでした！　[illegible]部分を改めて掲載致しますので、前号とつなげてお読み下さい！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

読者のみんな、ごめんりんこ（byアンチエイン梶）。わたくし椎名基樹は、今月はプロレスも格闘技も、会場はおろか、テレビですら観ておりません。プロレス誌に連載をさせていただいている者として、これ以上の不勉強はない。

そこで書くネタにも困るワケであるが、突然であるが、只今現在、我が家はチラカリ放題で、ベッドの脇に昔買ったプロレス＆格闘技のパンフレットが、50センチ位の高さに積み上げられていたりするのだ。で、眠る時に鼻をムズムズさせる埃に閉口しながら、それをめくっていたりするワケです。その中で気になった記事があったので、ちょっと紹介したい。

それは、1995年10月9日東京ドーム、そう、メインで武藤と高田が戦った、パンフの表紙の言葉を借りれば「激突、新日本対UWFインターナショナル 全面戦争」の記事だ。この中の、この興行が行われるに至るまでの経緯をレポートした「ドキュメント 8・24同時記者会見」の長州発言に思わず「えあ？」とならずにはいられなかった。

この世紀の興行は、マスコミを前にした長州・高田の電話会談で、急転直下決定したことが話題となった。その模様をこの記事は次のように伝えている。

「ホントか、テメー！この野郎！　覚悟しとけよ！」という長州の鬼気迫る怒号が響き渡った。ガチャ〜ン！　と受話器を叩きつけるように電話を切った長州は、上井（営業部長）に連絡を取ってくれ！」と怒鳴るや山中営業次長のデスクに駆け寄り「どこでもいいぞ！　会場押さえてくれ！」指示を出した。そしてしばらくして、山中営業次長から「一番近いところで10月9日の東京ドームが開いています」と聞くやいなや、バーンとテーブルを叩いて「やれ！　押さえちゃえ！」と即決、とある。（以下、前号に続きますが、持ってない方ゴメンナサイ）

本誌 Back Number

no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが「紙プロ」初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF

no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か？

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／「平成ファミコン・プロレス」鮎浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF

no.14 '95.04

特集 神秘とは何か？

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を語ります！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サタハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

「紙プロ」的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松越視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

「紙プロ」を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃！

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／盧山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF

燃える情念！石川雄規、初の自叙伝!! '00.04

情念～夢一途なり～石川雄規

「紙プロ」で2年半続いたバトラーツ社長・石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 自称"世界一の猪木信者"石川社長が、あまねく全ての人に捧げる珠玉の一冊！ 情念とは何かが分かる本である

1700yen⇒900yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! '01.04

さくぼん

「PRIDE」の会場でも大人気!! サクのすべてがよくわかる桜庭和志初のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやポスター、動く必殺技「炎のコマ」「炎の人力車」、サクマシン立体組お面など付録がこれでもか！とばかりに付いています

総238ページ

1000yen

インタビューという名の鉄拳史

紙の前田日明

「紙プロ」、「リンタマ」、「紙プロRADICAL」誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

プロレス、UWF、そしてリングスとは何か？／大山倍達とは何か？／激白！プライドとは何か？／特別対談 撃墜王・坂井三郎×前田「勝負師とは何か？」／特別対談 イエローキャブ社長・野田義治×前田「巨乳とは何か？」／「バカの壁」著者・養老孟司×前田「脳みそとは何か？」／大和魂檄談・エンセン井上×前田 他、珠玉のインタビュー＆対談が多数収録!!

1575yen

---

no.62 表紙 ミルコ '03.05/880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- 現役復帰間近!? 船木誠勝
- 藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル
- 新日本パートを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06/880yen

吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!

- 「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦
- 『PRIDE』REBORNを大総括!!
- 愛国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー
- 芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村 '03.07/900yen

灼熱の
「PRIDEミドル級GP」直前号!!

- "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- 「PRIDEミドル級GP」出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08/880yen

ヒョードル×ミルコ、
闘争本能世界一決定戦!!

- "最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル
- "反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- 吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司
- 闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09/880yen

ミルコ、武士道 電撃出陣!
もはや誰にも止められない!!

- 緊急独占インタビュー! ミルコ
- マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- "天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中蔵勝彦
- 「東スポ」とは何か? 柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10/880yen

吉田とシウバ、いざ激突!!
衣々は赤く染まるか!?

- ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー ミルコ
- "柔術超獣"復活へ!! ノゲイラ
- 「PRIDEミドル級GP」決勝戦出場全選手インタビュー
- アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

no.68 '03.12/900yen

人類史上稀にみる"大晦日・格闘技大戦"!!
白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦
- 横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- 一年ぶりの勝利で ニコニコインタビュー 桜庭和志
- "野良犬"「紙プロ」初登場! 小林聡

no.69 表紙 OH砲 '03.12/900yen

大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!!
年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!

- 出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也
- 「泣き虫」著者登場! 金子達仁
- 大晦日直前インタビュー! 田村潔司
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ '04.01/880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!!
OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?

- PRIDE征服宣言! ミルコ
- シウバに宣戦布告! 近藤有己
- ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶
- 発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02/880yen

プロレスよ、踊れ!
3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

- 『PRIDE GP』優勝宣言 ミルコ&ノゲイラ
- 待望の「紙プロ」初登場! 川田利明
- 理想のプロレスを追い求める! AKIRA
- スクープ! 幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03/840yen

最強への求道者たち全員集合!!
PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- 第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁
- 全て見せます!!「突撃! 佐々木健介邸」

no.73 表紙 小川直也 '04.04/880yen

暴走王が忘れたころにやってきた!
PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也
- PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- キックの名伯楽登場! 伊原信一
- 魔界のニューリーダー 村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05/880yen

シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ!
いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!

- PRIDE・GPでハッスル成功 小川直也
- リベンジロード発進!! 桜庭和志
- "ハードコアのカリスマ" ミック・フォーリー本誌初登場
- 拳圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06/840yen

英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、
吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- シウバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也with藤井軍鶏侍
- 奇蹟の独占インタビュー! 高田総統
- インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン
- 年金未納からUFOまで ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07/880yen

プロレス大爆発へ最後の挑戦!
ハッスルするなら今しかねえ!!

- スクープ発言連発! 小川直也
- 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ
- 厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志
- 新連載「月刊PG談(仮)」 吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08/880yen

『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集!
小川、史上最大の査定試合へ!!

- 「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」 小川直也
- 狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ
- サンボの神様降臨!! ビクトル古賀
- ロシアで英雄と再会! ウォルク・ハン
- 幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

① 「紙プロHand」で注文

② 電話注文 03-3403-5142

③ メール注文 kapra@kamipro.com

※1～3の通販方法はすべて代引きです。
代引きの送料は一律500円 何冊でも可 離島山間部は除くとなります

④ 郵便振替で注文
00130-3-769154
（株）タブルクロス

※郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記して下さい
※本誌かRADICALかを必ず明記して下さい

▼郵便振替の送料
1冊＝310円、2冊＝380円
3～4冊＝450円、
5冊＝520円、
6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店

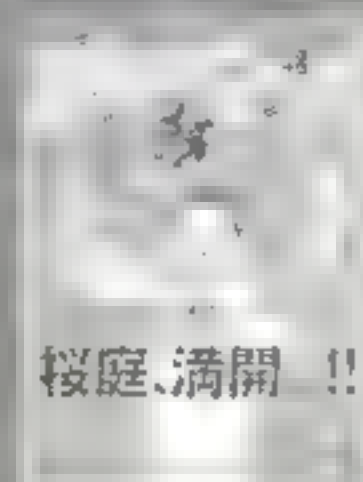
- アイドール新宿店
- 新宿ファイター
- 大山アメリカン
- プロレスマニア館
- チャンピオン
- リングスパレス
- バティスラム
- タコシェ
- レッスル池袋
- 書泉ブックマート
- 書泉ブックタワー
- 書泉グランデ
- グレートアントニオ
- 東京イサミ

Radical Back Number

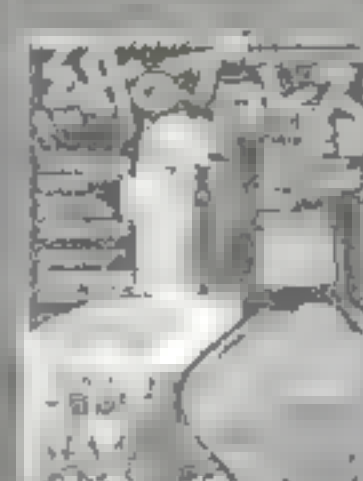
バックナンバーは電話で注文できます!!
03-3403-5142
【平日15:00~22:00 (株)ダブルクロス】

バックナンバーでライバルの歴史を徹底検証!!

no.44 ノゲイラが初代PRIDEヘビー級王座奪取 そして、あの男の名前を口にした
- 前田の神通力 その修羅場の数々を激白 シーザー武志
- プロレスと格闘技の壁を破壊する怪物対談 高山善廣×安生洋二
- 昭和幻想爆発! 日本プロレスの特攻隊長・グレート小鹿
- 切ち抜きカラー17ページ! 桜庭門大特集!

'01.12 / 880yen

no.48 リングス二冠王ヒョードルがノゲイラに宣戦布告 「体力・技術ともノゲイラに劣っているとは思わない」
- ヒョードル最強への軌跡! リングス全9試合を検証!!
- 奇跡のメガトン対談が実現!! 小川直也×ノゲイラ
- "孤高の天才"田村潔司
- 人々を言言 横井宏孝

桜庭、満開!!

'02.03 / 880yen

no.54 不手際の時代を克服した英雄ノゲイラ! 「いつ何時、誰の挑戦でも受ける!」
- 「吉田はウソつきだ!」ホイス&エリオ・グレイシー
- ノゲイラと田村に挑戦状! ジョシュ・バーネット
- WCWスーパースターズ対談! 武藤敬司×U・ドラゴン
- 猪木とは何か 実兄・猪木快守

880yen

no.60 ノゲイラvsヒョードルが遂に開戦! 二人の闘いの歴史はここから始まった!!
- ノゲイラ政権を崩壊させた男! E・ヒョードル
- 統括本部長が「PRIDE」の未来を大予言! 高田延彦
- 驚愕の格闘芸術家対談! 武藤敬司×須藤元気
- あのマ…がすべてを告白! 田代まさし

'03.03 / 880yen

---

no.15 小川直也 '99.02 / 780yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!!
- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手" アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー!」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- 環境問題を「紙プロ」で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山「紙プロ」初登場!!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.32 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- 田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- "和製カレリン"本田多聞

no.34 小川直也 '01.01 / 840yen
猪木祭り、開幕一ッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 怪ぃから「猪木祭り」へ! 宇野薫
- ホブチャンチン&オバチャンチン

no.35 サクマラ '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クートアー

no.36 橋本真也(イラスト) '01.03 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ウォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最強の歴史を紐解く
- 吉田豪に"ドラゴンの呪い"が襲う!!

no.37 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から 自殺未遂まですべてを語る!
- アブダビコンバット2001一大探検記!
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが WWFにはある!

no.38 高田(イラスト) '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は 高田延彦
- ウォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス! 前田 is デッド!?
- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 アントン猪木 '01.07 / 880yen
猪木軍vsK-1に見たいものは"地上最強のプロレス"
- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来!
- リングス10周年! ウォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×… 巨頭対談が実現
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 アントン猪木 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 桜庭和志 '01.10 / 880yen
サクと「PRIDE」のケツに火がついた!!
- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんしろう!」人生相談
- 金原弘光×サスケの 新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.45 アントン猪木 '01.12 / 880yen
「K-1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススーパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- "天才"武藤敬司か 紙プロ 驚愕の初登場
- 噂の純逆が新日分裂から ミスター高橋本までを語る
- 第一次リングス開幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.49 ミルコ&ヒクソン&小川&前田 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- 和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた 菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤノ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 桜庭和志 '02.05 / 880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- 「地方発世界」開始! 小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁 菊田、"尾崎の野郎"が登場!
- キョ!? 編集長か新日本に…くだり半!

no.51 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを!
- 両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也
- PRIDEの魅力をマン開 小池栄子
- 天才か悩みに答える! 武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 OH砲 '02.07 / 880yen
見えない鎖を引きちぎれ! 小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー 高山善廣
- USAの遠世人トン・フライ
- PRIDE侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の「LEGEND」前夜!

売り切れ注意

no.53 桜庭和志 '02.08 / 880yen
世紀のビックイベント Dynamite!直前大解剖!!
- ノーフィアー×無我美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- 爆裂! 川村社長ガチンコ語録
- 偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.55 高田延彦 '02.09 / 880yen
高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負か実現!!
- 「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- 実力者、遂に PRIDE 登場 金原弘光
- メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- 靖国神社で興行開催!! 佐山聡

no.56 Uインター '02.10 / 840yen
愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- 田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け! 高田延彦
- 蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山
- 高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド
- 「紙プロ」に風がふくぜぇ~ 鈴木みのる

no.57 高山善廣 '02.11 / 880yen
一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- サップと地球規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- 新たなる"U"か始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 武藤&船木 '03.01 / 880yen
新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルカリー師弟対談 ミスター・ヒト×ハシノ・カーン

no.59 ヒョードル '03.02 / 880yen
吹けよ!呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- 爆発!! WJマグマ語録
- 吉田道場の秘密兵器 中村和裕
- UWFの再興と再考 田村潔司

no.61 OH砲 '03.04 / 880yen
5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- 裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也
- 1年間の沈黙を破った!! ウォルク・ハン
- プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- リングス・リトアニア特集

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

今年の夏は、プロレスor格闘技で締めくくれ!

50年前の映画「怒れ！力道山」を観ました 力道山が悪徳代議士の妨害にもめげず、障害を持った子供たちの施設を救う為に、プロレスラーの誇りをかけて、強豪ガイジンと闘う姿に思わずホロリ でも部下を怒る演技が超リアルでビビってたじろぎました 担当はサイノです

Fight & Ticket & Game

試合・大会情報

9・3全日本プロレス 王道vs無我が大激突!

サマー・インパクト2004」最終戦

■日時 9月3日(金)試合開始18:30

■会場 神奈川・横浜文化体育館

■チケット 特別リングサイド 10000円／リングサイド 7000円／1階指定席 5000円／2階特別席 6000円／2階指定席 4000円／3階指定席 4000円(当日売りのみ)

■対戦カード

【三冠ヘビー級選手権】【王者】川田利明vs西村修【挑戦者】

武藤敬司 vs 小島聡 ◎太陽ケア & ジャマール vs 佐々木健介 & 木村浩一郎

本間朋晃 vs 越中詩郎 ◎天龍源一郎 & 渕正信 vs 嵐 & グラン浜田

荒谷望誉 & 平井伸和 vs ブキャナン & ディー・ロウ・ブラウン

カズ・ハヤシ & 中嶋勝彦 vs TAKAみちのく & BLUE-K

石狩太一 & ミステリオ・レッド vs 竹村豪氏 & MAZADA

土方隆司 vs 石川雄規

■問 全日本プロレス 03-3288-0610

Love Impact第3回大会! しなしと早千予がタッグ結成!!

■日時 8月29日(日)試合開始17:00(16:30開場)

■会場 東京・新木場1st RING

■チケット SRS席 5000円／RS席 4000円／A席 3000円

■決定対戦カード

❺【公式MMAルール・タッグマッチ】

しなしさとこ(フリー)&柴田早千予(白龍ジム) vs RED DEVIL KIS'S選抜2名

❹【公式ストライクルール】

中村珠美(禅道会) vs バッカス羽鳥(BBdoll)

❸【特別空手ルール】

小林由佳(西山道場) vs 森田寿恵(桜塾)

❷【公式MMAルール】

武田美智子(フリー) vs ファング(Team OK)

❶【公式MMAルール】

篠原光(フリー) vs 山田由美子(イーグルプロモーション)

■問 ラブ・インパクト事務局 03-5545-4766

■HP http://www.japanmusic.jp/loveimpact.html

プロレスLOVE溢れまくり! 『キング オブ コロシアムII』発売!!

前作で170000本を売り上げた史上最大かつ最強のプロレスゲームが再登場！ 史上最大の実名レスラー数150名以上の登場をはじめ、技数2800以上、コスチューム1700以上という、ブッチ切りのボリュームだ。寝不足覚悟で夢の対決を実現しまくれ!!

■発売日 9月9日(木)

■価格 8190円(税込み)

■対応機種 PlayStation2

■スパイク 03-5789-2173

■http://www.spike.co.jp/kc2/

IWA JAPAN代々木大会に 国内外のビッグネームが大挙出場!

IWA JAPAN10周年記念大会に三冠王者・川田が出場！ 当初、川田はハインズとの対戦が決定していたが、松田慶三が浅野社長に川田戦を直訴。花膳の夏期限定メニュー"川田利明カレー"(ご飯4合分！)を完食し、川田戦をゲットした。また、小島が「チョコさんとは初対面だが、私生活で世話になった」との理由で、チョコと一騎打ちを快諾。他にも健介 vs レザーの異次元対決、IWA世界王者争奪トーナメントと、あり得ないほどの超豪華大会になった！ジャのビッグマッチを見逃すな！

スペシャルサマーシリーズ2004～I.W.A.世界王者争奪トーナメント～」

■日時 8月31日(火) 試合開始18:30 17:30開場 ■会場 東京・代々木第二体育館

■チケット アリーナ席 8000円／ひな壇席 6000円／スタンド指定席 5000円／スタンド自由席 3000円

■対戦カード

❶ウルトラセブン & グレート・タケル & 三田英津子 & おまわりさん & 岸勝也 vs 西山秀紘 & ドロホー & 米山香織 & クラッシャー高橋 & YUJI-KITO

❷ジャガー横田 & 竹追望美 vs コマンド・ボリショイ & 木村響子 ❸【IWA世界王者争奪トーナメント1回戦】コンガ・ザ・バーバリアン vs ジョージ・ハインズ

❹【IWA世界王者争奪トーナメント1回戦】ハクソー・ジム・ドゥガン(withセクシー・マネージャー) vs ブルーザー・コング

❺【IWA世界王者争奪トーナメント1回戦】スティーブ・ウィリアムス vs ビッグ・ボスマン

❻【特別試合】佐々木健介 vs レザー・フェイス ❼【IWA世界王者争奪トーナメント準決勝】第3試合の勝者 vs 第4試合の勝者

❽小島聡 vs チョコボール向井 ❾川田利明 vs 松田慶三 ❿【IWA世界王者争奪トーナメント決勝】第5試合の勝者 vs 第7試合の勝者

■問 IWA JAPAN 03-3352-3366 ■HP http://www.iwajapan.jp/

札幌プロレス旗揚げ! 北の地でリングスvs藤原組が勃発!!

北のプロレスショップ・リングパレスの20周年を記念して札幌プロレスを旗揚げする。注目はロストポイント形式で行われる成瀬昌由&高阪剛 vs ヒート&石川雄規。新日本で闘いの幅を広げるヒートと成瀬、先日垣原とUルールで闘った石川、そして田村戦以来約7ヶ月ぶりの登場となるTK。Uの遺伝子を持つ者たちの激突の目撃者になるべく、札幌へ密航だ!!

札幌プロレス旗揚げ戦」 ■日時 8月29日(日)試合開始15:00 ■会場 北海道・札幌テイセンホール

■チケット(当日500円up) 特別リングサイド 6000円／リングサイド 5000円／自由席 4000円

■対戦カード ◎成瀬昌由 & 高阪剛 vs ヒート & 石川雄規 ◎金村キンタロー & 山川竜司 vs シャドウWX & 葛西純

ザ・グレート・サスケ & 高木三四郎&一宮章一 vs MEN'S テイオー & ポイズン澤田JULIE & 矢口壹琅

宇和野貴史 & 石狩太一 vs 原学 & 近藤博之 ◎ロード・ビッグ20 & ミス・モンゴル vs 三和太 & 山懸優

■問 リングパレス 011-261-5580 ■HP http://www.ringpalace.com/

9・24パンクラス後楽園大会 スーパーヘビー級マッチ2連発!

前回の7・25後楽園昼夜興行で存在感を示したメガトンがまたしても打って出る。総帥・高森が、古武術武神館体術10段の"青い目のサムライ"ネツラーと対戦。また、デビュー戦ながらヘンゾの弟子をあと一歩のところまで追い詰めた三浦が登場する。そしてメガトン最大のライバルでなるであろう謙吾も5ヶ月ぶりに復活！ 重量級が揃った後楽園大会は、ド迫力マッチになること間違いなし！

PANCRASE 2004 BRAVE TOUR」

■日時 9月24日(金) 試合開始18:30(17:30開場) ■会場 東京・後楽園ホール

■チケット(当日500円up) SS席 12000円／A席 9000円／B席 6500円／C席 5000円／D席 4000円／立見 3500円

■対戦カード

【スーパーヘビー級戦 5分2ラウンド】高森啓吾(パンクラスMEGATON) vs アンソニー"辰治"ネツラー(TEAM Boon)

【スーパーヘビー級戦 5分2ラウンド】謙吾(パンクラスism) vs アレックス・ロバーツ(KJK/Justiceマネージメント)

【ウェルター級戦 5分3ラウンド】和田拓也(SKアブソリュート) vs 井上克也(RJW/CENTRAL)

【ライトヘビー級戦 5分3ラウンド】エルビス・シノシック(マチャドブラジリアン柔術) vs 内藤征弥(A-3)

【ミドル級戦 5分2ラウンド】中西裕一(フリー) vs 三浦広光(パンクラスMEGATON-TOKIN)

【ライトヘビー級戦 5分2ラウンド】佐藤光芳(パンクラスGRABAKA) vs 白井祐矢(アンプラグド国分寺)

【ウェルター級戦 5分2ラウンド】関直喜(フリー) vs 石毛大蔵(SKアブソリュート) ※他1試合を予定

■問 パンクラス 03-5792-0815 ■HP http://www.pancrase.co.jp/

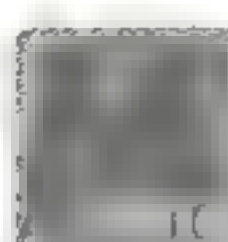
団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001 東京都渋谷区東1-25-2 丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/
■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com
■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025 東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/
■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/
■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/
■聖國道
042-544-6979
〒196-0013 東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/
■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 九段有楽ビル6F http://oudou.co.jp
■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com
■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/
■高田道場 03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/
■高山堂 03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com
■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html
■ドリームステージエンターテイメント(PRIDE)
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/
■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/
■パンクラス 03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/
■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp
■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048 神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247 SSビル310
■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com
■リキプロ 03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-23-13 サシダハイツ久が原303
■A to Z 03-3678-7777
〒132-0013 東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp
■DDT 03-5360-6653
〒112-0002 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-26-5 代々木シティホームズ1005
http://www.ddtpro.com
■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/
■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18 メープル中山手201
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/
■FEG(K-1事務局)
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/
■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com
■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/
■IWAジャパン 03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/
■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052 東京都港区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.dstar.co.jp
■JWP 03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/
■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/
■LLPW 03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/
■NEO 044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/
■SMACK GIRL
実行委員会
090-1773-5647(担当・勝井)
〒156-0041 東京都世田谷区大原1-63-9 恒心ビル601 株式会社プロテク内
http://www.smackgirl.com/
info@smackgirl.com
■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/
■UFO 0467-82-2034
〒253-0053 神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F 株式会社エフ企画内
■U.K.R 044-833-7042
〒213-0027 神奈川県川崎市高津区野川2193-11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/
■UNW 03-3362-3014
〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
■U.W.F.スネークピットジャパン 03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com
■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1 いずみハイツ
http://www.wj-pro.net/
■WMF 049-239-3520
〒350-0812 埼玉県川越市下小坂536-16
http://www.e-rain.co.jp/wmf
■WWS 0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106
■ZERO-ONE 03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html
■ZST 03-5388-0707
〒106-0023 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp/

Movie&DVD 話題&最新作情報

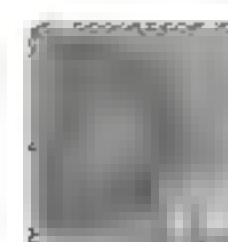
中島らも原作『お父さんのバックドロップ』が10月から全国でロードショー決定!!

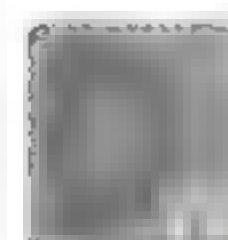
故・中島らもさんの名作『お父さんのバックドロップ』が、宇梶剛士主演で待望の映画化！ 試写を観たらもさんが滂沱の涙を流したという父と子の感動の物語だ。AKIRAや大日本、極真勢の熱演も見逃すな!!

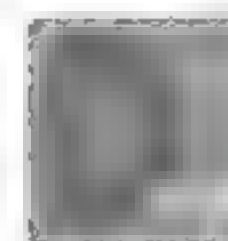
■劇場 渋谷シネ・アミューズほか10月から全国ロードショー ■監督 李闘士男
■出演 宇梶剛士、神木隆之介、南果歩、生瀬勝久、南方英二、AKIRA、他
■協力 国際空手道連盟 極真会館、大日本プロレスリング
■問 シネカノン 03-5458-6571

『大阪プロレス飯店』9月19日（土）からレイトショー!!

Ticket Present

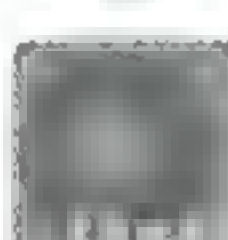
映画『無問題』スタッフが贈るアホアホ映画が誕生！ 主演は“燃えよデブゴン”サモ・ハン・キンポーの息子・洪天明（ティミー・ハン）。劇場招待券を10組20名様にプレゼント！ 応募方法はP143を参照。

■劇場 テアトル池袋（池袋駅東口 西武百貨店前）
■出演 洪天明、上野未来、黎耀祥、間寛平、スペル・デルフィン、吉田ヒロ、サモ・ハン・キンポー、他
■問 イエス・ビジョンズ 06-6646-6661 ■HP http://osaka-hanten.com

大橋秀行 ボクシング完全教則 中級篇

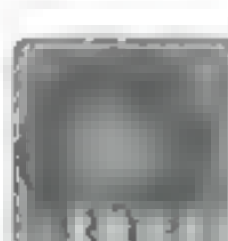
現世界王者・川嶋を育てた大橋秀行が、ボクシングテクニックの数々を伝授。入門・中級・上級、3巻ものの第3弾
■70分予定 5880円（税込）
9月発売予定

マルセロ・ガッシア エクストリーム柔術

人気者ガッシアが、得意技であるバックの取り方を中心に紹介したセミナー。テレレとの決戦も特別収録
■70分予定 5880円（税込）
9月発売予定

養神館合気道 極意

偉大なる塩田剛三を始祖とする養神館合気道の基本から極意を、塩田泰久養神館高田馬場道場長が披露する
■90分 5880円（税込）
9月発売予定
■問 クエスト 03-3360-3810
■HP www.queststation.com

Others&紙プロHand その他情報&更新・最新情報

モンスターファン注目！ 大統領×参謀長のトークバトル!!

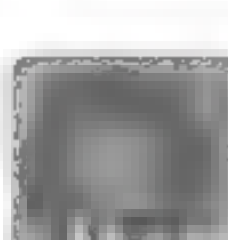
フィットネス、パーソナルトレーニング、マッサージ、フード&サプリケア、メンタルケアなどトレーナーのスペシャリストを育成するセミナーが開講する。先駆けて、島田裕二PRIDEルールディレクターが無料セミナーを行う。なお同日は“ハッスル大統領”山口日昇と島田裕三参謀長の「ハッスルモンスター軍トーク」も開催！ 急いで問い合わせるんだ!!

■日時 8月29日
■会場 東京商科学院専門学校新校舎（三崎町校舎）
■定員 各30名
■ハッスルモンスター軍トーク 13:00〜14:00
ホディテザイナー特別セミナー 14:00〜15:00
■主催 BCG 03-3560-7911
■問&参加予約 東京商科学院専門学校・事業部 03-3222-3905

吉田豪出演のイベント3連発！

ロックンロール ハイスクール 本日開校「〜1時間目講師 キターウルフ・セイジ&吉田豪」
■日時 8月30日（月）
開始時間19:30（18:30開場）
■会場 ロフトプラスワン 03-3205-6864
■出演 セイジ（ギターウルフ）、吉田豪
■料金 ¥1500（飲食別）

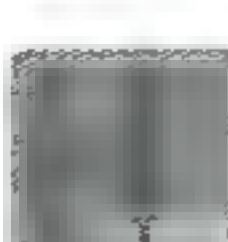
Z-1 CLIMAX 着音ハートバトル！ パンク&プロレス座談会
■日時 9月5日（日）
■会場 高円寺20000V
東京都杉並区高円寺南4-25-4 第8東京ビルB-2
■出演 吉田豪、植地毅、TYSON Z、BLACK VELVET LUCY、チョカホリック、BUGGING LIFE、THE FACEFUL
■問 03-3316-6969

「男の星座（ナミダ）を受け止めろ！3」〜梶原一騎生誕祭〜
■日時 9月9日（木） 開始時間19:30（18:30開場）
■会場 ロフトプラスワン 03-3205-6864
■出演 吉田豪、掟ポルシェ、ワル（真樹プロダクション）、他
■ゲスト 高森篤子（梶原一騎ご夫人）、真樹日佐夫
■料金 ¥1000（飲食別）※全員に振る舞い祝い酒有

この他にも9月25日にも吉田豪出演のイベント有り!! 詳細は次号!

着信音に新革命！ レニー・ハートの「レペゼン着と〜く」

いろメロミックスから新着信ボイス「レペゼン着と〜く」が登場！ PRIDEの選手入場コールでお馴染みのレニー・ハートが、あの巻き舌ボイスで様々な職業名を叫んでくれる、PRIDEファン大注目&ニュータイプの着信音だ！ また全国（一部地域を除く）で高田統括本部長と、ガードマン役のサクが出演するCMも放映中！ さながら自分がその職業の“代表者＝レペゼン”であるかのように自己表現し、世間に存在をアピールしよう!!（詳しくは下記HPで）

■問 いろメロミックス ユーザーサポート 03-5614-7308
■HP http://www.16melody.com/
■いろメロミックス 月額・税込315円／月間30ポイント

i-mode	i Menu	メニューリスト	着信メロディ/カラオケ	J-POP
EZweb	トップメニュー	カテゴリで探す	着信メロディ	J-POP・総合
vodafone live!	メニューリスト	着うた・着信メロディ	J-POP・インディーズ	

小川直也に負けじと、毎日ハッスルしている携帯サイト『紙のプロレスHand』では、「PRIDE武士道」で二連勝中の五味隆典選手コラムがスタート!! 他では見られない五味の隠された一面が見える!? 試合結果・速報のほか、『ハッスル』グッズやロシアン・トップチームTシャツ・ハリトーノフ新作Tシャツが買えるショッピングコーナーも大人気！ 写真は8月1日アップの中川画伯・イラストカレンダー待画だ この他も盛りだくさんで絶賛配信中!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	遊ぶ・楽しむ or インターネット	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	ボーダフォン・ライブ	メニューリスト	スポーツ	格闘技

勝っても負けてもハッスルする読者ページ

紙プロ元気大学

『PRIDE GP』も終わり、G1も終わり、すこし前に『火祭り』も終わり、リキプロ旗揚げ興行も終わり、ナナメ見していたオリンピックもこの号が出る翌日には終わります。夏休みの宿題はもう終わっていますか？　ラジオ体操は毎日参加できましたか？　……低年齢層の読者に歩み寄ってみました。こんにちは、読者ページ担当のささきいです。本業は電気部です。前号が出てからまだ2週間しか経っていません。はたして今月号は本当に本屋に並ぶのでしょうか？　考えるよりも原稿を書けばいいんですね。わかりました、頑張ります。それでは、はじまりはじまり。

勝っても
負けても
心から
あなたにおくりたい
言葉がある
「ありがとう」

（北海道・アカツキ）❶小川直也選手…ですよね。リングの上は残酷で、何があってもおかしくなくて、いつも見る者に何かを残していきます。それでもノゲイラ戦…

内回校巡

紙プロ77号　面白かった記事

【ウォルク・ハンインタビュー】

★ハンが前田と戦ってリングスの虜になったように僕もハンの虜になり、あなたが前田の兵隊なら私もあなたの兵隊だ。

（紙プロHand投稿・名前不明）

❶いい言葉を書くなぁと思って採用したのに名前がないよ。面白かった記事ナンバーワンは、この他「お願い田村！　オファーして!!（埼玉県・稲葉聡）」「高阪や佐竹のことを語っていたのが感動した（福島県・大平寛）」などの意見が届いたロシア特集のヴォルク・ハンインタビューでした日本にいる私たちと、ロシアにいるハンやハリトーノフとでは「兵隊」という言葉の重さもきっと違うのでしょう以下、順不同でお送りします。

【ビクトル古賀インタビュー】

★あっけらかんとスゴイ話をする古賀さんが最高でした。ムケテル人だと思いました。

（神奈川県・猪爪一蕃・28歳・プー太郎）

❶同様意見多数。かっこよかったですねぇ古賀さん。しかし「最高でした」でやめておけばいいのにどうしてそういう言葉を付け加えるか

【藤原敏男×田中健一対談】

★藤原氏のファンたったので・

（福島県・長谷川隆・40歳・自営業）

❶去形？　前号を見た田中先生から「自分は塾長じゃない」とチョロさんに連絡がありました。あと「タナケンっていうのは、マツケン・サンバみたいだからやめてください」ともおっしゃっていたそうです。みなさん気を付けましょう（と言いつつ、タナケン・サンバのイラストをこっそり募集）

【ミャンマー・ラウェイとは何か？】

★ラウェイ記事拝見しました。すごくよくできた記事たと思います。特に96Pは男前な記事て、しかもバックに男前な男達の写真が！　熱い！　こんな記事か書けるあなたは薔薇一万本にも勝る完璧な美た！（後略）

（福岡県・「心が折れましたハハハ　ああそうか。」）

❶熱くホメてくれる人がいるんだなぁと思ってよく見てみたら、ラウェイに参戦した「話」術慧舟會の某選手でした。欲しいプレゼントは「DEEP又はZSTの本戦出場権」だそうです。紙プロではプレゼントできないので、ZSTさんDEEPさんオファーしてあげてください。

【「ハッスル4」特集】

★坂田さんのお尻ペンペンに感動した。

（埼玉県・小林克弘・28歳・会社員）

❶そうかぁ。……なんで？　感動した理由も知りたいです

紙プロ77号　つまらなかった記事

★つまらなかった記事は特にない。写真が多く、マッチョな体が沢山見られて楽しい。

（神奈川県・立花雅秋・24歳・会社員）

❶それはよか　た　特集希望は西村修選手ですか　ふっむ

【ターザンのインタビュー】

★病気の時くらい静かにしていてほしい。

（東京都・八武崎貴広・20歳・大学生）

❶病気のときこそ炎上　それでこそターザン山本！

その他のおたより

★米メジャー・ホワイトソックスで活躍中の高津投手は登板する場面でサクのテーマを使用してテンションをあげるそうです

（静岡県・森上屋のり・33歳・会社員）

❶テンションをあげなきゃいけない場面では、実は私も同じことをしています。みんなやってると思うけどなぁ

★先日、都内某所（トータルワークアウト近く）でママチャリに乗ったミルコを発見！　あとクロコップチームの皆さんも！　他のメンバーが信号無視して走っているところ、ミルコはきちんと青信号で渡っていました。さすがは元警察官！

（神奈川県・廣木和宣・39歳・会社員）

❶「PRIDE」紹介映像では信号無視報道もされていたミルコ。実際はちゃんと守っていたんですね

★ランブリ前日、秋葉原でハリトーノフを目撃。アニメDVDなどを扱う店に笑顔で突入していた。もう一人、ロシア人と一緒たったが、次の日その人はセコンドについていた。あれはミーシャ？　買い物にまでセコンドにつくとはさすがロシアントップチーム。余談ですが、そのロシアントップチームの赤いTシャツでかなり目立つというのに、ハリトーノフだと気付く人は殆といなかった。さすが秋葉原

（紙プロHand投稿・もんたハッスル）

❶こちらはこちらで、なんだかロシアン・トップチームらしい目撃情報ですが、ハリトーノフには、できれば新作Tシャツを着て外出してほしいです

★126ページのザ・検証で「トロールの長州」となっているのは妖怪王の呪いですか？

（兵庫県・春乃）

❶その通りです。恐るへし妖怪王　…と言い切りたいような美しいツッコミですね。真相はもちろん担当・斉野もみじのミスです。罰ゲームとして恥ずかしい写真をさらしたいと思います（左の「ステキな一枚」参照）。

（大分県・ハッスル少年　❶モー（牛）ゴリラ・チョップ　解説するのも何ですが、モンゴリアン・チョップのダジャレですよ　くだらないですが、なんか愛せるくだらなささなので掲載します　サクラバネタに弱いわけじゃないよ

紙プロ77号 読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 ウォルク・ハン インタビュー
2位 ビクトル古賀 インタビュー
3位 小川直也 インタビュー
4位 ハッスル4 スペシャル
5位 吉田秀彦&桜ポルシェのPG談

1位は伝説の狼が久々登場、ウォルク・ハンインタビュー！　2位はサンボの神様、ビクトル古賀インタビュー　3位は新人歌手・小川直也さんインタビュー　4位は今後の展開にも要注目の　ハッスル4　特集　5位は吉田秀&桜ポルシェのPG談　僅差てミルコ・クロコップインタビュー、ミャンマー・ラウェイ特集、セルゲイ・ハリトーノフインタビューと続きました　なお、斉野もみじ補欠脱出査定インタビューは、藤井軍鶏侍選手の奮闘にもかかわらず、残念ながらランク入り出来ませんでした　斉野もみじ、見習い期間続行！　そして藤井選手お誕生日オメデト

今月のステキな1枚

格闘魂　田中さんからいただいた、7月3日DDT後楽園大会・佐々木健介&中嶋勝彦 vs 男色ディーノ&健心戦後の延長戦です。わかりにくいかもしれませんが、襲われているのは編集部見習い（期間延長決定）の斉野もみじです　試合後のコメント中、突如襲われたとのこと。「蛇ににらまれたカエル状態で、逃げられなかった」そうですが、ディーノ選手は「だんたん力か抜けてきたわよ。まんざらでもない顔してるじゃないの」と言っていたらしいです　いまさらですし「ステキな」一枚かどうかは微妙ですが、掲載したいと思います。あれ？　もしかしてこの写真がディーノ選手の「紙プロ」初登場？？

衣料部・Tシャツ自慢コーナー

（静岡県・目ガ覚メタロウ）「突然の、中川画伯の『ほんとにジョーク』最終回。画伯に製作していただいたTシャツを、最後まで御紹介させていただきます 第一弾は KYワカマツ＆目出し帽の男Tシャツ。心優しい画伯は、イラストまでプレゼントしてクダサイました。有難う御座いました」❶私も、前号を読んでびっくりしてしまいました。しかし、このTシャツ製作を頼むほうも頼むほうですが、作る画伯も画伯ですね。イラストマシーン中川画伯へのリクエストは読者ページまで送りましょう。

（東京都・ヤー）「残暑お見舞い申し上げます」❶ヤーさんどうもどうもこちらこそ。「2人のいつの日かの再戦はあるのかな」って、あったら、私はホイス戦の桜庭選手ハリに、意味もなく髪を赤とオレンジの2色にしますよ。オレンジ6に対して赤4の割合で。私が30歳になる前に実現したらですけど・・

（東京都・ヤー）❶こちらもヤーさんのイラストです。他2枚もステキたったんですが、総統と笹原GMに敬意を表してみました。似顔絵が届くようになったら立派な一人前のレスラーですね、GM。

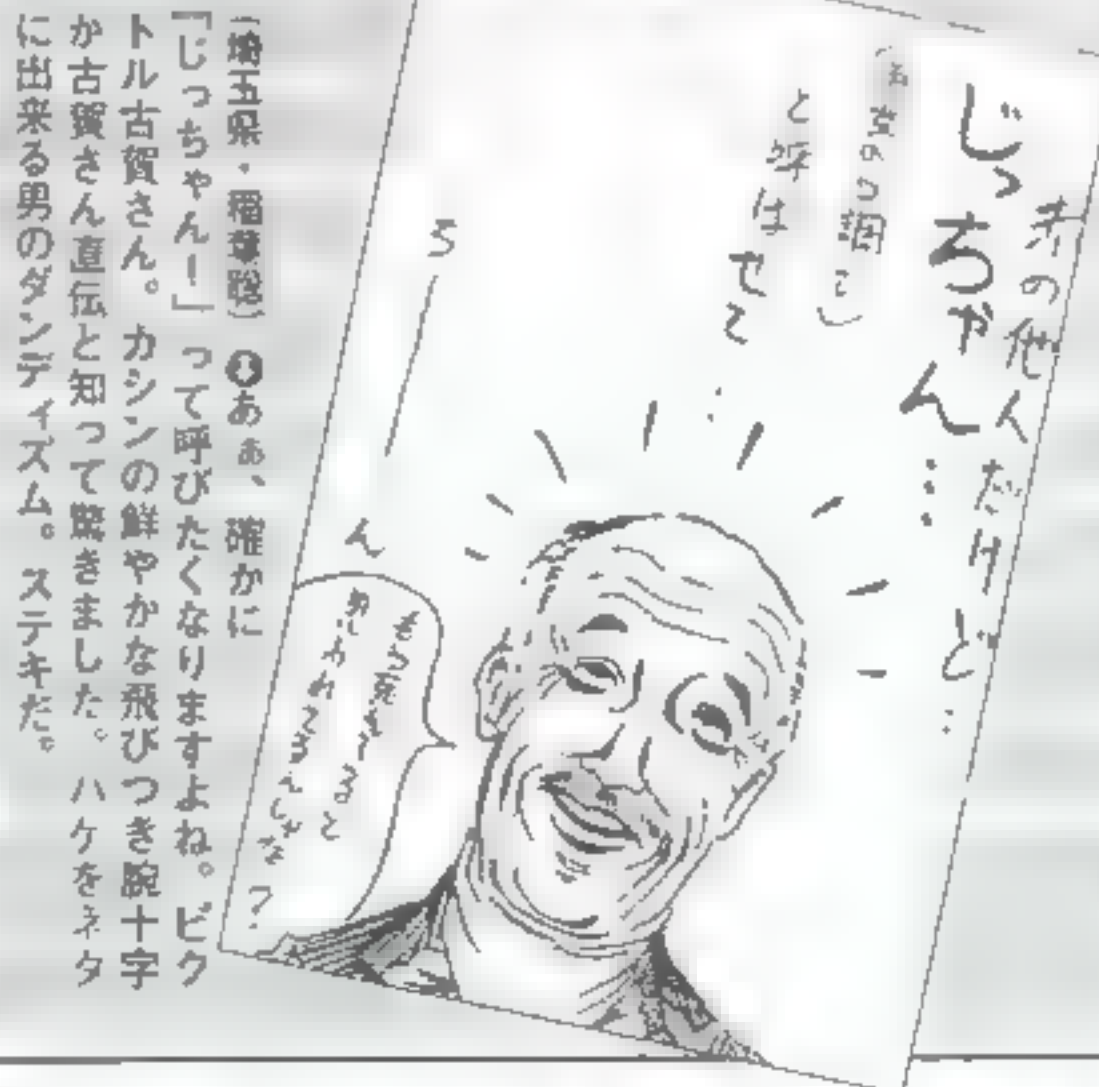
（東京・タッド望谷）「初投稿です。よろしくお願いします。ミルコ・クロコップです。早く「PRIDE」の勢力争いのメインに戻って欲しいです！」❶はじめまして。ハガキではなく、メールでいただいたイラストです。こちらこそこれからもよろしく。ミルコはもう堂々のメイン返り咲きでしょう。左ハイ、すごかったですね

（石川県・シーザー孝志）❶ずいぶん前に送ってもらったイラストですが、携帯サイト「紙プロHand」コラムスタート記念に掲載します。かわいいから載っけたかったんだよ。コラムでは五味選手がハッスル支持派という意外な（？）事実も判明。要チェック

（静岡県・目力覚メタロウ）
❶本家コーナーがなくなっても、こちらのコーナーはまだ続いたりする不思議、似顔絵が微妙に似ているのと、イフストの藤井軍鶏侍選手Tシャツが凝っているので、こっそり掲載します

（埼玉県・宮田浩司）❶生え際はともかく、下アゴの形とか、完全に何か間違っている気はしますが　長州力選手何がやりたいんだコッァ！

（大分県・ハッスル少年）❶こちらもハッスル少年くんの作品　辻ちゃん怒るかなぁ「弱気」76号のインタビューを読んで描いてくれたんだと思いますか、今月のインタビュー内容にも偶然沿った内容になってますね。あれ？　年のことばっかり聞いてるってこと？

（埼玉県・稲葉聡）❶あぁ、確かに「じっちゃん！」って呼びたくなりますよね。ピクトル古賀さん。カシンの鮮やかな飛びつき腕十字か古賀さん直伝と知って驚きました。ハケをネタに出来る男のダンディズム。ステキだ。

（石川県・シーザー孝志）❶9・19「S・CUP」トーナメント組み合わせ決定記念に、ちょっと大きく掲載します　ンザ会長　ジェンス・パルバーは出るわアルバート・クラウスは出るわ、豪華なカードですよねぇ。今回、情報載せられなくてスイマセン。次号＆「紙プロHand」を要チェック

おハガキ・お便り・メール大募集!!

なぜかゼブラーマン指導のもと、ダイエットに励んでいるさささぃです。頑張っております。今年中には白黒つけるぜ！　さて、『紙プロ元気大学』では皆様のお便りを常時募集しております。最近発売日が不定期になっている「紙プロ」。もう、読んだらすぐに貴方の激情を叩き付けるようにハガキもしくは手紙もしくはメールを送ったほうがいいでしょう。感じたら走り出せ！　『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「マグマベルト流出」係まで。
★☆★携帯サイト「紙プロHand　からの投稿も出来ます!★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないように！　プレゼントコーナーあてのハガキも、
内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと，旬のネタは掲載率が高いです

RADICAL CALENDAR

8 August

28 SAT.
全日本■北海道・札幌テイセンホール（19:00）
ZERO-ONE■新潟・上越市厚生南会館（18:00）
NOAH■東京・ディファ有明（18:00）
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30
IWA JAPAN■神奈川・横須賀ヴェルニー公園（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）
PWC■東京・北沢タウンホール（19:00）
TAMA■東京・西調布格闘技アリーナ（19:00）
ナイトメア■東京・バトルスフィア東京（18:30）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:15）
ウッチー興行■千葉・旭市FFエンターテインメントアリーナ（19:00）
GAEA■愛知・枇杷島スポーツセンター（18:00）

29 SUN.
全日本■北海道・北見市立体育センター（18:00）
ZERO-ONE■岐阜・セラトピア土岐（17:00）
NOAH■静岡・アクトシティ浜松（17:00）
DRAGON GATE■福井・サンピア敦賀（18:00）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30,
新宿プロ■東京・歌舞伎町クラブハイツ（19:00）
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール（17:00）
大日本■神奈川・六角橋大道芸見世物まつりC会場（19:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
WMF■埼玉・ベペホール アトラス（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
札幌プロ■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ（14:00）
U-FILE11■東京・西調布格闘技アリーナ（14:00）
GAEA■岡山・卸センターオレンジホール（15:00）
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
JWP■東京・神6仲良し広場（15:00）
AtoZ■東京・バトルスフィア東京（18:00）
Love Impact■東京・新木場1st RING（17:00）

30 MON.
全日本■北海道・釧路鳥取ドーム（18:30）
アパッチ興行■東京・後楽園ホール（19:00）

31 TUE.
NOAH■長野・長野運動公園総合体育館（18:30）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（18:30
ZERO-ONE■岩手・岩手県営体育館（19:00）
IWA JAPAN■東京・国立代々木第二体育館（18:30）

9 September

1 WED.
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30

2 THU.
ハッスルハウス■東京・後楽園ホール（19:00）
新日本■東京・北沢タウンホール（18:30）
NOAH■岡山・山陽ハイツ体育館（18:30）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30
DRAGON GATE■福岡・久留米リサーチパーク（19:00）

3 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
全日本■神奈川・横浜文化体育館（18:30）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30
NEO■東京・板橋産文ホール（19:00）

4 SAT.
新日本■静岡・グランシップ静岡（18:30）
NOAH■福岡・博多スターレーン（18:30）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30,
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）
NEO■東京・板橋産文ホール（18:30）
M's Style■東京・新木場1st RING（18:30）
CROSS SECTION■東京・TFMホール（18:30）

5 SUN.
NOAH■大分・別府ビーコンプラザ（17:00）
DRAGON GATE■東京・お台場冒険王DRAGON GATE ARENA（13:30&16:30
大日本■東京・北沢タウンホール（13:00&18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:00）
新日本キック■東京・ディファ有明（16:00）

6 MON.
NOAH■高知・高知県民体育館（18:30）

7 TUE.
全女■埼玉・熊谷市民体育館（18:30）

9 THU.
闘龍門■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■富山・高岡テクノドーム（18:30）

10 FRI.
新日本■埼玉・秩父市民体育館（18:30）
NOAH■東京・日本武道館（18:00）
みちプロ■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■福井・福井市体育館（18:30）

11 SAT.
新日本■栃木・宇都宮市体育館（18:30）
DRAGON GATE■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■東京・後楽園ホール（19:00）

12 SUN.
新日本■茨城・古河市立体育館（17:00）
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■三重・津市体育館（17:00）
大阪プロ■兵庫・高砂市運動公園総合体育館（13:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
インディペンデント・ドリーム■東京・バトルスフィア東京（15:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:15）
AtoZ■新潟・新潟パティオ（未定）
GAEA■神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館（17:00）
JWP■東京・後楽園ホール（12:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:00）
ZST■東京・Zepp Tokyo（16:40）
修斗■愛知・名古屋市公会堂（15:00）

15 WED.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO-ONE■群馬・館林市民体育館（19:00）

16 THU.
新日本■宮城・宮城県スポーツセンター（19:00）
ZERO-ONE■静岡・キラメッセ沼津（19:00）
DDT■東京・新木場1st RING（19:00）
AtoZ■千葉・市川市スポーツセンター（18:30）

17 FRI.
新日本■新潟・長岡市厚生会館（18:30）
全日本■埼玉・本川越ペペ アトラスホール（18:30）
ZERO-ONE■埼玉・児玉町民体育館（18:30）
DRAGON GATE■東京・国立代々木競技場第二体育館（18:30）
AtoZ■富山・高岡問屋センターエクール（18:30）

18 SAT.
新日本■新潟・新潟市体育館（18:00）
全日本■埼玉・桂スタジオ（18:30）
ZERO-ONE■静岡・川根町総合体育館（18:00）
DRAGON GATE■福島・ビッグパレットふくしま（18:30）
DDT■福島・福島国体記念体育館第二競技場（18:30）
国際プロ■神奈川・鶴見青果市場（14:00）
Oh!台場湾岸Battle!!■東京・ディファ有明（18:00）
NEO■岐阜・平成ふれあいドーム（18:30）
AtoZ■石川・七尾市総合体育館（18:30）

19 SUN.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（12:00）
DRAGON GATE■宮城・ニューワールド仙台テニスクラブ（16:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（未定）
大日本■愛知・JR稲沢駅前特設リング（13:30）
SPWF■千葉・SPWF道場（14:30）
全女■茨城・笠間市民体育館（18:30）
AtoZ■石川・金沢流通会館（18:30）
JWP■東京・JWP道場マッチ（13:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（14:00）
シュートボクシング■神奈川・横浜文化体育館（16:30）
DEMOLITION■東京・お台場SDM（17:00）

20 MON.
ハッスル5■神奈川・横浜アリーナ（16:00）
新日本■大阪・なみはやドーム（15:00）
全日本■岐阜・岐阜産業会館（18:00）
DRAGON GATE■新潟・新潟フェイズ（18:00）
大日本■三重・四日市オーストラリア記念館（17:00）
DDT■奈良・松村電気店私有地特設会場（15:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（12:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（17:00）
AtoZ■長野・上田市創造館（18:00）

21 TUE.
全日本■大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）
LLPW■東京・バトル スフィア東京（19:00）

22 WED.
新日本■和歌山・県立橋本体育館サブアリーナ（18:30）
全日本■大阪・大阪府立体育館第二競技場（18:30）
大日本■埼玉・本庄市民体育館（18:30）
DDT■東京・北沢タウンホール（18:30）
AtoZ■東京・後楽園ホール（18:30）

23 THU.
新日本■三重・松阪市総合体育館（16:00）
全日本■熊本・興南会館（18:30）
NOAH■東京・ディファ有明（16:00&18:30）
DRAGON GATE■茨城・水戸市民体育館（18:00）
K-DOJO■大阪・いきいきランド交野（13:00）
大日本■東京・お台場青海地区K区画特設リング（15:00）
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（13:00&17:00）
AtoZ■愛知・名古屋市中スポーツセンター（13:00）

24 FRI.
全日本■熊本・興南会館（15:00）
DRAGON GATE■群馬・群馬県総合スポーツセンター ぐんまアリーナ 18:30
パンクラス■東京・後楽園ホール（18:30）

25 SAT.
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
DRAGON GATE■埼玉・本川越ペペホール・アトラス（18:00）
大日本■東京・お台場青海地区K区特設リング（17:00）
全女■神奈川・横須賀ヴェルニー公園特設リング（18:00）
GAEA■大阪・大阪ドームスカイホール（18:00）
K-1 WORLD GP 開幕戦■東京・日本武道館（17:00）

26 SUN.
みちプロ■岩手・安比高原スキー場ザイラーゲレンデ特設リング（14:00）
DRAGON GATE■埼玉・越谷桂スタジオ（16:00）
大日本■東京・後楽園ホール（12:00）
WWS■埼玉・本庄市民体育館（13:00）
K-DOJO■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
GAEA■静岡・浜松市体育館（14:30）
JWP■東京・新木場 1st RING（18:30）
格闘美■東京・新木場1st RING（12:30）
AtoZ■東京・江戸川道場マッチ（未定）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）

あれがノーコンテストだって？今までやってきたことは何だったんだ！

シヨック!
怒りのノゲイラが
ブラジリアン・
ボヤキングに豹変!!

アクシデントによるヒョードルの負傷によって、まさかのノーコンテストとなった『PRIDE・GP』決勝戦。ルール上仕方がないとはいえ、納得がいかないのが対戦相手のノゲイラだ。この日のために極限までトレーニングを積み、試合も作戦通りに行っていた矢先のストップだけに怒りが爆発！"最強"に最も近づいた男の言葉に耳を傾けろ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by hiea(Two Three)

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

――まさかのノーコンテストで終わった8月15日以来、眠れぬ夜が続いていると思われるノゲイラ選手ですけど、今日は、この取材の直前（午後3時）まで寝てたらしいですね（笑）。

ノゲイラ　でも、ちゃんと朝は起きたんだよ。それでメールのチェックをしたりして、もう一度横になったらこの時間だったんだ（笑）。

――おはようございます（笑）。では、試合から4日経って、だいぶ気持ちの整理はつきましたか？

ノゲイラ　いや、いまでも全然納得してないよ。GPのためにボクがどれほど練習して、どんな気持ちで臨んでいたか、それは簡単に理解できるものではないと思う。だから試合直後はホントに悲しくて、悔しくて、腹立たしかったから、精神的に大変だったよ。

――このGP決勝のために、長い時間をかけて、厳しいトレーニングをつんできたわけですよね？

ノゲイラ　もう半年以上だね。7～8ヶ月このために集中して、あらゆることを犠牲にして、GPで優勝することだけを考えて、自分の体をいじめ抜いてきたんだ。

――それだけの準備をして決勝に挑んだわけですから、簡単に「アクシデントなので、再戦しましょう」と言われても納得いかないですよね。

ノゲイラ　自分としては最後までちゃんと決着をつけたかったし、もし試合を途中でストップするなら、あれは「ドクターストップ」になるべきものだったと思う。もしくは彼の「反則負け」だね。

――「反則負け」ですか！

ノゲイラ　だって、彼のあのバッティングは意図的なものだったと思うからね。これはビデオで見直してもらえばわかるけど、ボクの有利な体勢を防ぐために頭からぶつかってきたんだ。

――あれは飛び込んでパスガードに行ったようにも見えましたけど、頭から当たりに行ってたわけですか？

ノゲイラ　ちょうどボクがバックに回る体勢に入るときに、バックを取られないように、彼の方から頭から突っ込んできたんだから、あれは〝事故〟ではなく、彼が故意に引き起こしたものだよ。

――故意だったかどうかの判断は難しいと思いますけど、もともとヒョードルの攻撃というのは、頭から突っ込んでいくスタイルなんで、そういったアクシデントが非常に起こりやすいことは確かですよね？

あのバッティングは事故ではなく 彼が意図的に引き起こしたものだよ

ノゲイラ　それが彼のスタイルなんだけど、頭から行くというのはそもそも反則なわけだからね。これまではその〝頭突き〟で勝負が決まることはなかったから、〝反則ギリギリ〟だったけど、当たってしまったらそれは〝反則〟だよ。あのときは彼ではなく、ボクが攻めているタイミングで頭を出してきたんだからね。

――主催者側はあくまでノーコンテスト。改めて後日再試合を主張していますが、ノゲイラ選手自身はどう考えていますか？

ノゲイラ　もちろん再戦に異存はないよ。次はキッチリ極めてやろうと思ってるし、すでにマネージャーと主催者が再戦に向けての話し合いをスタートさせているからね。ただ、ボクは今回の試合について、ボクの勝利を主張しているだけだよ。

――でも、再戦をするにしても、もう一度、あのときと同じように体と気持ちを高めるのは大変じゃないですか？

ノゲイラ　もちろん大変だよ。やっぱり試合当日までに自分の体調を100％までに持っていくということは、口で言うのは簡単だけど、実際はとても難しいことなんだ。どんな一流選手でも時間がかかることなんじゃないかな。それが台無しにされたのが悔しいよ。

――ノゲイラ選手が相当な準備をしてきたのは、あの短い試合の中でもわかりましたよ。

ノゲイラ　彼は凄く攻撃的なスタイルだけど、今回はほとんど防御することができたからね。パンチも一発だけいいのが当たったけど、ダメージはないよ。

〝人類最強決定戦〟はヒョードル流血でまさかのノーコンテストに！

8.15 PRIDE・GP FINAL
ヒョードル［1R3分52秒 ノーコンテスト］**ノゲイラ**

ロープを飛び越えてリングインしてきたノゲイラ。この日のために、8ヶ月間、トレーニングに明け暮れただけあって、体中からエネルギーが溢れていた

前回はクロースガードの上からヒョードルのパウンドの餌食になったノゲイラだが、今回は潜り系の技を次々しかけ、ヒョードルに殴る機会を与えない

大波乱PRIDE・GP
誰が一番強いかハッキリさせろ!

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

これが問題のバッティングの瞬間。確かにノゲイラは腕を取り、技を仕掛けようとし、ヒョードルがぶつかりに行っているように見えるが……

——今回はかなりヒョードルのことを研究してきていたんじゃないですか?

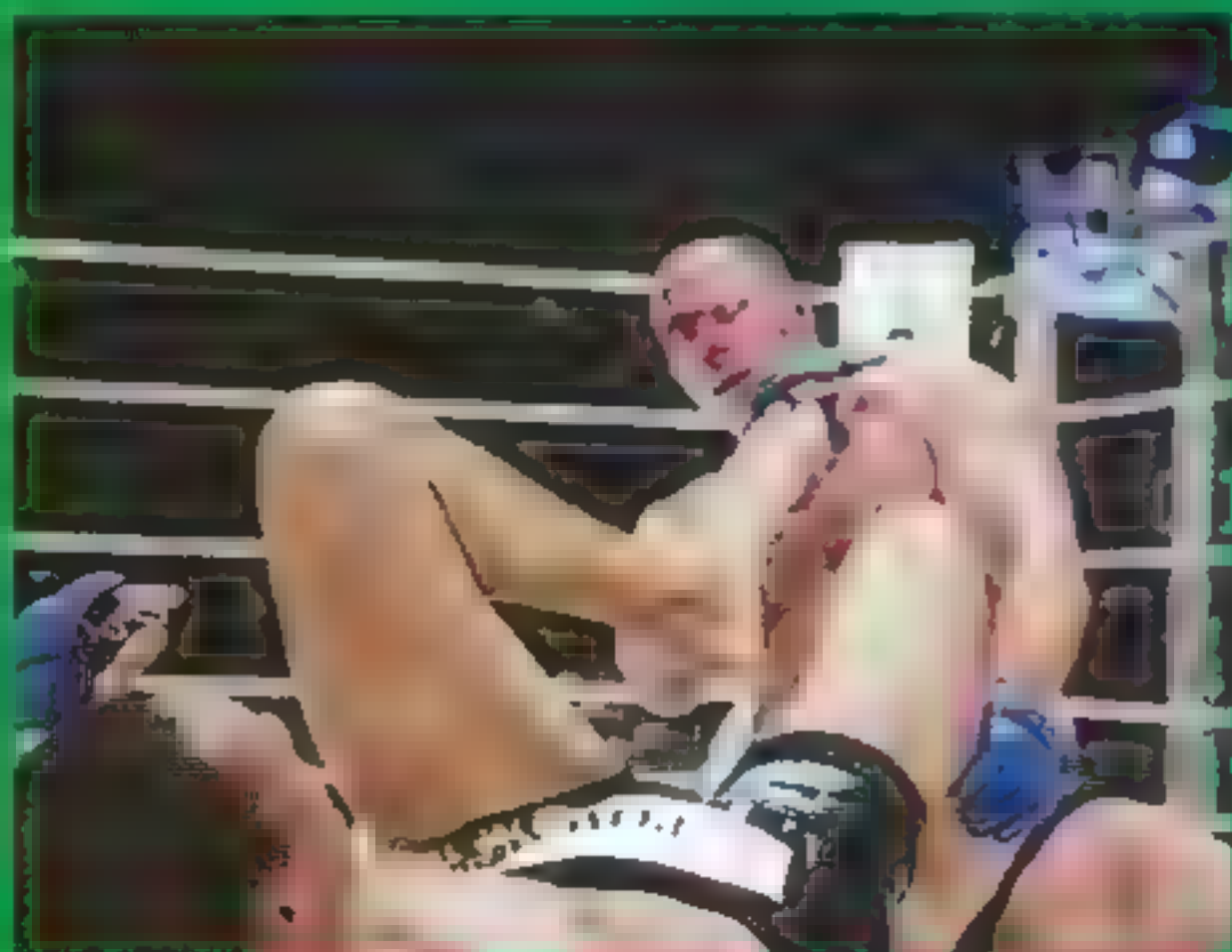
ノゲイラ　そうだね。ヒョードルのことは前から少しずつ研究してきたんだけど、彼は非常にアグレッシブなファイターだけど、最初から全力を出していくので、実は疲れやすいんだ。それでも、彼の爆発力は凄いから、みんな1Rで勝負がついていたけど、もしそれを凌がれたら彼は案外モロい部分があると思う。これはミルコにも同じことが言えて、彼らは3R闘うことができないんだ。だから今回のヒョードル戦も1Rを越えたらボクのものだと思ってたし、そういう作戦をとっていたんだよ。

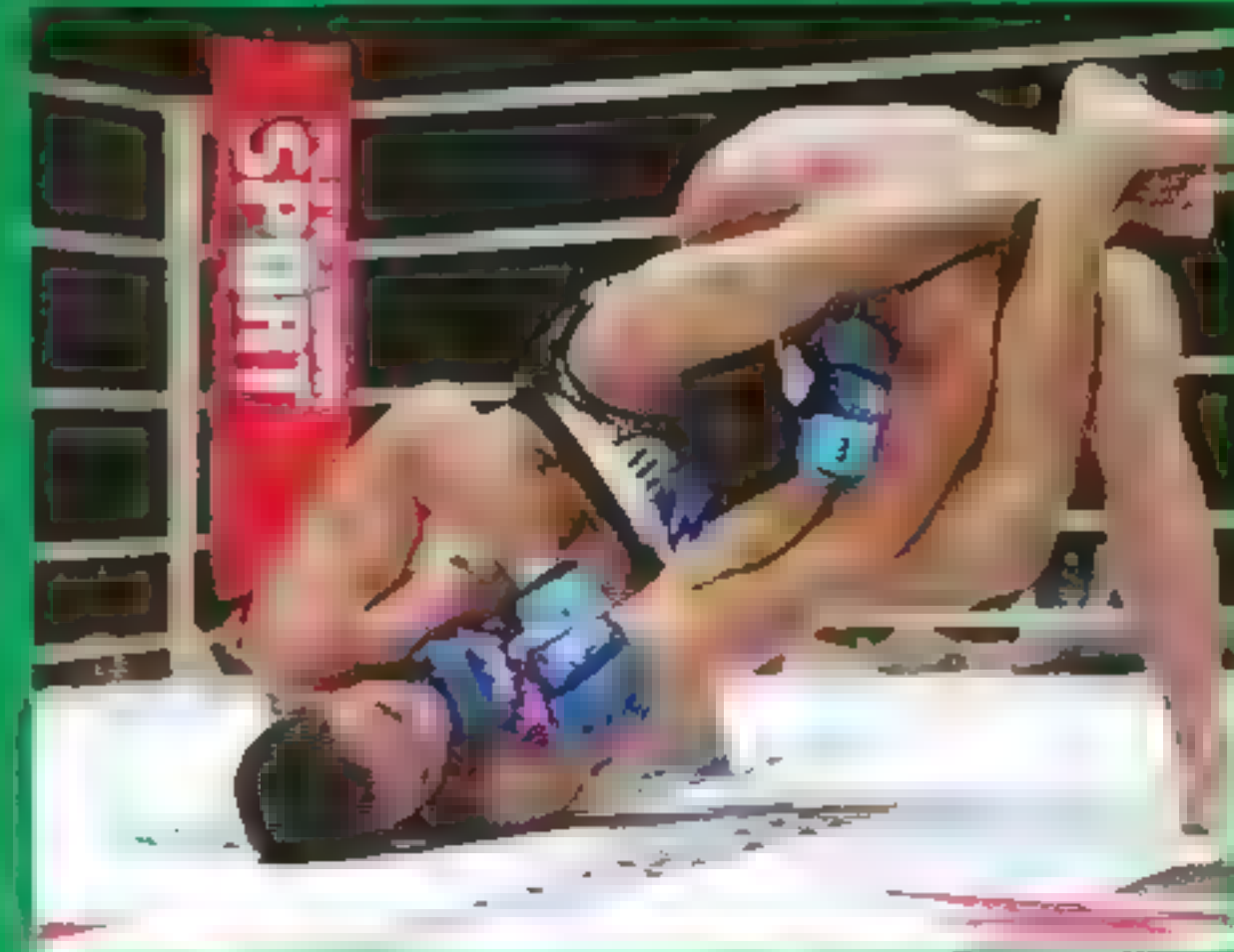
——でも、前回のヒョードル戦は3Rフルに闘って判定負けでしたよね?

ノゲイラ　あのときは、ボクの体調が最悪だったこともあって、同じように1Rでスタミナが切れてしまったんだよ。でも、ヒョードルも、1Rの攻めは厳しかったけど、2R以降はボクの関節技を凌ぐ以外は、上になっているだけだった。彼の攻撃力が2R以降までもたないことは確かだよ。

——では、今回の対戦では、その危険な1Rのパウンドも凌いでましたから、あのバッティングがあるまでは、ほぼ作戦どおりだったわけですか?

ノゲイラ　もう完全にボクの意志通りだったね。もちろん強烈なパンチは健在だったけど、微妙にズラして威力を殺していたし、寝技になったときの距離感覚はすごく練習してきたからね。彼のバランスを崩して、攻撃を防ぎ、下からの関節技を狙いつつ、最終的にはスイープして上になって極めるつもりだったよ。そしてちょうど上に行く動作に入ったところで彼が頭をぶつけてきたんだ。

戦略が完璧だったところでやられた

そして、スイープで上になろうとした瞬間、頭と頭がぶつかり、ヒョードルは額から流血。試合はまさかのノーコンテストに

落ち着いてパンチが当たらない距離をとり続けたノゲイラ。足の裏をヒョードルの足の付け根におき、コントロールしようとする

ヒョードルのパウンドをかわしながら、隙あらば関節を取りに行くノゲイラ。だが、ヒョードルも抜群の対応力でこれを未然に防ぐ

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

ストップがかかった瞬間、自分のドクターストップ勝ちを確信したノゲイラは、まさかのノーコンテスト裁定に激高、ノーコメントで会場を後にした

ら、それは文字通り、頭に来ますよね。

ノゲイラ　ホントに腹が立つよ。

　こうなったら、再戦では最初から「頭突きあり」のルールでやりましょうか（笑）。

ノゲイラ　ボクは全然OKだよ。お互いに公平なルールだったら、なんだっていい。そもそも今回のヒョードル戦は、準決勝の組み合わせの時点で、かなりボクにハンデがあったんだから。

――自分はキツいハリトーノフが相手なのに、ヒョードルは楽な小川でズルいってことですか？（笑）。

ノゲイラ　いや、準決勝まで残った4人はみんな一本勝ちかKOで勝ち上がってきた選手ばかりだから、楽な相手なんて一人もいないよ。でも、やっぱりオガワとヒョードルの差は大きすぎた。ヒョードルの方が完全に準備ができていたし、立ち技でも寝技でも上だったからね。でも、ボクとハリトーノフの一戦はレベルに差がなかった。彼はまだ若いけど凄くいい選手だ。力も強いし、なによりボクシングがうまい。それでも苦戦しながらも彼に勝ってボクは決勝に上がってきたけど、ヒョードルはほとんど時間を掛けずに決勝に来たから凄く有利だった。決勝戦は同じ条件じゃなかったんだよ。そういったハンデがあっても、優位に試合を進められたんだから、今回はボクの方が上だったという証明だと思う。

――ヒョードルvs小川戦はああいう展開になることは予想してましたか？

ノゲイラ　あそこまで早く終わるとは思わなかったけど、最初からオガワは苦戦するだろうなと思っていたよ。ヒョードルの方がオガワよりずっと経験があるし、オガワにとっては初めてバーリ・トゥードのトップファイターと闘うわけだからね。でも、ネガティブに捉えてもしょうがないから、

誰が来ようと優勝することしか考えてなかった。ボクの格闘技人生はこういった試練の連続だったからね。『PRIDE』ではトップの選手とばかりずっと闘ってきたし、しかも毎回、その選手の全盛期に闘いボクは勝ってきたんだ。

――ホントそうですよね。ボブ・サップ、ヒース・ヒーリング、マーク・コールマンもあのころは負けなしだったし。

ノゲイラ　あとミルコ・クロコップだってそうさ。これだけ激しい試合を続けてきたわけだから、『PRIDE』には引退後のケアもお願いしたいよ（笑）。

――ダハハハ！　でも、ホントに殿堂入りしてもいいくらいの貢献度ですよね。で、少し話を戻しますけど、ハリトーノフ選手は闘ってみてどうでしたか？　「全試合一本勝ちで優勝」を公言してたノゲイラ選手が、判定までもつれこんだわけですけど。

ノゲイラ　確かにボクの場合は、一本で極めないと、たとえ勝ってもどこか後悔が残るんだ。でも、今回はトーナメントだから必ず勝たなければならないし、反対ブロックのヒョードルはほとんどダメージを受けずに上がってくると予想していたから、ハリトーノフとの試合では全力ではなく、少し押さえて闘っていたことは事実だよ。

――全力を出さなくても勝ててしまったわけですか？

ノゲイラ　いや、それとはちょっと意味合いが違うんだけど、たとえば、最初から全力で勝負をかけていたら、もっと早く勝てたかもしれない。でも、逆に負ける危険性も高くなるし、勝ててもその分、ダメージを負っていたかもしれない。ましてや彼はとても危険な選手だから、そういったリスクを最小限にとどめるために、あえてチャンスを待つ闘い方にしたんだ。

――確実に勝つために、今回ばかりは"安全運転"をしたと。

ノゲイラ　でも、本当にハリトーノフは強かったよ。おそらく『PRIDE』のヘビー級ファイターの中で、最もボクシングがうまい選手だと思う。バーリ・トゥードで

GP決勝戦はドクターストップかヒョードルの反則負けにするべきだ！

あんなに強烈なボディパンチを打てる選手は、世界中探しても彼だけだろうね。

――あのレバーブローは強烈でしたよね。

ノゲイラ　ああいったパンチは一発でKOされることはないけど、じわじわと効いてくるんだ。厄介だよ。ボクは今年の頭から、ボクシングの五輪代表チームと一緒に練習をしてきたんだけど、ハリトーノフとの試合は、五輪代表のボクサーと闘っているのと同じような感覚だったね。彼は距離感覚を掴むのが上手いし、後ろ足の方に重心をおいて、つねにカウンターを狙ってくる。そして、ボクが攻撃してきたときに、左に回りながらパンチを打ってくるんだ。かなりボクシングの練習を積んできたんだろうね。

――ハリトーノフ自身は、「ボクシングの特別な練習はしたことがない」なんて言ってるんですけどね。

ノゲイラ　そんなことはありえないよ（笑）。パンチだけでなく、彼のフットワークも非常に考えられたものだったからね。ボクはスタンドでプレッシャーをかけて、何度かロープ際に追いつめたつもりだったんだけど、彼は逃げ場がなくなるギリギリで素早く体勢を入れ替えて、逆にボクをロープ際に追いつめるんだ。あれはボクシングの高度な技術だよ。ボクはキューバで五輪代表チームと一緒にボクシングの練習をつんできたから、ボクシングの間合いで動き続けることができたけど、以前のボクだったら、セルゲイの罠にハマりKOされていたかもしれない。それぐらい彼のボクシングテクニックはよかった。彼は絶対にロシアで高度なボクシングのトレーニングをつんでいるハズだよ。間違いない！

――あのスタンドの攻防は、そんな高度な駆け引きがあったわけですか。ボクは素人目から見て、ノゲイラ選手のジャブも非常に有効に見えました。

ノゲイラ　ありがとう。ジャブは隙を見せずにダメージを蓄積させることができるし、自分のペースを保つには重要だからね。ボクシングトレーナーから、毎日必ず30分はジャブだけのトレーニングを積むように言われていたから、その成果がでたよ。

――そのコーチというのが、例のオリンピック代表チームのコーチですか？

ノゲイラ　そう。ルイス・ドリア氏と言って、五輪代表チームのコーチであり、かつてはワールドJr.チャンピオンにもなったボクサーなんだけど、出身地がボクと同じバイーア州なので、ボクにとっては小さいころからの憧れの人でもあったんだよ

――その憧れの人からコーチを受けるようになったきっかけはなんだったんですか？

ノゲイラ　ボクは14歳のころバイーア州から引っ越したんだけど、そこがたまたまドリアさんのジムの近くだったんだ。だから、ボクはそこで5年間ぐらいボクシングの練

VTであんなに強烈なボディブローが打てるのは、世界中さがしても彼だけだよ

緊張感ある打撃戦となったノゲイラvsハリトーノフ。ノゲイラは「あの試合は本当に楽しかった」とハリを高く評価。ぜひ、3R制ワンマッチでもう一度見たいカードだ。

習をしたんだ。その後、ボクが再び引っ越してから連絡は途絶えていたんだけど、たまたま去年、ドリアさんがボクとミルコの試合をテレビで見ていて、何年かぶりに電話がかかってきて、「おめでとう」と言ってくれたんだよ。それで彼は五輪代表チームのコーチになっていて、「ブラジルから3人ヘビー級はエントリーされるので、そのうちのひとりにならないか?」って誘われたんだ。

――五輪代表候補にスカウトですか。

ノゲイラ　結局、ボクは3番手で、代表の1位が地区予選3回戦で負けて、もう1人も準決勝でメキシコ人に負けてしまったので、オリンピック本戦には出られなかったんだけど、ボクにとって代表チームで練習できたことは凄くいい経験になったよ。

――代表チームとの練習で一番ためになったことと言ったら何ですか?

ノゲイラ　たくさんあるけど、一番の収穫はフットワークだね。ボクシングを知らない選手は相手を追いつめるときも、逃げるときも真っ直ぐ歩いてしまうけど、本当は横の動きが一番重要なんだ。追いつめるときも、左右にジグザグに動いて追いつめていく。こういった技術が身について、ボクはよりリングで自在に動けるようになったと思う。これから『PRIDE』で勝とうと思ったら、このフットワークを身につけることが必須じゃないかな。

――そう言えば、ミルコが強いのもフットワークがいいからだって言いますよね。

ノゲイラ　彼はフットワークがわかってるので、動きが早く見えるし、相手の動きを予測して動くから打撃も当たるんだ。

そのミルコは「ヒョードルvsノゲイラの勝者と闘いたい」と試合前、ずっと言ってたんですけど、結局勝者が生まれなくて困ってるでしょうね（笑）

ノゲイラ　まぁ、ミルコに関しては「慌てずに待ってなさい」と言いたいね。ヒョードルを倒したあとだったら闘ってあげるよ（笑）。

――ヒョードルとの決着戦はいつごろと考えていますか?

ノゲイラ　まだハッキリとは言えないんだ。実は半年以上前から左ヒジを怪我しているから、まずそれを治してから準備をして、なるべく早く闘いたいよ。

――左腕はどんな状態なんですか?

ノゲイラ　腕が真っ直ぐに伸びないんだ。（と言って、伸びない腕を出す）

――うわ～、ホントに変な風に曲がったままなんですね。よく、こんな腕で闘い続けてましたね。

ノゲイラ　本当はすぐに手術したかったんだけど、GPがあるから8ヶ月間このままだった。この状態で練習するのは大変だったよ。だからヒョードルとの再戦もあるけ

ど、その前に9月に手術をしようと思ってる。どうせやるなら、どちらも言い訳がきかないよう、100%同士で闘いたいからね。でも、今回の決勝戦に関しては、試合前、ヒョードルは万全だったけど、ボクはケガをしていたから、こういった面でも最初から不利だったんだよ。準決勝はハードな相手だし、このヒジだし。日本に来る前には風邪をひいて2週間ぐらい寝込んでいたしね。そういったすべてのマイナス要素を乗り越えて決勝戦に挑んだのに、ヒョードルを攻略する寸前でノーコンテストなんだから、ボクが「いままでやってきたことは何だったんだ！」ってなるのもわかるだろう？（笑）。

──自暴自棄になって酒浸りになってもおかしくないですね（笑）。

ノゲイラ この部屋にあるシャンペンは、試合後に開けようと思ってたんだけど、頭に来たから、そこら中にブチまけようかと思ったよ（笑）。

──ガハハハ！ いやぁ、でも決着戦が早く実現するよう期待してますよ。本当に多くのファンが楽しみにしてますからね。

ノゲイラ ヒョードルと1年半前にやったときは、自分にとってあまりいい試合じゃなかったし、プロとして恥ずかしいけれど、最悪のコンディションで挑んでしまったからね。でも、今回は結果こそ自分にとってよくなかったけど、絶対に勝てた試合だと思ってる。ファンのためにそれだけ厳しいトレーニングもつんでいるし、ヒョードル、ハリトーノフという最強のロシア人2人と闘えたんで、それは自分にとって自信にもなってるから、決着戦が組まれたら、必ず一本勝ちを奪うよ！

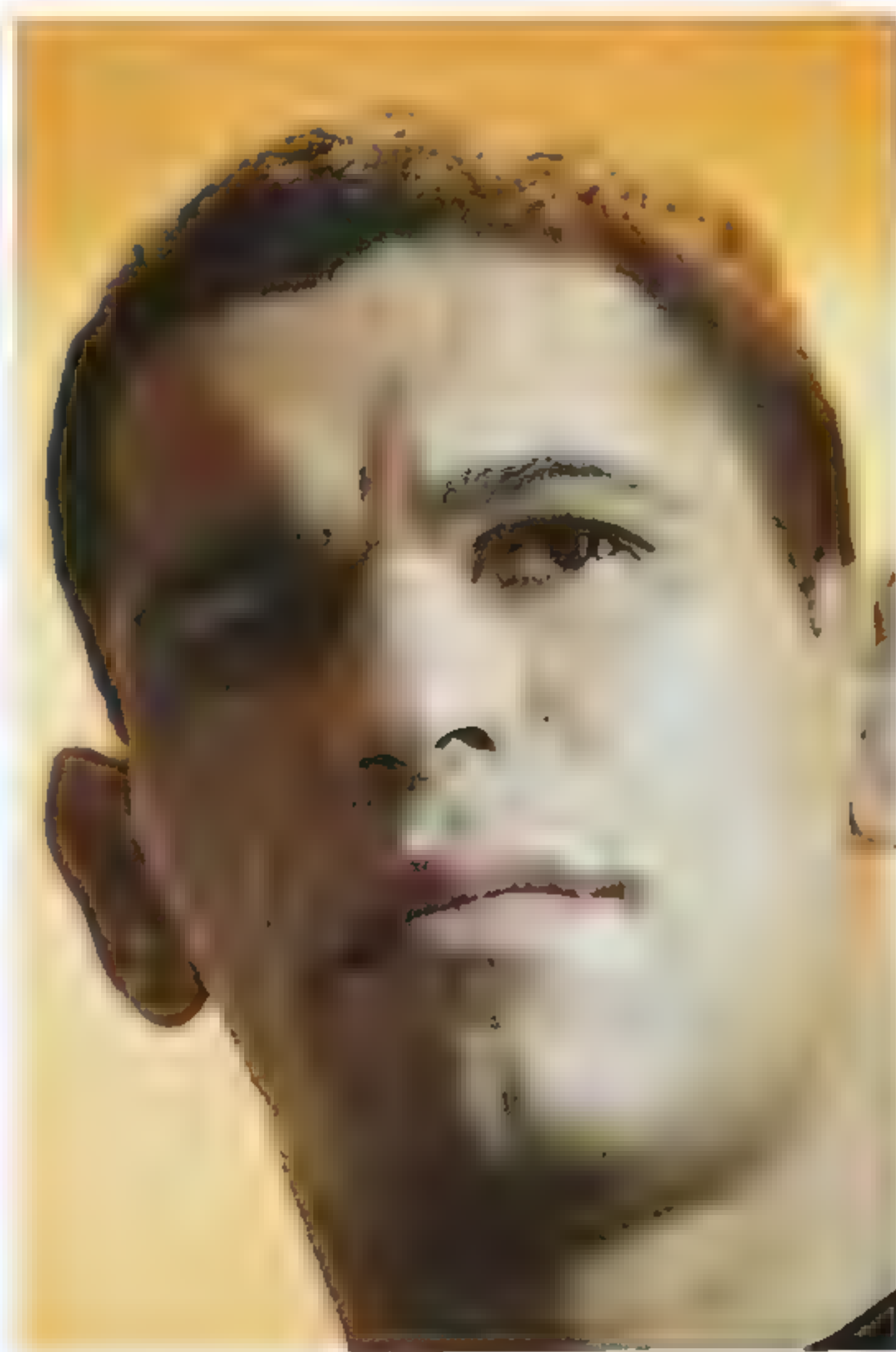
──それにしても、リングス時代からずっとロシアとの因縁は深いですよね。

ノゲイラ ロシア勢はボクにとって最大のライバルだね。彼らはホントに強敵だよ。力が強くて、技術があって、しかもとんでもなく体臭がキツいからね（笑）。

──ガハハハハ！ その3つがロシア人の強さの秘密（笑）。

ノゲイラ おそらく彼らはホルモンが強すぎるんだと思う。これはファイターの中では有名な話だよ（笑）。

──それだからなのか、どんな大物選手でも次々と一本極めているノゲイラ選手ですけど、ロシアのトップ選手からまだタップを奪ったことがないんですよね（笑）。

ノゲイラ RTTの選手はリングスのころ2人極めたことがあるよ（ラバザノフ・アフメッドとコーチキン・ユーリー）。でも、確かにヴォルク・ハンやコピィロフは極められなかった。やっぱりロシア人はブラジル人の次に寝技が上手いし、戦術にも長けている。研究してるんだろうね。

ANTONIO RODRIGO
NOGUEIRA

──ヒョードルを除いて、ロシア勢で一番手強かったのは誰ですか？

ノゲイラ やっぱりコピィロフかな。彼は技術、パワー、そして臭い、すべてを兼ねそろえていたからね（笑）。

──ガハハハ！ コピィロフこそ、ミスター・ロシア（笑）。

ノゲイラ でも、彼らとはライバルでもあるんだけど、リングを降りると凄くフレンドリーに接してくれるから、尊敬してるよ。この間も、RTTのボスと背の高いコーチがボクの所に来て、「今度、ロシアに大きなトレーニング施設ができるから、ゼヒ、コーチとして来てほしい」って言うんだよ。一番のライバルなのにね（笑）。

──脳天気でいいなぁ（笑）。それでノゲイラさんはなんて答えたんですか？

ノゲイラ 日本人みたいに「たぶんね。いけたら行くよ」って曖昧に答えておいたよ。こういう返答を日本で学んだから（笑）。

──そんな処世術を学びましたか（笑）。

ノゲイラ それからRTTのボスとコーチは、決勝戦の試合直前にもボクの控え室に訪ねてきたんだ。なにかと思ったら、「ヒョードルの弱点はスタミナがないことだ。足を使って疲れさせれば、君は必ず勝てる！」って、わざわざボクにアドバイスしにきたんだよ（笑）。

──ガハハハ！ 俺たちの代わりにヒョードルに制裁を加えてくれと（笑）。

ノゲイラ わざわざ言われなくても、彼の弱点はわかってたけどね（笑）。

──これを機に、打倒ヒョードルのために、ロシアとブラジルのトップチーム同士が共闘するっていうのも面白いですけどね。誘いに乗って、臨時コーチで一度ロシアに行ってみたらどうですか？

ノゲイラ でも、一応マリオに相談したら、「お前、ロシアに行ったら毒盛られるぞ。いままでずいぶんロシア人を倒してきたんだから、これは罠に違いない」って言われたよ（笑）。だから交流はもう少し、お互いの絆が強くなってからかな。

──でも、RTTの人たちはノゲイラ選手を絶賛していましたよ。去年、ヒョードルと闘ったときより、ずっと強くなっているって。

ノゲイラ 彼らロシア人がボクの首ばかりを狙うから、練習しないわけにはいかないんだよ（笑）。まぁ、お互いそうやって切磋琢磨して強くなっていけばいいんじゃないかな。

──わかりました。では、今回のGP決勝は残念でしたけど、決着戦ではさらに強くなったノゲイラ選手を期待してます！

【04年8月19日／都内・某ホテルにて収録】

間違いなく言えることは近い将来、必ずボクがPRIDE王者になるということだ

ノゲイラに初の敗北を喫するも底知れぬ幻想さらに増大!!

SERGEY KHARITONOV

セルゲイ・ハリトーノフ

すべては8月15日に明らかになる。GP決勝まで"秘密主義"を貫き、
ダークホースとして不気味な存在感を漂わせていたハリトーノフ。
しかし、結果は経験に勝るノゲイラの老獪な戦術に力を出し切れず
判定負けを喫してしまった。だが、すべての力が出せなかった分、
真の姿がまたしても明らかにならなかったことも事実。
その幻想はますます高まるばかりだ!

／堀江ガンツ　／吉場正和　／乾晋也

SERGEY KHARITONOV

今回の屈辱を糧に次は2倍訓練を積んでくる その内容は……シークレットだ!

勝大会は独特の雰囲気があったと思いますけど、どう感じましたか？

ハリトーノフ　やはりああいった声援を受けると、いつも以上に責任感というものが自分を支配したよ。もしかしたら、そういったことが試合になんらかの影響を与えたかもしれないが、次回はそういったものすべてを味方につけるくらい精神的にも成長してリングに戻ってきたい。

――今後も軍の仕事と格闘家を両立していくつもりですか？

ハリトーノフ　もちろんそのつもりだよ。やはり今回、GPというハイレベルな闘いに身を置いて、『PRIDE』で勝ちたいという気持ちがさらに強くなったんだ。だから、これからも判定ではない、きちんとした勝利を見せていきたいと思っている。

――やはり勝負は判定ではなく、[illegible]いう気持ちが強いわけですか？

ハリトーノフ　もっとも大事なことは勝つということ、それは間違いない。ただ、判定では、勝っても負けても自分の中で決着がつかないこともまた確かなんだ。

――ところで、ズーエフさんはコーチの立場から見て、昨日の試合はいかかでしたか？

ズーエフ　非常に緊迫感のあるハイレベルな闘いだったが、セルゲイはもう少し積極的なトライがあってもよかったと思う。もちろん私たちはノゲイラの強い部分も知っていたし、不用意に攻めれば立ち技でも寝技でもカウンターを狙ってくることは予測していたので、闘い方自体は間違ってはいないと思うが、あの闘い方でノゲイラを仕留めるのには、2Rという時間はあまりに短すぎたと思うよ。

――今回はズーエフさんが作戦を授けたらしいですけど、具体的にはどういった作戦だったんですか？

ズーエフ　この場で具体的な作戦を明かすことはできないが、ノゲイラの攻撃をどうかわし打開していくかという作戦を授けたつもりだ。そして昨日のセルゲイは、ノゲイラの攻撃をかわすことは成功したが、打開するまでに至らなかったのが残念だ。しかし、その糸口は十分見えたと思う。

――まだデビューして1年も経っていないセルゲイ選手がいま絶頂期のノゲイラと渡り合うというのは凄いことだと思うんですけど、ズーエフさんから見てもセルゲイは素質がズバ抜けていると思いますか？

ズーエフ　もちろんセルゲイの素質というものもあるが、我々RTT自体が以前より成長し、選手により正しい方向で準備をさせられるようになったということもあると思う。セルゲイ自身は経験は多いとは言えないが、チームとしては『PRIDE』でも多くの経験を積んできているので、そういった積み重ねた技術や知識をこれからもしっかりとセルゲイに伝えていきたいと思っているよ。

大波乱PRIDE GP
誰が一番強いか
ハッキリさせろ!

――今回敗れたノゲイラは、リングス時代からRTTとは数々の闘いを繰り広げてきた相手ですけど、やはり特別な感情はありますか？

パコージン　もちろんノゲイラという選手は我々にとって最大のライバルであり、『PRIDE』でも最高の選手であると評価しているよ。これまでコピィロフ、ハン、ヒョードル、そして今回のセルゲイと我々RTTのファイターが4度ノゲイラ選手と対戦し（実際はこの他にラバザノフ・アフメッドとコーチキン・ユーリーも闘っている）、結果はヒョードル以外は我々が敗れたわけだが、すべて判定決着だった。だから結果はノゲイラの勝ちとは言え、明かな差はなかったと思うし、私たちはまだ彼と一度も決着がついていないと考えている。私としては、セルゲイにもう一度ノゲイラと闘ってもらい、ゼヒ真の決着をつけてほしいと願っているよ。

――ちなみにヒョードルvsノゲイラの決勝戦というのは、みなさんどのような感想を持ちましたか？

ハリトーノフ　内容的には二人とも持ち味を十分に発揮した実に興味深い闘いが行われていたと思う。ただ、最後の結末については、自分はレフェリーではないので、判定はしたくないね。

パコージン　確かに互角の闘いだった。ただ、あの試合を見て一番強く感じたことは「ノゲイラは成長したな」ということだ。昨年、ヒョードルに敗れたときとはまったく違っていた。やはりそのレベルでとどまるような選手じゃなかった。彼がどのくらい鍛錬を積んできたかを考えると、やはり改めて尊敬に値する選手だと思ったね。

――そのノゲイラとデビュー10ヶ月で互角に闘ってしまうハリトーノフ選手は改めて凄いですよね。

ハリトーノフ　ありがとう。ただ、自分としてはそのレベルで満足するつもりはないよ。

――ハリトーノフ選手は早くも頂上が見えるところまで来たわけですけど、いつごろまでベルトを取ろうとか考えてますか？

ハリトーノフ　いつとは言えないが、チャンピオンの座は必ず取るよ。それだけは間違いなく言える（キッパリ）。

――そのために今後、より厳しいトレーニングを積む予定でしょうか？

ハリトーノフ　もちろん。これまでの2倍ぐらいの訓練を積むつもりだよ。

――今後はどういった点に力を入れてトレーニングするつもりですか？

ハリトーノフ　ボクはそれをこの場で明かすような人間じゃないよ。

――秘密主義のままなんですね（笑）。

パコージン　この11月にもエカテリンブルグにズーエフが建設したスポーツセンターが完成するので、セルゲイもしばらく休暇をとったあと、そこで集中特訓を積むことになるだろう。この施設ができれば、練習環境も飛躍的に向上するので、間違いなく次にみなさんにお会いするときは、セルゲイのさらに成長した姿をお見せすることができるだろうから、楽しみにしていてほしいね。

――わかりました。期待しています！

【04年8月16日／都内・某ホテルにて収録】

ついに男の夢を実現させたズーエフさん（46）。元リングス戦士にして、サンボの達人。そして優秀なビジネスマンでもあり、ＲＴＴにとって実に頼もしい存在だ。

ロシアン・トップチームの総本山

リングス・エカテリンブルグスポーツセンター

ついに完成!!（間近）

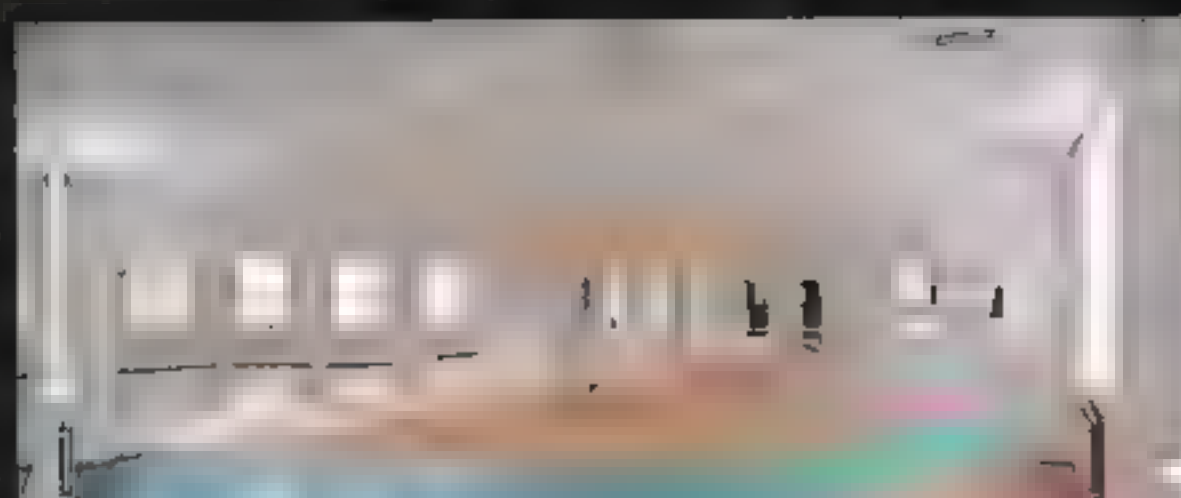
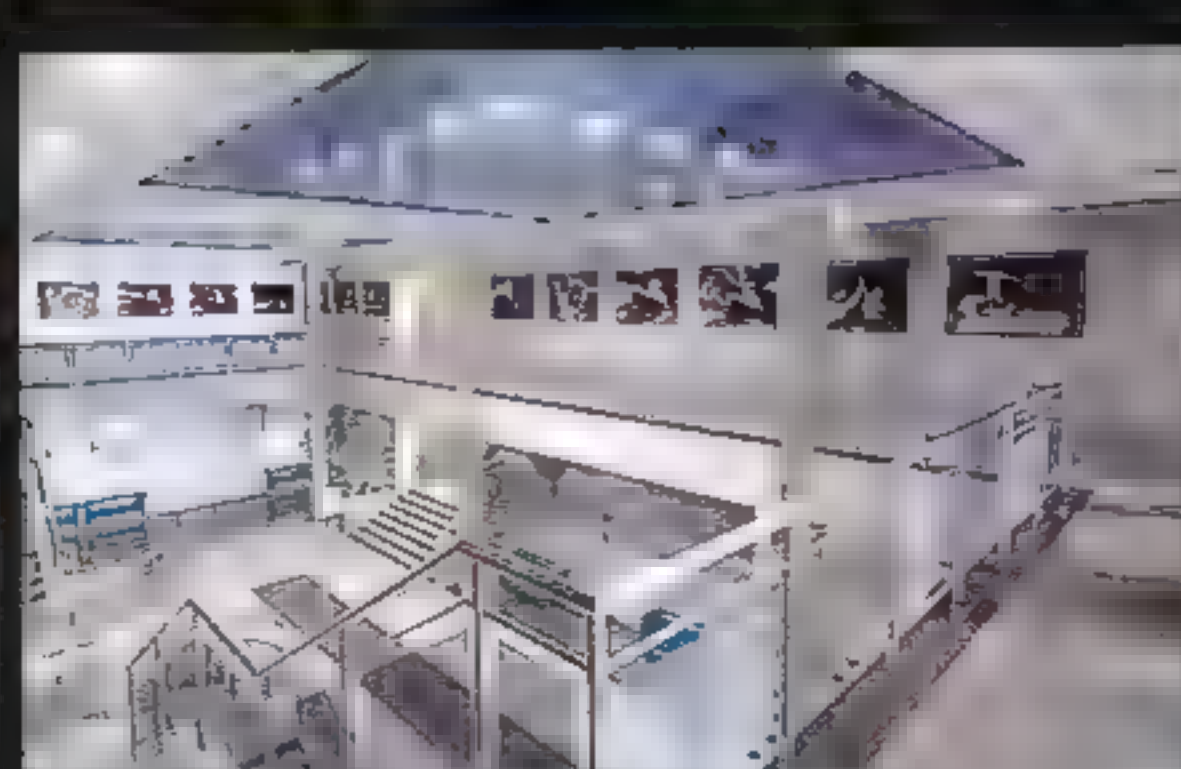
入口には守り神の石像。そして壁には巨大なリングスのシンボルマークが！ 自社ビルどころの騒ぎじゃない、こんな施設があるチームは、リングス・ロシアぐらいなものだろう。

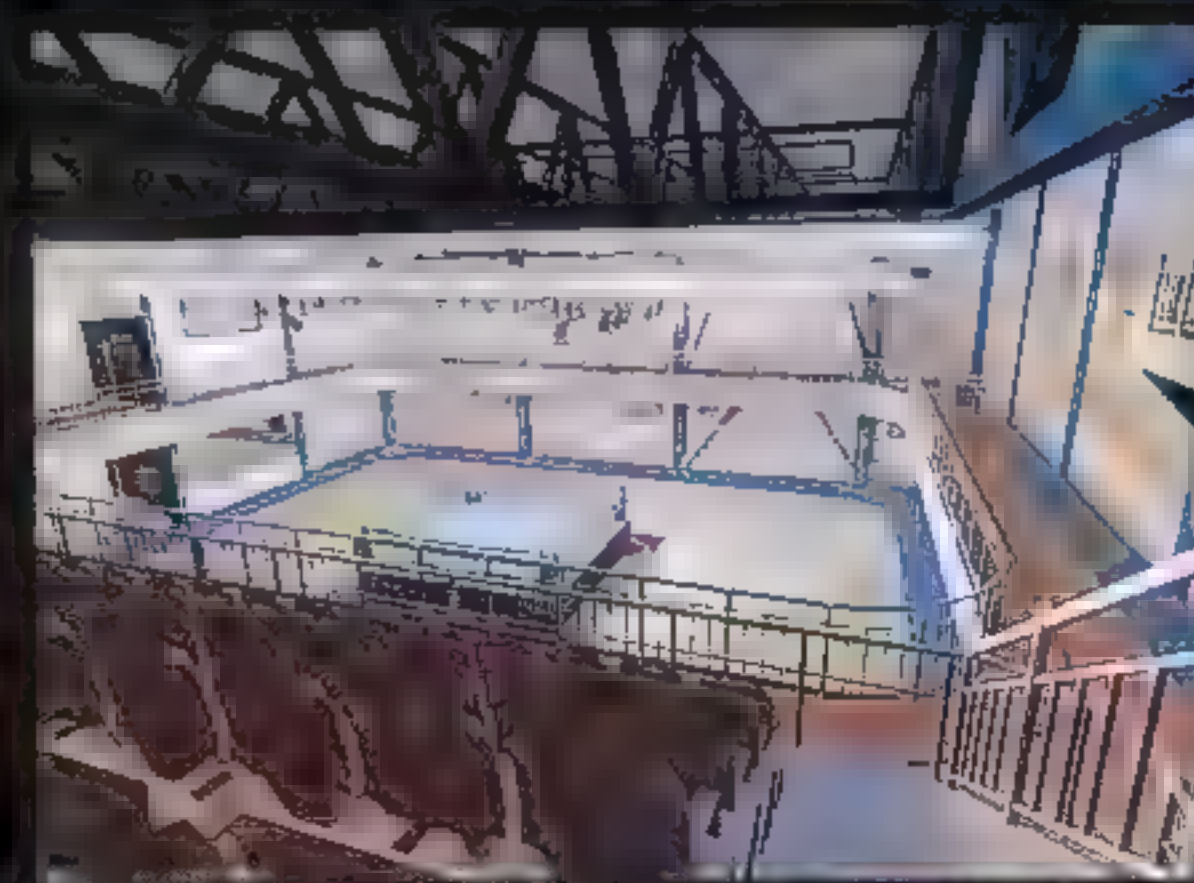
かねてから建設中だった"RTTの殿堂"「リングス・エカテリンブルグ・スポーツセンター」がついに完成寸前。あとは内装工事を残すだけとなり、11月いよいよグランド・オープンすることが決定した。

あらゆる格闘技が学べるトレーニング場だけでなく、ホテル、レストラン、サウナ、カジノまで併設する、この素晴らしい建造物を造ったのは、かつてリングス・ロシアの中心選手の一人であり、現在はRTTのコーチとしても活躍するニコライ・ズーエフ。実業家の顔も持つこのズーエフが故郷ロシア・エカテリンブルグに、こんな巨大なスポーツ施設を作ってしまったのだ。

こんな素晴らしい本拠地を得たRTTは、今後『PRIDE』でさらなる活躍をするのは確実。そして、この施設では、リングス・ロシア自主興行まで開催予定というから涙ものだ！ しかも、オープニング・セレモニーには"総帥"前田日明も姿を見せる予定。

ノゲイラ、ヒョードルを輩出した伝説の団体リングスは、いまロシアで新たな産声をあげようとしているのだ！

そして"ズーエフアリーナ（仮）"内部の写真がこれ。現在は絶賛工事中だが、あと数ヶ月でここが、"リングス復活"を高らかに宣言する、新たなる聖地となるのである。

内部の工事も着々と進行中。ここは空手やエアロビクスなどができるスタジオだ。新築だから綺麗なのは当たり前だが、この広さにはビックリ！ インディ団体なら興行が打てそうなくらいだ。

そしてここがアリーナに入る前のロビー。これまでリングスで展開されてきた、数々の名勝負のパネルが所狭しと飾られている。男なら一生に一度は行くしかない夢の殿堂だ！

トレーニング場兼試合場にも大きなリングスのロゴが。なお、この2階でランニングができるようになっている体育館のモデルは"日本サンボの総本山"新宿・スポーツ会館なんだという。

リングを置けば、約1000人収容の"ズーエフ・アリーナ"に早変わり。ホテル、レストラン、カジノ、そしてストリップまである。この施設はまさにロシアの「リキスポーツパレス」だ！

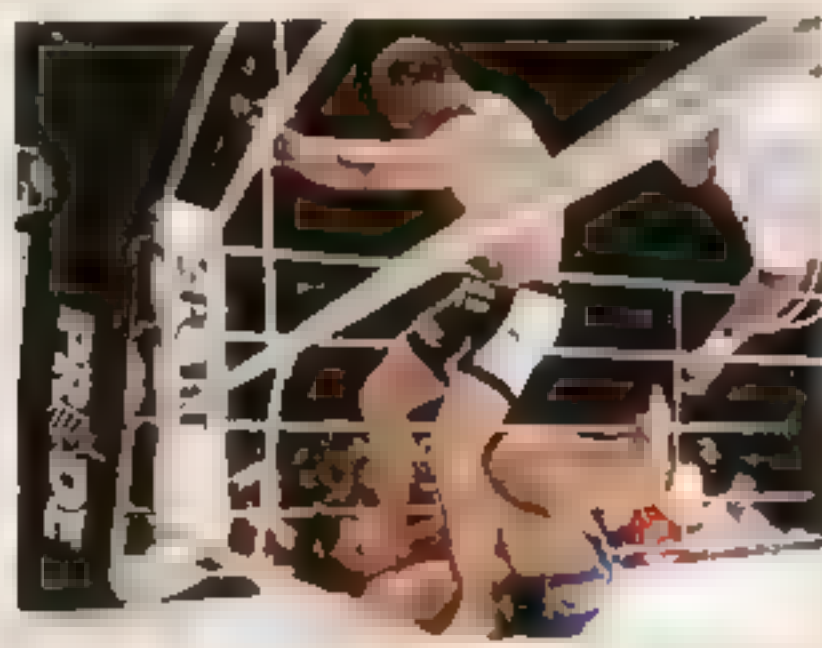
大波乱PRIDE・GP
誰が一番強いか
ハッキリさせろ!
10.31『PRIDE.28』で
PRIDEミドル級選手権
vs“ランペイジ”ジャクソン
決定!!

最後の砦、近藤有己をも丸飲み！ そして

恐怖の“日本人根絶やし”宣言!!

WANDERLEI SILVA

ヴァンダレイ・シウバ

「次は吉田、それから三崎も喰ってやる！」

日本人最後の砦と言われた近藤有己をしてもシウバの牙城を崩すことはできなかった。もはや、日本人で彼に勝つ男はいないんじゃないか？　そんな中、シウバ自身は意外な日本人ファイターの名前を口にした……。圧倒的な強さで3年間負け知らずのヴァンダレイ・シウバの常勝の秘密と、次なる戦いであるクイントン“ランペイジ”ジャクソン戦、そして気になる年末興行について迫る！

聞き手／中村カタブツ君　構成／堀江ガンツ　撮影／吉場正和　試合写真／乾晋也

designed by matsu (Two Three)

――いやぁ、昨日の近藤戦は今さらながらビックリするぐらい強かったですね！

シウバ　ありがとう。ブラジルでたくさん練習してきた成果だと思うよ（笑）。

――試合前は近藤選手が「ヴァンダレイのガードは甘い」みたいなことを言ってましたけど、やってみてどうでした？

シウバ　まあ、何回かはパンチは当たったけどね。でも全然大丈夫。自分の方がやっぱり当てることが出来たんじゃないかな。

――見事に当たってましたね。特に今回はローキックに合わせたカウンターを狙っていたんですか？

シウバ　そうだね、やっぱりカウンターを狙ってたし、それはずっと練習してきたことだからね。彼も同じようにカウンターを狙っていたのはわかっていたけど、当たったのは自分の方だったよ。

――プラン通りだったと。それにしても、倒れた近藤選手をガンガン踏みつけて（笑）。あれはシウバ選手らしい素晴らしく凶悪な攻撃でしたね。

シウバ　コンドーは倒れていても足を狙って来る可能性はあるからね。あの時点で油断はできないんだ。それに、「ここで試合を終わらせるべきだ」と判断したから、ああいう形になったんだよ（笑）。

――それにしても6回も踏みつけたのにはビックリしました。

シウバ　自分でもビックリしたさ。でも、試合では危険だとレフリーが判断したら止められるわけだから、自分で辞めてしまって、それで相手に足とかを取られてひねれでもしたら元も子も無いからね。ああいう時はレフリーがもっと早く止めてくれないとまずいかな（笑）。

――レフリーが止めない以上やるしかないですもんね。

シウバ　そうだろう？　ファイターならば、誰でもそうだろうけど、途中で攻撃を止めるわけにはいかないんだよ。

――試合前に「シウバのパンチは当たらない」みたいなことを言ってたから余計痛めつけてるのかなって、一瞬思ったりしましたけど（笑）。

シウバ　それはないよ。彼は間違いなく強い選手だったし、とても勇気のある選手だと思ったからこそ、あそこまでやったんだと思う。オレはコンドーのことをリスペクトしているよ。

とはいえ、日本人最後の砦と言われてた人まで倒しちゃいまして、一部のファンはガッカリしてるかもしれませんね。

シウバ　でもまだ強い日本人選手はいるだろ？　例えば、マカコと戦ったミサキ（三崎和雄）なんかいい選手だ。彼とは闘ってみたいよ。それからヨシダ（吉田秀彦）ともキッチリとした決着をつけなければいけないと思ってるよ。

――分かりました。なんかシウバさん。日本人格闘家を〝根絶やし〟にしようとしてません？（笑）。

シウバ　ダハハハハ！　いやいや、チーム全員が彼らの強さを認めているということだよ。

――そうですか。まぁ、その試合は確実に面白くなりそうですからね。それにしても開会式の時のシウバさんに対する声援は多かったですね。ヘタしたら近藤選手以上にあったと思うんですよ。

シウバ　あれは本当に嬉しかったよ。あの声援は、俺のファイトスタイルを支持してくれている証拠でもあると思うし、それに、日本で試合する時は母国ブラジルで試合をしているような気持ちになるのがなにより嬉しいよ（笑）。

――それもこれも『PRIDE』で一度も負けてないからでしょうね。『PRIDE』以外の試合を含めてもこの3年間闘えば必ず勝ってますからね。凄いことです。

シウバ　やはりそれは自分の練習の成果だと思う。

――言葉が少ないですけど、それぐらいで済ませちゃうんですか？

シウバ　もちろん、練習の成果というものはチームメイトのサポートがあってこそだしね。例えば、俺のミットを受けてくれているトレーナーなんて、ヒジが変形してるんだよ（笑）。

WANDERLEI SILVA

トレーナー　シウバの蹴りを受けてるとこうなるんだよ（と苦笑いしながら出したヒジは異様に膨れ上がっていた）。

シウバ　だから、彼らには本当に感謝しているんだ。あとは神様の力だろうと思う。

――たしかに17連勝というのは神懸かり的ですね。

シウバ　試合前はいつも神に祈りを捧げているし、そうやって祈ることで大きなケガもなくやってこれているんじゃないかな。それも神が守ってくれている証拠だと思っているよ。

――ただ、シウバさん自身はこの3、4年間もの凄い緊張感の維持を強いられていると思うんですよ。

シウバ　精神的プレッシャーはやっぱりあるよ。でも、それもチームメイトのお陰で落ち着いた気持ちで試合に臨むことができるんだ。俺のこれまでの勝利は、チームの力が非常に大きいと思う。

ただ、これだけの偉業を達成した選手は、『PRIDE』だけでなく総合格闘技界でもいないわけですからね。個人的になにかコンディションを維持する、特別なことをやっていたりするんじゃないですか？

シウバ　特別なことでいえば、練習だけに専念できる環境が一番だと思う。ほかのファイターは練習以外のことをしなければいけないけど、俺は違う。練習に集中できることでますますパフォーマンスも良くなるんだ。そして、そういう環境を作ってくれた『PRIDE』が自分の強さの秘密じゃないかな。

――そして、この3年間では結婚もし、家も建て、子供も生まれて私生活も充実してますね。

シウバ　家族のサポートも大切だよ。ただね、試合直前になるとやっぱり自分も機嫌が悪くなって、妻に当たったりすることもあるんだよ（笑）。

――その気持ちはよく分かります（笑）。

シウバ　もちろんやりたくはないんだけど、喧嘩したりするよ（苦笑）。

――じゃあ、たまにご機嫌取りで家事とかやったりします？

シウバ　それはしないよ。お手伝いさんに全部任せているからね。

――お手伝いさん！　なるほど、本当に持ってるものは全部持ってますね。

シウバ　そうだね、自分の面倒を見てくれる人は全部いるからね。やっぱり、日常生

10月にランペイジの口を塞いだら、大晦日は吉田と闘いたい 本当はヘビー級GP王者とやりたかったけどね。

活のケアも大切だと思う。だから、逆に自分も努力しないといけないって気持ちになってくるんだよ。

—じゃあどんどん強くなってるんですね、今でも。

シウバ 常に上を目指してもっともっと練習しなきゃいけないね。

——そんな中で次はクイントン・"ランペイジ"・ジャクソン戦が決まりました。

シウバ そうだね、次の試合がすぐに決まるっていうのは練習の励みになっていいよ（笑）。今回も間違いなくいい試合になると思うんで、ファンの皆さんにも是非見に来て頂きたいと思う。

——前回のミドル級トーナメント決勝戦ではかなり痛めつけたジャクソン選手ですが、まだまだ懲りてないみたいで、あちこちで相当吹いてるみたいですね。

試合後、おぼつかない足取りで観客に頭を下げた近藤。尾崎社長によると「PRIDEとは複数契約」とのことなので、再びPRIDEマットでの闘いに期待

シウバ いや、でも間違いなくジャクソンは強い選手だと思うから再戦するのは楽しみだよ。

——ランペイジは「前回はトーナメント準決勝で吉田なんて楽な相手とやりやがって。チャック・リデルとやってから俺様とやりやがれ」というようなことを言ってるみたいですけど（笑）。

シウバ フッ（苦笑）。まあ、トーナメントではそういう形になったけど、今回はちゃんとした形で決着がつけられるんじゃないかと思う。

——冷静ですね。本当はカチンと来たんじゃないですか？

シウバ しないよ（笑）。俺はチャンピオンだし、大人だし。それに練習すれば大丈夫だと思ってるからね。

——まあ、向こうは犬キャラだし、吠えるのが仕事ですからね（笑）。

シウバ フフフ。そういうことだよ。

——とはいえ、現時点で最強のチャンレンジャーだと思っているんですよね？

シウバ そう思ってるよ。彼だけでなく『PRIDE』の選手はどの選手もみんな厳しい相手だ。

——ちなみに、大晦日にはヘビー級の選手と戦うような話もありますけど。

シウバ 大晦日はヨシダとやりたいな。ヘビー級の選手とは特に闘いたいということはないけど、イベントが面白くなるなら闘ってもいいかなと思ってるよ。本当は今回のヘビー級GPのチャンピオンと闘いたいと思ってたんだけどね。大晦日は特別なイベントだしね。まだこれから先も長いから、いろんな選手とやってみたいね。

——来年になるとまたミドル級のグランプリも始まりますからね。

シウバ いや、来年のことは来年考えさせてくれよ（苦笑）。

——分かりました（笑）。では、最後にファンにメッセージを。

シウバ いつも応援を感謝しております。次回の為にまた練習を積んで、10月にはいい試合を見せたいと思いますので、是非みなさんも会場に足を運んで貰いたいと思います。

——ありがとうございました。

シウバ アリガトウ（笑）。

【04年8月16日／都内・某ホテルにて収録】

近藤の顔面を情け容赦なく6回も踏みつけ失神させたシウバは悪魔の表情。まさに悪魔の笑いだ

MIRKO CRO COP

[完全復活ドキュメント]

悪夢は終わった。主役の座は私がいただく

ミルコ・クロコップ完全復活！　まさかの『PRIDE・GP』1回戦敗退から4カ月、決勝大会のワンマッチに出場したミルコは、ヒョードルの実弟アレキサンダーを必殺の左ハイでKO。見事なまでに悪夢を[illegible]、復活ま[illegible]道のり、そして悲願の王座奪取を目指す今後まで、再び超・強気モードに戻ったミルコが語る！

文／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by [illegible] (Two Three)

04.8.15 PRIDE GP 2004 FINAL ROUND

ミルコ・クロコップ［チーム・クロコップ］ 1R2分9秒 KO エメリヤーエンコ・アレキサンダー［レッド・デビル］

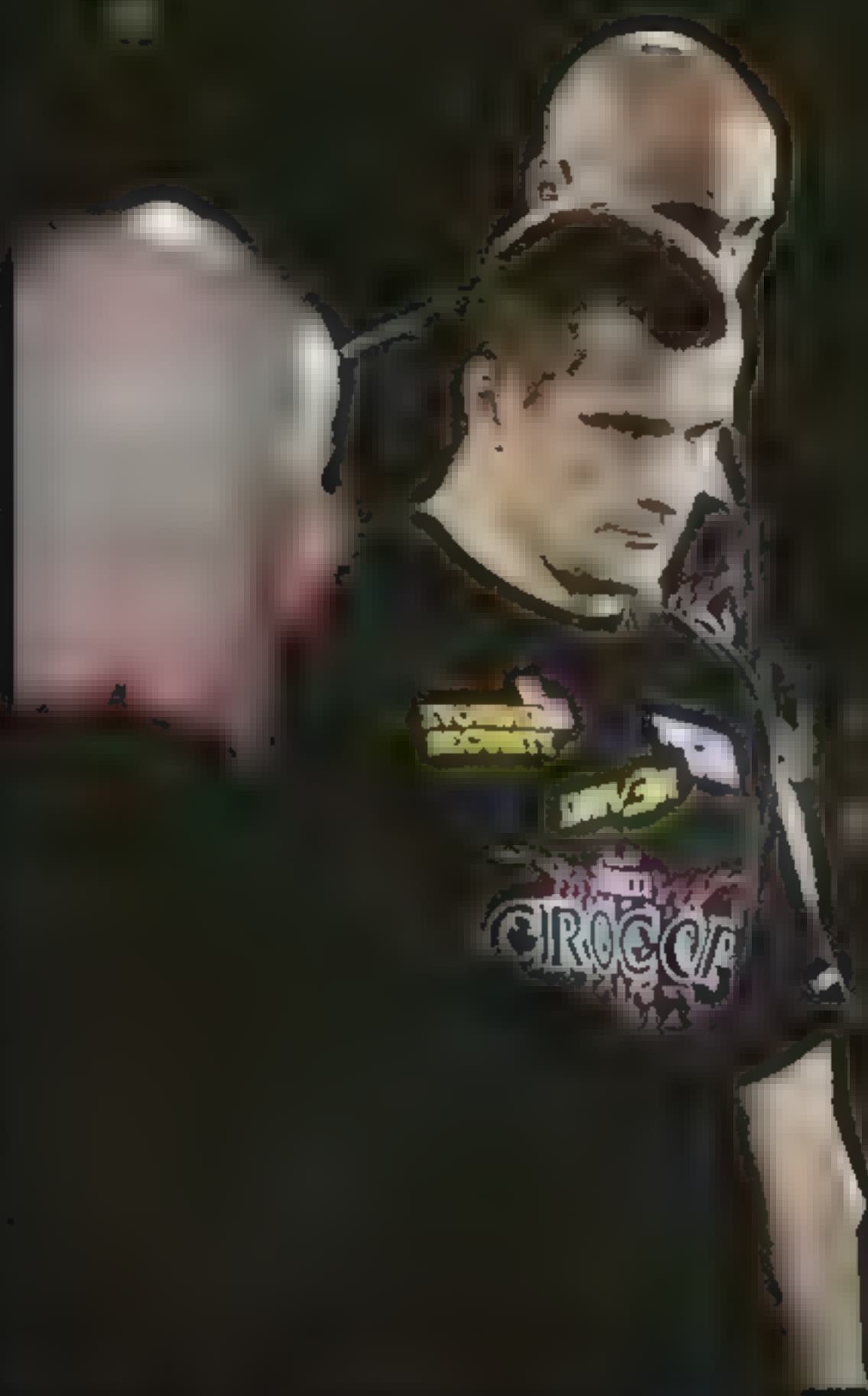
ミルコ・クロコップは"プラン"という言葉をしばしば使う。明確な目標を定め、それに向かっての計画を練り、そしてそれを遂行するというのがミルコのスタイルなのである。ただ、その"プラン"が完璧に成功することはこれまでなかった。

例えば昨年。『PRIDE』に本格参戦したミルコはヒース・ヒーリング、イゴール・ボブチャンチンを下し、10月のドス・カラスJr戦で一度ピークアウト。そこから11月の東京ドーム大会でエメリヤーエンコ・ヒョードルの持つヘビー級王座に挑戦するというプランを描いていた。

ところが、ヒョードルの負傷欠場によって試合はキャンセル。代わりにアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラと暫定王座決定戦を行うことになる。ノゲイラにとっては降ってわいたチャンスだったが、ミルコにとってノゲイラ戦は完全な"予定外"。練習計画も狂わされ、逆転の一本負けを喫してしまう。

今年もまた、ミルコが年頭に描いたプランはもろくも崩壊した。2月にロン・ウォーターマン、山本宜久と2試合をこなし、4月からスタートする『PRIDE GP』へ向かったまでは良かった。だが、優勝以外は考えていなかった男に、意外な落とし穴が待ち受けていたのである。ケビン・ランデルマンに、まさかのKO負け……。小川直也の爆発的人気、セルゲイ・ハリトーノフの台頭もあって、ミルコはあっという間にトップ集団から置き去りにされた。

それでも、ミルコはすぐさま新たなプランを練り始めた。まずは敗戦からわずか1カ月後の5月23日に開催された『PRIDE武士道』に電撃参戦、金原弘光と対戦する。5月、7月の『武士道』で連勝し、8月の『PRIDE GP』決勝大会のワンマッチに出場しようというのだ。

もちろん、これはプランというにはあまりにも無理がありすぎるもの。ランデルマン戦を終えたばかりだというのに、すぐに金原戦へ向けて再始動したミルコの体調は最悪の状態で、身体のエネルギー源となるグリコーゲンが枯渇していた。加えて金原の驚異的な粘りもあって、いつもとは程遠い試合内容での判定勝ち。

「カネハラも素晴らしいファイターだったが、私のスタミナも驚くほど早く切れてしまっていた。ケビン戦の自分が許せなくて、気持ちだけで突っ走ってしまったんだ」

そうミルコは金原戦を振り返る。

次の試合は7・19『武士道』名古屋大会での大山峻護戦。ここはまさにミルコの独壇場だった。久々のチャンスに意気込む大山を、ほとんどオーラだけで圧倒。左ストレートで背中を向けさせると、最後は左アッパーで大山をマットに沈めた。試合タイムは、わずか60秒。

多くの人間は、これで"ミルコ復活"を感じたことだろう。しかし当の本人は決して満足などしていなかった。

「オオヤマ戦は勝って当たり前の試合だと思っていた」と言い放つと、そのまま大山戦前の予定通り8月のGP決勝大会参戦まで日本に滞在する。

「1カ月で2度クロアチアと日本を往復するよりは、その方がマシだからね」

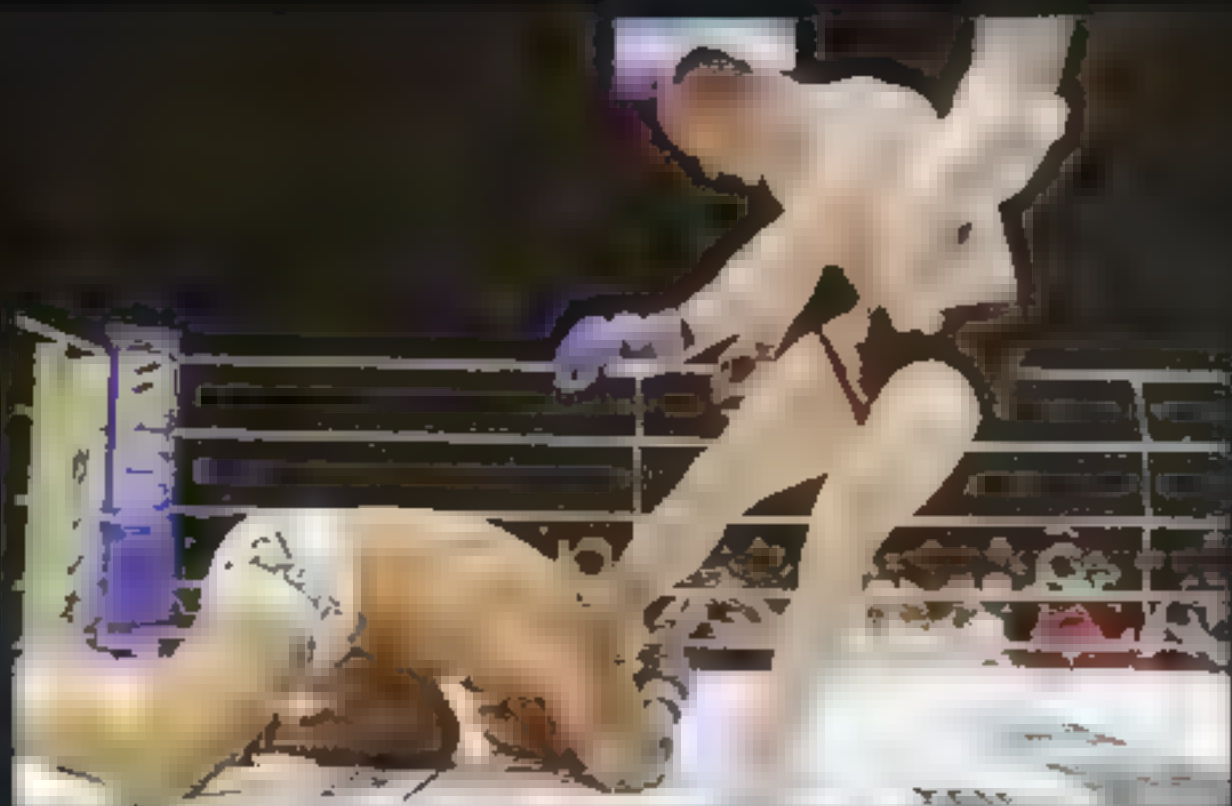
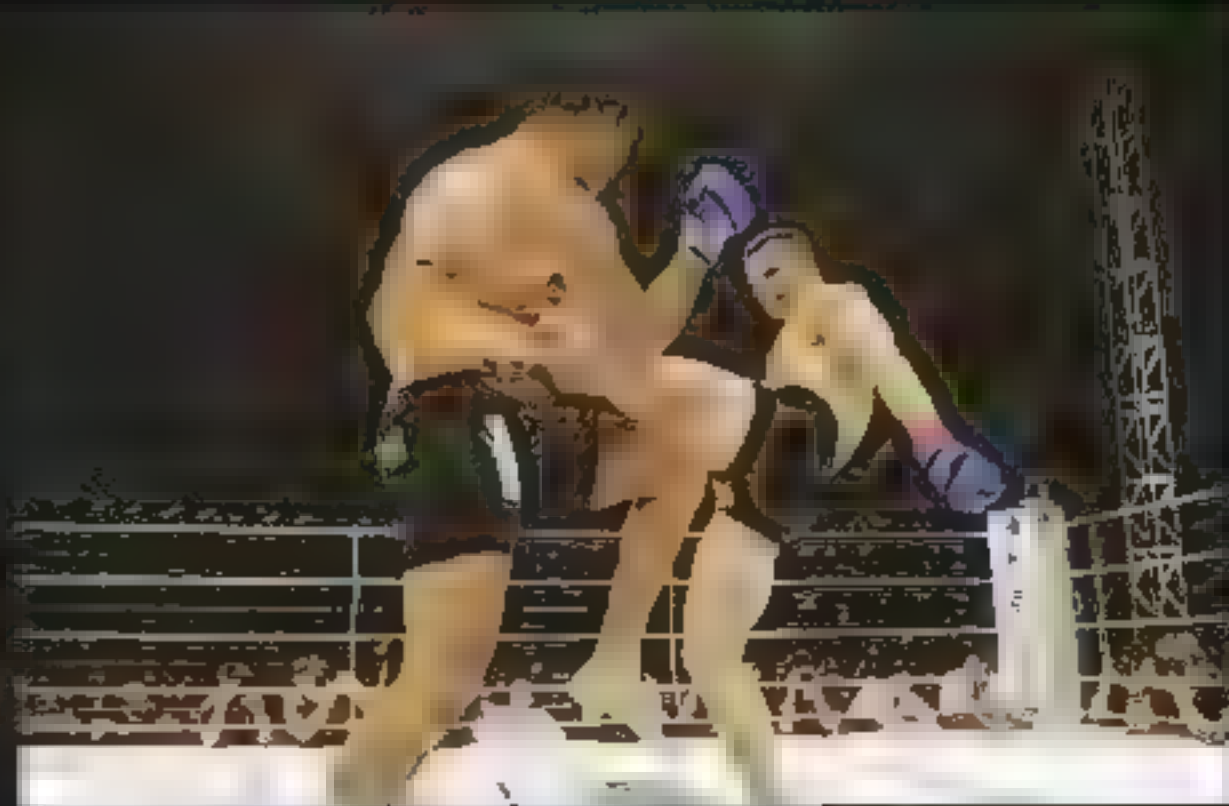
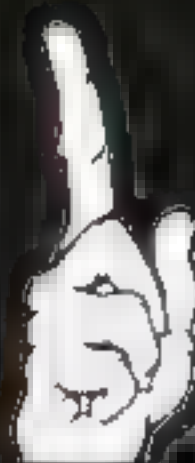
もちろん、単なるコンディション維持のための日本滞在ではない。ミルコをバックアップするため、再編成された『チーム・クロコップ』のメンバーがまるごと日本へと移動した。そうして8月15日の決戦当日まで、BCGを拠点に、ジム近くのマンションから自転車で通う生活が続いた。

新『チーム・クロコップ』のメンバーは多種多様である。身長2メートルのアマレスラー、ヘビー級のキックボクサー、ボクシング・トレーナー、それにコック。

「彼（コック）は私の体調や栄養などを考慮しながらベストな料理を作ってくれる欠かせない存在だ。クロアチアでも、月の半分は私の家に来て食事を作っている。外国にいるとどうしても食が細るので、彼が日本に来てくれたことは非常に大きな助けになった」

実はミルコは極端な偏食、というか独特な食事へのこだわりを持っている。例えばパスタにしても、特定のレストランのミー

MIRKO CROCOP REVENGE ROAD

04・2・15 | PRIDE武士道 其の弐
○vs山本宜久［1R2分12秒 KO］
わずか2週間のインターバルでヤマヨシと対戦。ケアーを"魔性のDDT"で下し勢い（調子？）に乗っていたヤマヨシは、大胆にもミルコを笑顔で挑発したが、ミルコは鬼のような打撃で圧勝。

04・2・1 | PRIDE・27
○vsロン・ウォーターマン［1R4分37秒 KO］
『猪木祭り』で予定されていた高山善廣戦をケガで回避したミルコは、年が明けると『PRIDE』に復帰。「苦手」と言われたパワー＆レスリング系のH2Oマンと対戦し、キックの連打でKOした。

03・11・9 | PRIDEミドル級GP
×vsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ［2R1分45秒 腕ひしぎ十字固め］
この年、連勝街道をバク進していたミルコ。しかし、ようやく掴んだタイトル戦は、ヒョードルの負傷により延期。急遽、暫定王座決定戦に挑んだが逆転負けを喫し、ミルコの野望は達成目前で絶たれた。

MIRKO CRO COP

トソースしか食べないとか。肉の味付けは塩、胡椒のみ。それも完全に火を通したものでないとダメで、少しでもレアな部分があると口にしない。そして野菜はまったく摂らず、足りない栄養分はサプリメントで補う（クロアチアでテレビ出演した際に「私は野菜を食べない」というと「子供たちのヒーローがそんなことを言ったら悪い影響を与える」と抗議の電話がテレビ局に殺到したらしい）。

ここまでくると、単に好き嫌いという以のものを感じてしまうが、それが、ミルコの食に対する変えることのできない流儀あり、日本に長期滞在するにあたってその流儀に合わせた調理をする専任コックが不可欠だったというわけだ。ミルコとって、恐らく食事とは"肉体を作るたのもの"という以外の意味はないのだろう。どこへ行っても食べる物は同じ。ある関係者は「ミルコの中には"食"の快楽なんて存在しないんでしょうね」という。

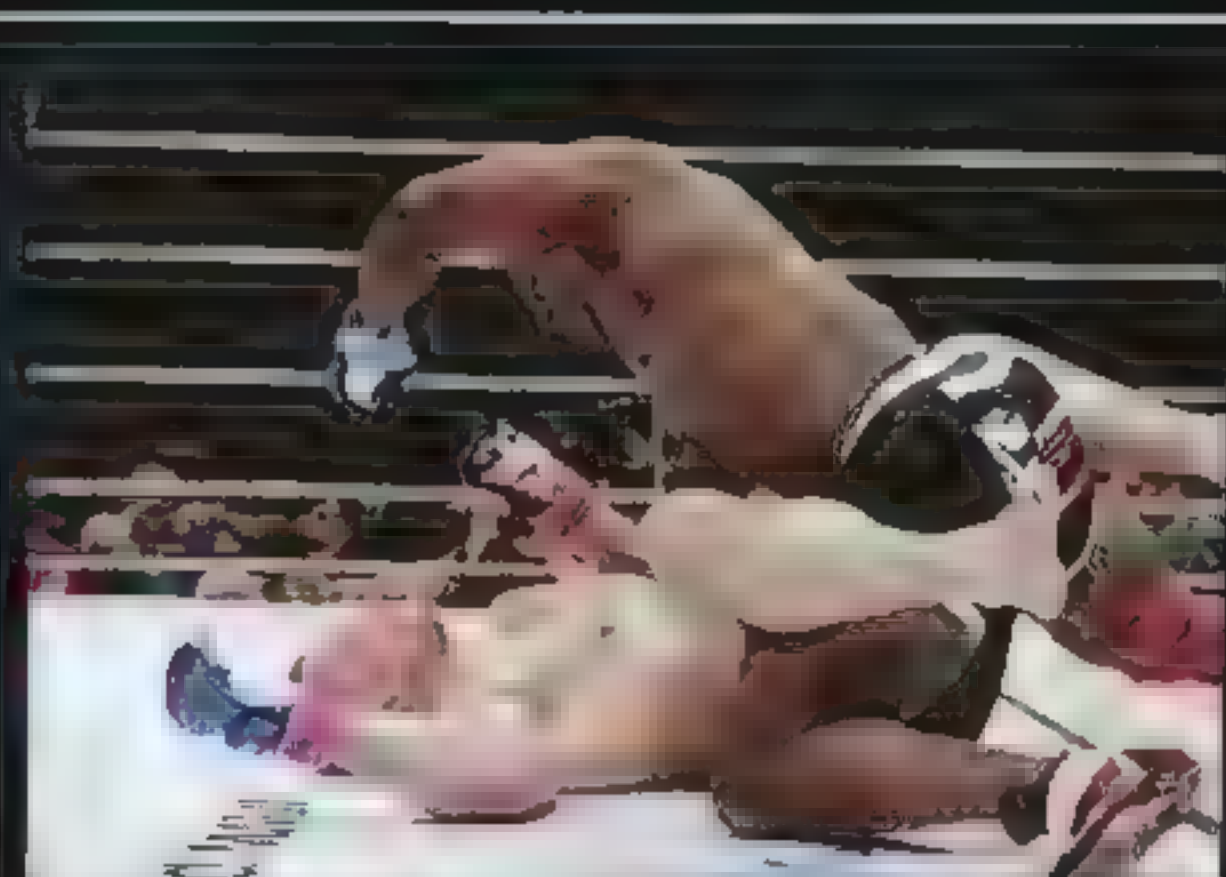
歳半になる息子とと離れているのは辛かったけど、それ以外は全て好調だった。く食べて、よく練習し、よく眠る。日本いてもまったく問題のない生活が送れていたんだ。あの日まではね……」

あの日、とは試合の9日前のことだ。ミコは練習中に右ヒザの内側靭帯を負傷し、それから2日間、歩くこともままならなくなってしまう。やっと歩けるようになっても、蹴りの練習はまったくできない。

そんなとき、ブラジルから『チーム・クロコップ』の新メンバーが来日した。

ファブリシオ・ヴェウドゥム。昨年、今年とムンジアル（柔術世界大会）を制したブラジリアン柔術のトップ中のトップである。それまでの組み技コーチであるマイク・ベンチッチは「もう彼から学ぶことが

04・7・19　PRIDE武士道 其の四
○vs大山峻護［1R1分0秒 KO］
8・15大会出場への大デモンストレーションとして、『武士道』へ連続志願出場。2ヶ月間、体調を整えてきたミルコは、大山に何もさせず、ジャスト1分でKO。ようやく、復活への狼煙をあげた。

04・5・23｜PRIDE武士道 其の参
○vs金原弘光［2R 判定 3-0］
ランデルマン戦の屈辱を一刻も早く払拭しようと、1ヶ月後の金原戦へ志願出場したミルコ。しかし、焦りとグリコーゲン不足、そして金原の試合巧者ぶりに大苦戦を強いられ、さらに泥沼にはまることに。

04・4・25｜PRIDE・GP1回戦
×vsケビン・ランデルマン［1R1分57秒 KO］
小川直也と並ぶ"主役"として、大注目の中、GPに出場したミルコ。しかし、余裕綽々で挑んだ1回戦、ランデルマンの左フックをモロに受け、KO負け！ まさかの1回戦負けを喫してしまった。

なくなってしまった」とメンバーから外されている。そしてミルコがグラップリングにおいて新たなステージに達するための強力な援軍がヴェウドゥムなのだ。

「ファブリシオが来てくれたことは、本当に大きな助けになったよ。何しろそのときの私はケガで蹴りの練習ができず、組み技に集中するしかない状態。そこへ世界最高の柔術家が加わったんだからね。彼はノゲイラより一回り骨格が大きく、腕っぷしも強い。それでいて実に理にかなった動きをするんだ。物理を熟知しているとでもいうのかな。"この方向からなら、これだけの力でも相手を制することができる"と理論的に説明してくれるんだ。はっきり言って、いまの私がグラウンドでどんな攻撃を仕掛けても、全てかわされてしまうね。私が彼から学ぶことは大きい。もし、もう一度ノゲイラと闘うことがあっても、私はなんの不安も抱かないだろうね。寝技に持ち込まれても"何をされるか分からない"とは絶対に思わないんだから」

ちなみに今後、ヴェウドゥムは9月上旬にクロアチア入り。『PRIDE』デビューのためにミルコと練習を積んでいくという。当然ながら課題は打撃。

「だからファブリシオには、様々なタイプのボクサーとスパーリングをさせるつもりだ。私がアマチュアボクシングの試合で闘った30人ほどの選手と、代わる代わるね。そして充分な練習を積み、チャンスがあれば大晦日に『PRIDE』デビューする可能性もある」

ヴェウドゥムのサポートで、ケガという不安材料がありながらもグラウンド戦術における新たな刺激を得たミルコは、いよいよ8・15さいたまスーパーアリーナ大会を迎える。対戦相手は、ヒョードルの実弟

エメリヤーエンコ・アレキサンダー。「ヒョードルの逃げ道をふさぐ手段」としてミルコ自らが希望したマッチメイクだという。

これはあまりにもリスクが高い選択に思えた。身長198センチ、体重127キロというアレキサンダーの体格はそれだけで武器になる。加えて今年のコマンドサンボ世界選手権で優勝するなど、実力も確かだ。「PRIDE」ではトップどころとの対戦はないが、昨年大晦日の『猪木祭り』ではブラジリアン・トップチームの次期エースとまで期待されていたアンジェロ・アロウージョをパウンド連打で出血TKOに追い込んでもいる。ミルコがアレキサンダーの巨体に抑え込まれて身動きが取れず、コツコツとパウンドを食らって判定負けするそんなパターンも充分に考えられな[illegible]。やはり、リスクが高い。

ただミルコ自身は"リスクが高い"という言葉を我々とは違う意味で解釈している[illegible]うだ。

「[illegible]が"リスクが高い"というのは分かる。対策も立てにくいし、負けたら失うものも大きい。私にとってメリットが少ないということだろう? ということとは違う見方をすると、アレキサンダーは、実績的にも実力的にも、これから伸びてくる選手ということだ。成長過程で、まだ経験も足りない。付け入る隙はいくらでもあるんだよ。それにこれから成長しそうなら、今のうちに叩いてしまった方がいい。本当の意味で脅威になる前にね。ボブ・サップがそうだったじゃないか。彼は私にKOされたことがトラウマとなって、その後まったく精彩を欠いてしまった。もしあのとき（昨年3月）に私と闘わず、それまでのような快進撃を続けていたら、とんでもない選手

になっていた可能性だってある」

熱狂的な声援に迎えられた、4カ月ぶりとなる『PRIDE』本大会のリング。ミルコはそのあふれる自信と、これまで溜めに溜めてきた鬱憤をアレキサンダーに叩きつけてみせた。

先手を取ったのはアレキサンダー。体格的優位を活かして躊躇することなく間合いを詰めていく。ミルコもカウンターのヒザ、ローで応戦するが、アレキサンダーは強引に首根っこを引っ掴み、ヒザ蹴りを放つ。予想以上のアレキサンダーの突進力。しかしミルコは決してあわてなかった。バックステップを使いながらアレキサンダーの攻撃をいなしつつ、絶妙なタイミングでパンチをヒットさせていく。左ミドルも効果的に決まった。さらには組んできたアレキサンダーを首相撲の要領で転がす場面も。そしてトドメは、左のハイキック。アレキサンダーの高いガードの、さらにその斜め上からコメカミを蹴りつけ、完全に意識を抜き去る。大木が伐採されたかのように崩れ落ちるアレキサンダーに、さらにパンチを連打――。完璧な、そしてあまりにもミルコらしい勝利だった。

「アレキサンダーが強かったということは、私も認めるよ。しかも、以前より確実にレベルアップしていた」

そういってミルコは、アレキサンダーを評価する。

「もし私がサップ戦を経験していなかったら、スーパーヘビー級の彼のアタックをかわせたかどうか微妙かもしれないな。少なくとも、紙一重の勝負になっていたはずだ。カネハラとの試合で、体調的な問題に気が付いたのも活きた。やはり私がいつも言う通り、無駄な試合なんてないんだってことだ。どんな試合からでも、学ぶことはある。とにかく、今回は勝てて本当に良かった。ここで負けていたら、並の選手ということになってしまうからね」

ひとしきり試合を振り返ると、ミルコは感慨深げな声でこう言った。

「悪夢は終わったんだ」

そこで気になるのが、ミルコの今後である。というのも、ミルコの試合以外の部分で、プラン外の出来事が起こってしまったからだ。当初のプランは、10月31日の大会でランデルマンにリベンジを果たし、大晦日の『男祭り』でGP優勝者に挑戦するというもの。しかしランデルマンは今大会のリザーブマッチでロン・ウォーターマンに敗れ、GP優勝者も決まらなかった。ミルコは、また新たなプランを練る必要がある。

ノゲイラの年内復帰が無理なら
当初のプラン通り、私が先に
ヒョードルのベルトをいただこう

「GPの決勝戦がノーコンテストになったことは残念だね。だが私にはどうしようもないことだ。王座挑戦に関しては、とにかくじっくり状況を見ていくしかないだろう。それに私は、まず足のケガを治す必要がある。クロアチアに帰って、2、3週間は完全休養を取るよ」

軌道修正。しかも自分の責任ではなく周囲の状況によるものだからストレスもたまりそうなものだが、今のミルコはそれに苛立ってはいない。まずは傷を癒し、さらなるレベルアップへ。視線は前を向いたままだ。

「ファブリシオという新しい仲間が加わったし、ますますいい練習ができそうだよ。それにしばらくしたら、素晴らしいストライカーが我々のチームに加わることにもなるからね。これはファンに大きなサプライズを与えられるだろう」

新たなライバル候補の登場という、闘志を燃え立たせるファクターもある。元UFCヘビー級王者にして現キング・オブ・パンクラス無差別級王者ジョシュ・バーネットの参戦だ。DSEの榊原代表、ジョシュ本人ともに交渉が進んでいることを明言しているだけに、早ければ10・31からの出場も考えられる。それどころか「相手はミルコになるんじゃないか」という噂もまことしやかに囁かれている状況。

「まだ正式にジョシュの『PRIDE』参戦が決まったわけじゃないんだろ？ だったらまだ多くは語れないな。ただ、もし彼が得意のビッグマウスで挑発してきたら、そのときはリング上で黙らせてやるだけだ。ヒョードルとノゲイラの王座統一戦が10月に行われないとしたら、私が主役の番。それにふさわしい相手と試合をする。今はそれだけしか言えないな」

さらに、ノゲイラが左腕に負傷を抱えており、秋にも手術する予定だと知るとこんなことまで言ってのけた。

「じゃあ、大晦日の王座統一戦も無理なんじゃないか？ それならば最初のプラン通り、私が先にヒョードルのベルトをいただくことにするよ」

悪夢を払拭したミルコにとって、あとは"攻め"の姿勢あるのみ。今度プランを決定したら、それを確実に完遂してみせるだろう。ここまで何度もプランが崩れ、その度に苦しみぬいたからこそ、今のミルコには磐石の強さと、微塵も揺るがぬ決意が感じられる。

「この4カ月、ずっと裏街道を歩いてきたんだ。あとは思う存分、表舞台を行かせてもらうよ。そう、これからは私が主役だ」■

「いま『SRS・DX』があったら"曙は是か非か？"とかやりたいんだよなぁ」

今日はよろしくお願いします！

谷川　今日はハッシー（橋本）がインタビュアーなの？

——はい。ムックの『ガチ！』の高島さんに続いて「昔は部下だった僕が言うのもなんですが……」という感じで（笑）。

谷川　『ガチ！』？　なんだっけそれ？

——いや、高島さんが谷川さんにインタビューしてるムックなんですけど、まだ見てないんですか？（と現物を見せる）。

谷川　え、これ……どこで売ってるの？

——本屋です（笑）。雑誌関係とかチェックする時間がないほど忙しいんですか？

谷川　そんなことはないんだけど、これ、ゲラチェックしてないよ（笑）。

え、チェックしてないんですか（笑）。

谷川　うん。やばいんじゃないのぉ？

——結構やばい内容になってるらしくて、評判はいいみたいですけどね。で、この本によると、谷川さんは"真剣勝負を謳い文句にしていながら、たまに違うことやっている"団体の会場で「こんなコト、いつまでやっているんだ！」って凄い剣幕になったこともあったらしいですよ（笑）。

谷川　ホント!?　怒ったの、僕？

『格通』編集長時代の話みたいなんですけど。

谷川　全然、記憶がないなぁ……。

その頃は谷川さん、リングスの解説もやってましたからね。となるともう一つしかない気がするんですけど（笑）。

谷川　……まあ、いいです（笑）。本題に入りましょう。

——『紙プロ』登場は久しぶりですよね？

編集・チョロ　もう出てくれないのかなって思ってましたよ（笑）。

谷川　いやいや、そんなことないですけど、『紙プロ』はK－1もあまり載ってないし、ガンツ君が好意的じゃないし（笑）。

——ダハハハハ！

谷川　それに最近は、（ターザン）山本！さんもI編集長も厳しいからなぁ

そうですよね（笑）。まあテレビで観る分には、突っ込みどころも含めて、ある意味、凄く楽しいんですけどね（笑）。

谷川　楽しいでしょ？

——はい（笑）。でも今回のGP開幕戦は広告でも"純度100％のK－1"と謳ってますよね。それって高田本部長がよく使ってる言葉ですけど……。

谷川　え、そうなのぉ？

——知らなかったんですか!?（笑）。敢えてやったとか、躊躇したとか全然なく？

谷川　いやいやいや、全然知らなかったです。あまり詳しく観てないんで。

んあ～！

谷川　K－1の原点に立ち返ることがファンの求めることだっていうことだけですね。純K－1っていう言い方はアレだけど、K－1がいろんなことをやり過ぎてるんですよね。そうじゃなくて本道を大切にしようと。

まあ軌道修正というか。

谷川　というか、これまでの流れの中で石井館長がいなくなってしまったり、K－1の体制が変わって非常にしんどい中で、同時に（アーネスト・）ホースト、ジェロム（レ・バンナ）、ピーター（・アーツ）、レイ・セフォーっていうトップファイターもケガしたりで調子が悪くて、そんな時期に、みんなの注目がいい意味でも悪い意味でもボブ・サップに集まりましたよね。

そうでしたね。

谷川　そのサップの功罪っていうのが非常に大きくて。飛び道具って言っちゃあ何ですけど、K－1の話題っていうのはタイソンとか曙とか、そういうところに注目が集まって、実際に紅白を越えるような視聴率も獲りましたから、当然、テレビ局もそういう部分に期待するんですよ。

『PRIDE・GP』から大晦日の展望、さらには卓球の愛ちゃんまで〝んあ～〟と激語り！

K-1イベントプロデューサー

谷川貞治

サダハルンバ

“サダハルンバ”でお馴染みの谷川貞治K-1イベントプロデューサーが久々に登場！　ここ最近のK-1のドタバタぶりは、I編集長から「曙のオッサンは谷川、お前が相手せい！」と突っ込まれ、かつての上司・ターザン山本！にも散々な言われようである。そんな中、K-1の本場所、K-1GP開幕戦の展望から、曙、タイソン、さらにはライバルの『PRIDE』、そして小川直也まで語ってもらった。最後には大晦日興行戦争へ向けての秘策もポロリ!?

聞き手／橋本宗洋　構成／松澤チョロ

designed by hisa (Two Three)

――期待するでしょうね。
谷川　あとはK-1自体が視聴率的に評価が高くて、いろんな団体からも交流のオファーがあって、そういう意味ではK-1がどこのチャンネルで何をやってるのかが混乱してしまったんですよね。サップがあるときはプロレスやってて、違うチャンネルでは寝技やってて、かと思ったらボクシンググローブつけてK-1ルールをやってたと（笑）。
――一般の人にしたら何がなんだかって状況ですよね（笑）。
谷川　そういうわかりにくくなっていたところを、いまは整理すべき時期だなって思ってます。ホントに「いまはゼロですよ」っていうぐらいのつもりなんで、もちろん12年間の歴史は大切にしたいんですけど、K-1はスタッフ、選手一同、初心に戻って、原点に立ち返ってやっていきたいなっていうのが、いまの気持ちですね。
――今年前半のK-1って"フリークショー"みたいに言う人も多かったですよね。それは「だってそっちで数字取れるんだもん」っていうよりも、やっぱりトップファイターがいない中で、どうにか飛び道具でつないでいこうという。
谷川　そうですね。そういうファイターも大切なんですけど、やっぱりそういうところにしか話題をもっていけなかった部分があって。そんな中で、『PRIDE』と『K-1 WORLD MAX』が純粋な競技性を打ち出していて、二つともソフトとしては評価を得てるじゃないですか。そういうこともあるんで、特にK-1本隊は純粋な勝負論っていうものを、いま一度原点に立ち返ってやっていかなくちゃいけないなって思ってます。
――K-1本隊が苦しい中で、逆に『PRIDE』がかつてのK-1みたいなムード作りをして相当盛り上がったわけじゃないですか。それに対して谷川さんはどういう気持ちで見てたんですか？
谷川　『PRIDE』に関しては非常に流れがいいなって思ってます。運とか流れとかムードとか、それらが非常にうまく回ってるなっていう感じがしますね。実際にトップ同士の試合っていうのはレベルが高いし、競技としてよくぞここまで成熟したなって思いますよね。その中で小川選手のような、いわゆる観衆を集められる選手がいることが成功につながってるんじゃないかなって思いますけどね。
――谷川さんは、今回の小川選手の敗戦をどう見てますか？
谷川　僕は試合そのものじゃなくて、小川選手の敗戦をファンがどう評価するのかなっていうことには興味がありますねぇ。
――『紙プロ』の携帯サイトのアンケートでも温かい声が多いみたいですね。「感動をありがとう」とか「もう一回出てくれ」とか。「何だ、弱いじゃねえか」っていう辛辣な意見ってあまりないらしくて。
谷川　へぇ～、そうなんだぁ。そういった意見の方が面白いですよね。小川選手が弱かったとか負けたとかいう現象よりも、ファンが温かい目を持ったという小川現象の方が面白いですねぇ。小川選手が「ハッスルハッスル！」ってやってる時点で凄く不思議に見えるし、負けた小川選手に温かいファンっていうのも不思議に見えるし。
――勝敗よりも、一連の小川現象に興味があると。
谷川　そうそう。マスコミが小川選手の敗戦をどう扱うかっていうことも含めて、そっちの方が面白いですね。小川選手はそういう意味で特異な存在ですから。小川選手に対しては、吉田選手みたいには誰も見てないじゃないですか。"小川という生き方"っていうか、"小川という精神"に対するマスコミとファンの乗り方が、オリンピック時代から、ある時はイビツだったり、ある時はもの凄く乗ってみたりとか、そこが凄く面白いですね。
――では単純に、解説者というか、格闘技評論家的な視点から見ると、今回の結果はやむなしっていう感じですか？
谷川　僕は勝つと思ったんですけどね。ハートの問題だけだと思いますよ。柔道の実績で言えば、圧倒的に小川選手の方が上だと思いますから。……ところで「ハッスルハッスル！」って流行ってるの？
――流行ってますね（笑）。

SADAHARUMBA

今年前半のK-1はサップの功罪が非常に大きかったです

谷川　あれ自体が意外でしたね。そういう意味で小川直也っていう現象が面白いですねぇ。現象として面白いのは、小川選手と、もうひとりが曙選手なんですよ。
――やっぱり曙さんは凄いですよねぇ、いろんな意味で（笑）。
谷川　いま『SRS・DX』があったら「小川は是か非か？」っていうより「曙は是か非か？」って企画をやれば面白いと思うよ。ホントやりたいなぁ。
――それはやりたいですね（笑）。
谷川　だってね、みんな勝負しないんだもん。初めてだよ、あんな勝負されない人。サップとか、極真時代のウィリーとか、昔から大きい選手はいたけど、相手はみんな勝負してたからね。それが曙相手になると、みんな緑健児状態になるというか（笑）。
――体重判定狙いで（笑）。

谷川　そうそう。ヒット&アウェイでダメージは与えず、喧嘩せずにポイントだけ稼いで。後ろから叩いて逃げてるっていう感覚じゃないですか。「ああいう人ってどうしたらいいの?」っていう(笑)。興行として成り立たないですもんね。

――特に韓国でやった散打の選手とラスベガスでのリック・ルーファス戦ですよねルーファスは足を使ったボクシングが上手いし、散打も距離を取って、殴ってはくっついて投げるって競技じゃないですか。だから意地悪なカードだなって、ちょっと思ったんですけど。

谷川　意地悪というか、ああいうふうになりやすいカードだなとは思ってたけど、まさかあそこまでというのはあるよね。だって曙はホントに効いてないよ!　全ッ然効いてない。

――毎回、スタミナは切れてますけど、ダメージはほとんどなさそうですよね。

谷川　ルーファスに足蹴られたりとかお腹殴られたりしてるけど、ビンビンしてますよ。だから曙の存在が是か非かなのか、対戦相手が是か非かなのかというね。

なるほど。

谷川　競技として見たり、格闘技の本質として見たり、武道としてみたり、イベントとして見たり、いろいろな角度から語れる人だなというね。堀辺先生に語ってもらったりしたら面白いだろうなぁ。

弱かったとか負けたとかより、小川直也現象が面白いです

――ある人が、「いまのK-1こそ、見方を伝える意味で『SRS・DX』が欲しいよなぁ」って言ってましたよ(笑)。

谷川　ホント欲しいよ!　説明したい!　それぐらい曙は面白いよ。

――いい意味でも悪い意味でも、曙は語り甲斐がある選手なんでしょうね(笑)。

谷川　そうそう。あれほど特異な存在って、いままでいなかったんで。追えない曙が悪いのか、勝負をしない相手が悪いのか。僕には後ろから叩いて「曙に勝った!」って言ってるようにしか見えないんだよな。

――まさにドリフのコントですよね(笑)。「曙、後ろ後ろ!」って感じで。

谷川　後ろから叩かれて逃げられても「俺は負けた」なんていう気持ちになれないっていうのも、よくわかる。例えて言うと、小川選手は性格が面白いんですよ。

――思考回路とか。

谷川　そう。あとは発言やら抵抗の仕方とかが面白いけど、横綱は存在自体が面白いんですよね。あと、いつもあんな顔してるけど、対戦相手が不機嫌にさせてるんだよね(笑)。

――曙さんは、すぐ表情に出ますからね。

非常にわかりやすいというか、横綱体質が抜けきってないというか(笑)。

谷川　サップなんかは小川選手以上にチキンの部分があるから、恐がったりするっていうのはよくわかるんだけど、横綱はそんな気持ちは全くないからね。結構のんびりしてるとこがあるし。で、闘うと凄い不機嫌な顔するんだよね(笑)。

――ただこれからの曙の持っていき方としては、「やりました、また負けました」じゃ済まないようになってきますよね。

谷川　うん。でも僕はホントに負けてないと思いますからね。格闘技としてホントに負けたのはサップぐらいだという感じがするんだけど、それもサップのときはわかんなかったなぁ。あのとき横綱は230キロあって、それが顔からダウンするのも凄いんだけど、その後の負け方も全部不機嫌な顔して負けてるから、それも凄いよね(笑)。横綱の試合は単に「何してんの?」っていう感じじゃないんで、むしろこれから楽しみですよ。

――「ダメだなぁ」とは全然思えないと。

谷川　思えないですよ。足を痛めつけれられて、大木が崩れるように曙がまた前のめりに倒れるんだったら、それは「ルーファス凄いなぁ」とか「武蔵凄いなぁ」っていう話になるけど。毎回、パチンッと叩かれて不機嫌な感じで終わってる(笑)。あとは本人もちょっと言ってましたけど、横綱の総合が見たいですよ。

――もしかしたら、K-1ルールより向いてるかもしれませんよね。

谷川　僕は肩固め、本で世界を制するような気がするんですよ。誰もひっくり返せないでしょ(笑)。

――抑え込めれば「まいった」取れますよね(笑)。

谷川　まあ総合はいつかはやるでしょ。それに横綱って誰にでも勝てる可能性があると思うんですよ。ホーストだろうがボンヤスキーだろうが。でも逆にいうと村浜君とかにも負けるような気がするんだよね(笑)。

――ダハハハハ!　須藤元気とか(笑)。

谷川　そうそう。そういう人って初めてですよ。村浜君なんかとやったら、追っかけ

勝負弱そうで強いし、強そうで弱いし、なんか小川直也的ですよね、愛ちゃんは

られるのかなぁ。

——動き回られたら、また不機嫌になりそうですねぇ（笑）。

谷川　そういう特異な選手なんですよ。僕が今年面白かったのは、だから横綱と小川選手ですね。

——『PRIDE・GP』では他に気になった試合ってありました？　シウバvs近藤とか。

谷川　ああいう負け方したら、近藤選手は次はK—1出たらいいと思うんですよ。向いてると思うんだけどなぁ。

——いいですねぇ！　可能性っていうのはどうなんですか？

谷川　いや、いまのはまったくの個人的な意見なんだけど（笑）。でも尾崎社長とも決して仲が悪くないし、可能性はあると思うんですよ。他にも、いろんな団体と、いいお付き合いができてますから。ごくごく一部を抜かしてなんですけど（笑）。

——ダハハハハ！

谷川　僕は山口（本誌鬼畜編集長）さんたちとも仲良くしたいんだけどなぁ。

——伝えておきます（笑）。そんな中で、ミルコvsボンヤスキーって話を谷川さんが会見でして、さっそく次の日にはミルコ側から否定されましたけど、あの話を出したのは、何かしらの勝算があったんですか？

谷川　勝算っていうか、記者から質問が出たから、それに答えただけなんだけどね。前から言ってるんですけど、ミルコ自体はホントにK—1の時から総合に向いてるって思って、K—1の方でもトレーナーを付けたりとか、ミルコが総合で伸びるようなマッチメイクとかルールにして、今日に至ってるっていう状況なんで。実際に凄く『PRIDE』でも活躍してるんで、僕も個人的には評価してますよ。ただハントなんかはチャンピオンになってから、ほとんど勝ってないんですよ。

そうですよね。

谷川　で、『PRIDE』に出た動機は、お金なのか何なのか、ハントのことだからよく分かんないですけども、簡単に負けてしまってるわけじゃないですか。「コッチで通用しないからアッチに行きます」とか「向こうで通用しなかったから戻ってきます」っていうのは、ちょっとそりゃないだろうっていう。レコにしてもそうだと思うよね。何のつもりで『PRIDE』やってるのか分からないですけど、総合でやるんだったら、いい成績残さないと。いまの段階でK—1ファンがレコを受け入れるかと言ったら、それはないだろうと。

——じゃあミルコ復帰の話ができつつあるというよりも、ハントとレコでは意味がないけど、ミルコなら面白いって考えてると。

谷川　意味ないっていうか、失礼だろうという話をしたまでで。ミルコが実際にK—1に出る気持ちがあるんだったら声を掛けさせていただいてもいいかなという気持ちはあったんですけども、ケガもしてるし、ヒョードルに勝つことが本人の目標だって言うんだったらしょうがないし。

——『PRIDE・GP』決勝戦のヒョードル対ノゲイラがノーコンテストになってしまいましたけど、谷川さんは会見で「どちらもK—1で通用する選手だし、優勝した方に出てもらいたかった」みたいな話もしてましたよね。

谷川　これも、個人的な意見なんですけど、特にヒョードルですね　彼なんかはもともとチャンピオンでもあるし、そのつもりがあるんだったらK—1ルールで闘う姿を僕も見てみたいですね。あとノゲイラは凄い立ち技がうまいと思いますよ。

——うまいですよねぇ。ボクシング技術も試合の度に上達してるし、

谷川　柔術の選手っていうイメージがなくなってきてますからね。あの人は、ホーストじゃないけど、パーフェクトな選手だなあと。でも個人的には、ノゲイラよりヒョードルの方がK—1では通用すると思います。ノゲイラは総合の中の立ち技だと思うんですよね。でも観てみたいですねぇ。

——まあ難しいでしょうね（笑）。話は変わりますけど、谷川さん、今年もG1の予想が当たったみたいじゃないですか？

谷川　そうそうそう。3年連続で当たってるんだよね。

——それ凄いですよね（笑）。

谷川　でも何かネットで叩かれてるんですよ。おかしいんじゃないかって。

そんなに当たるってことは優勝者を聞いてるんじゃないか？って（笑）。

谷川　そうそう。全然そんなことないんだけど、なんかまあ、立場上ね（笑）。

新日本とも接点がありますし、疑われるのもしょうがないですよね（笑）。

谷川　この間のラスベガスでも、マイティ・モーの優勝を当てちゃったんですよ。

——え、でも谷川さんは賭けちゃいけないですよね？

谷川　僕が他の人に「マイティ・モーが勝つ！」って言ったら、その人が大儲けしちゃったんですよ（笑）。

——それマズいじゃないですか（笑）。取りようによっては、もの凄く不適切ですよ。

谷川　いやいや、そんなんじゃないですから。でもK—1では珍しいですね。初めて当たったんじゃないかなぁ。

おめでとうございます。で、今後のK—1の流れとしては、GPを決勝までやって、あと大晦日がありますよね。

谷川　これから考えなくちゃいけないですねぇ。去年みたいな大物参戦でいくのか、原点で猪木軍vsK—1の対抗戦みたいな

昨年のK-1GP決勝大会ではタイソンからのメッセージが流され、近い将来のK-1マット参戦が期待されたものの、ご存知のとおりタイソンは先日ボクシングでKO負けを喫したばかりサダハルンバはまだ諦めてはいないようだが、どうなるの?

横綱が総合をやったら、曙は肩固め一本で世界を制するような気がするんですよねぇ

のでいくのか、それとも純K—1とか純総合とかでいくのか、まずどういうコンセプトでいくかですね。

——大物の参戦が絶対条件じゃないと。

谷川　だって挙げてみても、そう大物っていないですよね。飛び抜けてるのは井上康生とかYAWARAちゃんだけだと思うし、あとさっきの会見後の雑談でも言ったけど、オリンピックで存在感があるのは水泳の北島だと思ってるし（笑）。そういう、アッと驚くようなインパクトのある選手には出てもらいたいんですけどね。

——インパクトがある人って、逆にどうテコで押しても動かない感じもありますよね。

谷川　やっぱり吉田選手や小川選手は、金メダルや銀メダル獲ったという以前に、アマチュア時代から存在感がもの凄いじゃないですか。だからオリンピックで活躍したからっていうだけではダメですよね。

そういう意味では会見でも言ってましたけど、卓球の愛ちゃんはいいですよね（笑）。昔からビッグネームだし。

谷川　愛ちゃんの試合は面白かったなぁ。あの声だけでもいいんですよねぇ。愛ちゃん自身が不思議な顔してますよね。

小川直也的な「この人、何を考えてるんだろう?」っていう。

谷川　勝負弱そうで強いし、強そうで弱いっていうか。何かホント小川直也的ですよね。北島はないんですけど、何かみたいな絶対的なオーラはないんですけど、何か見入っちゃう。僕の今年のオリンピックは北島と愛ちゃんですね。

——一説では井上康生は大晦日のK—1の大会出場にサインしたとかしないとか言われてますけど、

谷川　もしそうだったら、そんなに嬉しい話はありませんけど（笑）。多分、北京（オリンピック）も出るでしょ?

——その可能性もありますよね。タイソンはどんな感じなんですか?　こないだの試合でケガしちゃったみたいですけど。

谷川　医者の発表では全治2ヶ月ぐらいですね。

——大晦日はキツそうですね。

谷川　う〜ん……。キツイとは思うんですけど、タイソンの状況、タイソンの周りの状況を含めて、調べながら考えていかなくちゃいけませんよね。

——K—1的にはタイソンに対しては、いままでと同じ姿勢でいくんですか?

谷川　K—1としてはとにかくリングに上げたいんですよね。この前のタイソンの試合を観に行ったんですけど、メチャメチャいいですよ。あの試合はインパクトが強かったなぁ。やっぱり大した選手ですよ。オーラとか人生観とか、もの凄いものを持ってる人ですね。桁が違うなっていうぐらいの。

「この間も負けたし、今さらK—1に行っても……」みたいな感じは、谷川さんは全然持ってないんですね?

谷川　全然ない全然ない。商品価値というか、ボクサーとしての潜在能力はもの凄く高いと思うし。まだまだ価値は高いし、持って生まれた天分っていうかね。あそこで負けるっていうのも凄いよねぇ。そんなの猪木さんぐらいでしょ?

——負ける才能ってありますよね。

谷川　「あそこで負けるか!?」ってところで負けてるってい

うか、しかも100％アクシデントで負けてるからね。メッチャクチャ、タイソンの方が強かったよ。勢いが良すぎて足がグキッていったからね。

――ヒクソンはどうですか？

谷川　いまは、K-1サイドとしては、もう何もしてない状態で、ちょっとお休みしてますね。年末じゃないけども、そういう大きい舞台を作るっていう気持ちはもちろんありますけど。

――ヒクソンはK―1で噂が上がったり、最近は『PRIDE』の方も可能性があるんじゃないかとか言われてますけど、もう大晦日まで4ヶ月しかないですもんね。

谷川　やっぱりね、ヒクソンに関しては一にも二にも彼に対する評価ですよ。

――やっぱりお金ですかね（笑）。

谷川　ウチに限らず大晦日は難しいと思いますよ。

――あと、ジョシュ・バーネットはどうなんですか？　この間、榊原代表が「交渉してます」って言ってましたが。

谷川　ジョシュは新日本が持ってますし、まだ契約してるから。だから新日本が「『PRIDE』行って試合してこい」って言ったら、行くんじゃないですか？

――そのとき谷川さんは、「ちょっと待って」ってなりませんか？

谷川　そんな資格はないでしょ。ジョシュがやるなら、やっぱりチャンピオンクラスのノゲイラ、ヒョードル、ミルコ。その3人だったら観てみたいですよね。本人も、その3人とやりたいっていう気持ちが強いというのは聞いてますし。だから、新日本と『PRIDE』の話し合い次第で出るかも知れないですよね。

――『Dynamite!!』のようなお祭りは別として『ROMANEX』はどういう感じで？

谷川　僕ね、いろいろ言われるけど『ROMANEX』はいい大会だったと思うんですよ。いい意味でも悪い意味でも面白かったと思うんだけど、ただ総合をやるんだったら、ハントの話もあったけど、主催者も本気でやらないと。本気でやるっていうのはどういうことかというと、『ROMANEX』のGPつくって、キチンと定期的に開催していかないと、やっても意味はないと思うんですよね。だから年間でシリーズを考えて、キチンとストーリーを作っていかないと。

――そこまでいかないんだったら、年1～2回の『Dynamite!!』でいいと。

谷川　いまはね。いまはK―1を大切にしたいっていう気持ちなんで。ホントに『ROMANEX』でやりたがってる選手はたくさんいるんですけど、そういう人たちが他のリングでやることに関しては、コミュニケーションさえ取れてれば、どこの団体に出ても別にいいと思うし。

ジョシュはノゲイラ、ヒョードル、ミルコの3人とやりたがってるって聞いてます

――じゃあ『ROMANEX』はしばらくお休みというか。

谷川　ちょっといまは考えつかないですね。考えてないっていうか、正直、そこまで余力がないというか（笑）。

――『ROMANEX』がなくても、毎月のように大会はあるわけですからね。

谷川　GPの開幕戦があって、決勝戦があって、『Dynamite!!』があって、MAXがあって。まあ『Dynamite!!』はいまの時点で何も考えてないですけども、多分面白いものになると思いますよ。これはもう知恵の勝負だと思うんで。

僕らはつい"大物獲得合戦"って考えがちですけど、逆に知恵の勝負で。

谷川　そうなっていくと思いますね。去年も元気vsバタービーンとかあったし。

今年も知恵の使いようは、いくらでもあると。

谷川　あると思います。

そういえば、明石家さんまさんがラジオで「大晦日、ボビー・オロゴンがK―1からオファーを受けた」って言って話題になってましたよ。

谷川　え～、そうなのぉ？

――もしかして、ホイスとの再戦とか考えてるんじゃないですか？

谷川　出てもらったら面白いんじゃないかとか雑談レベルで話題に出たことはありますけど、オファーはしてないですよ。

――あ、そうでしたか？

谷川　まあでも、とりあえず開幕戦をキチンと固めて、その次にMAXを固めて、決勝戦の組み合わせがだいたい決まって、東京ドームへの流れが固まってきたら、そこから大晦日へ向けて動き出さなきゃなっていう感じなんですけどね。

――ホンットに忙しいですね。そりゃ余力もないわっていう（笑）。

谷川　そうなんだよねぇ。だから今度『S―1』って中量級の大会があるんで久々にタイに行こうかと思って。

――谷川さんの唯一の憩いの場ですね（笑）。僕もこの前行きましたけど、タイは何度行ってもいいですからね。

谷川　いいよねぇ。でも、その前にゲラチェックはさせてね（笑）。

【8月19日／都内ホテル喫茶店にて収録】

不屈のハッスル魂で応募しろ!!

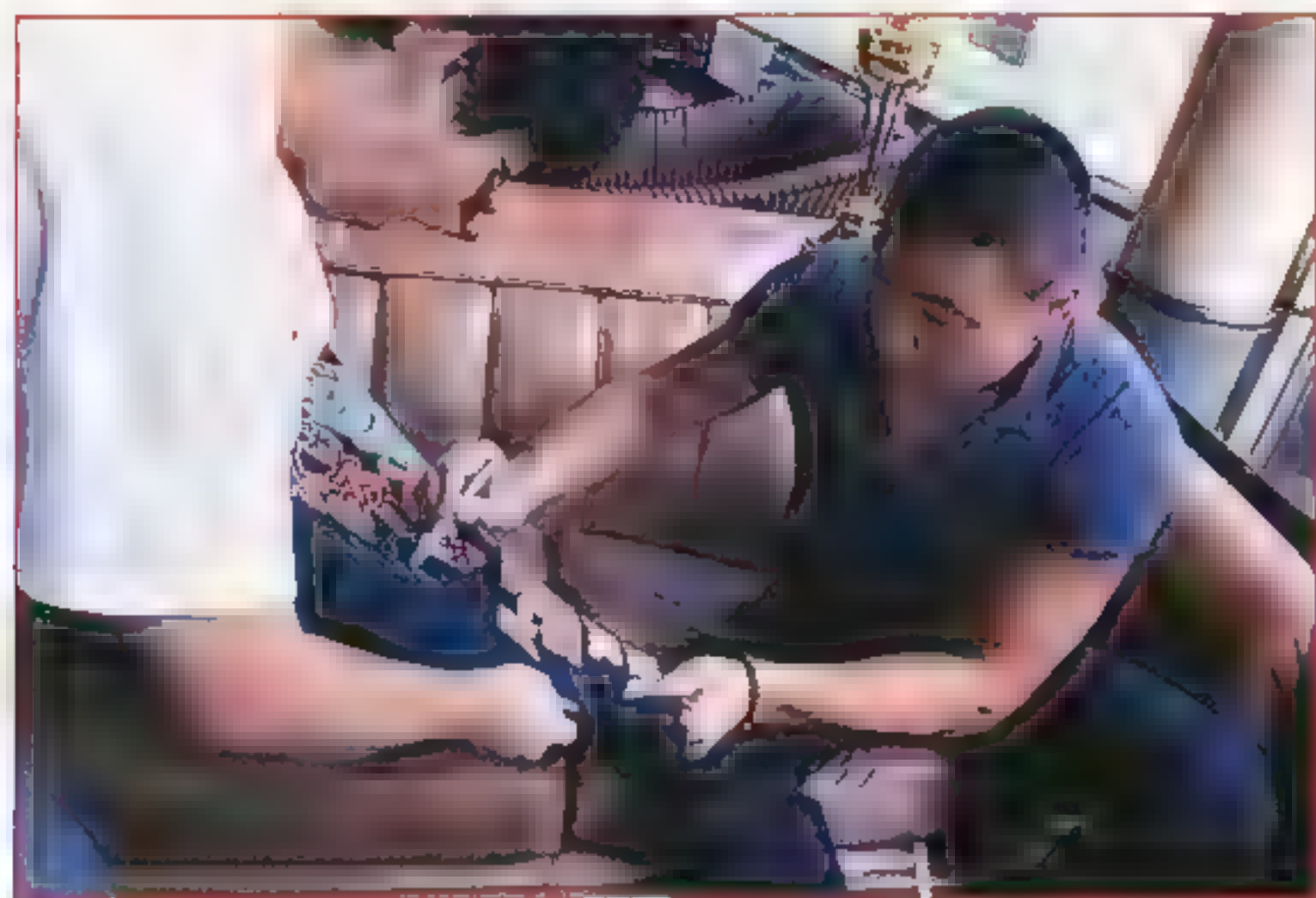
RADICAL PRESENT GP FINAL ROUND

OGAWA

PRIDE GP2004の立て役者オーちゃんが、「紙プロ」読者のためだけに超レアグッズをサイン入りでプレゼント! オーちゃん使用なので超ドデカサイズ。その大きさにビビってたじろげ!! 【小川直也提供】

各1名様

★PRIDE GP FINAL 限定
アイムチキンノースリーブ・小川使用、サイン入り

★PRIDE GP FINAL 限定
オーちゃんノースリーブ・小川使用、サイン入り

PAMPHLET

★PRIDE GP 2004
全大会パンフレットセット
【編集部提供】

3名様

HUSTLE

9月は「ハッスルハウスvol.2」、「ハッスル5」と怒濤の興行ラッシュ! ハッスル新Tシャツを着こなして己の存在感を示しまくれ! 【DSE提供】

[TEL] 03-5464-1531 [HP] http://www.sb-net.ne.jp/pride/

各1名様

★ハッスルアフロくん
ストラップ&キーホルダー
¥1050

★長州力
ストラップ&キーホルダー
¥1050

★PRIDE GP FINAL
3・2・1ハッスルハッスルTシャツ(限定)
S~XL ¥4200

★3・2・1ハッスルハッスルTシャツ
ホワイト/ブラック/イエロー
S~XL ¥3990

BATTLEROYAL

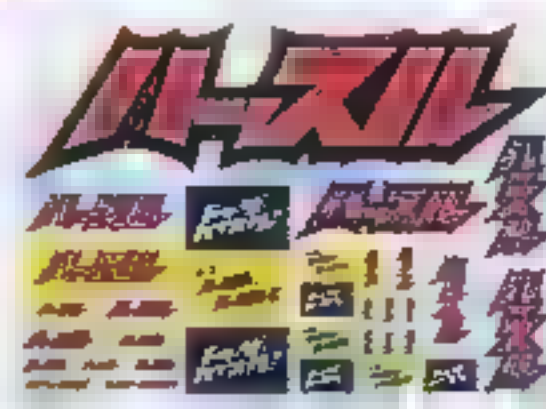
各1名様

★ボビングヘッド高田延彦(左) ¥1575
★ボビングヘッド桜庭和志(右) ¥1575

何百種類ものフィギュアやグッズがひしめく水道橋プロ格本舗「バトルロイヤル」では、定期的に選手愛用品オークションを開催中! 8月は武藤敬司使用タイツ&ニーパッド。締切は8月29日。急げ!
【バトルロイヤル提供】
[住所] 東京都千代田区三崎町2-20-5 丸山医院2F (11:30~20:00)
[TEL] 03-3556-3223 [HP] http://www.battleroyal.jp/

★ハッスルイラストTシャツ
ホワイト/オレンジ S~XL ¥3990

★ハッスルキッズTシャツ
ホワイト/ブラック/イエロー ¥3990

★ハッスル
ホログラムステッカー
¥1050

★ハッスルスポーツタオル ¥4725

SHINJUKU FIGHTER

★神取忍選挙ポスター&ワイクーのテープ

新宿ファイターが仰天セットをプレゼント！ 盆踊りやレゲエはもう古い！ 今年の夏はワイクーで踊りまくれ！ そして神取は再出馬を宣言。おまえ男だ!!

【格闘技ショップ 新宿ファイター提供】
[TEL] 03-3354-1903
[HP] http://www13.ocn.ne.jp/~fighter/

2名様

ART JUNKIE

1名様

★しなしさとこ公認・SIXPACK ABDOMINALメッシュキャップ ¥3990(税込み)

8月29日のLove Impactにしなしが出場！ 前回はナナチャンチンを秒殺したものの、RED DEVIL KIS'Sに急襲されたしなし。因縁ができた3姉妹と再び遭遇か!?

【ART JUNKIE提供】
[HP] http://open.rad.ac.jp/~dn.artjunkie/

BAM BAM BIGELOW

シブすぎるラインナップ！ サンダー・リップスでピンときた人は今すぐ応募だ。そして現在バンバンビガロでは"いかしレスラーTシャツ"を絶賛発売中！ レッツ・アクセス！【バンバンビガロ提供】
[TEL] 03-3460-1145
[HP] http://www.bambam88.com

★マスカラス・ニーパット (RED) ¥2625

★バッファローマンTシャツ (BLACK) ¥4095

★サンダー・リップスTシャツ (RED) ¥4095

1名様

CD

3名様

★チャンピオンズ・フェスティバル ～世界の強豪レスラーたち～ ¥3000(税込み)

テリー、カクタス、カネック、マードック、ゴーディ、ウィリアムス、アニマル……超メジャー外人レスラー20名の入場テーマを集めたお得な1枚。ジャケットはマイケル・ムーアの名著『アホでマヌケなアメリカ白人』の装画を務めた白根ゆたんぽ氏だ！ 【IWA JAPAN提供】
[HP] http://www.iwajapan.jp/

BOOKS

3名様

★男道コーチ屋稼業 ¥1638(税込み)

「BUBUKA」に2年以上に渡って連載された、掟ポルシェの男気無駄使いアラカルトが単行本になって登場！ 9／11(土)渋谷ブックファーストで17:00より、掟のサイン会が決定！ 詳しくは下記HPで。 【マガジン・ファイブ提供】
[TEL] 03-3470-0712
[HP] http://www.mg5.co.jp/

★ガチ！ ¥980(税込み)

『PRIDE』からUFC、修斗、そしてリングスに至るまで、格闘技を徹底大解剖！ 谷川貞治インタビューと、タダシ☆タナカ×橋本宗洋×高島学×朝日昇のトークバトルに大注目だ！
【インフォレスト提供】
[TEL] 03-5229-4616
[HP] http://www.infor.co.jp/

ZST

10名様

★ZSTパンフセット

9／12(日)の『ZST.6』で"エース"小谷と"プリンス"所の一騎打ちが決定！ 集大成を迎えるZSTの歴史が丸分かりの、旗揚げからGPまでのパンフレット7冊セットを10名様に大盤振る舞い！ 【ZST事務局提供】[TEL] 03-5388-0808 [HP] http://www.zst.jp/

PONYCANYON

【PONYCANYON提供】
[TEL] 03-5521-8044
[HP] http://www.ponycanyon.co.jp/

3名様

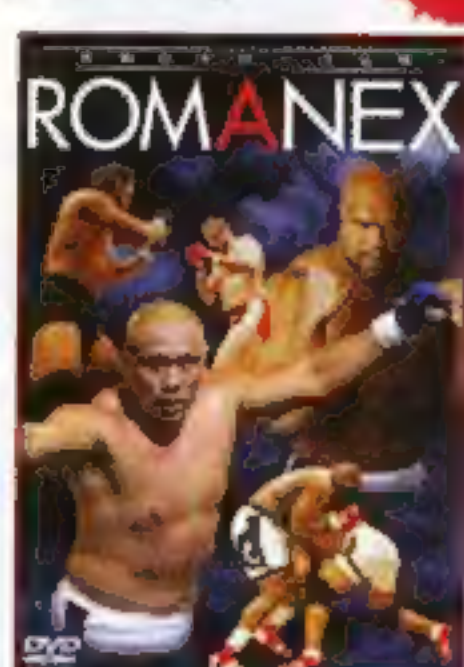
★K-1 WORLD GP 2004 (ソウル大会)

DVD 120分 5040円 9月1日発売
(発売元:フジテレビ映像企画部)

7月17日に、K-1初進出となった韓国大会が早くもDVD化！ 曙を始めとするアジアの猛者共が、9月のGP武道館大会を目指して大暴れ！ 谷川ワールドの決定盤だ！

★K-1 WORLD MAX 2004 ～世界一決定トーナメント決勝戦～

DVD 120分 5040円 9月1日発売
(制作著作・発売元:TBS)

K-1史上初の日本人世界王者・魔裟斗に、クラウス、コヒ、ジョン・ウェイン、そしてブアカーオが襲いかかる！"反逆のカリスマ"の連覇なるか!?

★ROMANEX ～格闘技世界一決定戦～

DVD 124分 5040円
(制作著作・発売元:TBS)

中邑vsイグナショフの再戦を始め、元気vsホイラー、サップvs藤田、BJ、ジョシュの出場など豪華カードが目白押しだ。格闘技界に衝撃が走った第一弾興行を見逃すな！

MUGA

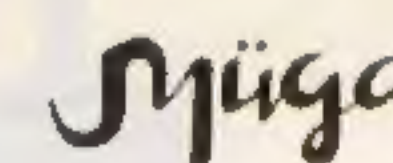
これまでのプロレスビデオの常識を覆した、無我イズム溢れる一本が登場！ 試合そっちのけの解説や、いきなり母校訪問、そして"コメントが長い理由"を告白するなど、無我にドップリの105分だ!! 西村Tシャツを着用して鑑賞しよう!!

1名様

★西村修Tシャツ
¥4725(税込み) XS、M～XL
ブラック/ホワイト/オリーブ
【グレートアントニオ提供】
[TEL] 03-3219-9550
[HP] http://www.great-antonio.jp/

BACK

5名様

★『西村修物語part.2』
(105分) DVD/¥5040 VHS/¥7140
【VALIS提供】
※DVDかVHSを必ず明記して下さい
[TEL] 03-5342-2681

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦PRIDEミドル級GPに出場してほしい選手
⑧今後の小川直也に望むこと

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「天山政権」係まで

※締切は2004年9月16日(木)当日消印有効

QUEST

世界に名を轟かせる男たちのDVDが勢揃い！ 合気の達人・塩田剛三、元WBA・WBC王者・大橋秀行、"世界のキムラ"の一番弟子・岩釣兼生、そして漢の中の漢・天龍源一郎だ！
【クエスト提供】[TEL] 03-3360-3810 [HP] www.queststation.com

1名様

★Mr.プロレス 天龍源一郎
DVD 209分
¥5880(税込み)

★岩釣兼生 木村政彦伝・鬼の柔道
DVD 92分
¥5880(税込み)

★大橋秀行ボクシング完全教則―中級篇―
DVD 101分
¥5880(税込み)

★塩田剛三大全 ―合気道の天地―
DVD 250分
¥15750(税込み)

MEDIA FACTORY

3名様

★『PRIDE GP 2004 2nd ROUND』
DVD 130分 ¥5040(税込み)

6月20日の『PRIDE GP』準決勝がDVDで登場！ テレビでカットされたハリトーノフvsシュルトの殺戮ショーや、ランデルマンの殺人バックドロップ、ジャクソンの高速パワーボムをスロー再生して再検証だ!! 【メディアファクトリー提供】
[TEL] メディアファクトリー 03-6469-4880
〈10:00～18:00/土日、祝日は除く〉
[HP] http://www.mediafactory.co.jp/

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00〜22:00
（株）ダブルクロス 03-3403-5142

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします（確認メールはいきませんのでご了承下さい）。

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or XL

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT

残り わずか!

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

ロシア「RTT」Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT

残り わずか!

ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 SOLD OUT or SOLD OUT or L or XL

ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡SALE ¥2,500 S or M or SOLD OUT

『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

ヒョードルSARU Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800 SOLD OUT or M or L or XL

トートバック〈ブラック〉
¥1,500

『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or L or XL

マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT

No.78
2004年9月30日発行

No.79は 9月17日（金）発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（ノーコンテストにより審査）
見習い
斉野もみじ

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
さきさい
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上きおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森廣博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
菊池茂夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝
体調
プリン体・入江（TwoThree）
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ハッスル & 紙のプロレス コラボグッズ

髙田総統グッズ降臨!
「うれしいだろう? ありがたいと思え!!」
（髙田総統調）

「髙田総統」フェイスタオル
¥2100(税込)

「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック／パープル] ¥3150(税込)

「ビビったか? たじろいだか?」ナップザック
[ブループリント／オレンジプリント] ¥2100(税込)

「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック／ホワイト] ¥3990(税込)

「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3990(税込)

ハッスル グッズは紙プロ通販でも買えますよ!!

ハッスルロゴTシャツ[XS・S・M・L・XL ホワイト／ブラック／イエロー／レッド／ピンク／ブルー／グリーン]
¥3990(税込)

ハッスルフェイスタオル
[ブラック／イエロー／グリーン]
¥2100(税込)

ハッスルメッシュキャップ
[ブラック／レッド／イエロー／ピンク／ブルー／グリーン] ¥3150(税込)

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZINE MOOK 257
2004 NO.78
小川敗れる！"最強"決まらず!!『PRIDE・GP』徹底検証
平成16年9月30日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体800円＋税

9784898297377

ISBN4-89829-737-4

C9476 ¥800E

1929476008008

雑誌　69860—57

印刷：図書印刷株式会社